

食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する意識等について」（平成 25 年 8 月実施）の結果

1. 調査目的

食品安全委員会では、食品安全モニターの方を対象に、食品の安全性に関する情報等について、平成 25 年 8 月 9 日から 8 月 22 日を調査実施期間として、食品安全モニター 470 名を対象に調査を実施した。（有効回答数 353 名（75.1%））

2. 調査項目

調査項目は、次の 5 項目である。

- 1) 食品の安全性に係る危害要因等について
（食品の安全性に係る不安感の程度、不安を感じる理由等）
- 2) 放射性物質を含む食品の健康に与える影響について
（放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報源等）
- 3) 食品の安全性に関する情報について
（発信すべきハザード等に関する情報等）
- 4) 肉の生食について
（肉の生食に関するリスクの認知度等）

3. 実施期間

平成 25 年 8 月 9 日～8 月 22 日

4. 対象

食品安全モニター 470 名
有効回答数 353 名 （有効回答率：75.1%）

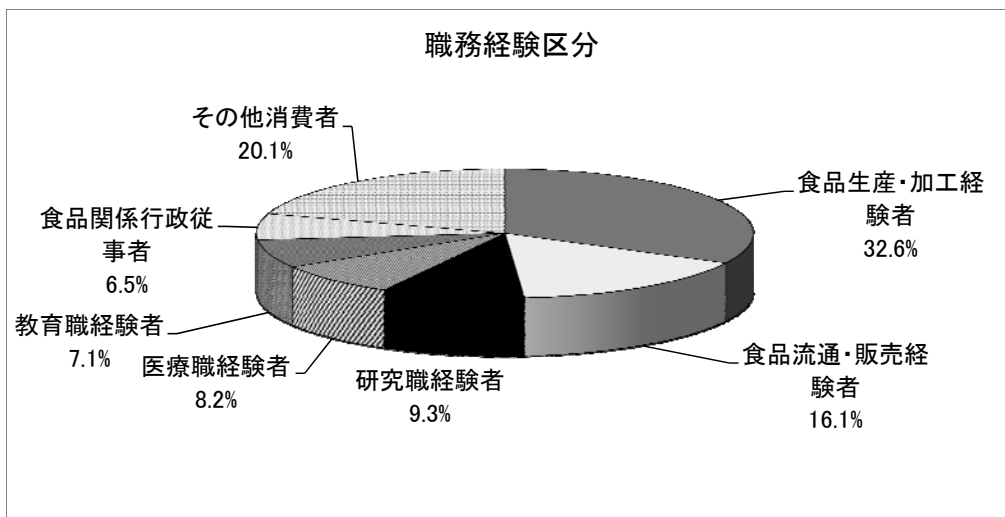
5. 食品安全モニターの回答者数の内訳

① 男女別、年齢別

	男性	女性	人数計	割合
20～29 歳	4 人	7 人	11 人	3.1%
30～39 歳	19 人	35 人	54 人	15.3%
40～49 歳	33 人	56 人	89 人	25.2%
50～59 歳	61 人	34 人	95 人	26.9%
60～69 歳	69 人	12 人	81 人	22.9%
70 歳以上	17 人	6 人	23 人	6.5%
全体	203 人	150 人	353 人	—
割合	57.5%	42.5%	—	100.0%

② 職務経験区分別

食品生産・加工経験者	・現在又は過去において、食品の生産、加工に関する職業（調理従事者を含む）に5年以上従事している方	115人 (32.6%)
食品流通・販売経験者	・現在又は過去において、食品の流通、販売等（会社、団体の役員を含む）に関する職業に5年以上従事している方	57人 (16.1%)
研究職経験者	・現在又は過去において、試験研究機関（民間を含む）、大学等で食品や、食品の安全に関する研究の経験を5年以上有している方	33人 (9.3%)
医療職経験者	・現在又は過去において、医療等に関する職業（医師、獣医師、薬剤師等）に就いた経験を5年以上有している方	29人 (8.2%)
教育職経験者	・現在又は過去において、教育に従事した経験を5年以上有している方	25人 (7.1%)
食品関係行政従事者	・過去に食品の安全に関する行政に従事した経験を有している方	23人 (6.5%)
上記の項目に該当しない食品安全モニター（文中「その他消費者」）※ ¹	・上記の項目に該当しない方	71人 (20.1%)



※¹ 食品安全モニターは、モニター活動を行う上で、食品安全委員会が行うリスク評価や食品安全行政について一定の理解ができる必要があることから、次の条件のいずれかを満たしていることを応募資格としている。

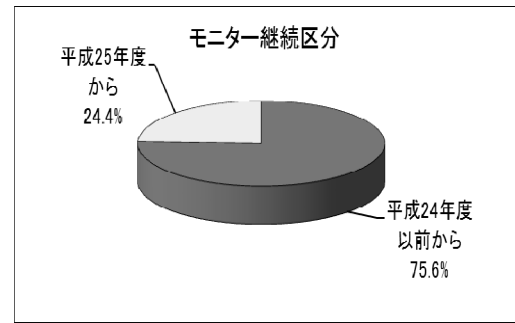
- [1] 大学等で食品に関係の深い学問（医学、歯学、薬学、獣医学、畜産学、水産学、農芸化学、家政学、食品工学等）を専攻し修了した方
- [2] 食品に関係の深い資格（栄養士、管理栄養士、調理師、専門調理師、製菓衛生師又は食品衛生管理者その他の事務局長が適当と認めるもの）を保有の方
- [3] 食品安全に関する業務を業としている方若しくはしていた方又は常勤公務員として食品の安全に関する行政に従事していた方（平成25年4月1日現在常勤の公務員でないこと）

●男女別、年代区分別、職務経験別 内訳

	男女別		年代区分別			全体
	男性	女性	20～39 歳	40～59 歳	60 歳以上	
食品生産・加工経験者	87 人	28 人	17 人	63 人	35 人	115 人
	75.7%	24.3%	14.8%	54.8%	30.5%	100.0%
食品流通・販売経験者	41 人	16 人	13 人	27 人	17 人	57 人
	71.9%	28.1%	22.8%	47.4%	29.8%	100.0%
研究職経験者	24 人	9 人	2 人	20 人	11 人	33 人
	72.7%	27.3%	6.1%	60.6%	33.3%	100.0%
医療職経験者	10 人	19 人	4 人	16 人	9 人	29 人
	34.5%	65.5%	13.8%	55.1%	31.0%	100.0%
教育職経験者	9 人	16 人	0 人	16 人	9 人	25 人
	36.0%	64.0%	0%	64.0%	36.0%	100.0%
食品関係行政従事者	15 人	8 人	4 人	5 人	14 人	23 人
	65.2%	34.8%	17.4%	21.7%	60.8%	100.0%
その他消費者	17 人	54 人	25 人	37 人	9 人	71 人
	23.9%	76.1%	35.2%	52.2%	12.7%	100.0%

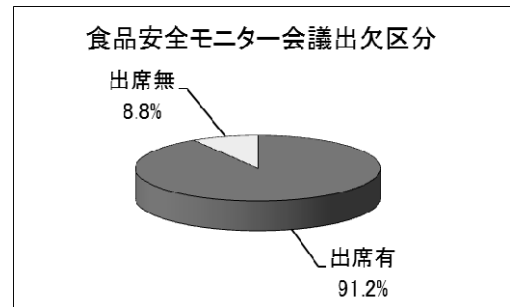
③ モニター継続区分別：

- 過去においても食品安全モニターに依頼されていた方（以下、「経験モニター」という）
267人（75.6%）
- 平成25年度から、食品安全モニターに依頼された方（以下、「新規モニター」という）
86人（24.4%）



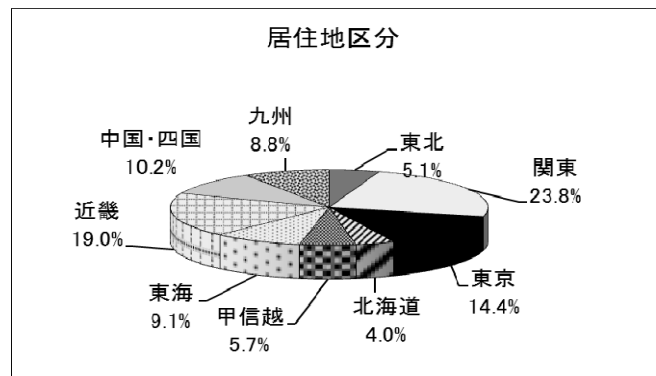
④ 食品安全モニター会議出席区分別

- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがある方
322人（91.2%）
- これまでに食品安全モニター会議に出席したことがない方
31人（8.8%）



⑤ 居住地

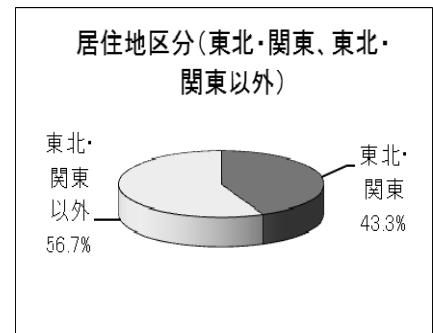
東北	18人(5.1%)
関東	84人(23.8%)
東京	51人(14.4%)
北海道	14人(4.0%)
甲信越	20人(5.7%)
東海	32人(9.1%)
近畿	67人(19.0%)
中国・四国	36人(10.2%)
九州	31人(8.8%)



● 「東北・関東」及び「東北・関東以外」の2区分の居住地割合

（平成23・24年度調査はこの区分での調査を実施）

東北・関東	153人 (43.3%)	東北	18人(5.1%)
		関東	84人(23.8%)
		東京	51人(14.4%)
東北・関東以外	200人 (56.7%)	北海道	14人(4.0%)
		甲信越	20人(5.7%)
		東海	32人(9.1%)
		近畿	67人(19.0%)
		中国・四国	36人(10.2%)
		九州	31人(8.8%)



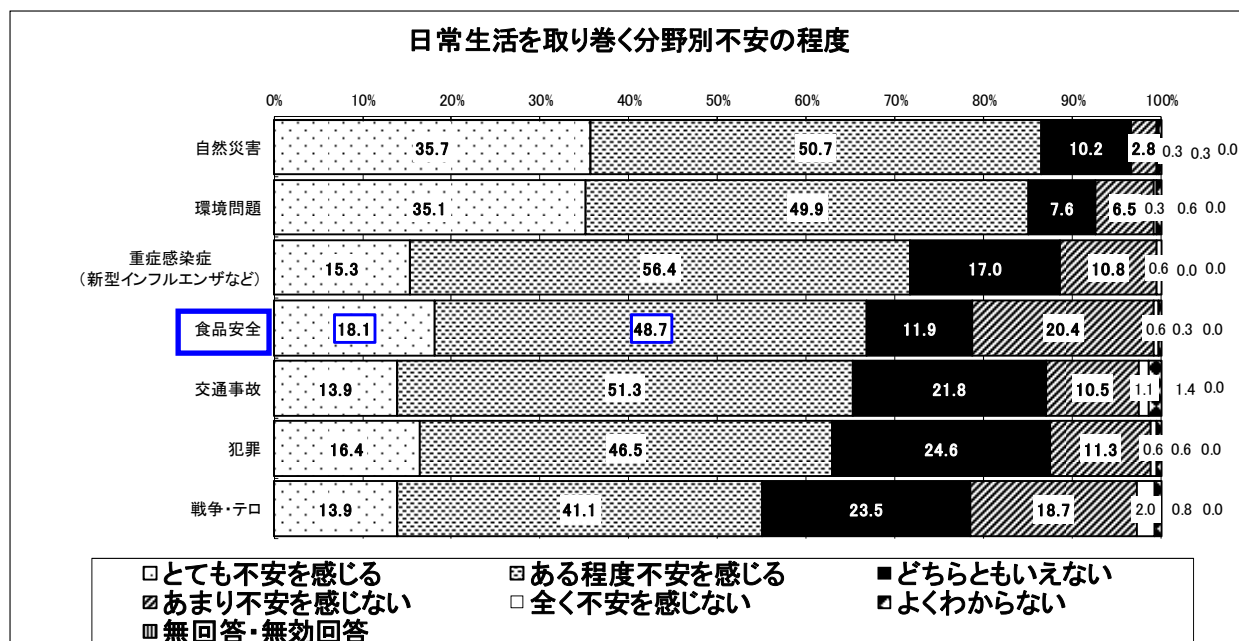
1) 食品の安全性に係る危害要因等について

①日常生活を取り巻く分野別不安の程度（問1）

問1 A～Gに掲げる事項についてリスクの観点からあなたはどのように思いますか。それぞれの事項について、選択肢1～6の中から1つずつ選んでください。

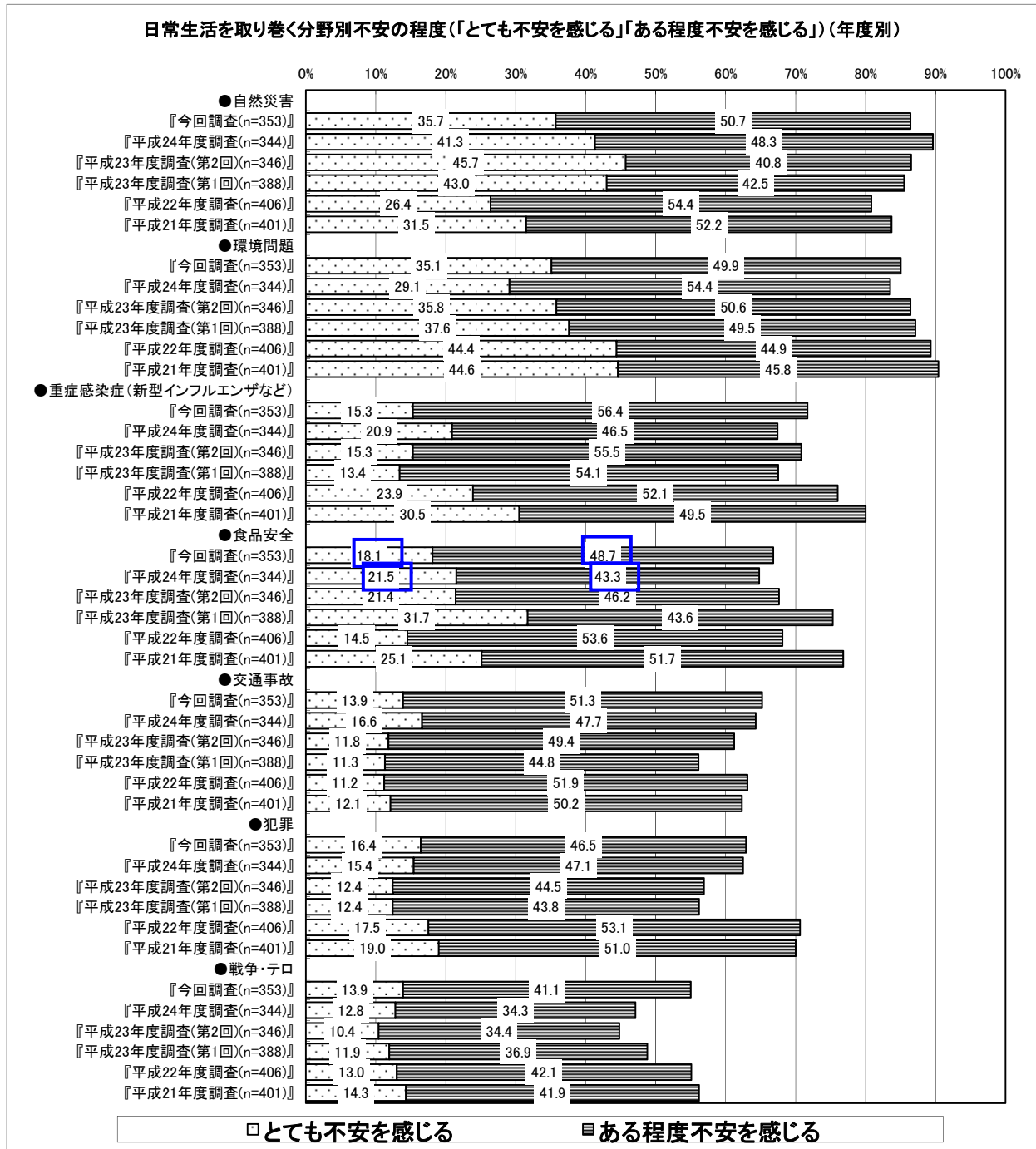
【事項】	【選択肢】
A 環境問題	1 とても不安を感じる
B 自然災害	2 ある程度不安を感じる
C 食品安全	3 どちらともいえない
D 重症感染症（新型インフルエンザなど）	4 あまり不安を感じない
E 犯罪	5 全く不安を感じない
F 戦争・テロ	6 よくわからない
G 交通事故	

- ◆ 平成25年度調査（以下「今回調査」という。）では、食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」との回答割合の合計は 66.8%であり、自然災害（86.4%）、環境問題（85.0%）、重症感染症（新型インフルエンザなど）（71.7%）に比べると低いものの、交通事故（65.2%）、犯罪（62.9%）、戦争・テロ（55.0%）よりは高い。



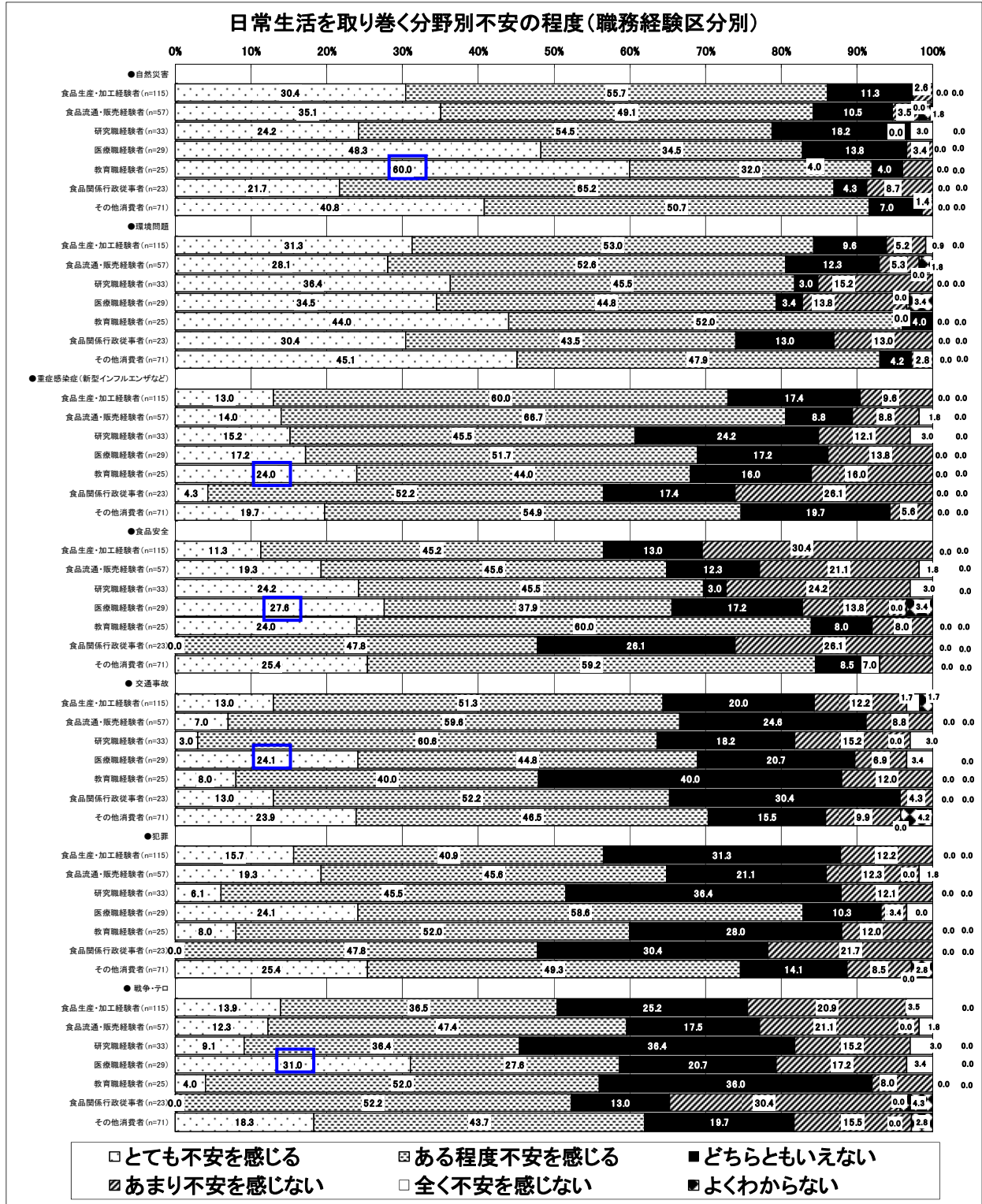
<食品安全についての不安の程度の年度別回答割合>

- ◆ 「食品安全」について、東日本大震災から4ヶ月後が調査実施期間であった平成23年度第1回調査結果で、「とても不安を感じる」との回答の割合が増加したが、その後は減少している。
- ◆ また、「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」との回答割合の合計は、平成23年度第1回調査で増加した後、平成24年度調査(64.8%)までは減少していたが、今回調査ではその傾向はみられない。(2.0%増加、64.8%→66.8%)



<日常生活を取り巻く分野別不安の程度についての職務経験区分別回答割合>

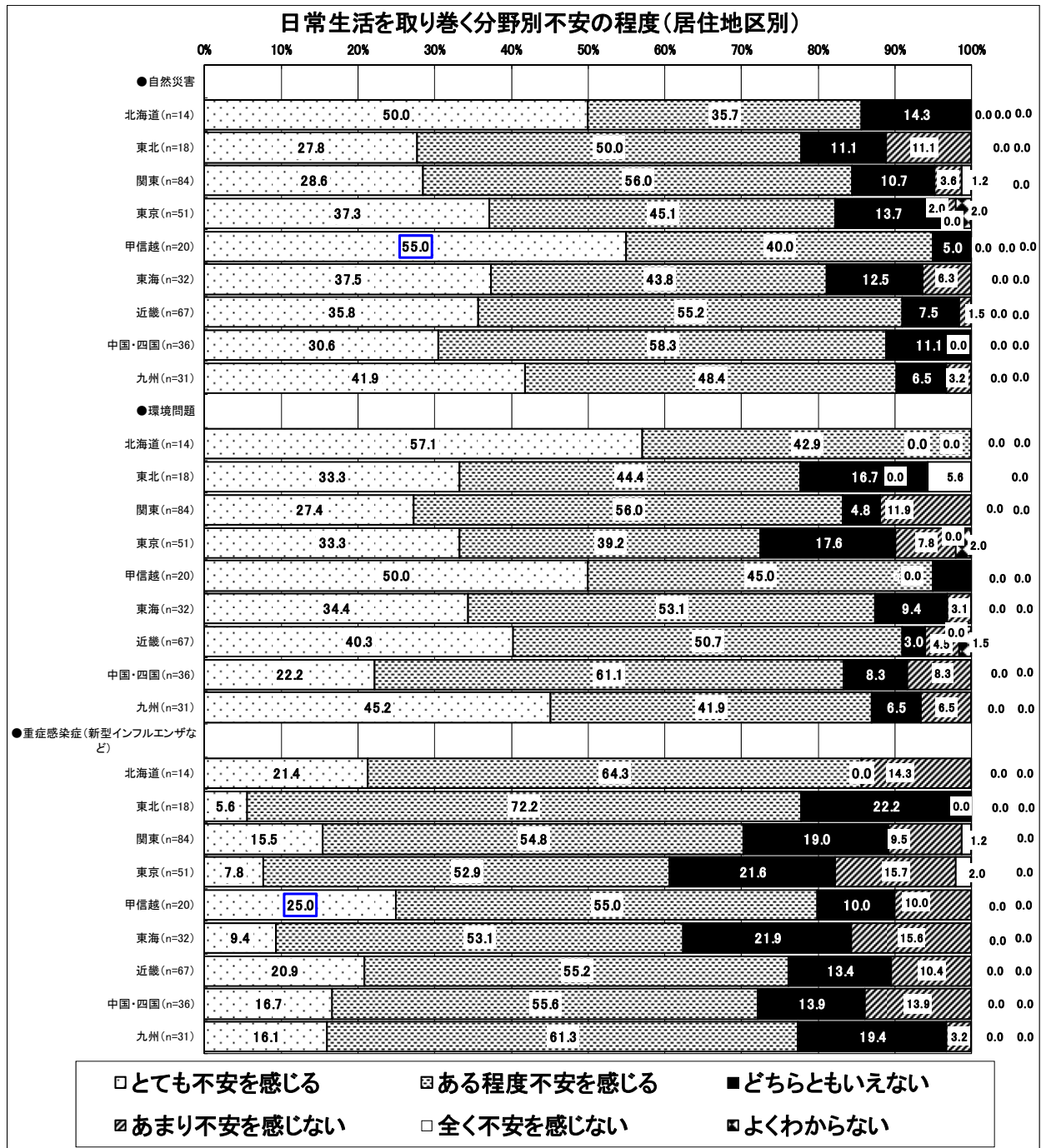
- ◆ 「教育職経験者」では、「食品安全」、「犯罪」、「戦争・テロ」、「交通事故」を除くすべてのハザードで、「とても不安を感じる」との回答割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。「医療職経験者」では「食品安全」、「戦争・テロ」、「交通事故」で、「とても不安を感じる」との回答割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。



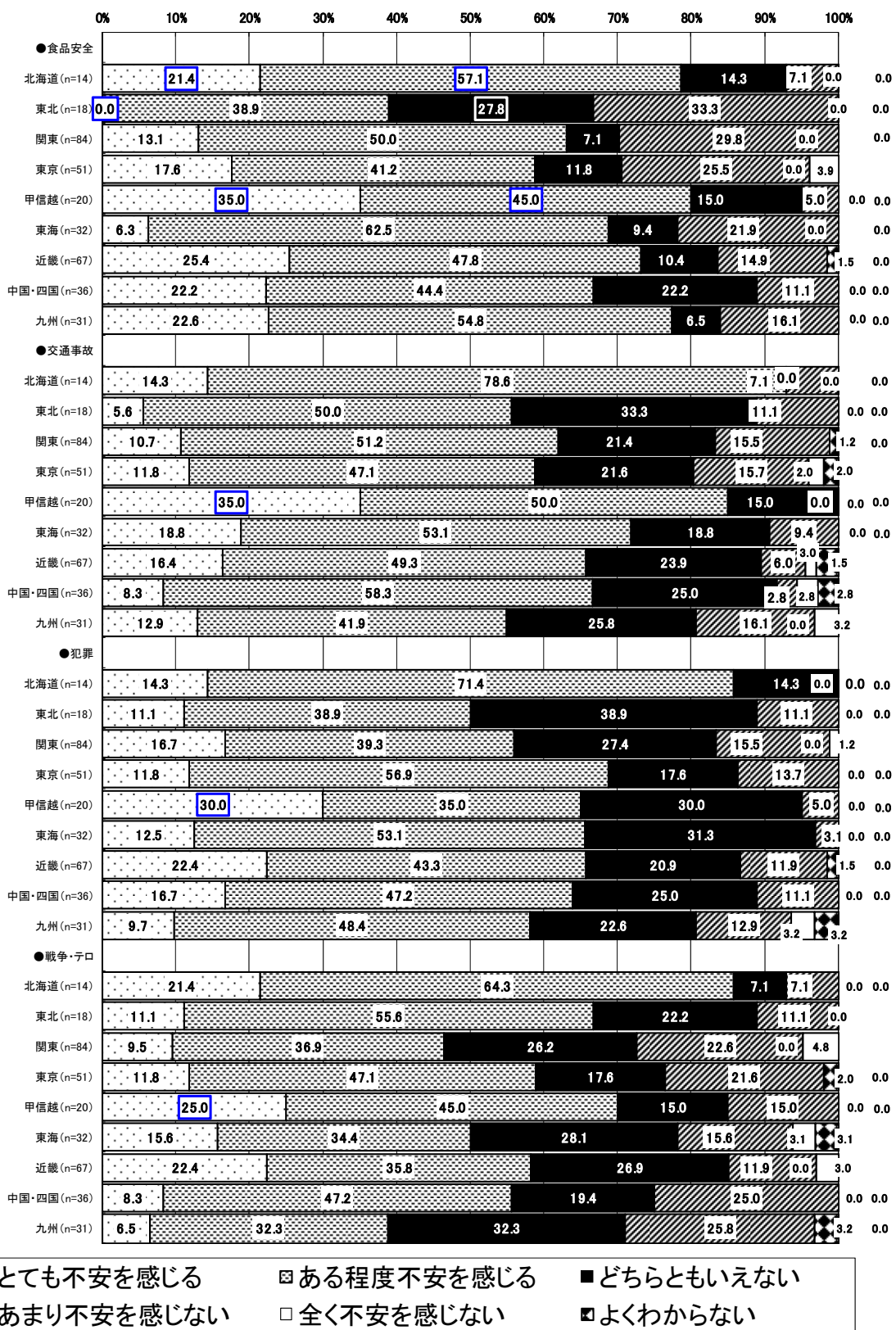
※無回答・無効回答はいずれのハザードもなし。

<日常生活を取り巻く分野別不安の程度についての居住地区別回答割合>

- ◆ 「甲信越」では、「環境問題」を除くすべてのハザードで、「とても不安を感じる」との回答割合が他の居住地区に比べ特に高い。「北海道」では「環境問題」で、「とても不安を感じる」との回答割合が他の居住地区に比べ特に高い。
- ◆ 「食品安全」については、「とても不安を感じる」、「ある程度不安を感じる」との回答割合の合計は、北海道と甲信越で高く、東北で低い。東北では「とても不安を感じる」との回答の割合が低かった一方で、「どちらともいえない」との回答の割合が高かった。



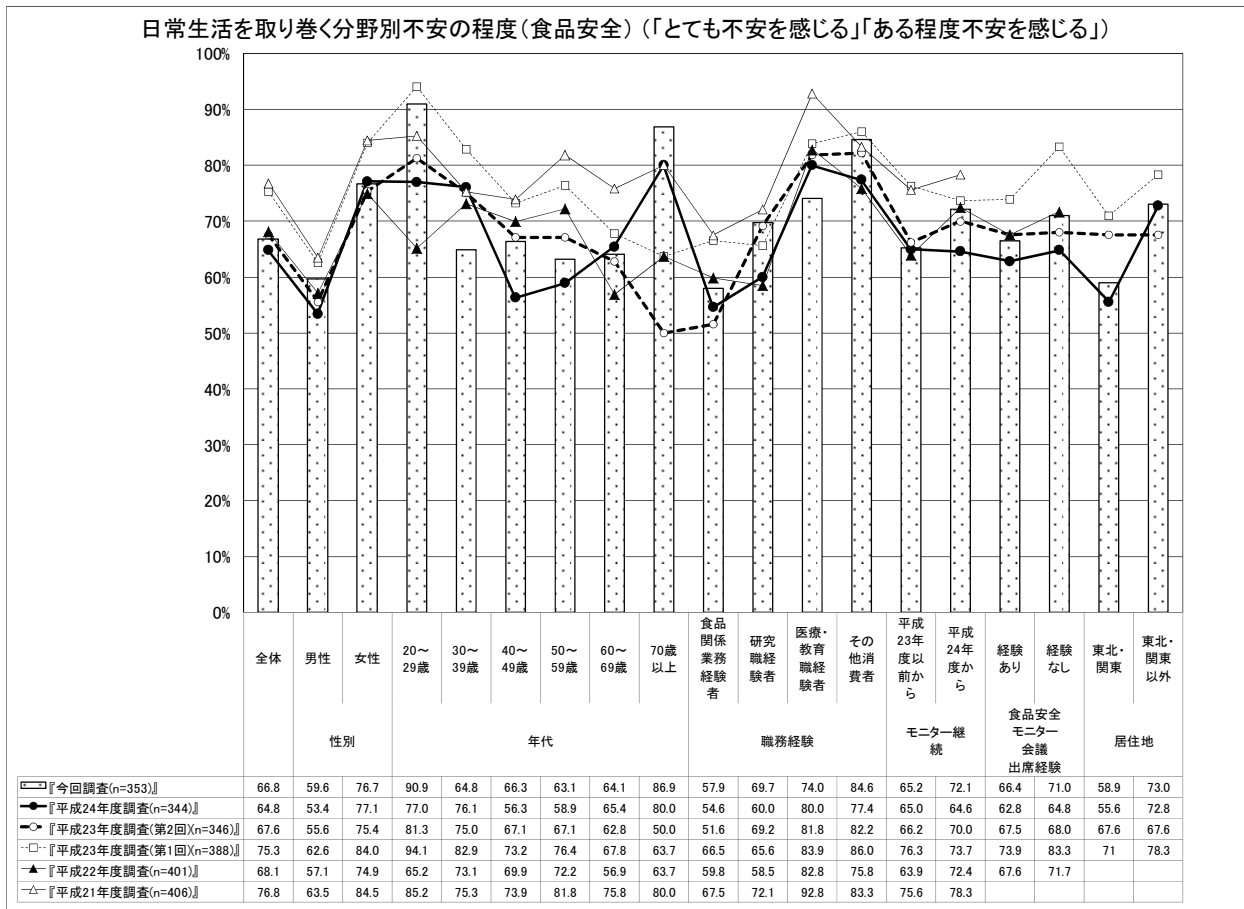
日常生活を取り巻く分野別不安の程度(居住地区別・続き)



※無回答・無効回答はいずれのハザードもなし。

<食品安全についての不安の程度の年度別、属性別回答割合>

- ◆ 食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」との回答割合の合計を属性別に比べると、男女別では「男性」59.6%、「女性」76.7%、職務経験区分別では、「食品関係業務経験者」57.9%、「研究職経験者」69.7%、「医療・教育職経験者」74.0%、「その他消費者」84.6%、居住地区別では「東北・関東」58.9%、「東北・関東以外」73.0%と、男女別では「女性」、職務経験区分別では「その他消費者」、居住地区別では「東北・関東以外」が他の属性に比べて特に高い。
- ◆ 今回調査では、平成24年度調査に比べて、食品安全について「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」との回答割合の合計が、「女性」、「30～39歳」、「60～69歳」、「医療・教育職経験者」を除く全ての属性で増加している。特に、「40～49歳」で10.0%（56.3%→66.3%）増加している。



②食品の安全性の観点から感じている不安の程度（問2）

問2 A～Lに掲げるハザード等について、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～5の中から1つずつ選んでください。また、A～Lのハザード以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「M その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～5の中から1つ選んでください。

【事項】

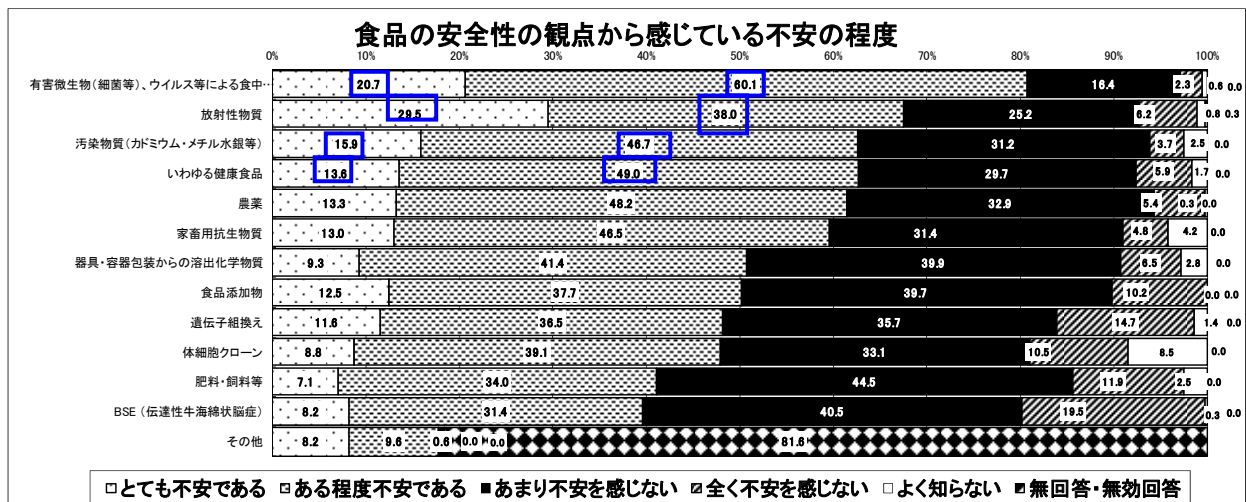
- A 食品添加物
- B 農薬
- C 家畜用抗生物質
- D 器具・容器包装からの溶出化学物質
- E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）
- F 有害微生物（細菌・ウイルス）による食中毒等
- G BSE（伝達性牛海綿状脳症）
- H 遺伝子組換え
- I 体細胞クローン
- J いわゆる健康食品※
- K 肥料・飼料等
- L 放射性物質
- M その他（具体的に記入してください）

【選択肢】

- 1 とても不安である
- 2 ある程度不安である
- 3 あまり不安を感じない
- 4 全く不安を感じない
- 5 よく知らない

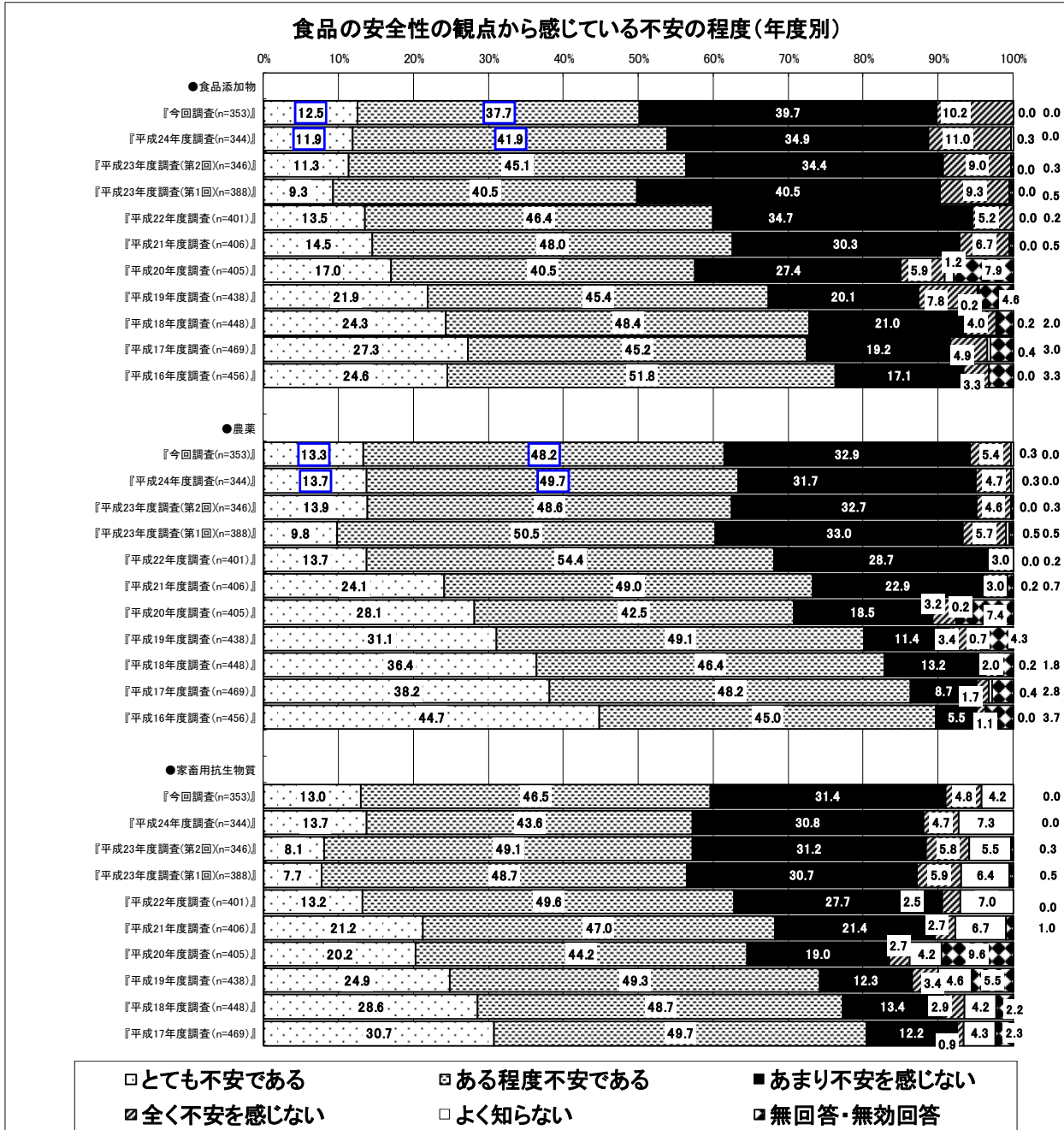
※ 「いわゆる健康食品」とは、健康増進法（平成14年法律第103号）に基づく特定保健用食品及び栄養機能食品以外のもので、健康の保持増進に資する食品として販売・利用されるものを広く指しています。（以下、問10、11、13においても同じとします。）

◆ 今回調査で、「とても不安である」「ある程度不安である」との回答の割合の合計が高いものの上位3事項（ハザード等）は、「有害微生物（細菌・ウイルス）による食中毒等」（80.8%）、「放射性物質」（67.5%）、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」（62.6%）、「いわゆる健康食品」（62.6%）であり、平成24年度調査の上位3事項（ハザード等）と同様の結果であったが、「いわゆる健康食品」について「ある程度不安である」との回答が増加したことから追加となった。

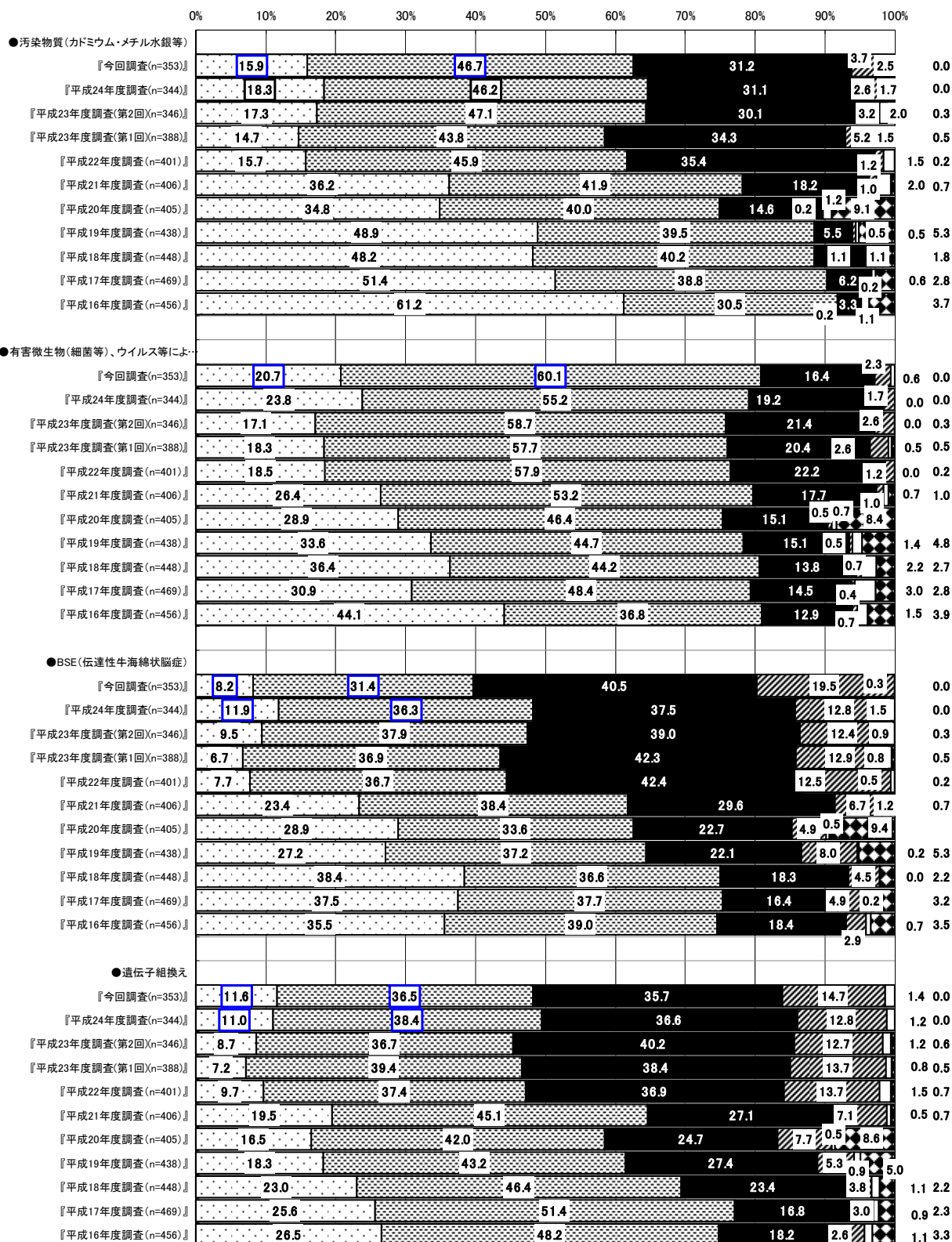


＜食品の安全性の観点から感じている不安の程度の年度別回答割合＞

- ◆ 今回調査では、平成 24 年度調査に比べて、「家畜用抗生物質」「有害微生物（細菌・ウイルス）による食中毒等」「いわゆる健康食品」「肥料・飼料等」を除く全ての事項で「とても不安である」「ある程度不安である」との回答割合が減少している。平成 24 年度調査と比べ、最も回答割合が減少したのは、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」（8.6%減少、48.2%→39.6%）だった。一方、最も回答割合が増加したのは「いわゆる健康食品」（7.1%増加、55.5%→62.6%）だった。

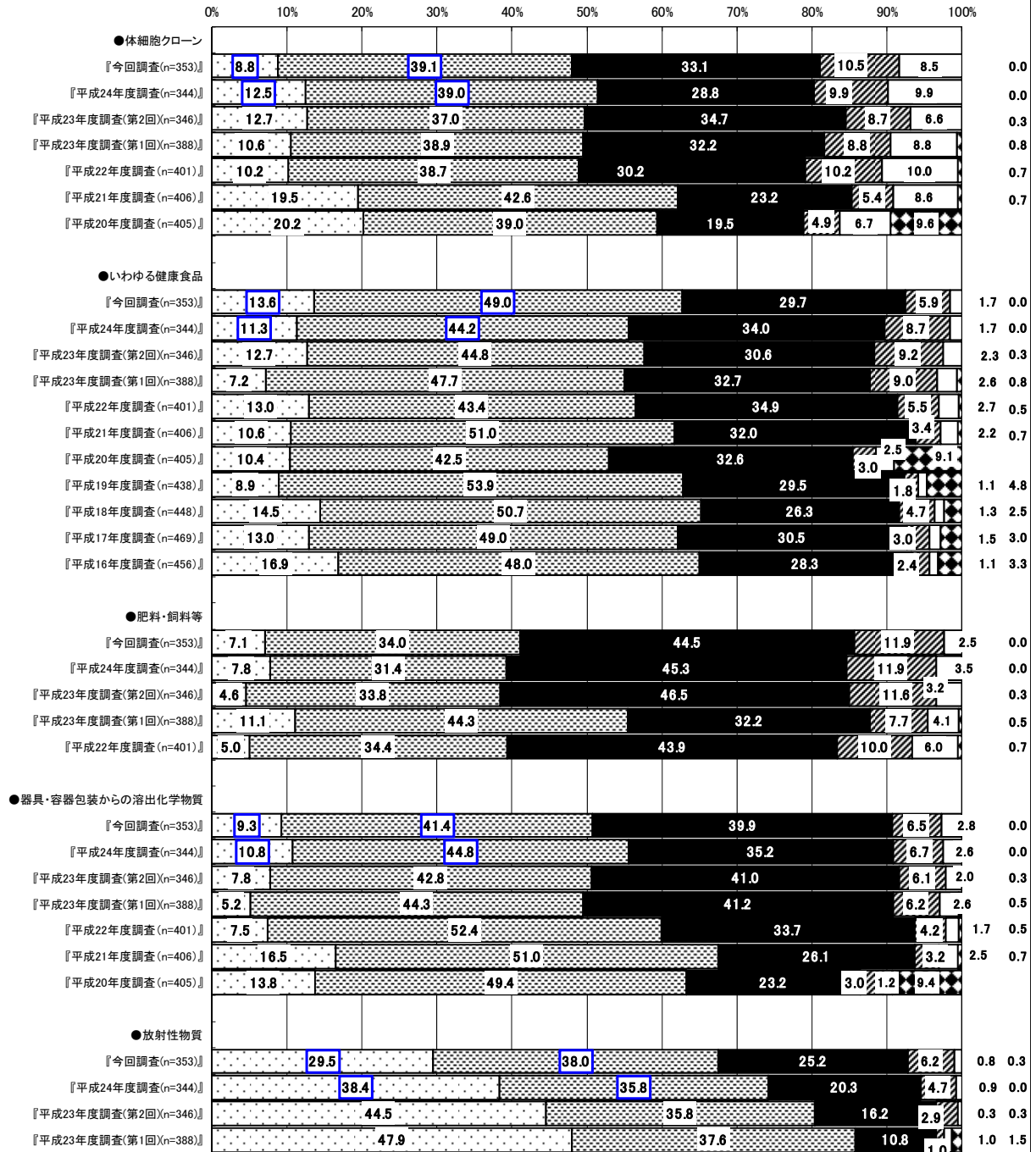


食品の安全性の観点から感じている不安の程度(年度別・その2)



とても不安である ある程度不安である あまり不安を感じない
 全く不安を感じない よく知らない 無回答・無効回答

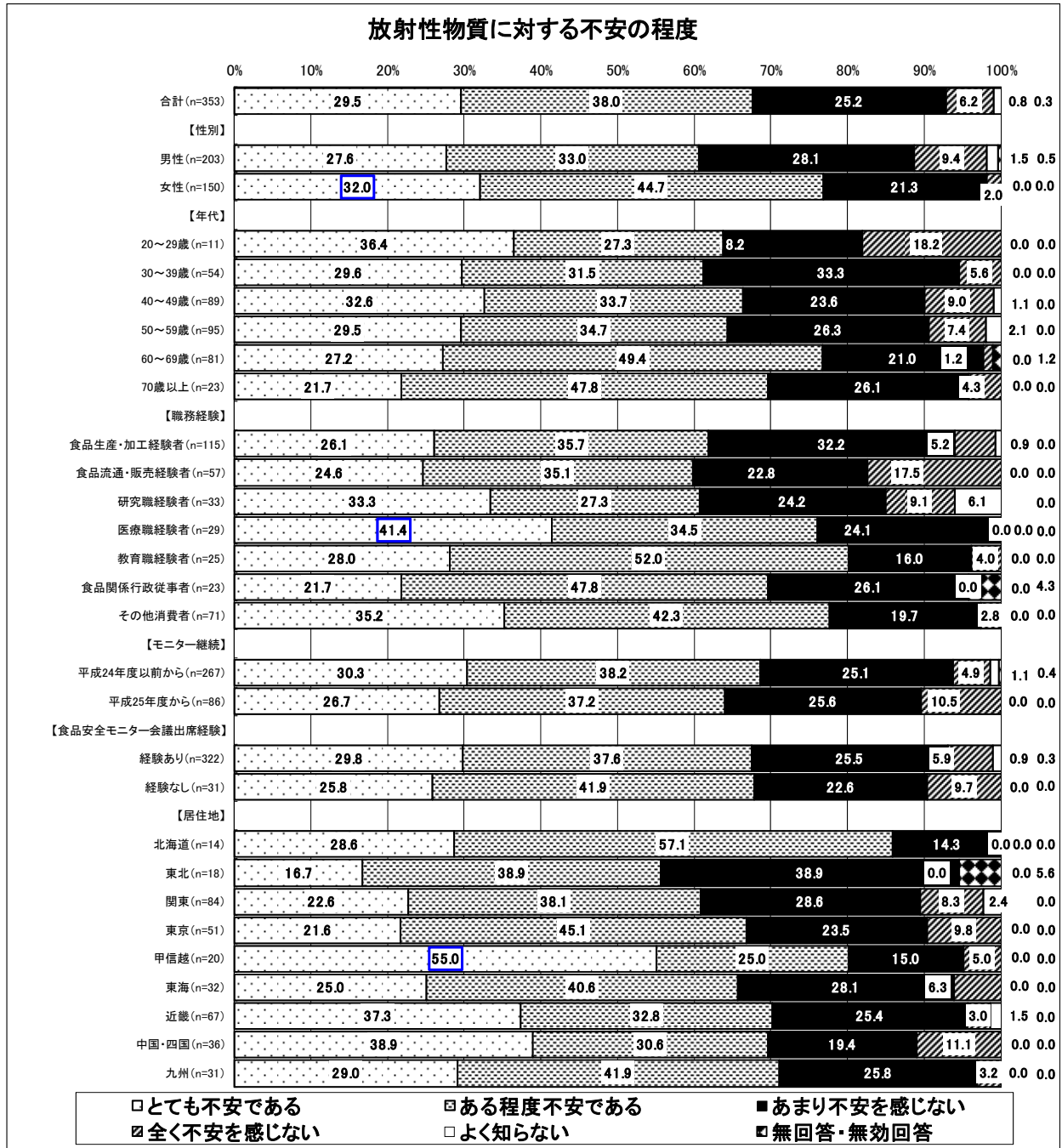
食品の安全性の観点から感じている不安の程度(年度別・その3)



とても不安である ある程度不安である あまり不安を感じない
 全く不安を感じない よく知らない 無回答・無効回答

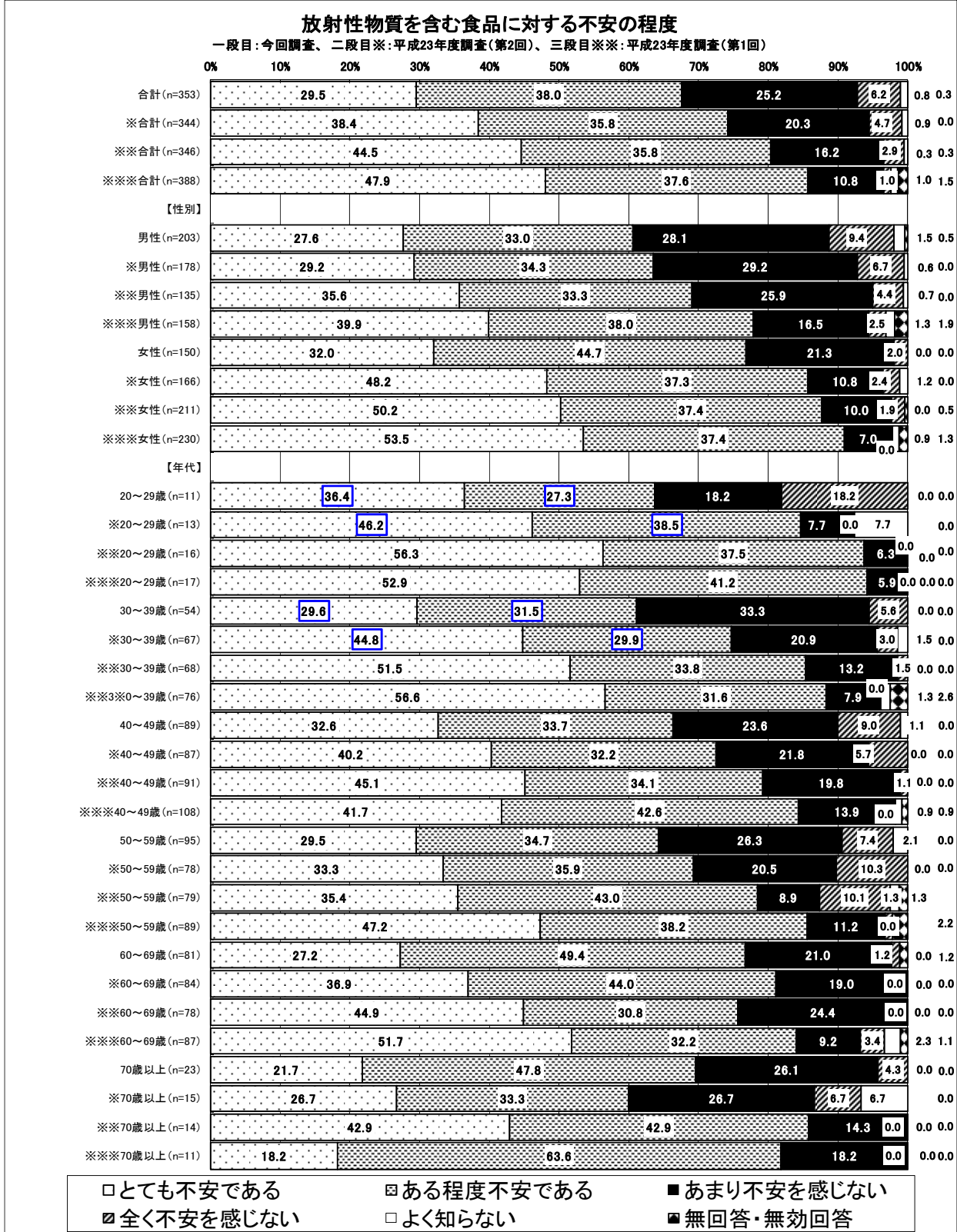
<食品の安全性の観点から放射性物質に感じている不安の程度の属性別回答割合>

- ◆ 放射性物質について「非常に不安である」「ある程度不安である」との回答割合の合計は、67.5%であり、男女別では女性、職務経験区分別では医療職経験者が高くなっている。居住地区別では東北が低い一方、甲信越が高くなっている。



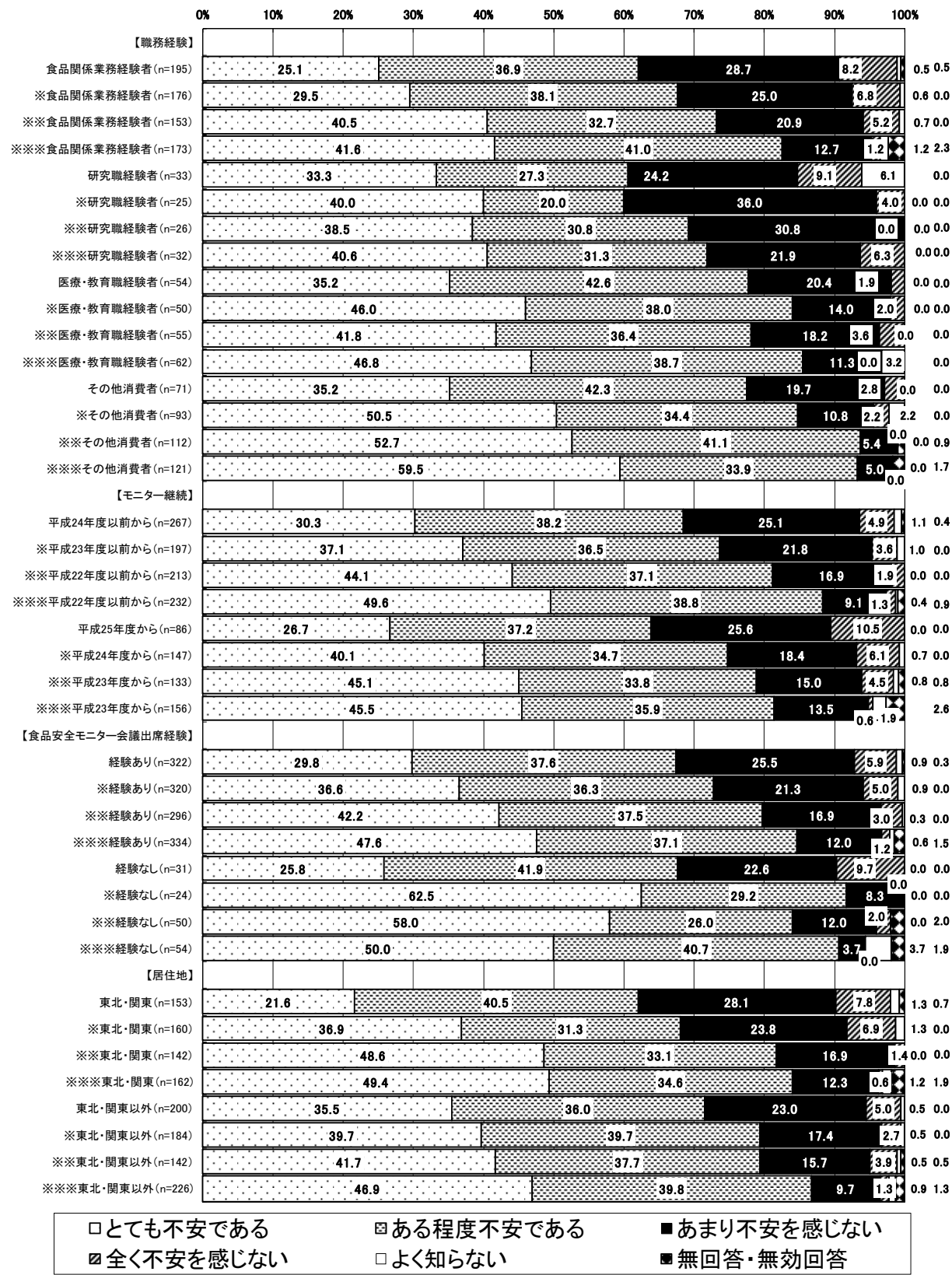
＜食品の安全性の観点から放射性物質に感じている不安の程度の属性別、年度別回答割合＞

- ◆ 今回調査と平成24年度調査で、放射性物質について「非常に不安である」「ある程度不安である」との回答割合の合計を属性別に比べると、70歳以上及び研究職経験者を除く全ての属性で減少しており、特に20～29歳（21.0%減少、84.7%→63.7%）、30～39歳（13.6%減少、74.7%→61.1%）で大きく減少している。



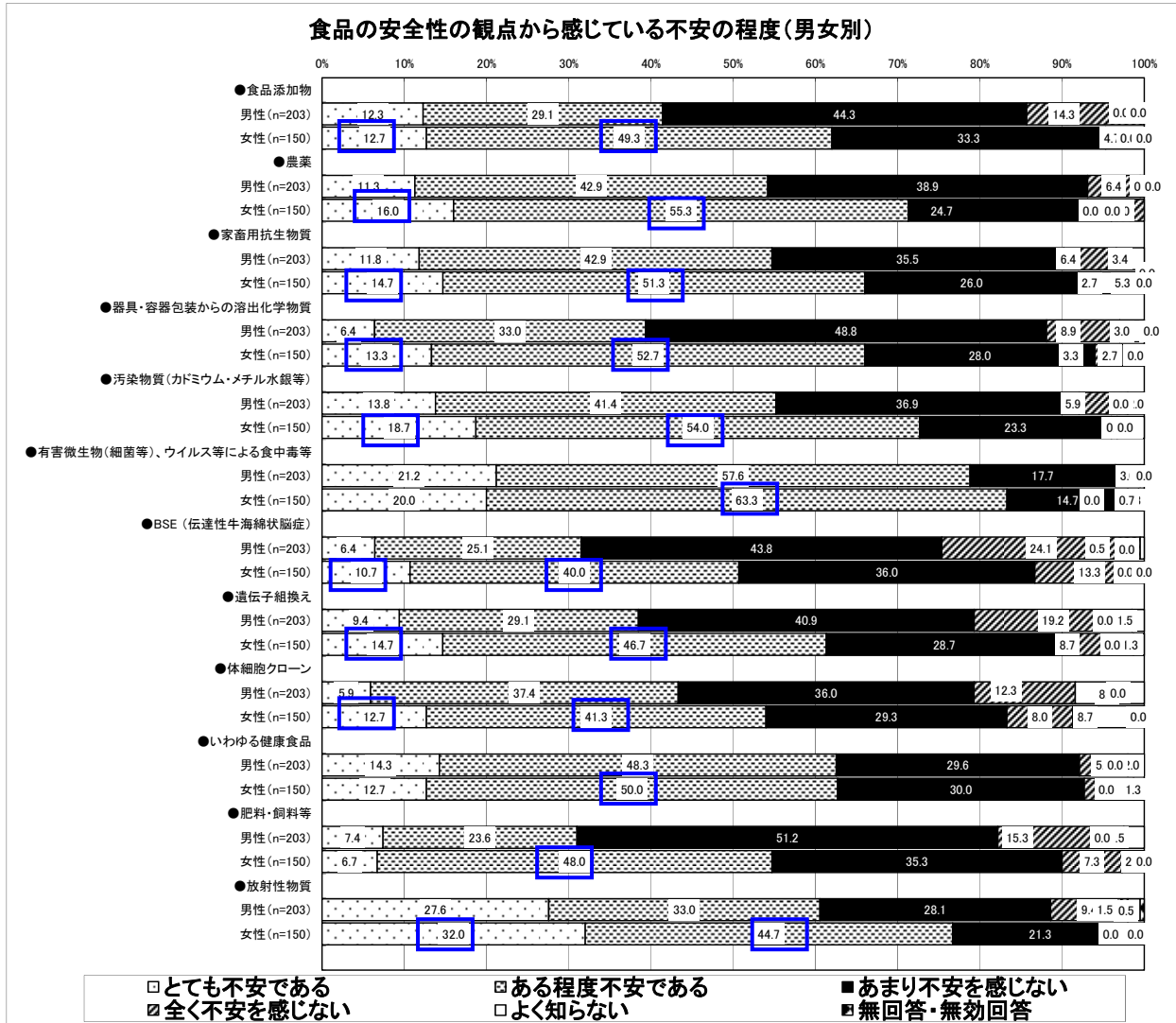
放射性物質を含む食品に対する不安の程度(続き)

一段目:今回調査、二段目※:平成23年度調査(第2回)、三段目※※:平成23年度調査(第1回)



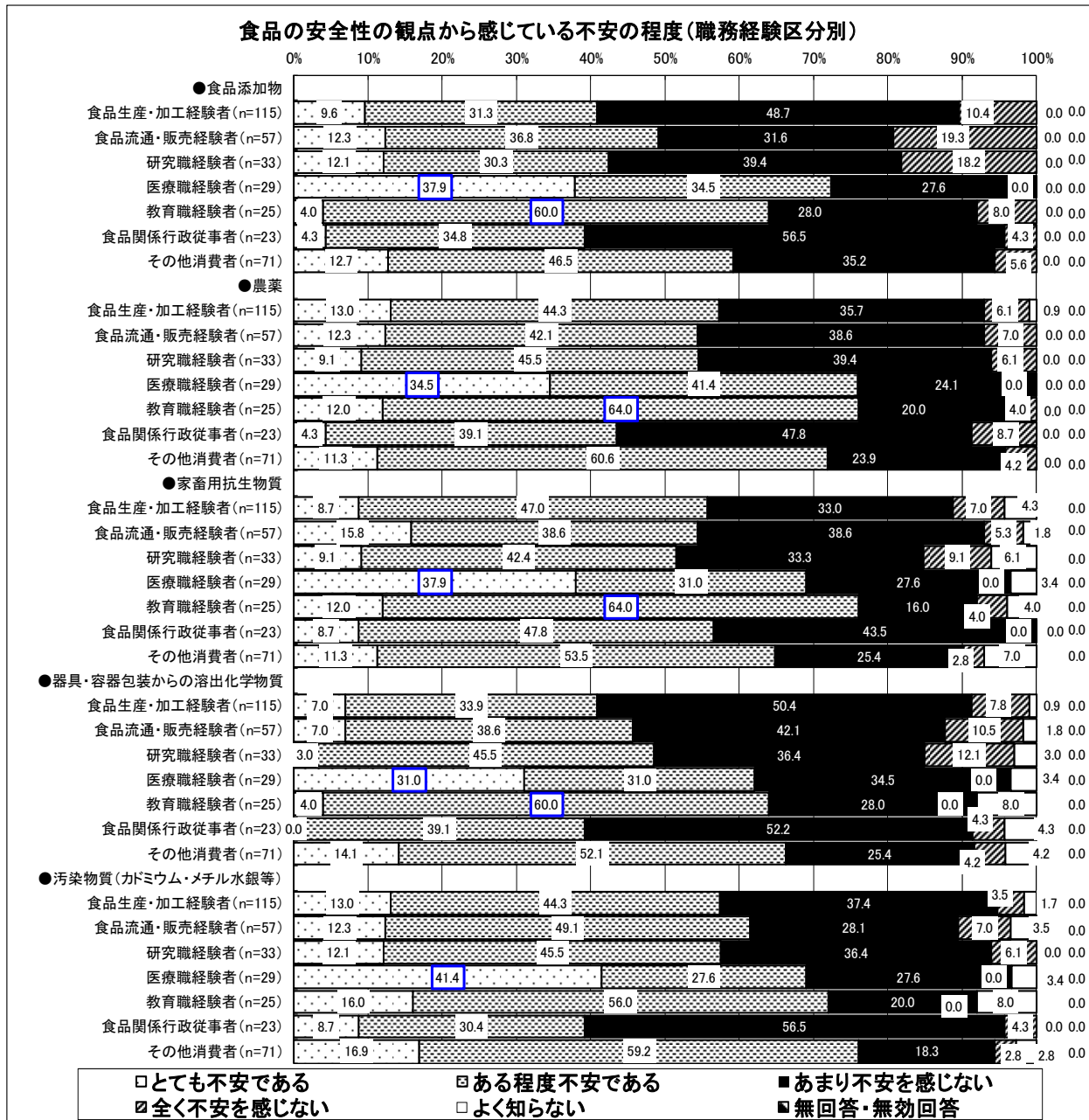
<食品の安全性の観点から感じている不安の程度についての男女別回答割合>

- ◆ 「女性」で「とても不安である」との回答の割合は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、「いわゆる健康食品」、「肥料・飼料等」を除くすべてのハザードで「男性」に比べ高い。
- ◆ 「女性」で「ある程度不安である」との回答の割合は、すべてのハザードで「男性」に比べ高い。

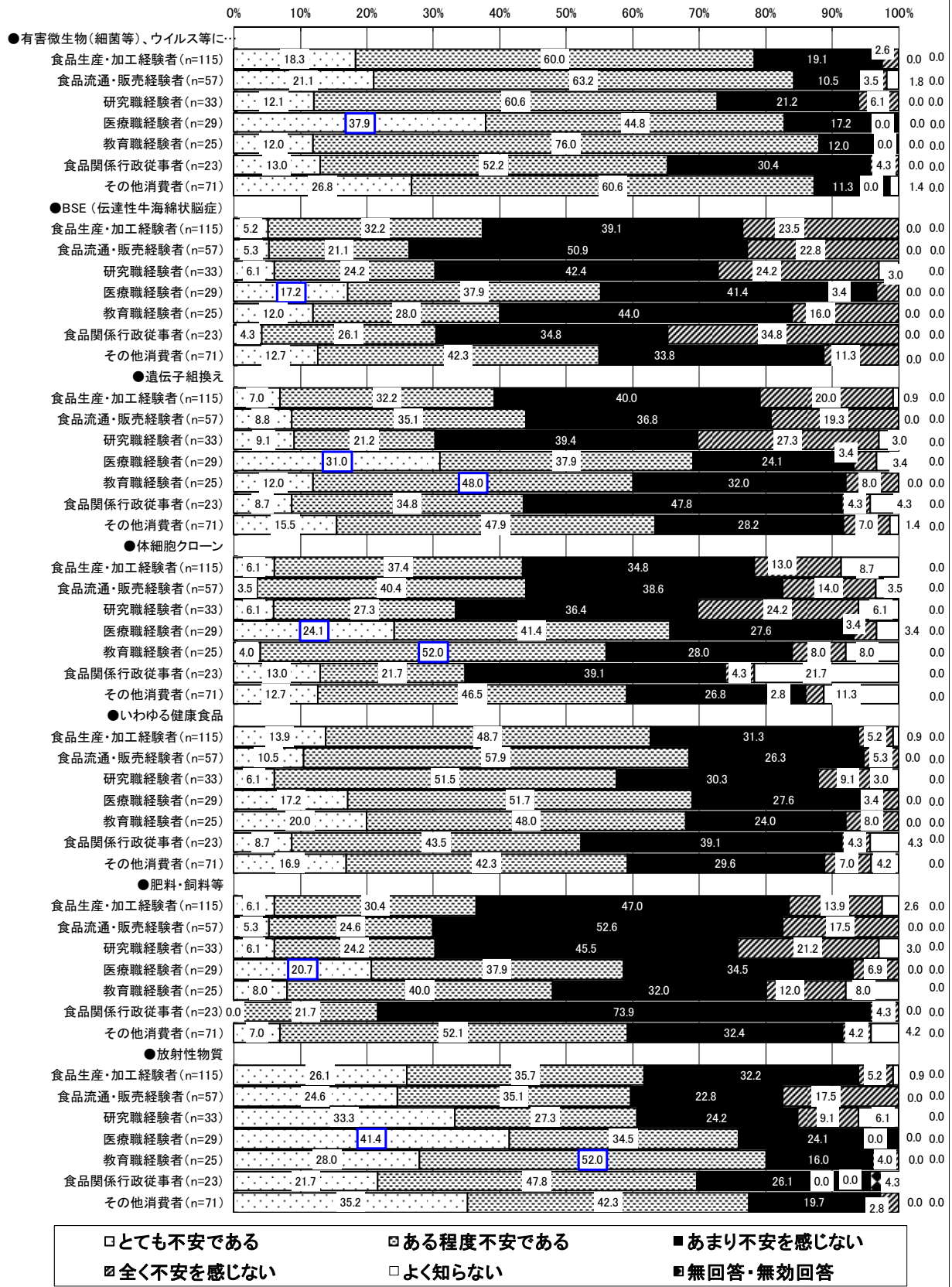


＜食品の安全性の観点から感じている不安の程度についての職務経験区分別回答割合＞

- ◆ 医療職経験者では、「いわゆる健康食品」を除くすべてのハザードで、「とても不安である」との回答割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。一方、教育職経験者では、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」、「いわゆる健康食品」、「肥料・飼料等」を除くすべてのハザードで、「ある程度不安である」との回答割合が他の職務経験区分に比べ特に高い。

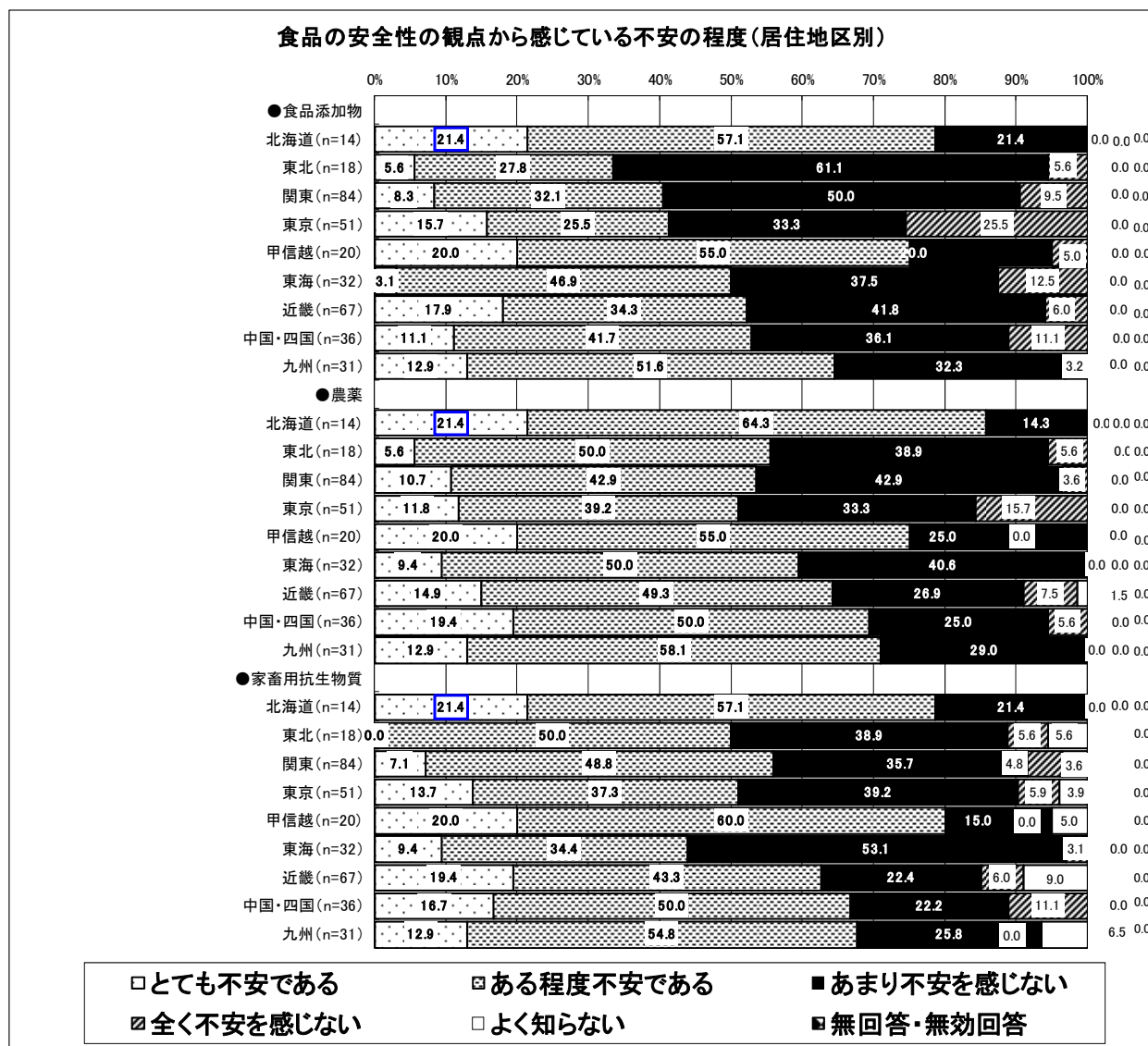


食品の安全性の観点から感じている不安の程度(職務経験区別・続き)

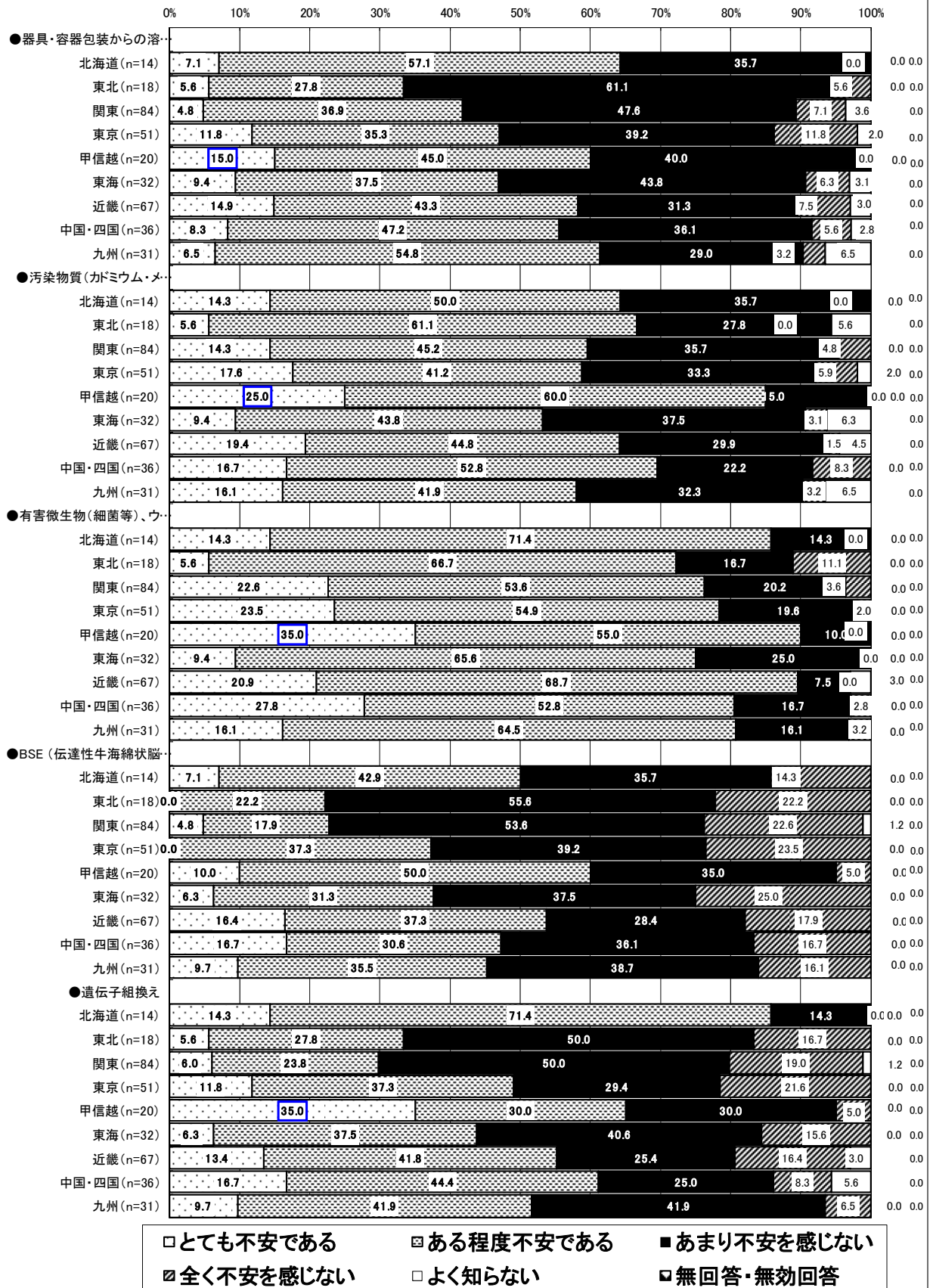


<食品の安全性の観点から感じている不安の程度についての居住地区別回答割合>

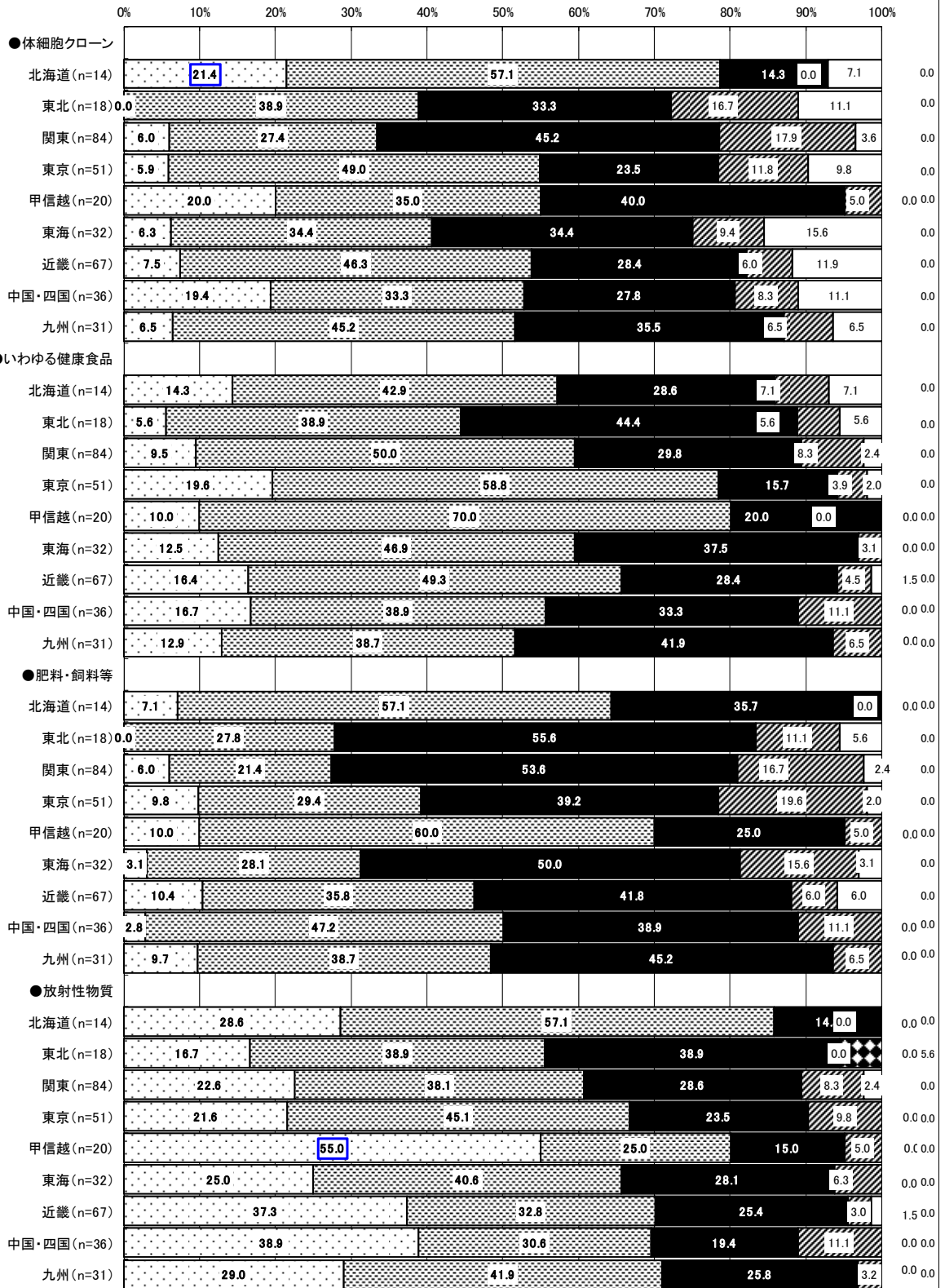
- ◆ 「北海道」では、「食品添加物」、「農薬」、「家畜用抗生物質」、「体細胞クローン」で、「とても不安である」との回答割合が他の居住地区分に比べ特に高い。一方、「甲信越」では、「器具・容器包装からの溶出化学物質」、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」、「有害微生物（細菌等）」、「ウイルス等による食中毒等」、「遺伝子組換え」、「放射性物質」で、「とても不安である」との回答割合が他の居住地区分に比べ特に高い。
- ◆ 「とても不安である」「ある程度不安である」との回答の割合の合計をみると、「有害微生物（細菌等）」、「ウイルス等の食中毒等」については、「甲信越」で90.0%と最も高く、「東北」で72.3%と最も低い。「いわゆる健康食品」については、「甲信越」で80.0%、「東京」で78.4%と高く、「東北」で44.5%と最も低い。また、「放射性物質」については、「北海道」で85.7%、「甲信越」80.0%と高く、「東北」で55.6%と最も低い。



食品の安全性の観点から感じている不安の程度(居住地区別・その2)

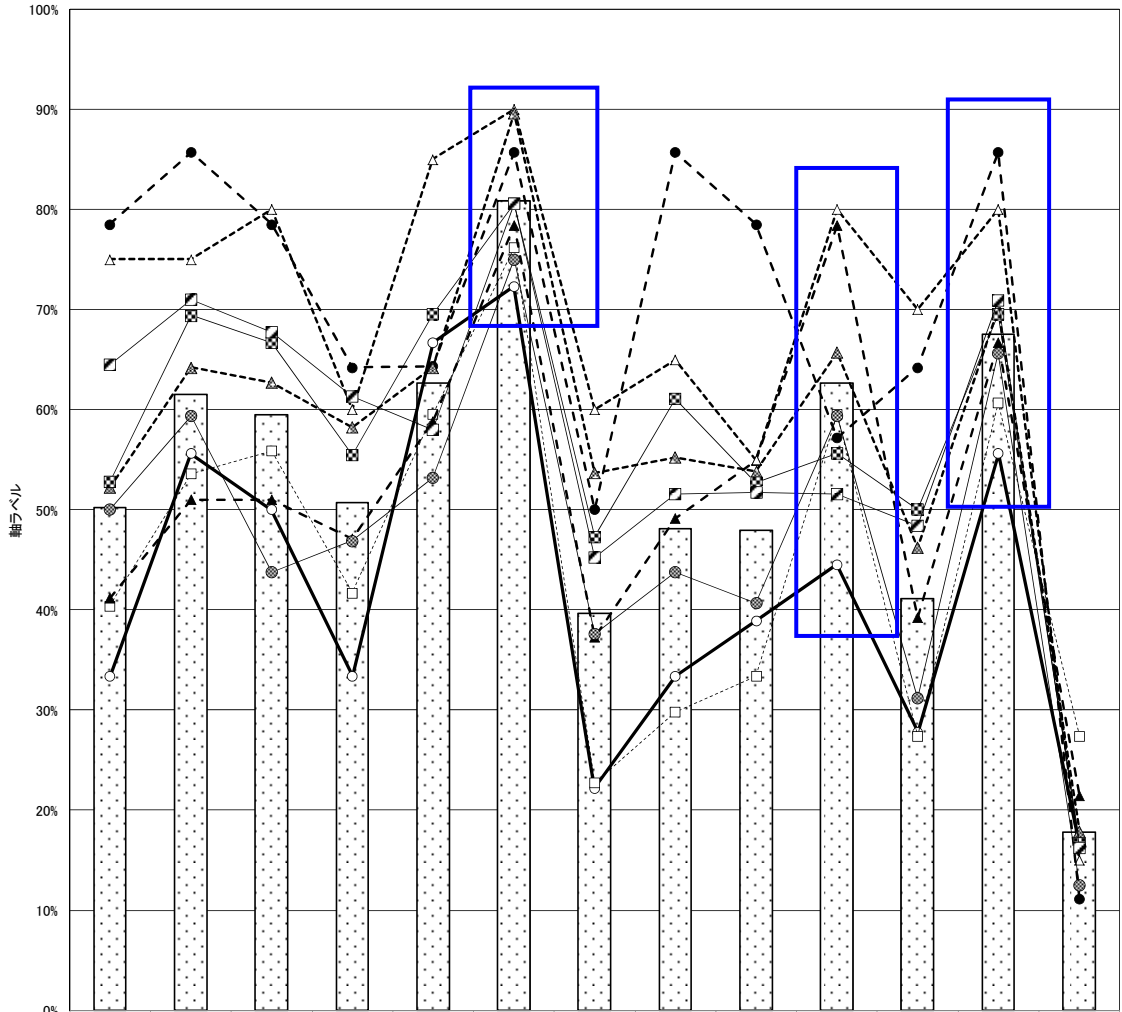


食品の安全性の観点から感じている不安の程度(居住地区別・その3)

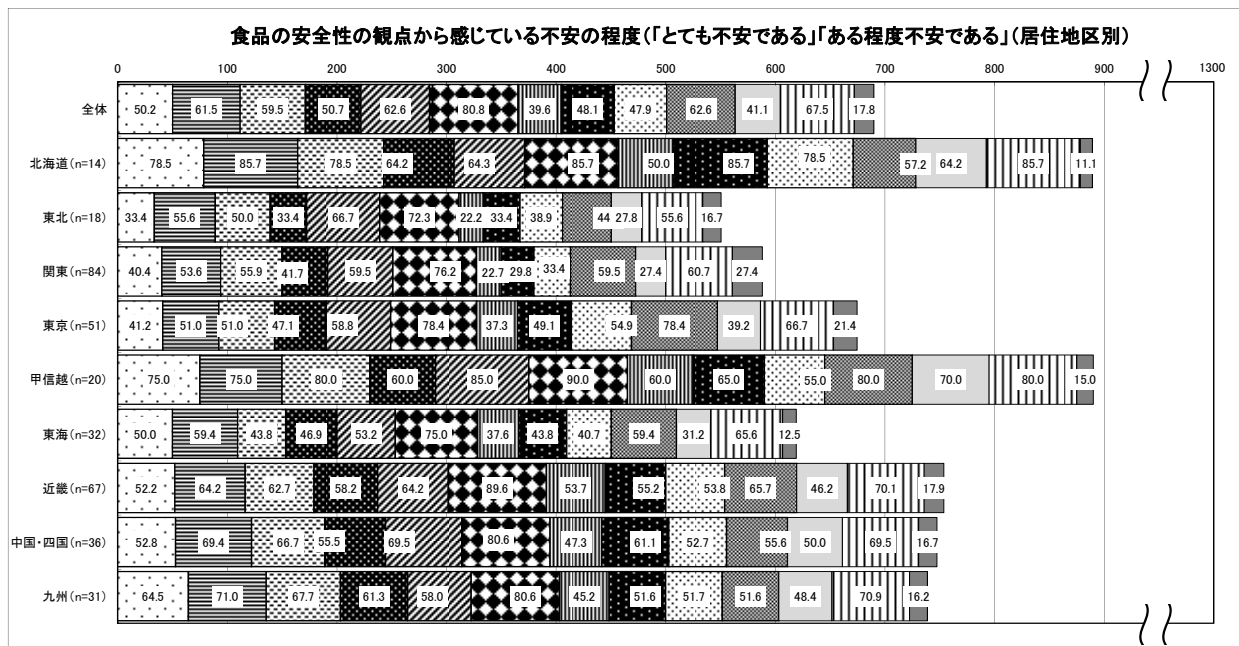


とても不安である
 ある程度不安である
 あまり不安を感じない
 全く不安を感じない
 よく知らない
 無回答・無効回答

食品の安全性の観点から感じている不安の程度(「とても不安である」「ある程度不安である」)(居住地区別)



	食品添加物	農薬	家畜用抗生物質	器具・容器包装からの溶出化学物質	汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)	有害微生物(細菌等)・ウイルス等による食中毒等	BSE(伝達性牛海綿状脳症)	遺伝子組換え	体細胞クローン	いわゆる健康食品	肥料・飼料等	放射性物質	その他
全体	50.2	61.5	59.5	50.7	62.6	80.8	39.6	48.1	47.9	62.6	41.1	67.5	17.8
北海道(n=14)	78.5	85.7	78.5	64.2	64.3	85.7	50.0	85.7	78.5	57.2	64.2	85.7	11.1
東北(n=18)	33.4	55.6	50.0	33.4	66.7	72.3	22.2	33.4	38.9	44.5	27.8	55.6	16.7
関東(n=84)	40.4	53.6	55.9	41.7	59.5	76.2	22.7	29.8	33.4	59.5	27.4	60.7	27.4
東京(n=51)	41.2	51.0	51.0	47.1	58.8	78.4	37.3	49.1	54.9	78.4	39.2	66.7	21.4
甲信越(n=20)	75.0	75.0	80.0	60.0	85.0	90.0	60.0	65.0	55.0	80.0	70.0	80.0	15.0
東海(n=32)	50.0	59.4	43.8	46.9	53.2	75.0	37.6	43.8	40.7	59.4	31.2	65.6	12.5
近畿(n=67)	52.2	64.2	62.7	58.2	64.2	89.6	53.7	55.2	53.8	65.7	46.2	70.1	17.9
中国・四国(n=36)	52.8	69.4	66.7	55.5	69.5	80.6	47.3	61.1	52.7	55.6	50.0	69.5	16.7
九州(n=31)	64.5	71.0	67.7	61.3	58.0	80.6	45.2	51.6	51.7	51.6	48.4	70.9	16.2



- 食品添加物
- 農薬
- ▨ 家畜用抗生物質
- ▩ 器具・容器包装からの溶出化学物質
- ▧ 汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)
- ▦ 有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等
- ▥ BSE(伝達性牛海綿状脳症)
- ▤ 遺伝子組換え
- ▣ 体細胞クローン
- ▢ いわゆる健康食品
- 肥料・飼料等
- 放射性物質
- ▧ その他

※本グラフは、1つのハザードの回答割合を100%とし、13つのハザードの回答割合を積み上げたもの。

問2：M その他（食品の安全性の観点で気になるハザード等：回答者数70名）

特に多くみられるのは、「輸入食品」（19名）、アレルギー物質（9名　うち3名は表示に関するもの）であった。

③食品の安全性の観点から不安を感じている理由（放射性物質以外）（問3）

問3 問2のハザードA～K及びMに掲げるハザード等において、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。

それぞれのハザードについて、不安を感じる理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

【選択肢】

- 1 安全性についての科学的な根拠に疑問
- 2 行政による規制が不十分
- 3 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- 4 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 5 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 6 過去に問題になった事例があるために不安
- 7 漠然とした不安
- 8 その他（具体的に記入してください）

- ◆ 「安全性についての科学的な根拠に疑問」との回答の割合は、「体細胞クローン」が52.7%と最も高く、次いで「遺伝子組換え」51.2%、「食品添加物」36.7%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」27.4%、「肥料・飼料等」20.7%、「いわゆる健康食品」19.5%、「農薬」19.4%、「家畜用抗生物質」18.1%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」17.9%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」14.9%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」10.5%の順である。
- ◆ 「行政による規制が不十分」との回答の割合は、「いわゆる健康食品」が21.3%と最も高く、次いで「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」17.1%、「肥料・飼料等」13.1%、「農薬」12.4%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」11.8%、「家畜用抗生物質」11.4%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」11.2%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」9.8%、「食品添加物」9.0%、「遺伝子組換え」8.2%、「体細胞クローン」7.7%の順である。
- ◆ 「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」との回答の割合は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」が33.7%と最も高く、次いで「家畜用抗生物質」32.4%、「肥料・飼料等」30.3%、「農薬」29.5%、「食品添加物」22.6%、「いわゆる健康食品」18.6%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」16.2%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」12.2%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」11.4%、「遺伝子組換え」10.6%、「体細胞クローン」5.3%の順である。
- ◆ 「行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分」との回答の割合は、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が9.3%と最も高く、次いで「家畜用抗生物質」8.1%、「遺伝子組換え」7.1%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」6.1%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」5.9%、「体細胞クローン」5.3%、「肥料・飼料等」4.8%、「農薬」4.1%、「食品添加物」4.0%、「いわゆる健康食品」3.6%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」3.5%の順である。
- ◆ 「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分」との回答の割合は、「いわゆる健康食品」が16.3%と最も高く、次いで「家畜用抗生物質」10.0%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」8.4%、「肥料・飼料等」8.3%、「農薬」7.8%、「食品添加物」6.2%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」4.5%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」3.9%、「遺伝

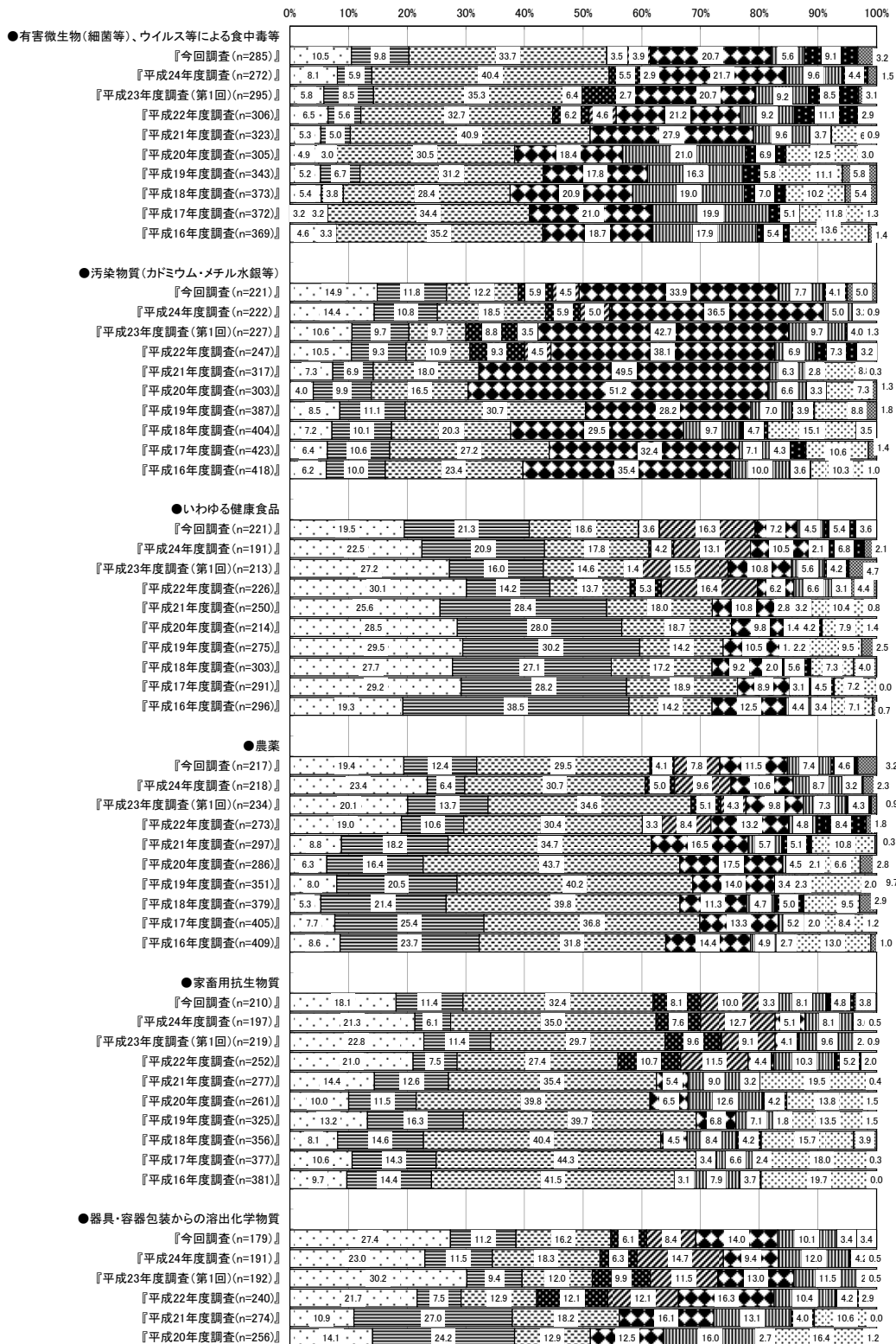
子組換え」2.4%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」2.1%、「体細胞クローン」0.6%の順である。

- ◆ 「過去に問題になった事例があるため不安」との回答の割合は、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」が33.9%と最も高く、次いで「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」28.6%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」20.7%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」14.0%、「農薬」11.5%、「食品添加物」7.9%、「いわゆる健康食品」7.2%、「肥料・飼料等」6.9%、「遺伝子組換え」4.1%、「家畜用抗生物質」3.3%、「体細胞クローン」3.0%の順である。
- ◆ 「漠然とした不安」との回答の割合は、「体細胞クローン」が17.2%と最も高く、「器具・容器包装からの溶出化学物質」10.1%、「家畜用抗生物質」8.1%、「食品添加物」7.9%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」7.7%、「遺伝子組換え」「肥料・飼料等」7.6%、「農薬」7.4%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」5.7%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」5.6%、「いわゆる健康食品」4.5%の順である。

<食品の安全性の観点から不安を感じている理由の年度別回答割合>

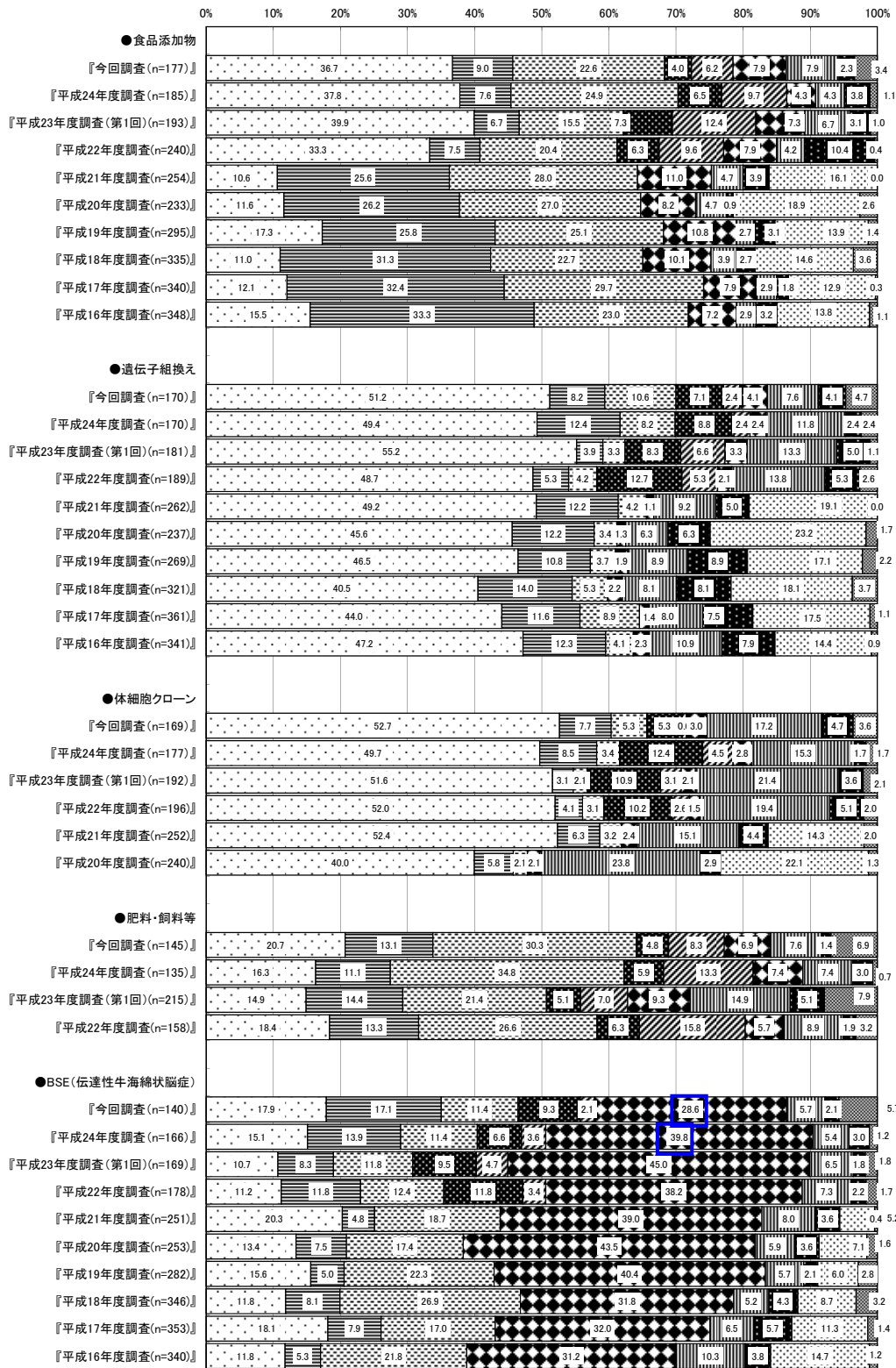
- ◆ 今回調査と平成24年度調査を比べると、「過去に問題になった事例があるため不安」との回答割合で、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が特に減少している（11.2%減少、39.8%→28.6%）。

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(年度別)



- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- ▣ 行政による規制が不十分
- ▣ 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- ▣ 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分(平成22、23、24、25年度調査選択肢)
- ▣ 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分(平成22、23、24、25年度調査選択肢)
- 過去に問題になった事例があるために不安
- ▣ 漠然とした不安
- その他
- ▣ 食品の安全性に関する情報が不足(平成16~21年度調査選択肢)
- ▣ 無回答・無効回答

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(年度別・続き)

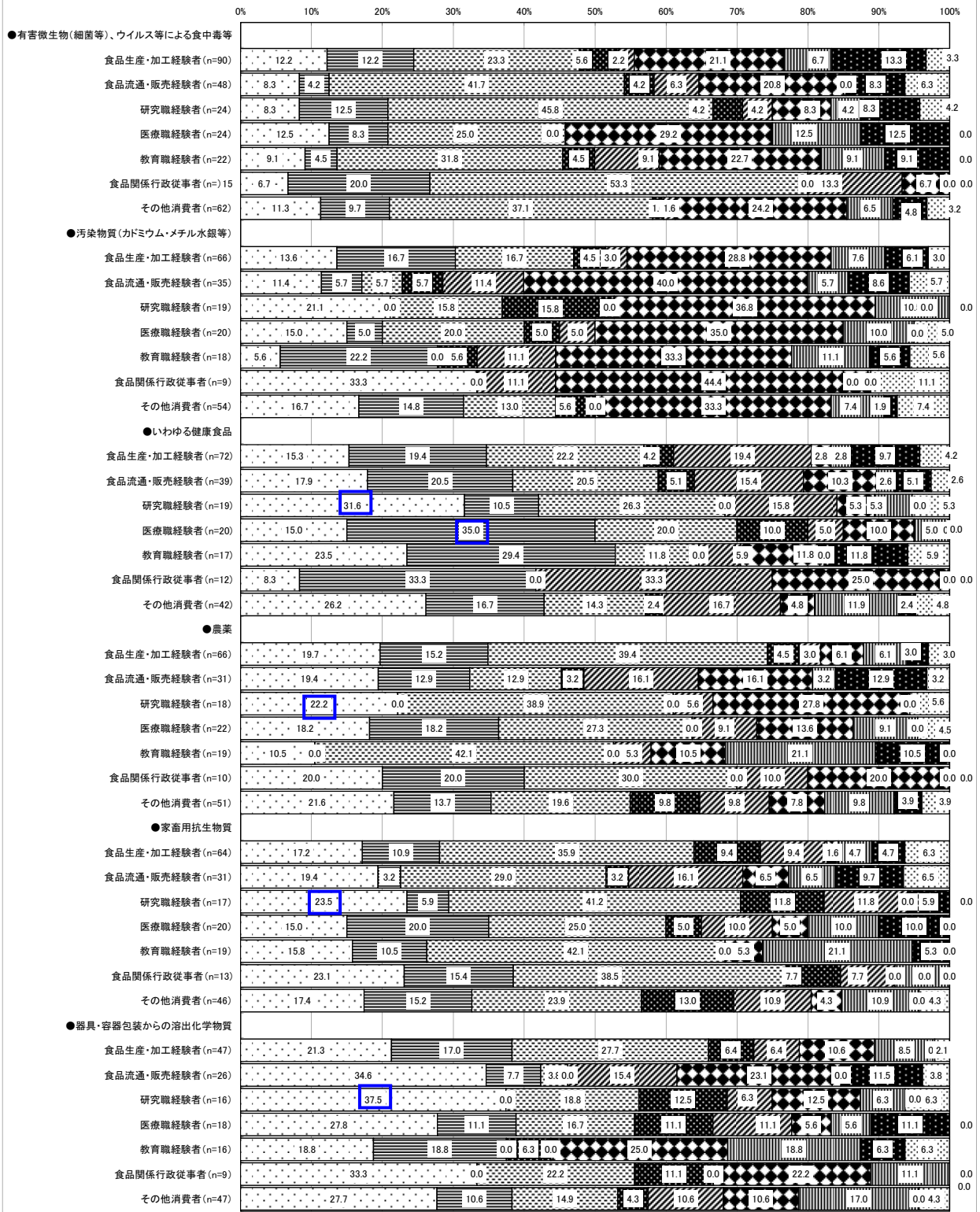


- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- ▨ 行政による規制が不十分
- ▨ 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- ▨ 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分(平成22、23、24、25年度調査選択肢)
- ▨ 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分(平成22、23、24、25年度調査選択肢)
- ▨ 過去に問題になった事例があるために不安
- ▨ 漠然とした不安
- ▨ その他
- ▨ 食品の安全性に関する情報が不足(平成16~21年度調査選択肢)
- ▨ 無回答・無効回答

<食品の安全性の観点から不安を感じている理由についての職務経験区分別回答割合>

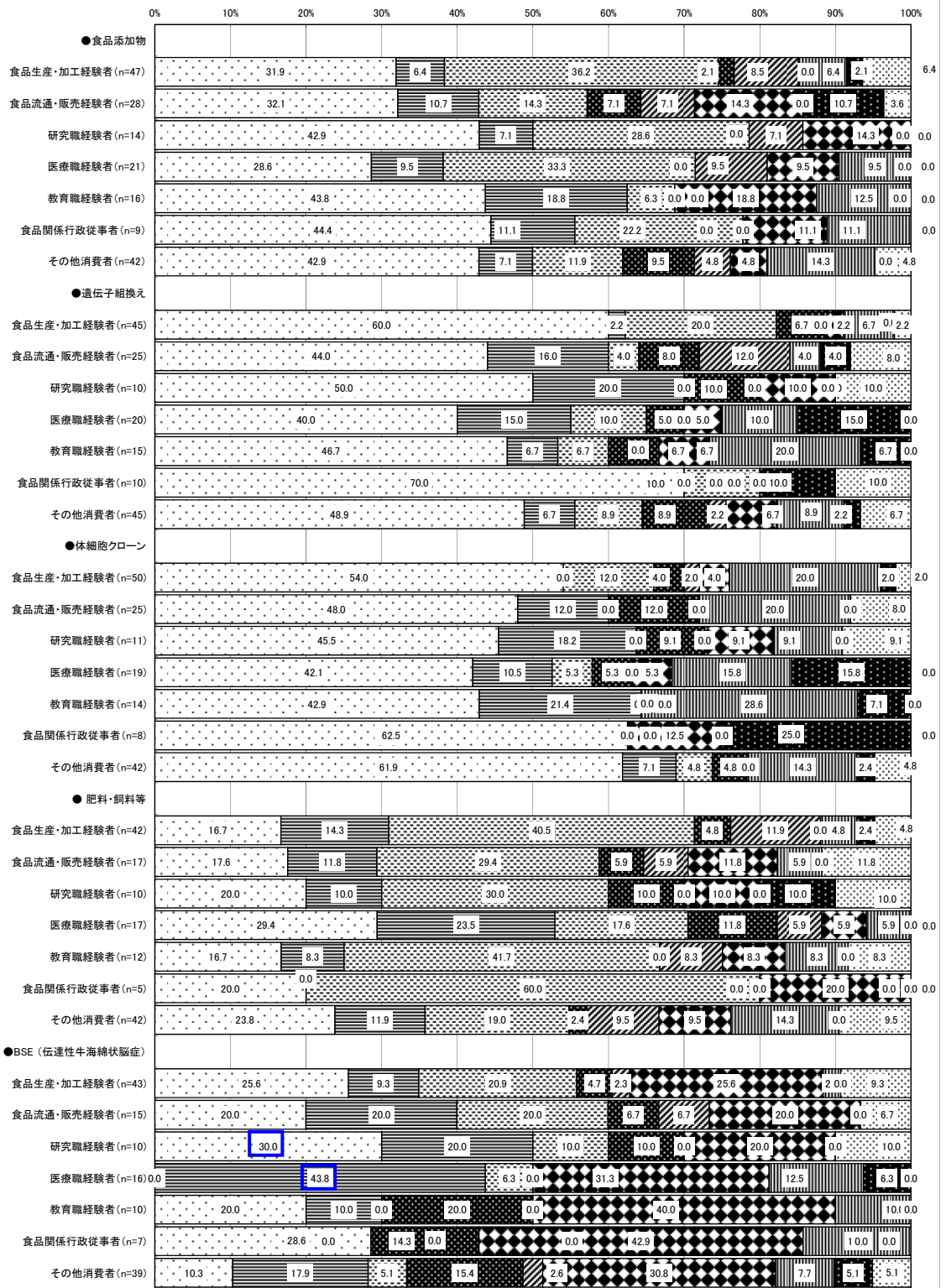
- ◆ 「安全性についての科学的な根拠に疑問」との回答の割合は、農薬、家畜用抗生物質、器具・容器包装からの溶出化学物質、BSE「伝達性牛海綿状脳症」で、研究職経験者が他の職務経験区分に比べ高い。
- ◆ 食品添加物、遺伝子組換え食品、体細胞クローンについては、どの職務経験区分においても「安全性についての科学的な根拠に疑問」との回答が、30%超と高い割合となった。
- ◆ 「医療職経験者」において、「行政による規制が不十分」との回答割合が30%を超えるハザードは「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」（43.8%）、「いわゆる健康食品」（35.0%）の順である。

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(職務経験区分別)



- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- 行政による規制が不十分
- 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 過去に問題になった事例があるために不安
- 漠然とした不安
- その他
- 無回答・無効回答

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(職務経験区分別・続き)

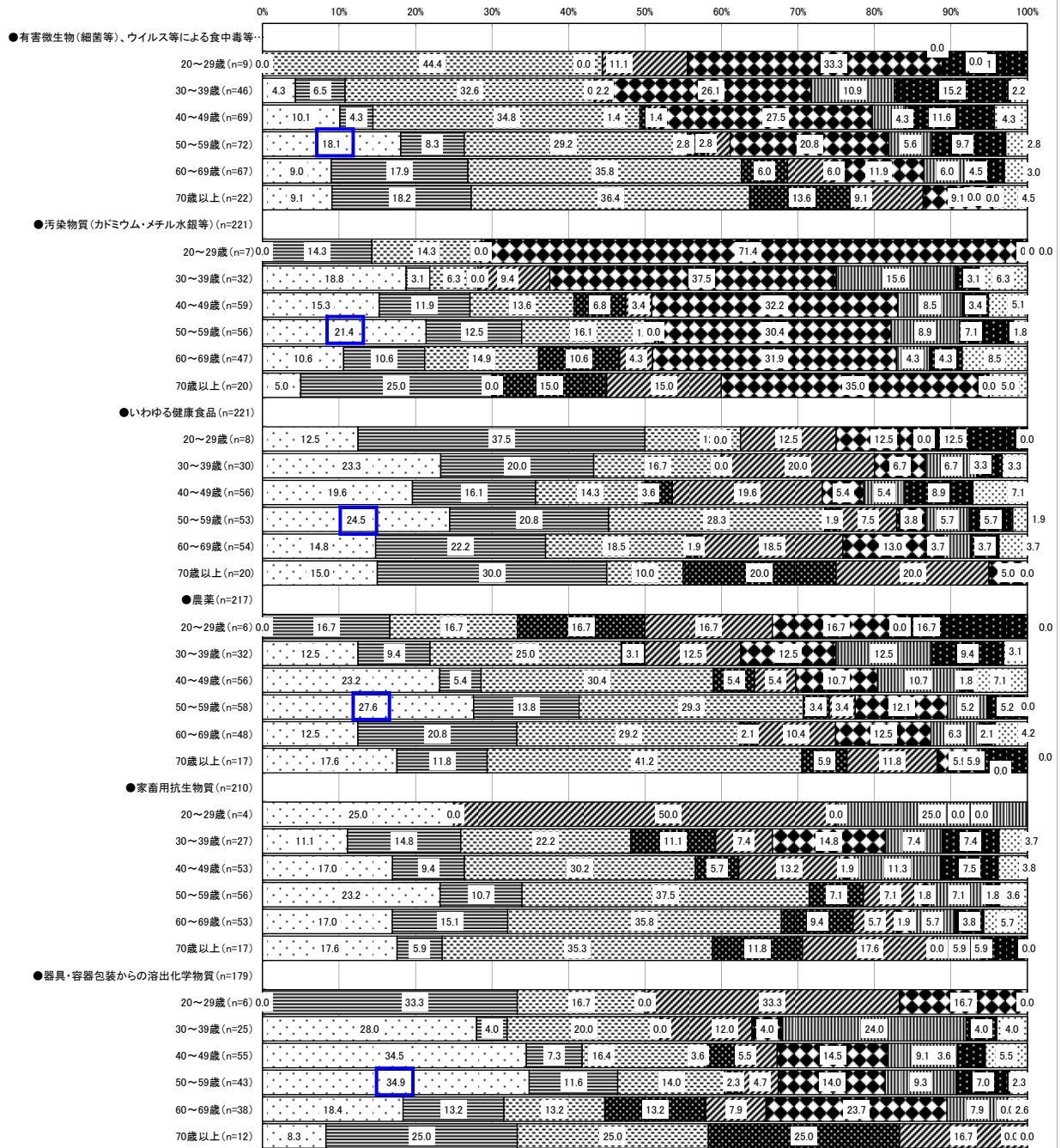


- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- ▨ 行政による規制が不十分
- ▩ 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- ▧ 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- ▦ 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 過去に問題になった事例があるために不安
- ▣ 漠然とした不安
- その他
- 無回答・無効回答

<食品の安全性の観点から不安を感じている理由についての年代別回答割合>

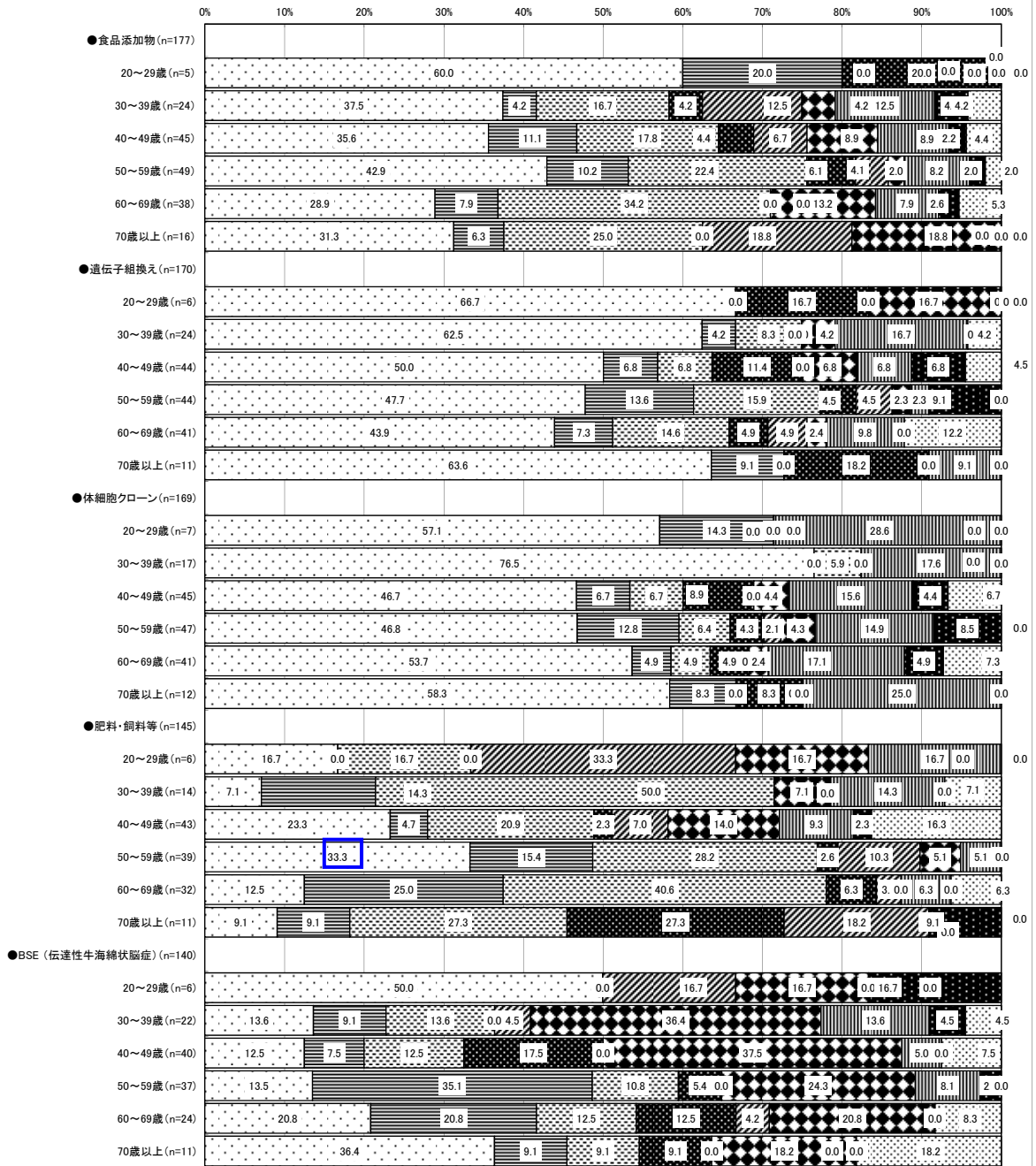
- ◆ 「安全性についての科学的な根拠に疑問」との回答の割合は、「食品添加物」、「家畜用抗生物質」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」「遺伝子組換え」、「体細胞クローン」を除くすべてのハザードで「50～59歳」が他の年代に比べ高い。
- ◆ 「有害微生物（細菌等）、ウイルスによる食中毒等」をみると、全ての年代で「事業者の法令遵守や衛生管理が不十分」との回答割合が高く、20%を超えていた。
- ◆ 「汚染物資（カドミウム・メチル水銀等）」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」は、全ての年代で「過去に問題があった事例があるため不安」との回答の割合が高く、特に汚染物資（カドミウム・メチル水銀等）では、20～29歳で71.4%であった。

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(年代別)



- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- 行政による規制が不十分
- 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- 過去に問題になった事例があるために不安
- 漠然とした不安
- その他
- 無回答・無効回答

食品の安全性の観点から不安を感じている理由(年代別・続き)



- 安全性についての科学的な根拠に疑問
- ▨ 行政による規制が不十分
- ▨ 事業者の法令遵守や衛生管理が不十分
- ▨ 行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- ▨ 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分
- ▨ 過去に問題になった事例があるために不安
- ▨ 漠然とした不安
- ▨ その他
- 無回答・無効回答

問3：8 その他（不安を感じている理由）

（1）食品添加物に不安を感じている理由（回答者数4名）

輸入品についての不安があるからなどの回答があった。

（2）農薬に不安を感じている理由（回答者数10名）

特に輸入品等の生産状況が分かりにくいいため、海外からの食品に不安があるからなどの回答があった。

（3）家畜用抗生物質に不安を感じている理由（回答者数10名）

海外特に中国など非常に安価なものは抜き打ち検査強化を願いたいから、特に輸入品等の生産状況が分かりにくいいためなどの回答があった。

（4）器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じている理由（回答者数6名）

十分な調査及び結果の報告に関して情報公開がされないまま使用されている現状があるから、影響が何年後かだと”原因特定が難しい”とうやむやになり、安全追及できなくなりそうだからなどの回答があった。

（5）汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に不安を感じている理由（回答者数9名）

海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安であるため、輸入素材に関して摂取する場合は検疫を通して安全性は確認されていると判断し、あまり気にならないが、汚染物質対応しなければならないことに不安を感じるからなどの回答があった。

（6）有害微生物（細菌・ウイルス）による食中毒等に不安を感じている理由（回答者数26名）

自分で防ぎきれないことがあるから、消費者の理解が不十分だからなどの回答があった。

（7）BSE（伝達性牛海綿状脳症）に不安を感じている理由（回答者数3名）

全頭検査が困難だから、TPPにより規制緩和される不安があるからなどの回答があった。

（8）遺伝子組換え食品に不安を感じている理由（回答者数7名）

海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安だから、10年単位の長期的な摂食の影響に関するエビデンスが不十分だからなどの回答があった。

（9）体細胞クローン家畜由来食品に不安を感じている理由（回答者数8名）

食品加工技術として一般的であるとは思えないため、倫理的な問題があるからなどの回答があった。

（10）いわゆる健康食品に不安を感じている理由（回答者数13名）

他の健康食品との組み合わせ問題などが明確になっていないから、濃縮することによるメリットだけが強調され、デメリットに関する注意喚起が不足しているからなどの回答があった。

(1 1) 肥料・飼料等に不安を感じている理由 (回答者数 2 名)

ほとんどが輸入で、米国産トウモロコシからはアフラトキシンが多数から検出されているから、圃場・流通経路を想像すると不安を感じるからなどの回答があった。

④食品の安全性の観点から不安を感じていない理由（放射性物質以外）（問4）

問4 問2の事項A～K及びMにおいて、「3 あまり不安を感じない」又は「4 全く不安を感じない」を選んだ事項がある方にお聞きします。それぞれの事項について、不安を感じない理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

【選択肢】

- 1 安全性についての科学的な根拠に納得
- 2 行政による規制が十分
- 3 事業者の法令遵守や衛生管理が十分
- 4 行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 5 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 6 過去に問題になった事例がないので安心
- 7 漠然とした安心
- 8 その他（具体的に記入してください）

- ◆ 「安全性についての科学的な根拠に納得」との回答の割合は、「食品添加物」が60.2%と最も高く、次いで「遺伝子組換え」40.4%、「農薬」39.3%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」34.9%、「家畜用抗生物質」31.3%、「体細胞クローン」31.2%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」27.4%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」21.2%、「肥料・飼料等」20.1%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」19.5%、「いわゆる健康食品」11.9%の順である。
- ◆ 「行政による規制が十分」との回答の割合は、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」が45.5%と最も高く、次いで「農薬」39.3%、「家畜用抗生物質」38.3%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」30.2%、「肥料・飼料等」29.1%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」28.7%、「遺伝子組換え」21.9%、「食品添加物」19.9%、「いわゆる健康食品」17.5%、「体細胞クローン」16.9%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」16.7%の順である。
- ◆ 「事業者の法令遵守や衛生管理が十分」との回答の割合は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」が22.7%と最も高く、次いで「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」13.0%、「家畜用抗生物質」12.5%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」12.2%、「肥料・飼料等」9.5%、「いわゆる健康食品」8.7%、「農薬」8.1%、「食品添加物」8.0%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」6.6%、「遺伝子組換え」2.8%、「体細胞クローン」1.9%の順である。
- ◆ 「行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分」との回答の割合は、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が11.8%と最も高く、次いで「遺伝子組換え」10.7%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」7.6%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」7.3%、「いわゆる健康食品」6.3%、「体細胞クローン」4.5%、「農薬」4.4%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」4.3%、「肥料・飼料等」4.0%、「食品添加物」3.4%、「家畜用抗生物質」2.3%の順である。
- ◆ 「事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分」との回答の割合は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」が4.5%と最も高く、次いで「器具・容器包装からの溶出化学物質」3.0%、「いわゆる健康食品」2.4%、「肥料・飼料等」2.0%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」1.9%、「遺伝子組換え」1.7%、「農薬」1.5%、「体細胞クローン」1.3%、「家畜用抗生物質」0.8%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」0.8%、「食品添加物」0.6%の順である。

- ◆ 「過去に問題になった事例がないので安心」との回答の割合は、「体細胞クローン」が16.9%と最も高く、次いで「遺伝子組換え」7.3%、「家畜用抗生物質」6.3%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」6.1%、「肥料・飼料等」6.0%、「いわゆる健康食品」4.0%、「食品添加物」7.9%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」2.4%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」1.5%、「食品添加物」1.1%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」0.8%、「農薬」0.0%の順である。
- ◆ 「漠然とした安心」との回答の割合は、「いわゆる健康食品」が21.4%と最も高く、「肥料・飼料等」20.6%、「体細胞クローン」17.5%、「器具・容器包装からの溶出化学物質」11.6%、「遺伝子組換え」8.4%、「汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）」8.1%、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」7.6%、「家畜用抗生物質」5.5%、「食品添加物」4.0%、「農薬」3.7%、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」3.3%の順である。

<食品の安全性の観点から不安を感じていない理由の年度別回答割合>

- ◆ 今回調査と平成24年度調査を比べると、「行政による規制が十分」との回答割合で、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」が特に減少している（10.3%減少、40.5%→30.2%）。

食品の安全性の観点から不安を感じていない理由(年度別)

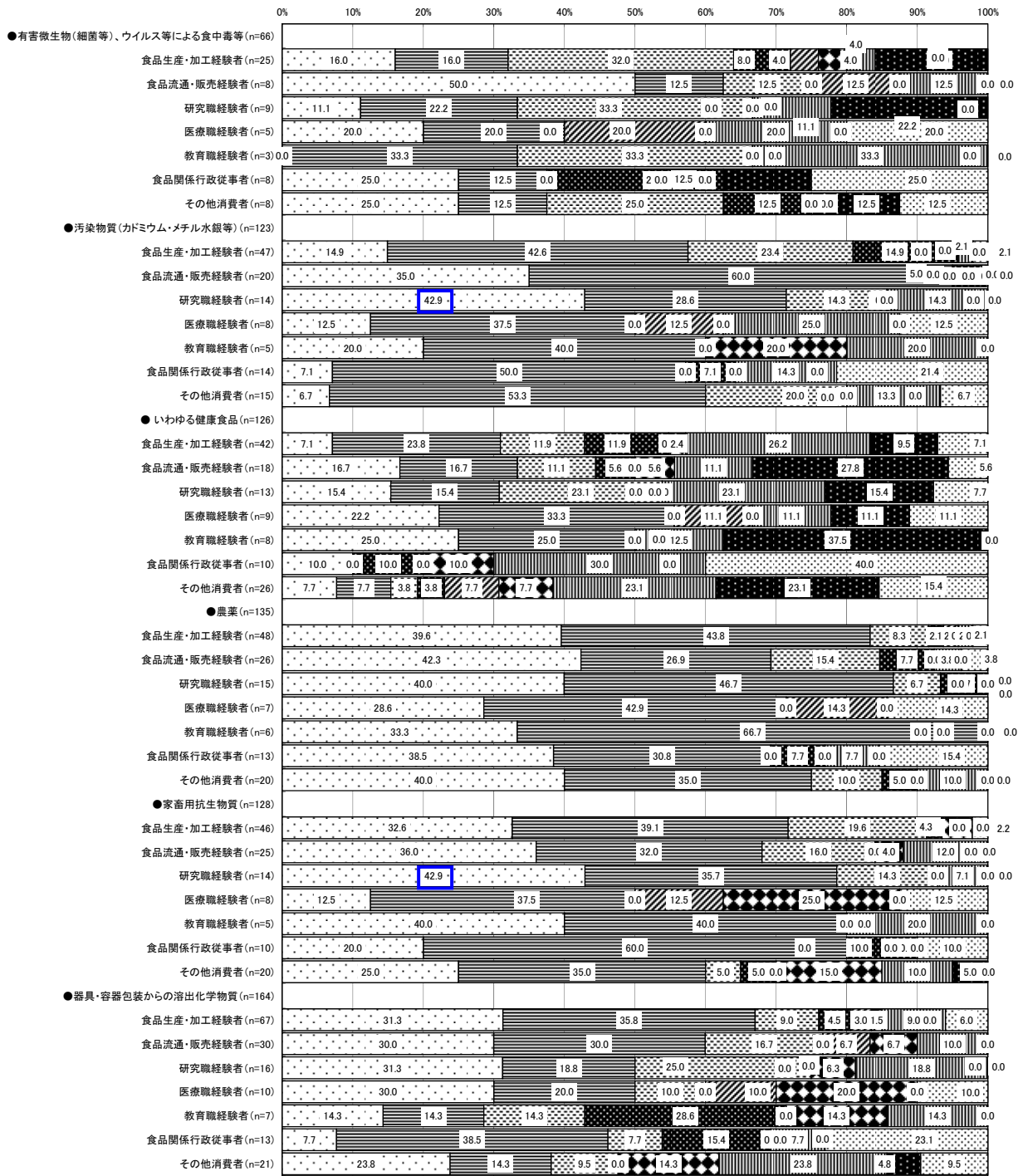


- 安全性についての科学的な根拠に納得
- 行政による規制が十分
- 事業者の法令遵守や衛生管理が十分
- 行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 過去に問題になった事例がないので安心
- 漠然とした安心
- その他
- 食品の安全性に関する情報が不足(平成16~21年度調査選択肢)
- 無回答・無効回答

<食品の安全性の観点から不安を感じていない理由についての職務経験区分別回答割合>

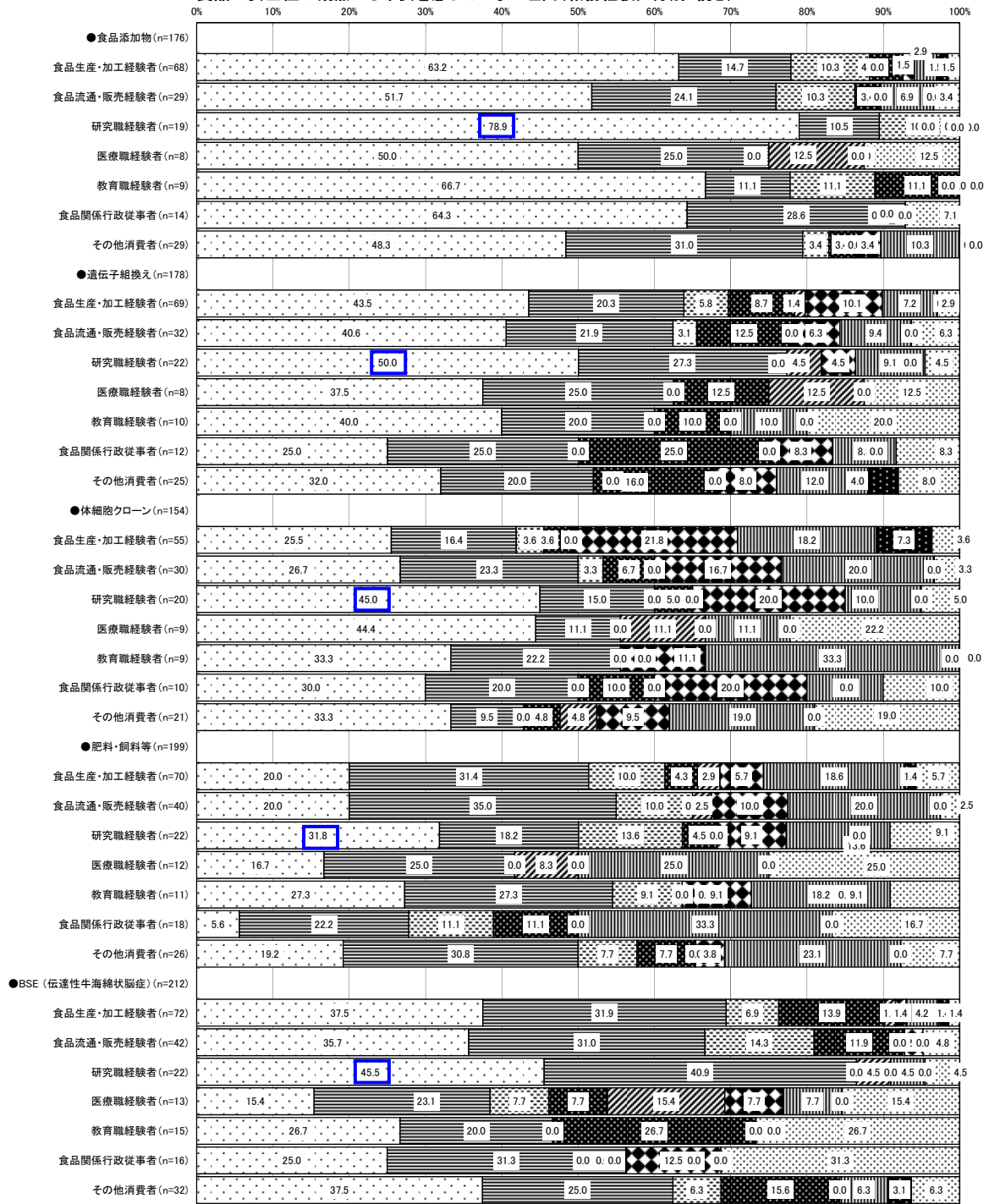
- ◆ 「安全性についての科学的な根拠に納得」との回答の割合は、「食品添加物」、「遺伝子組換え食品」、「体細胞クローン」、「肥料・飼料」、「BSE（牛海綿状脳症）」、「家畜用抗生物質」、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」で「研究職経験者」が他の職務経験区分に比べ高い。

食品の安全性の観点から不安を感じていない理由(職務経験区分別)



- 安全性についての科学的な根拠に納得
- ▣ 行政による規制が十分
- ▤ 事業者の法令遵守や衛生管理が十分
- ▥ 行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- ▦ 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- ▧ 過去に問題になった事例がないので安心
- ▨ 漠然とした安心
- その他
- 無回答・無効回答

食品の安全性の観点から不安を感じていない理由(職務経験区分別・続き)



- 安全性についての科学的な根拠に納得
- 行政による規制が十分
- 事業者の法令遵守や衛生管理が十分
- 行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分
- 過去に問題になった事例がないので安心
- 漠然とした安心
- その他
- 無回答・無効回答

問4：8 その他（不安を感じない理由）

(1) 食品添加物に不安を感じない理由（回答者数1名）

選択・購入しないためという回答があった。

(2) 農薬に不安を感じない理由（回答者数0名）

(3) 家畜用抗生物質に不安を感じない理由（回答者数1名）

万が一問題が発生した場合の行政における体制が迅速かつ十分に機能すると考えられる。他の農産物に比べて、プロの生産者による管理が行き届いていると考えられるから（サラリーマン農家はいないと思われるので）という回答があった。

(4) 器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じない理由（回答者数1名）

注意すべき容器類は自分である程度把握しているので、開封後は詰め替えるなどして対処するからという回答があった。

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に不安を感じない理由（回答者数0名）

(6) 有害微生物（細菌・ウイルス）による食中毒等に不安を感じない理由（回答者数8名）

消費者自身の注意力によってコントロール可能な部分だから、自分自身でのリスク管理ができるからなどの回答があった。

(7) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に不安を感じない理由（回答者数2名）

牛肉を食べる必然性は無く、個人的に食べないから、先日のモニター会議にて内容が理解できたためという回答があった。

(8) 遺伝子組換え食品に不安を感じない理由（回答者数1名）

組換え体を嫌がる日本人の気質に問題があり、安全性に問題はないからという回答があった。

(9) 体細胞クローン家畜由来食品に不安を感じない理由（回答者数4名）

経済的に商品化できないから、現在のところ流通していないので不安に思う理由がないなどの回答があった。

(10) いわゆる健康食品に不安を感じない理由（回答者数21名）

個人的に全く利用する気が無いので不安も特にないから、個人の摂取の自由があるからなどの回答があった。

(11) 肥料・飼料等に不安を感じない理由（回答者数1名）

食べないからという回答があった。

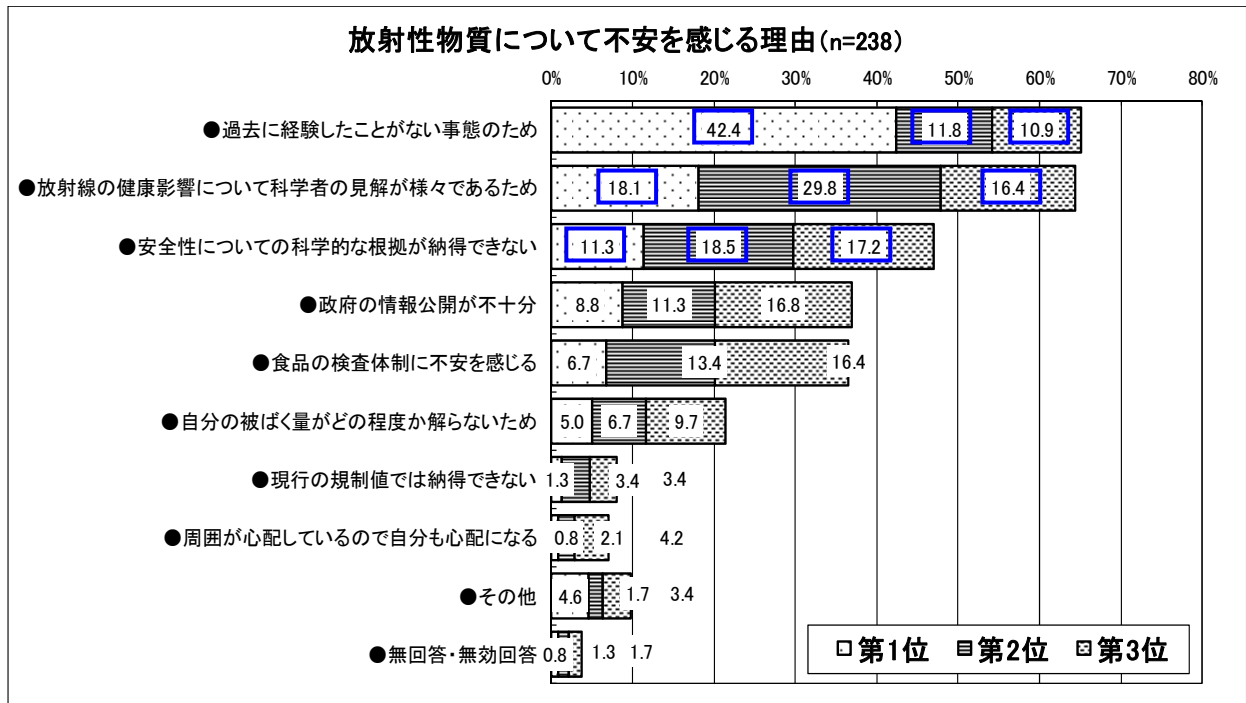
⑤放射性物質について不安を感じる理由（問5）

問5 問2の事項L（放射性物質）で、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。不安を感じる理由を選択肢1～9の中から強く当てはまる順に3つ選んでください。

【選択肢】

- 1 過去に経験したことがない事態のため
- 2 放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため
- 3 自分の被ばく量がどの程度か解らないため
- 4 安全性についての科学的根拠が納得できない
- 5 現行の規制値では納得できない
- 6 食品の検査体制に不安を感じる
- 7 政府の情報公開が不十分
- 8 周囲が心配しているので自分も心配になる
- 9 その他（具体的に記入してください）

◆ 問2（p.13）において放射性物質に対し「とても不安である」、「ある程度不安である」と回答した人の不安感の理由について、第1位との回答、第2位との回答及び第3位との回答を合計したところ、「過去に経験したことがない事態のため」（65.1%）、「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」（64.3%）、「安全性についての科学的な根拠が納得できない」（47.0%）の順である。

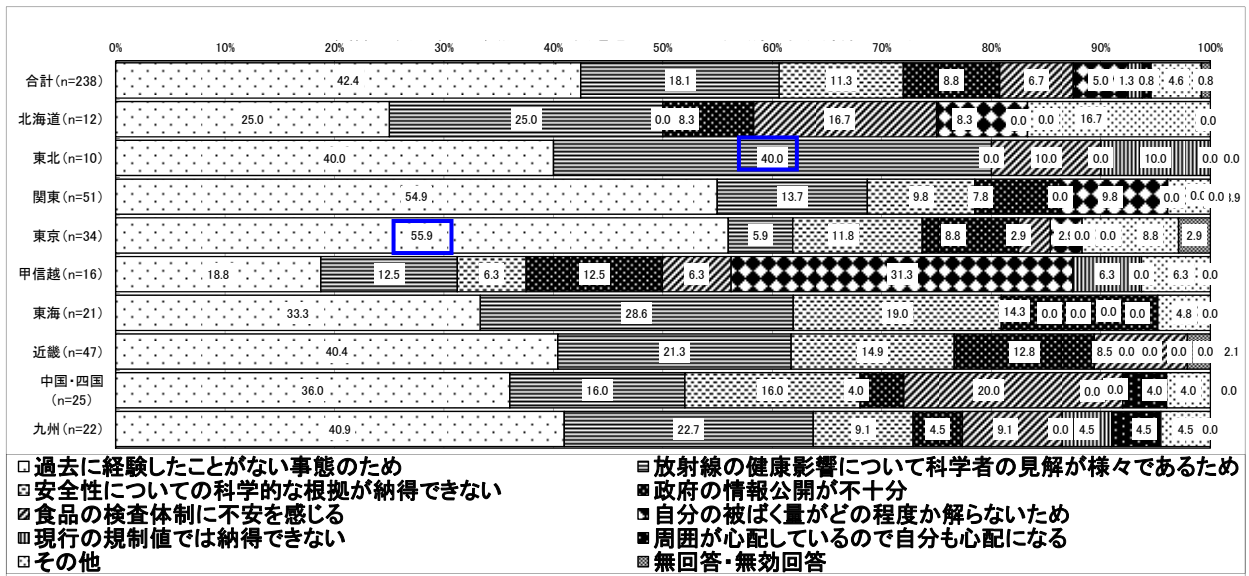


<放射性物質について不安を感じる理由の居住地区別回答割合>

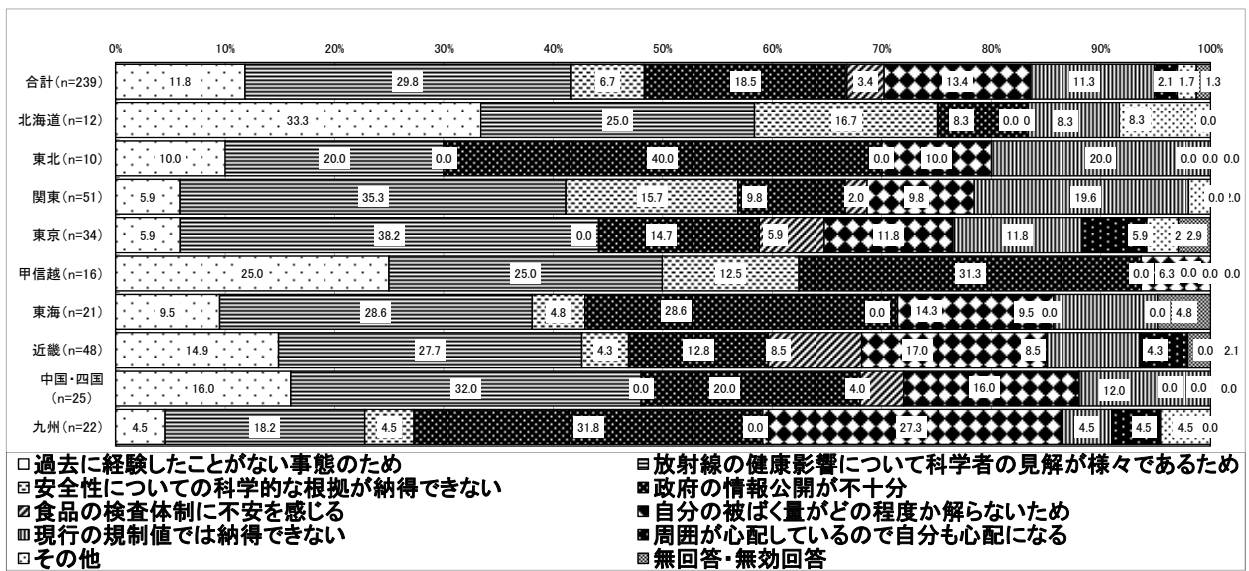
◆ 第1位で「過去に経験したことがない事態のため」との回答の割合は、「東京」が55.9%と最も高い。一方、「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」との回答の割合は、「東北」で40.0%と最も高い。

放射性物質について不安を感じる理由の地区別回答割合（居住地別）

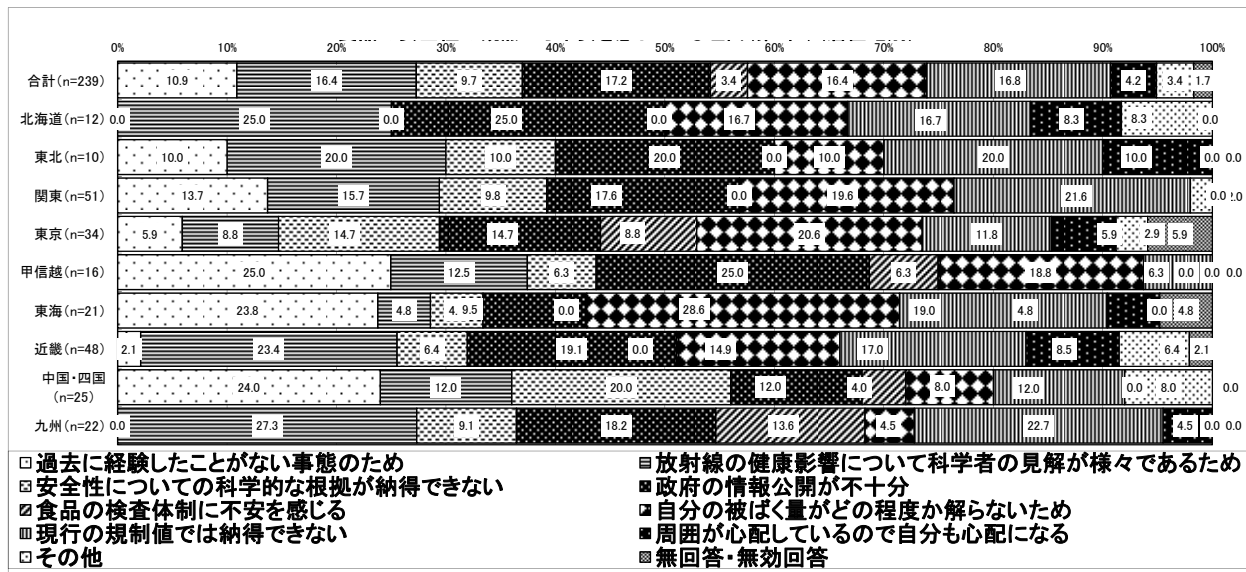
<第1位>



<第2位>

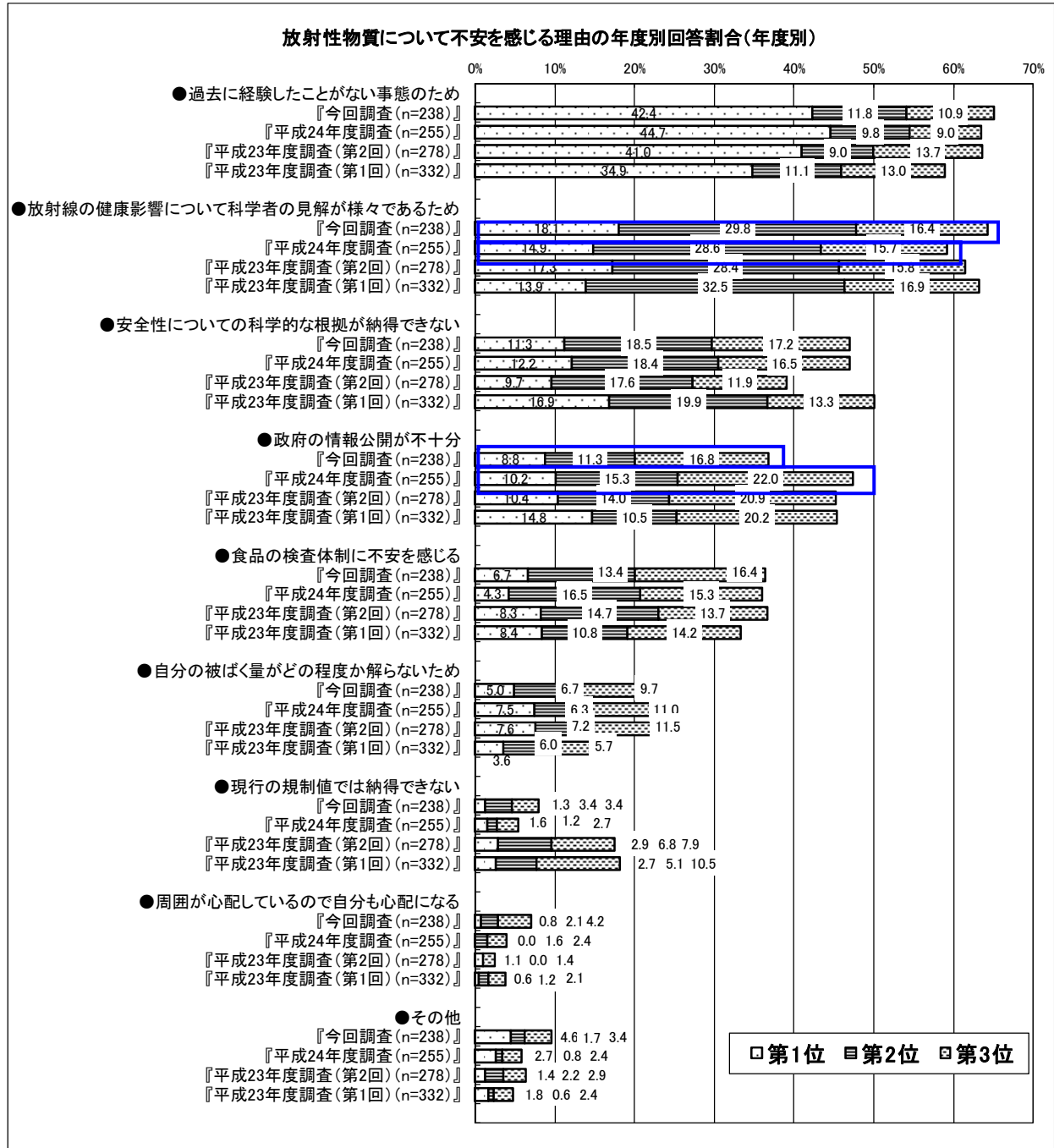


<第3位>



＜放射性物質について不安を感じる理由の年度別回答割合＞

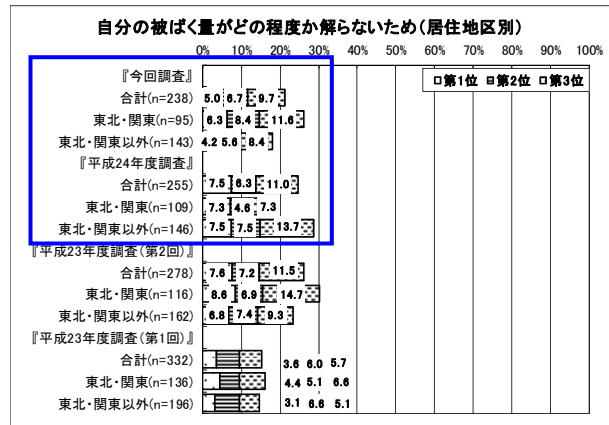
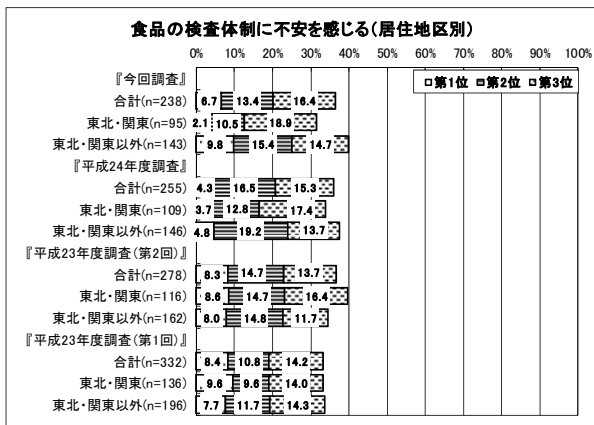
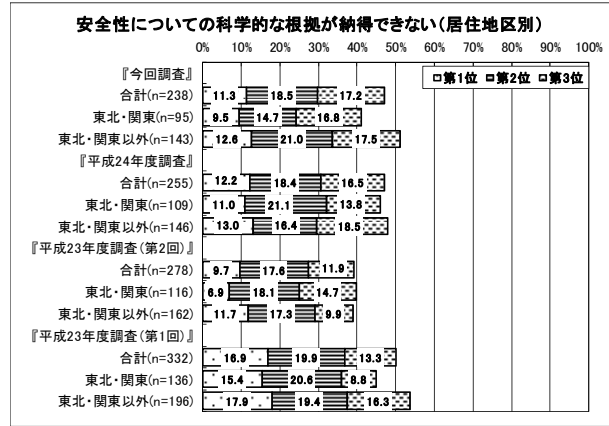
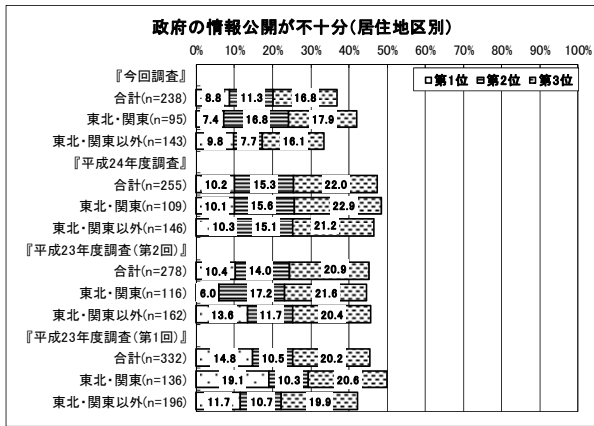
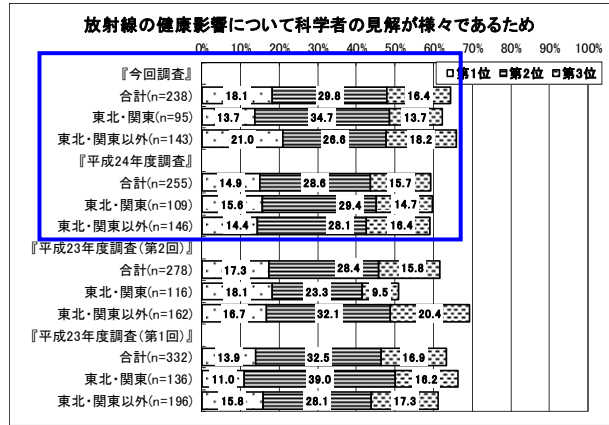
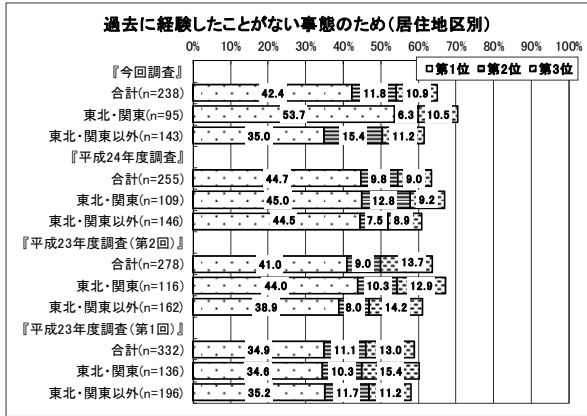
- ◆ 今回調査と平成24年度調査¹について、選択順位第1位から第3位までの合計を比べると、「政府の情報公開が不十分」が減少（10.6%減少、47.5%→36.9%）している。
- ◆ 今回調査では「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」が、これまでの平成23年度調査（第1回及び第2回※）と比較して選択順位第1位から第3位までの合計が2.8%増加している。平成24年度調査※と比べると、5.1%増加している。

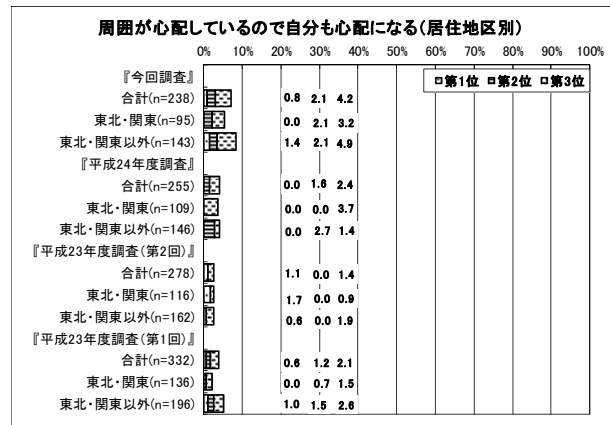
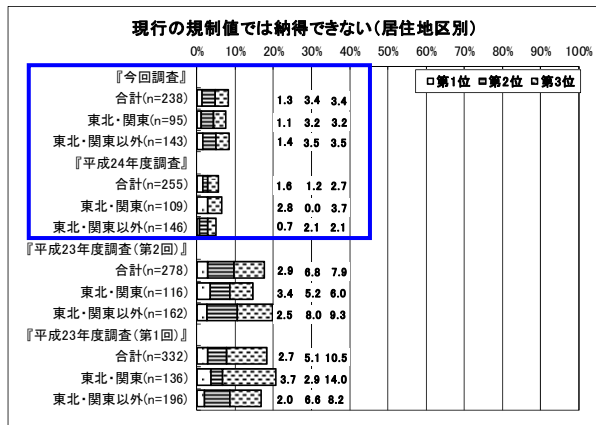


¹ 本年度調査の選択肢「現行の規制値では納得できない」は、過年度の調査では以下のような選択肢とされている。
 平成24年度調査：「新しい規制値では納得できない」
 平成23年度(第2回)調査：「大人と子供が基本的に同じ暫定規制値で運用されてきたことが納得できない」
 平成23年度(第1回)調査：「大人と子供が基本的に同じ暫定規制値であることが納得できない」

＜放射性物質について不安を感じている理由の居住地区別回答割合＞

- ◆ 不安を感じている理由の選択肢ごとに第1位、第2位及び第3位の合計を居住地区別で比べると、「放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため」、「現行の規制値では納得できない」では、平成24年度調査では「東北・関東」で回答割合が高いのに対し、今回調査では逆転し、「東北・関東以外」の方が高くなっている。一方、「自分の被ばく量がどの程度か解らないため」では、平成24年度調査では「東北・関東以外」で回答割合が高いのに対し、今回調査では逆転し、「東北・関東」の方が高くなっている。





問5：その他（放射性物質について不安を感じている理由）

(1) 1位（回答者数 11名）

再び事故が発生し、再度食品汚染が発生する事に対する不安があるから、放射性物質もれに関連する現状を調査し把握可能であるのが電力会社のみであり、我々は随時公開された情報を信頼する以外にないが、当該施設において情報の隠ぺいや情報公開の遅れが後になって報告され、信頼に足る情報の発信者ではないと考える。リスクの受け手（国民）に、真の現状が把握できていない状況にあるからなどの回答があった。

(2) 2位（回答者数 4名）

海の汚染や環境への影響を数値化していないから、消費者としてはゼロの物が欲しく、行政は基準値以内を売りたいという意識のズレと選択肢の少なさがあるためなどの回答があった。

(3) 3位（回答者数 8名）

事態が収束に向かっているとどうも思えないため、今なお汚染水が海へ流入しているからなどの回答があった。

2) 放射性物質を含む食品の健康に与える影響について

①放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先 (問6)

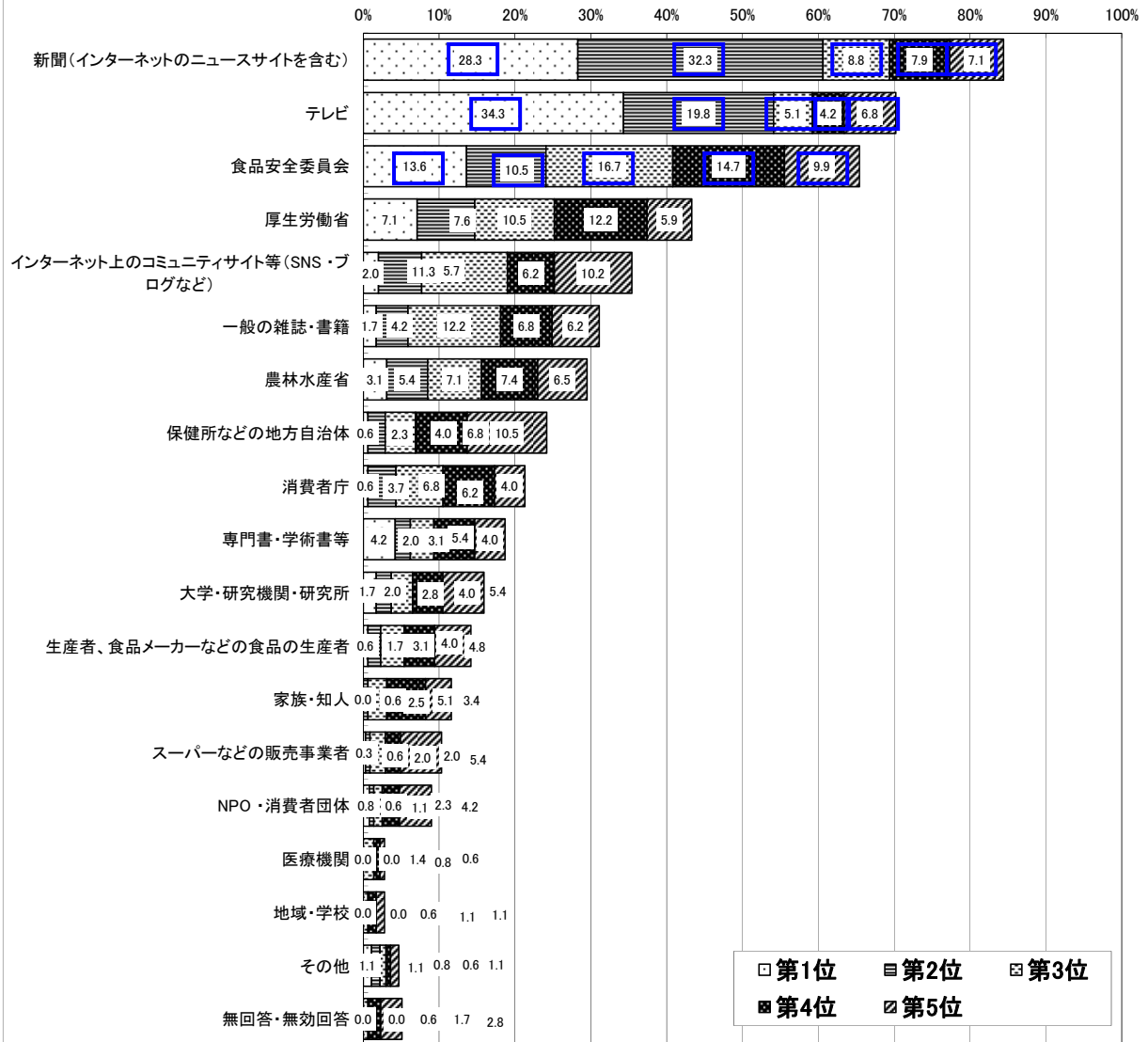
問6 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先についてお伺いします。選択肢1～18の中から利用頻度の高い順に5つ選んでください。

【選択肢】

- 1 テレビ
- 2 新聞 (インターネットのニュースサイトを含む)
- 3 一般の雑誌・書籍
- 4 専門書・学術書等
- 5 インターネット上のコミュニティサイト等 (ソーシャル・ネットワーキング・サービス (SNS)・ブログなど)
- 6 食品安全委員会
- 7 消費者庁
- 8 厚生労働省
- 9 農林水産省
- 10 保健所などの地方自治体
- 11 生産者、食品メーカーなどの食品の生産者
- 12 スーパーなどの販売事業者
- 13 大学・研究機関・研究所
- 14 医療機関
- 15 NPO・消費者団体
- 16 家族・知人
- 17 地域・学校
- 18 その他 (具体的に記入してください)

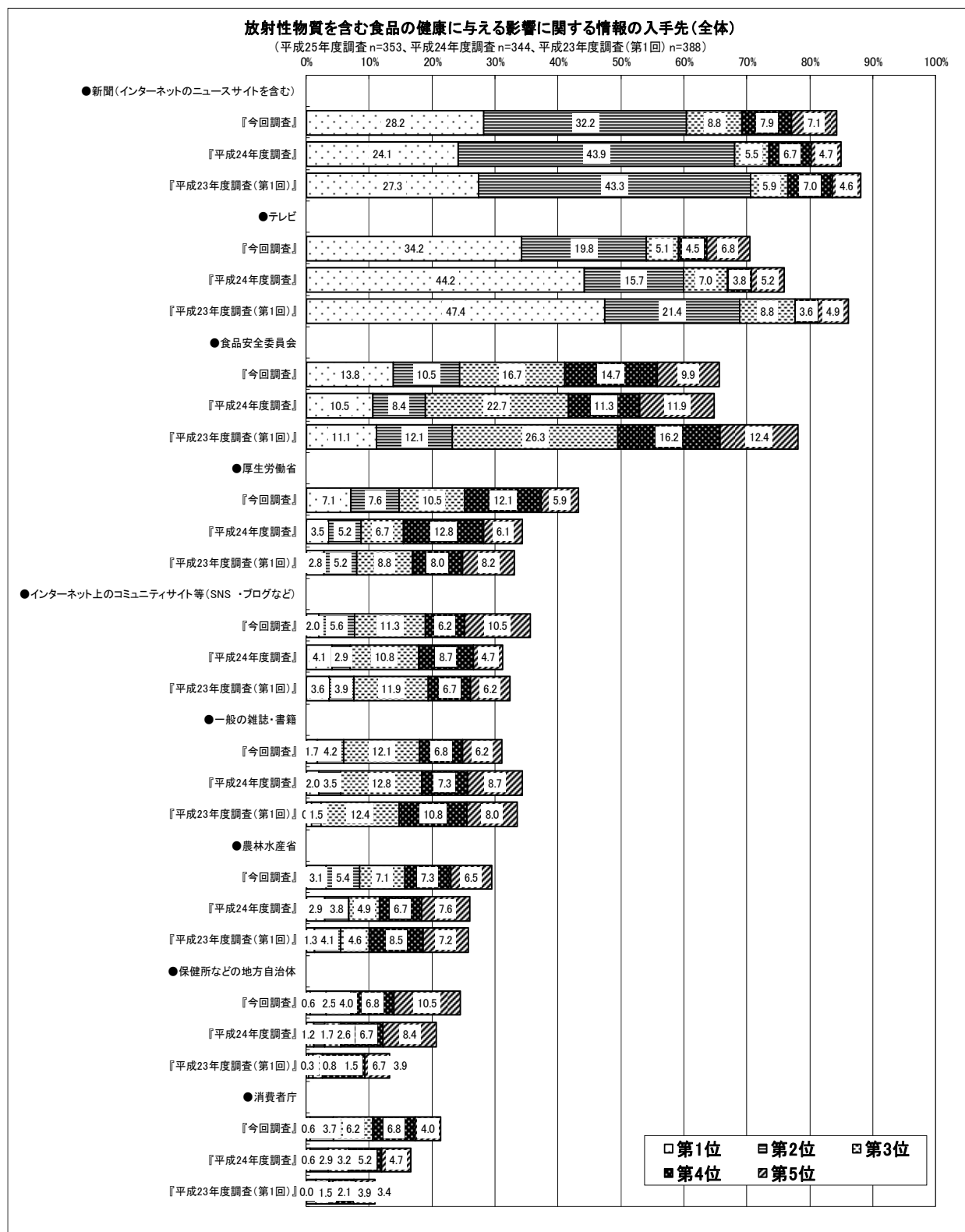
- ◆ 第1位から第5位までの回答を合計したところ、「新聞 (インターネットのニュースサイトを含む)」(84.4%)、「テレビ」(70.2%)、「食品安全委員会」(65.4%)の順となっており、他の選択肢と比べ突出している。
- ◆ 選択順位第1位から第5位まででそれぞれの順位ごとの回答割合を比べると、第1位では「テレビ」(34.3%)、第2位では「新聞 (インターネットのニュースサイトを含む)」(32.3%)、第3位では「食品安全委員会」(16.7%)、第4位では「食品安全委員会」(14.7%)、第5位では「インターネット上のコミュニティサイト等 (SNS・ブログ等)」(10.2%)が最も高くなっている。

放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先



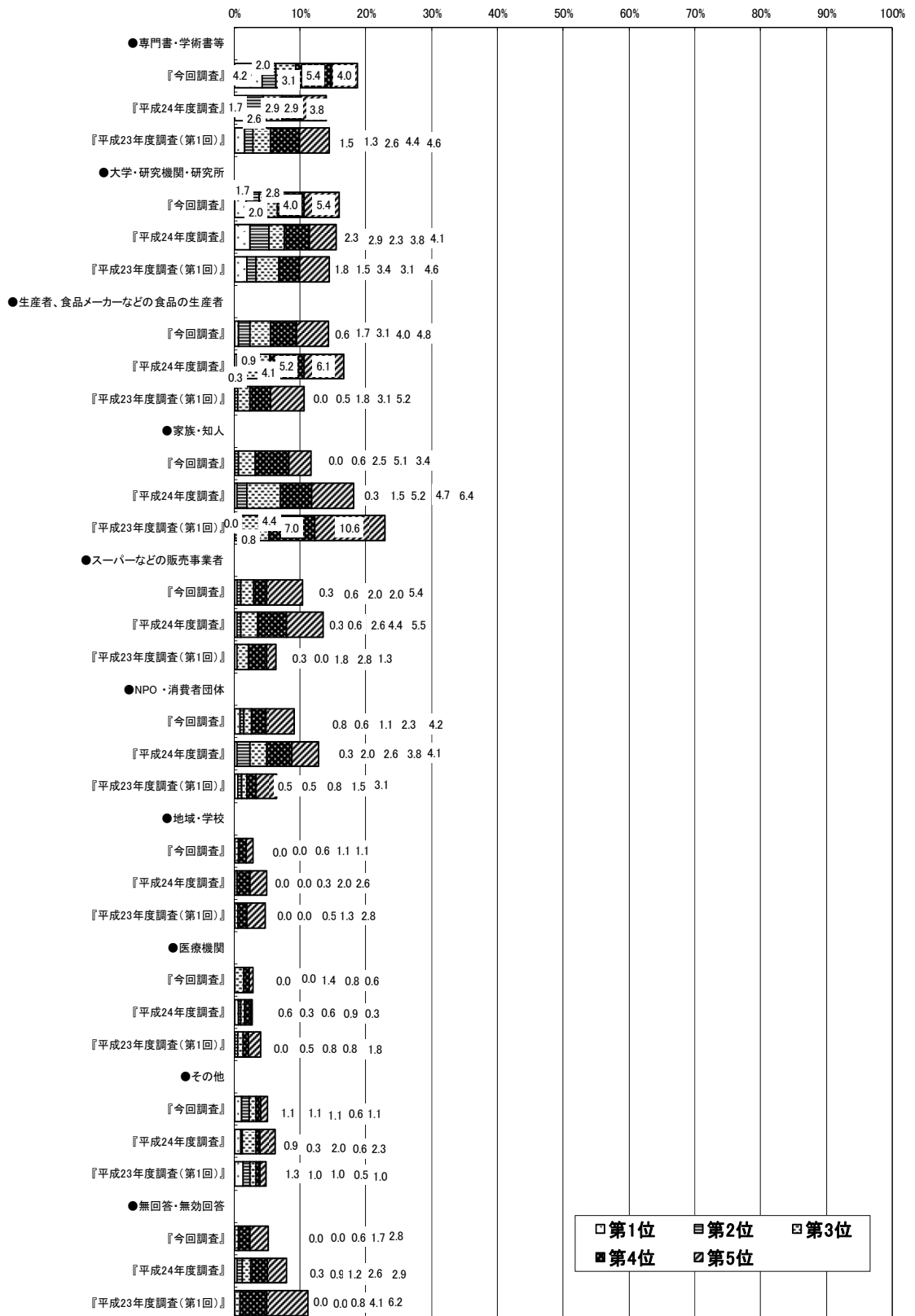
＜放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先の年度別回答割合＞

- ◆ 今回調査と平成24年度調査について第1位から第5位の合計を比べると、特に「テレビ」で回答割合が減少している（5.5%（合計75.9%→70.4%））。

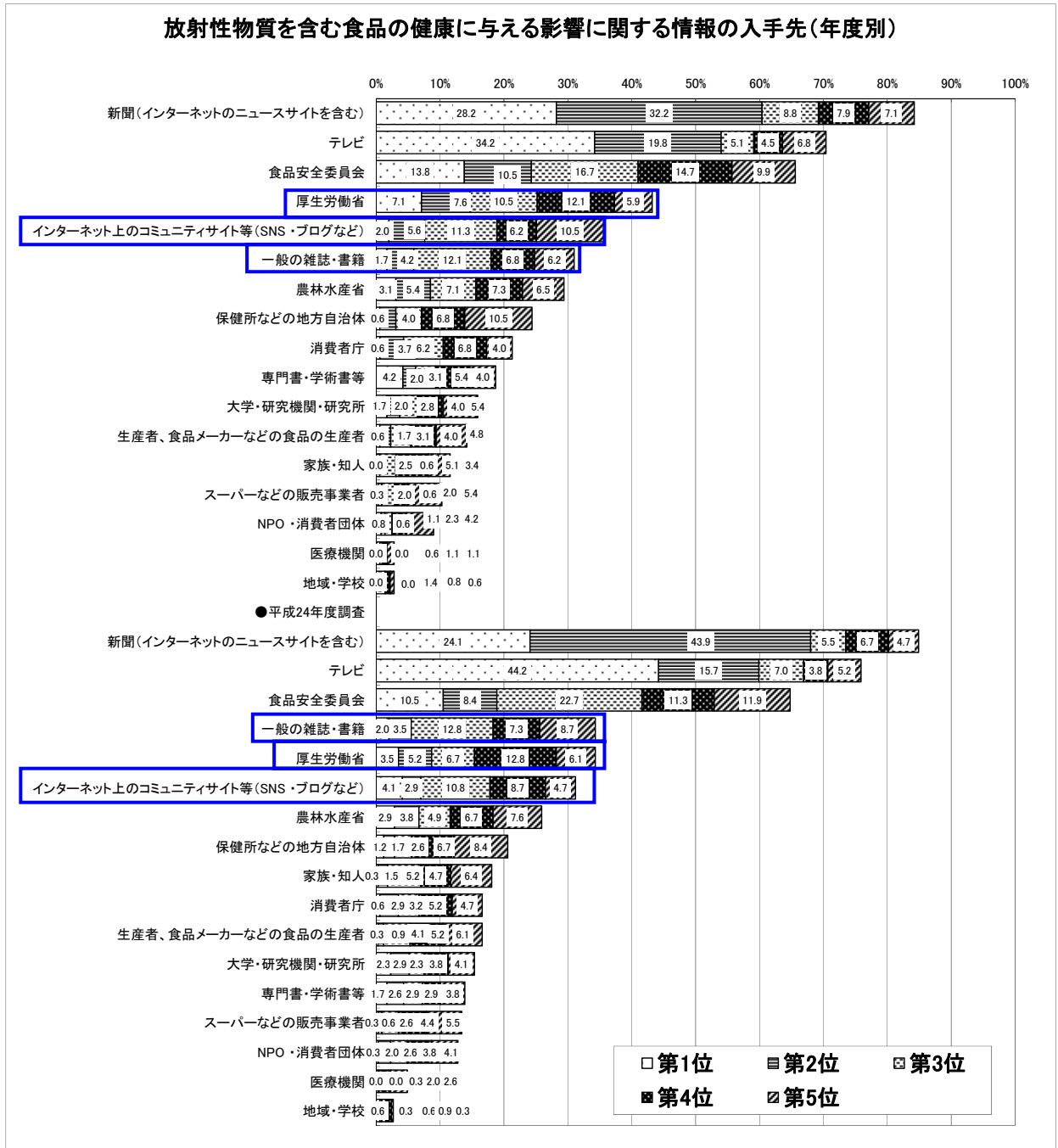


放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(全体・続き)

(平成25年度調査 n=353、平成24年度調査 n=344、平成23年度調査(第1回) n=388)

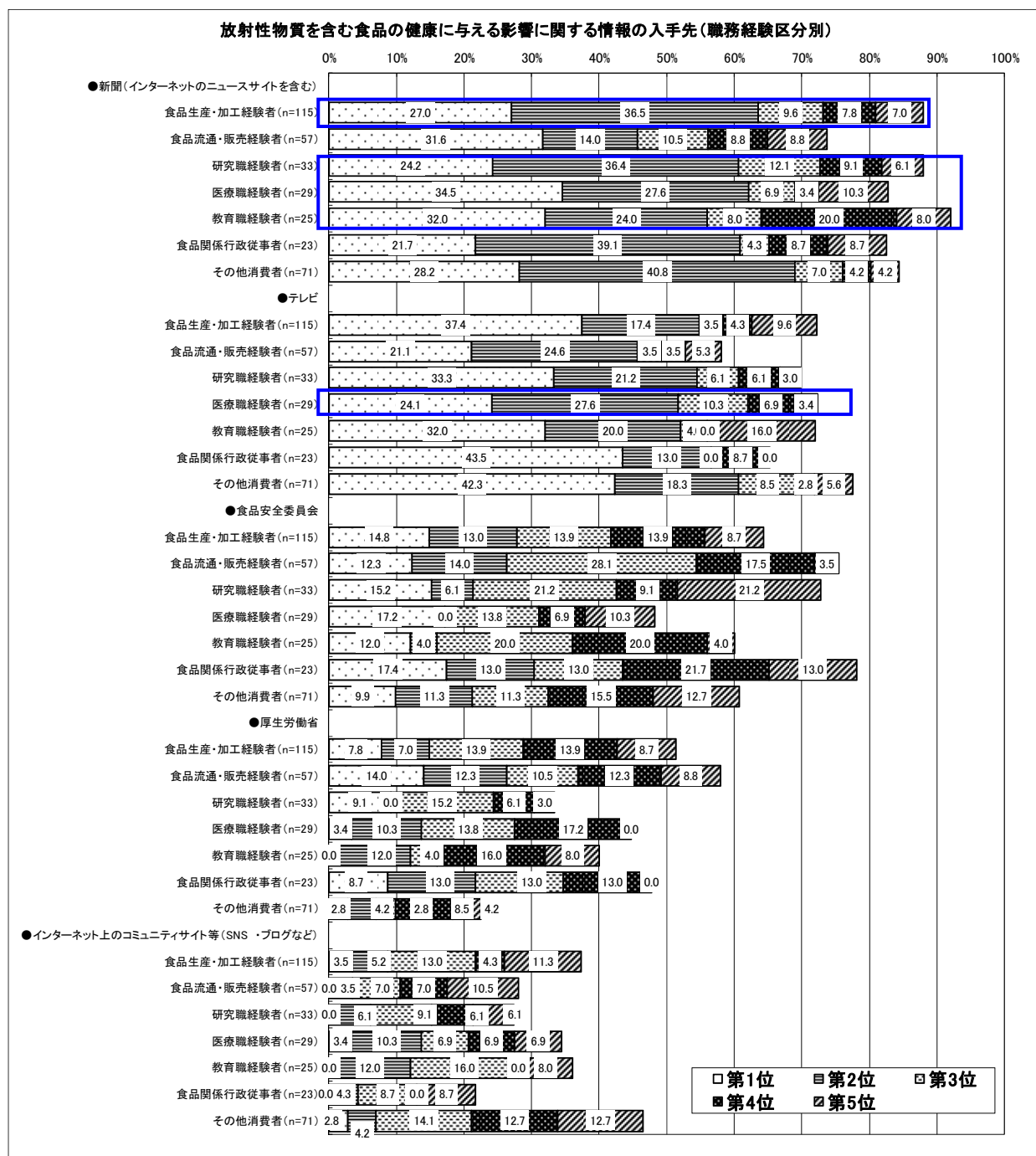


- ◆ 選択順位第1位から第5位までの合計を年度別で比べると、今回調査で第4位の「厚生労働省」は平成24年度調査で第5位、今回調査で第5位の「インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)」は平成24年度調査で第6位、今回調査で第6位の「一般の雑誌・書籍」は平成24年度調査で第4位と順位が変動している。

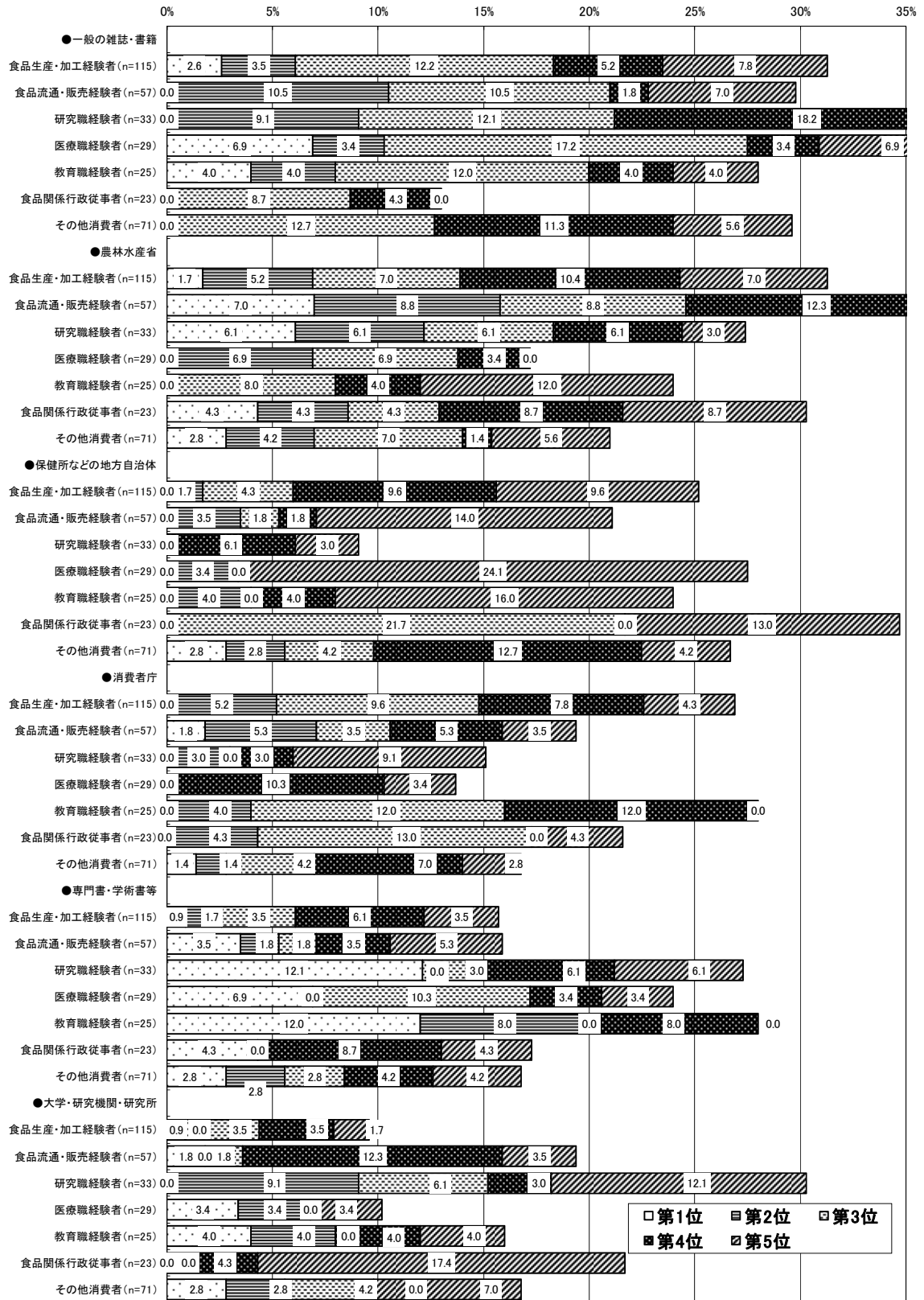


＜放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先の職務経験区分別回答割合＞

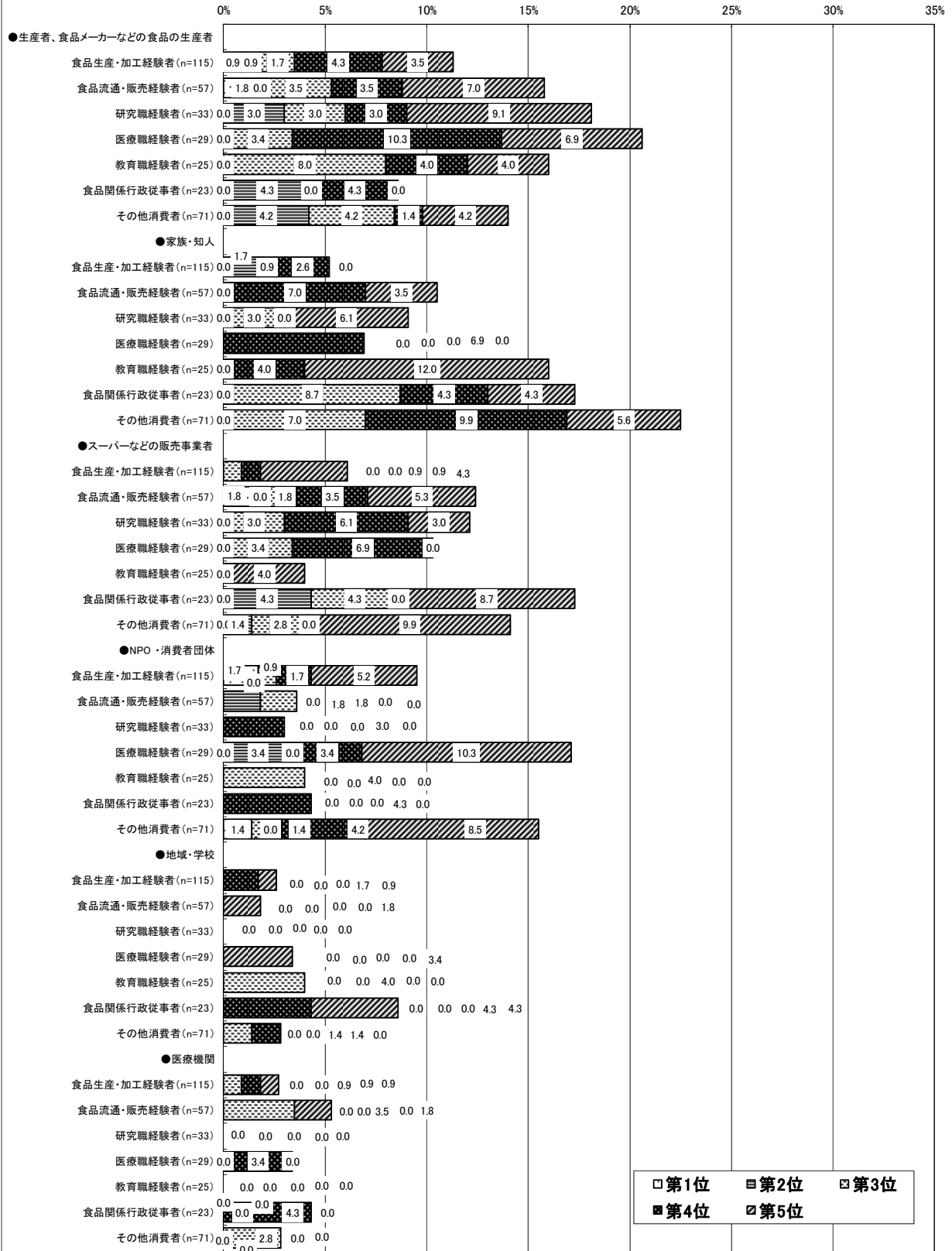
- ◆ 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先の第1位から第5位の合計を職務経験区分別に比べると、食品流通・販売経験者以外の職務経験区分では「新聞（インターネットのニュースサイトを含む）」との回答割合が他の職務に比べて特に低い。一方、食品流通・販売経験者では、「食品安全委員会」との回答割合が他の職務に比べて特に高い。



放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(職務経験区分別・その2)



放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(職務経験区分別・その3)



問6：その他（放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先）

（1）1位（回答者数4名）

専門家の意見を直接聞く機会があったから、コープの検査結果が毎週届くからなどの回答があった。

（2）2位（回答者数4名）

ラジオ、日本の現状に適応可能、または信頼に足る情報は得られないと考えているので基本的に入手努力はしていないなどの回答があった。

（3）3位（回答者数3名）

日本食品添加物協会、行政や農林水産省のホームページなどの回答があった。

（4）4位（回答者数2名）

海外の新聞、ニュースサイトなどの回答があった。

（5）5位（回答者数4名）

生協、原子力委員会の発表などの回答があった。

②食品に対する影響の情報収集の姿勢（問7）

問7 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故発生後、食品に対する影響について情報収集を行っていますか。あてはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 事故直後も現在も積極的にしている
- 2 事故直後は積極的に収集したが、現在は積極的にしていない
- 3 事故直後は積極的には収集していなかったが、現在は積極的にしている
- 4 事故直後も現在も積極的に収集していない
- 5 その他（具体的に記入してください。）

- ◆ 「事故直後は積極的に収集したが、現在は積極的にしていない」(54.4%)、「事故直後も現在も積極的にしている」(27.5%)、「事故直後も現在も積極的に収集していない」(13.3%)、「事故直後は積極的には収集していなかったが、現在は積極的にしている」(2.3%)の順となっている。

<食品に対する影響の情報収集の姿勢の男女別回答割合>

- ◆ 男性・女性いずれもが「事故直後は積極的にしたが、現在は積極的に収集していない」が最も高い。

<食品に対する影響の情報収集の姿勢の年代別回答割合>

- ◆ 年代が高くなるにつれて、「事故直後も現在も積極的にしている」の割合が増加する傾向にある。

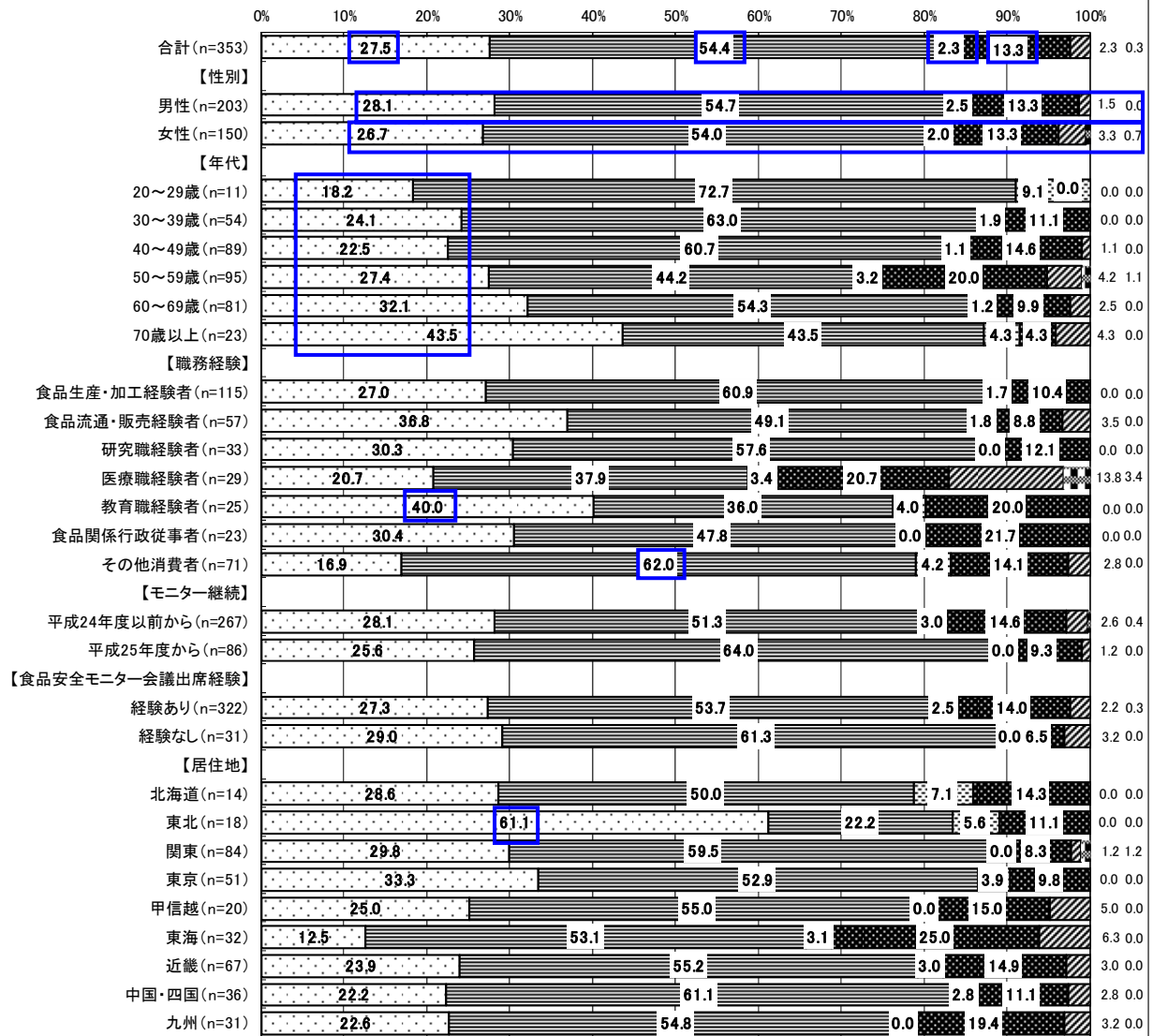
<食品に対する影響の情報収集の姿勢の職務経験区分別回答割合>

- ◆ 「事故直後も現在も積極的にしている」との回答の割合は、「教育職経験者」で40.0%と他の職務経験区分に比べ最も高い。一方、「事故直後は積極的にしたが、現在は積極的に収集していない」との回答の割合は、「その他消費者」で62.0%と他の職務経験区分に比べ最も高い。

<食品に対する影響の情報収集の姿勢の居住地区別回答割合>

- ◆ 「事故直後も現在も積極的にしている」との回答の割合は、「東北」で61.1%と他の居住地区に比べ最も高い。

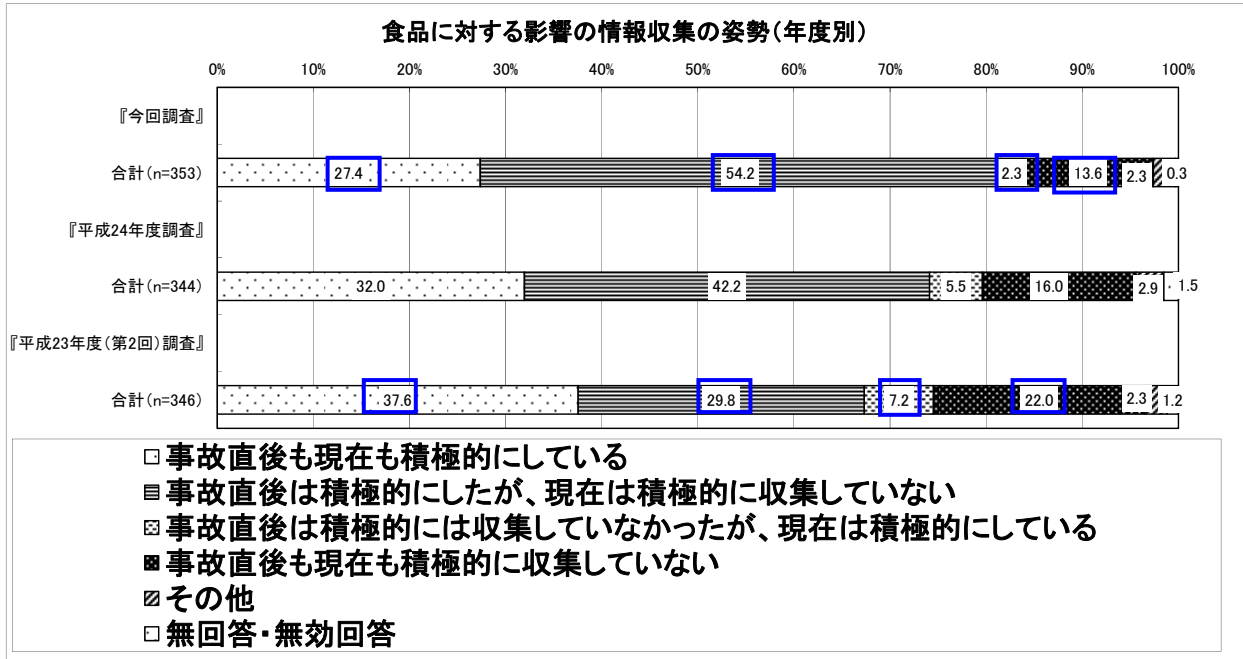
食品に対する影響の情報収集の姿勢



- 事故直後も現在も積極的にしている
- 事故直後は積極的にしたが、現在は積極的に収集していない
- 事故直後は積極的に収集していなかったが、現在は積極的にしている
- 事故直後も現在も積極的に収集していない
- その他
- 無回答・無効回答

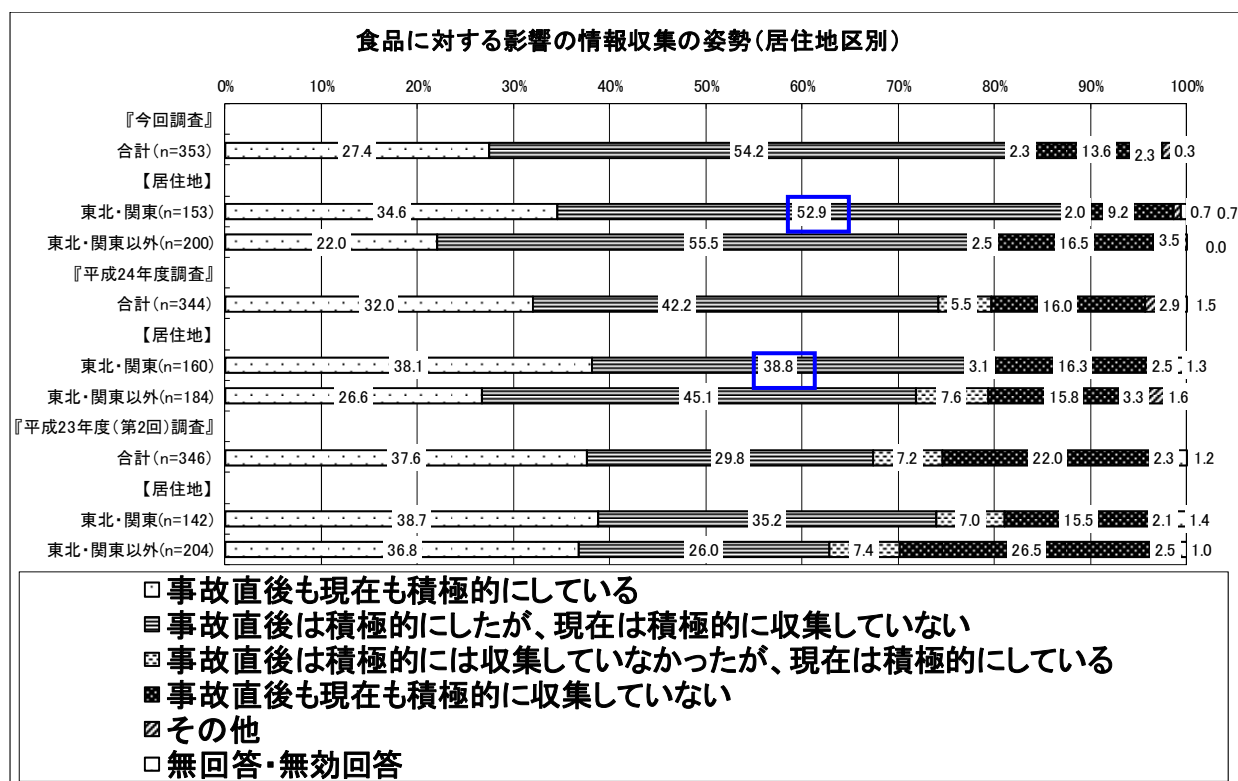
<食品に対する影響の情報収集の姿勢の年度別回答割合>

- ◆ 「事故直後も現在も積極的にしている」、「事故直後は積極的に収集してはなかったが、現在は積極的にしている」、「事故直後も現在も積極的に収集していない」との回答割合は平成 23 年度調査以降減少（10.2%減少、37.6%→27.4%）、（4.9%減少、7.2%→2.3%）、（8.4%減少、22.0%→13.6%）している反面、「事故直後は積極的に収集したが、現在は積極的にしていない」との回答の割合は増加（24.4%増加、29.8%→54.2%）している。



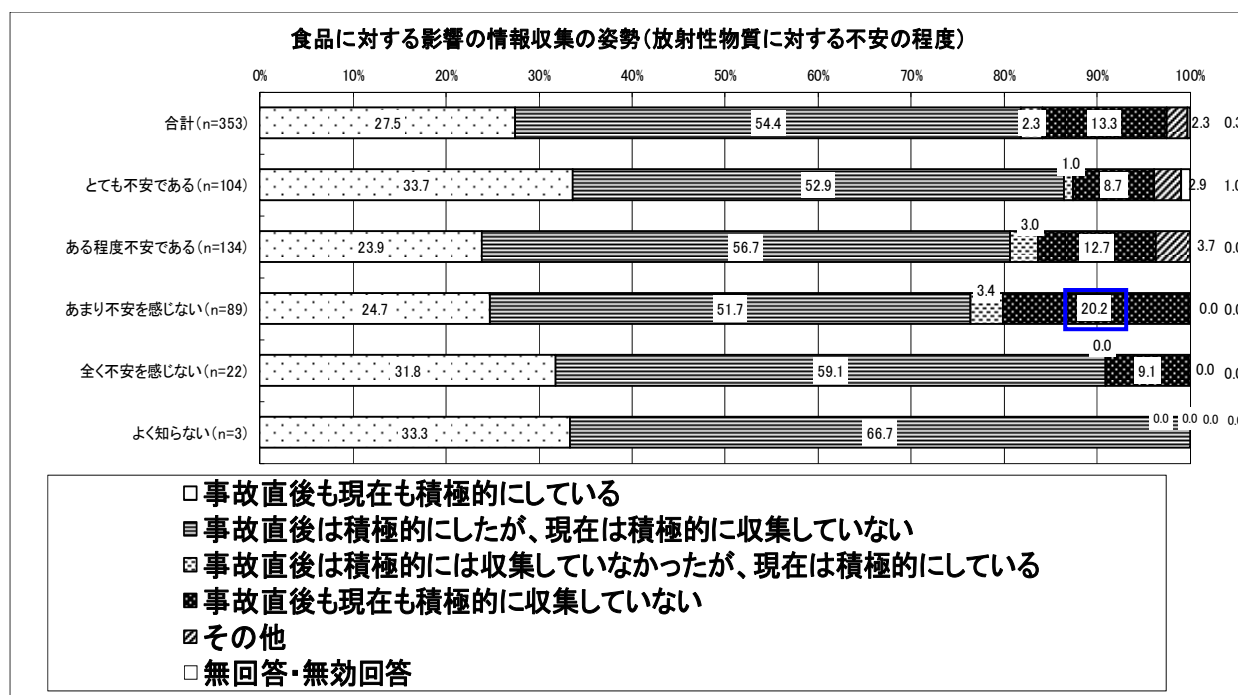
<食品に対する影響の情報収集の姿勢の居住地区別回答割合>

- ◆ 今回調査では、平成24年度調査に比べて、「事故直後は積極的にしたが、現在は積極的に収集していない」との回答割合が、東北・関東で14.1% (38.8%→52.9%) と大幅に増加している。



<食品に対する影響の情報収集の姿勢の問2との関係>

- ◆ 問2の放射性物質に対する不安感と情報収集の姿勢との関係では、「事故直後も現在も積極的に収集していない」との回答の割合は、問2で「あまり不安を感じない」とした人で20.2%であり、他の選択肢に比べて高い。



③東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化（問8）

問8 東日本大震災の前後で、飲食料品（産地）の購入等に係る意思決定に変化はありましたか。選択肢1～4の中から1つ選んでください。

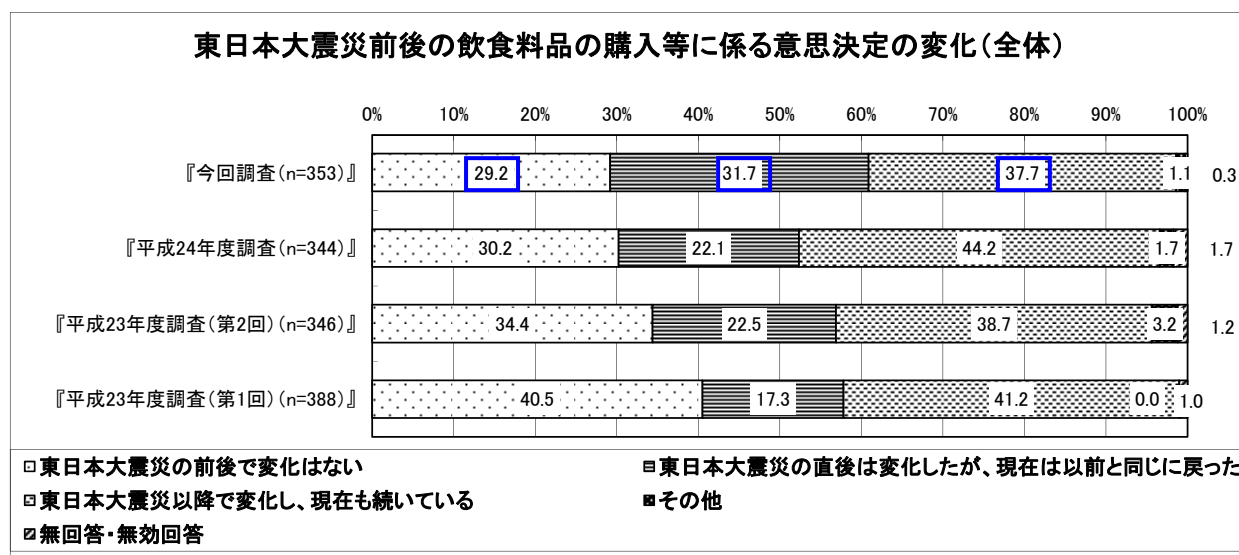
【選択肢】

- 1 東日本大震災の前後で変化はない
- 2 東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った
- 3 東日本大震災以降で変化し、現在も続いている
- 4 その他（具体的に記入してください。）

- ◆ 「東日本大震災以降で変化し、現在も続いている」との回答割合は 37.7%と最も高く、「東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」(31.7%)、「東日本大震災の前後で変化はない」(29.2%)と続く。

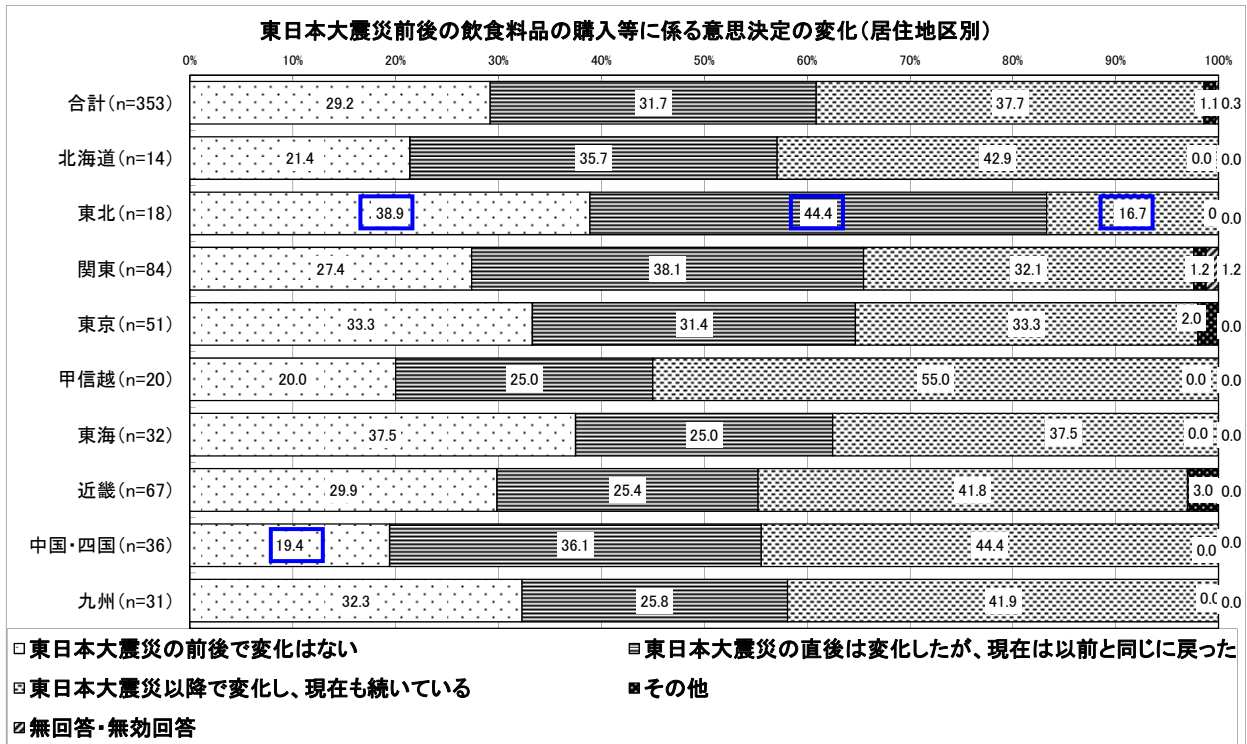
<東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化の年度別回答割合>

- ◆ 今回調査では、平成23年度調査（第1回）、平成23年度調査（第2回）、平成24年度調査に比べて、「東日本大震災の前後で変化はない」との回答の割合は 29.2%と最も低い。一方、「東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」との回答の割合は 31.7%と最も高い。
- ◆ 今回調査では、平成24年度調査に比べて、「東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」との回答割合が増加（9.6%増、22.1%→31.7%）した。



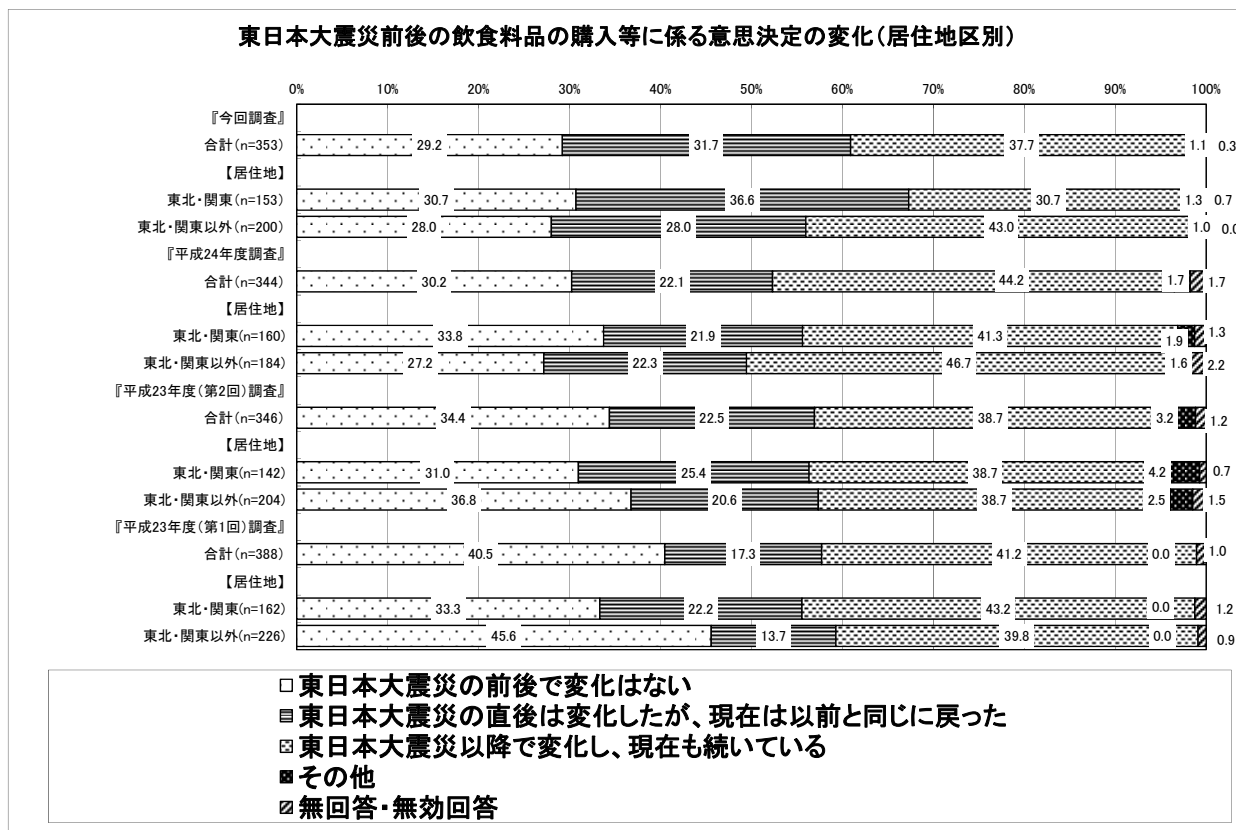
<東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化の居住地区別回答割合>

- ◆ 「東北」では、「東日本大震災の前後で変化はない」、「東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」との回答割合が、38.9%、44.4%と他の居住地区に比べ最も高く、「東日本大震災以降で変化し、現在も続いている」との回答の割合は 16.7%と他の居住地区と比べ最も低い。
- ◆ 「中国・四国」では、「東日本大震災の前後で変化はない」との回答割合が 19.4%と他の居住地区に比べ最も低い。



＜東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化の居住地別、年度別回答割合＞

- ◆ 今回調査と平成24年度調査及び平成23年度調査（第2回）、平成23年度調査（第1回）について居住地区別で比べると、東北・関東以外では顕著な変化は見られないが、東北・関東では、「東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った」との回答の割合は増加傾向にある。



問8：その他（飲食料品（産地）の購入等に係る意思決定の変化）（回答者数4名）

魚類は意思決定がますます悪化している、今は復興支援団体のものを購入したりしているなどの回答があった。

④ 放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方（問9）

問9 あなたの放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方は、どれが近いですか。当てはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている
- 2 現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している
- 3 放射性物質を含む食品については情報が不十分であり、判断できない
- 4 そもそも放射性物質を含む食品について、気にしたことはない
- 5 その他（具体的に記入してください）

- ◆ 今回調査の回答の割合は、「現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している」が最も高く、過半数（**55.2%**）を占めた。次いで、「放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている」（19.5%）、「放射性物質を含む食品については情報が不十分であり、判断できない」（18.4%）、「そもそも放射性物質を含む食品について、気にしたことはない」（3.1%）の順となっている。

<放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方の男女別回答割合>

- ◆ 「男性」で「現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している」との回答の割合は「女性」に比べ高い。

<放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方の年代別回答割合>

- ◆ 「放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている」との回答割合が、「70歳以上」で他の年代に比べて高い。

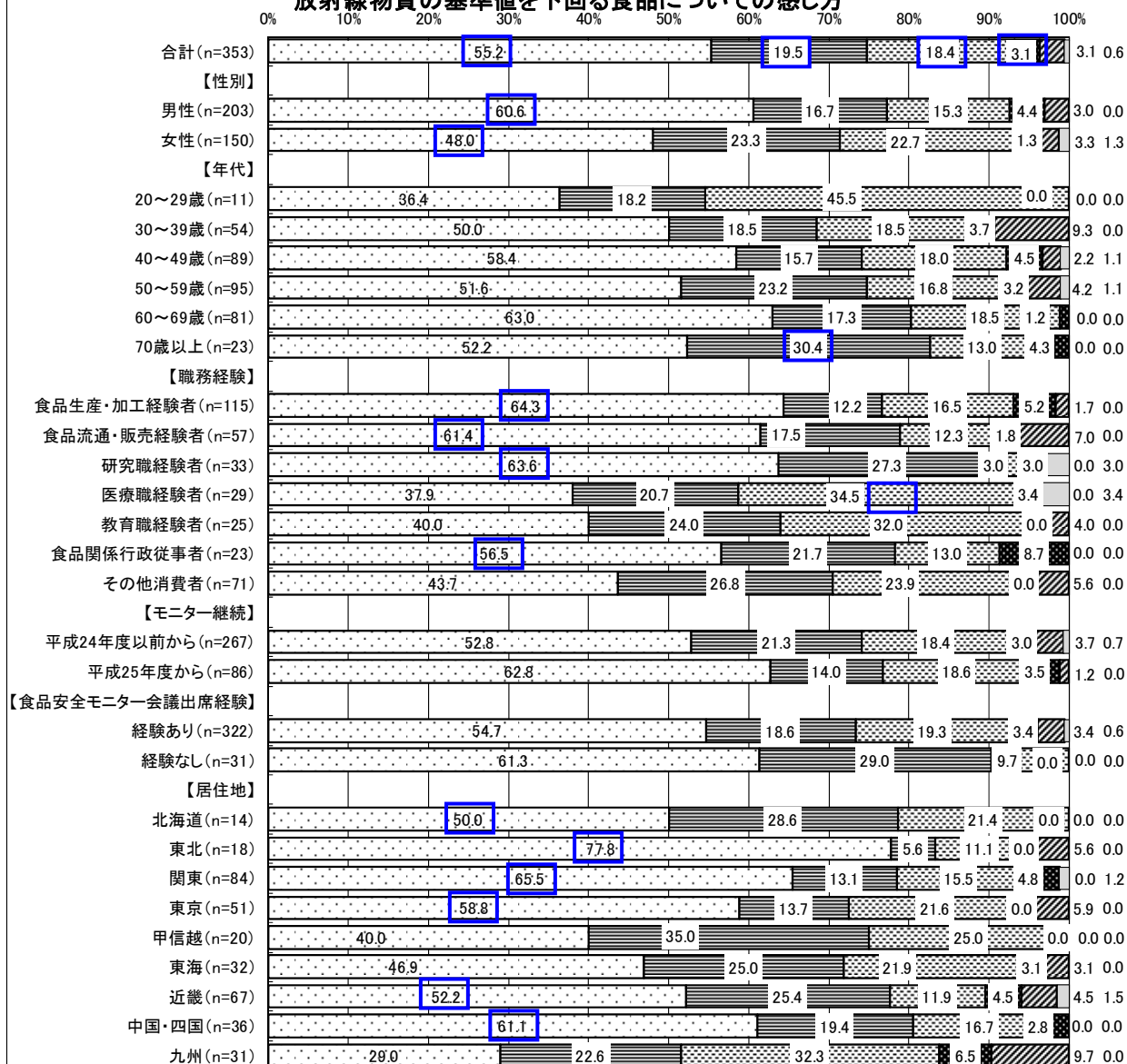
<放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方の職務経験区分別回答割合>

- ◆ 「現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している」との回答の割合は、「食品生産・加工経験者」（64.3%）、「食品流通・販売経験者」（61.4%）、「研究職経験者」（63.6%）、「食品関係行政従事者」（56.5%）で過半数を占めた。

<放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方の居住地区別回答割合>

- ◆ 「現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している」との回答の割合は、「甲信越」、「東海」、「九州」を除く全ての居住地区で過半数を占め、特に「東北」が**77.8%**と他の居住地区に比べて最も高い。

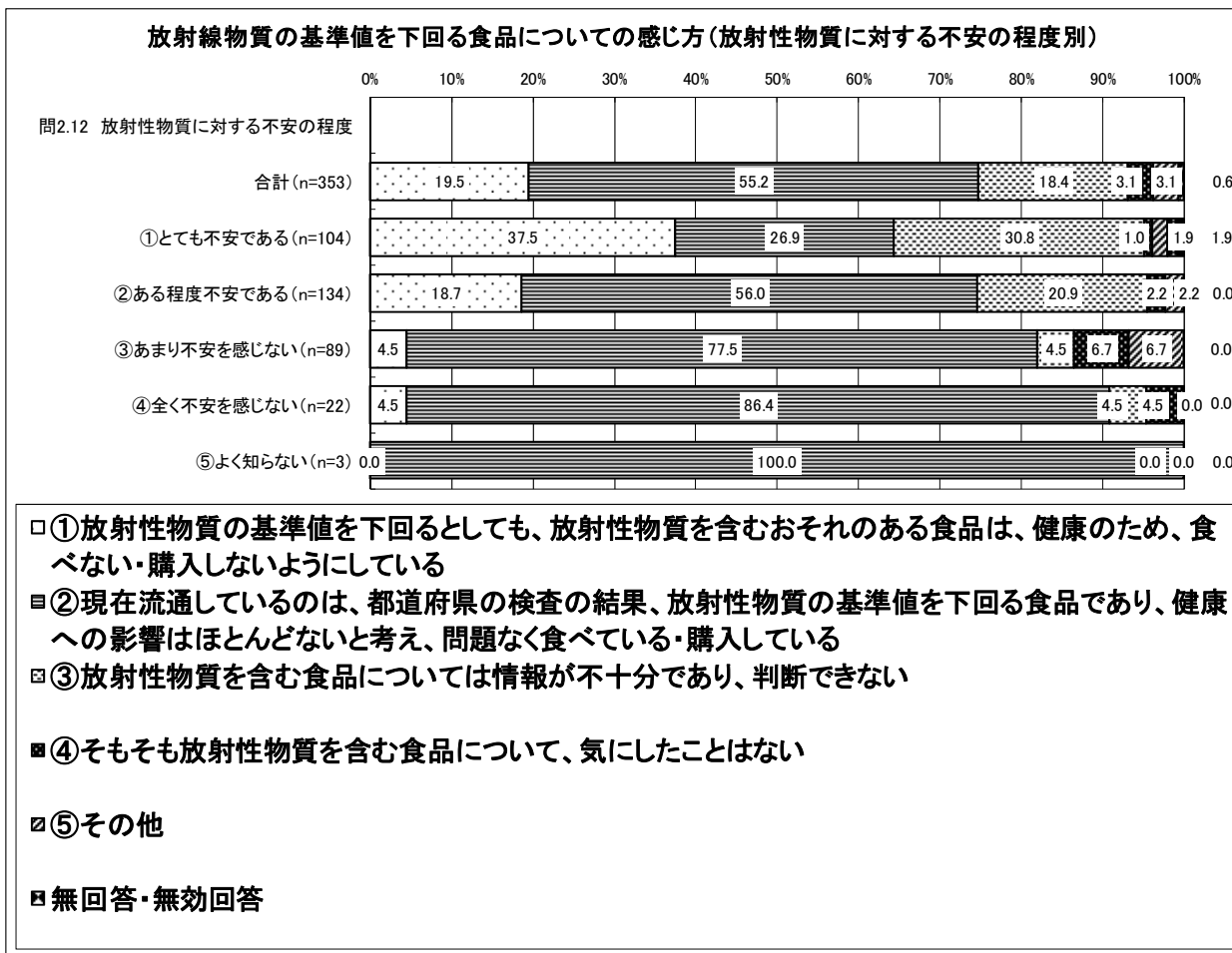
放射線物質の基準値を下回る食品についての感じ方



- 現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している
- 放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている
- 放射性物質を含む食品については情報が不十分であり、判断できない
- そもそも放射性物質を含む食品について、気にしたことはない
- その他
- 無回答・無効回答

<放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方の問2との関係>

- ◆ 問2の放射性物質に対する不安感と放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方との関係では、「放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている」との回答の割合は、問2で不安感が強いと回答した人ほど高く、特に問2で「とても不安である」と回答した人では37.5%と高い。



問9：放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方（回答者数11名）

基準値は厳しすぎるので緩和すべきである、基準値が低すぎるので全く問題はないなどの回答があった。

3) 食品の安全性に関する情報について

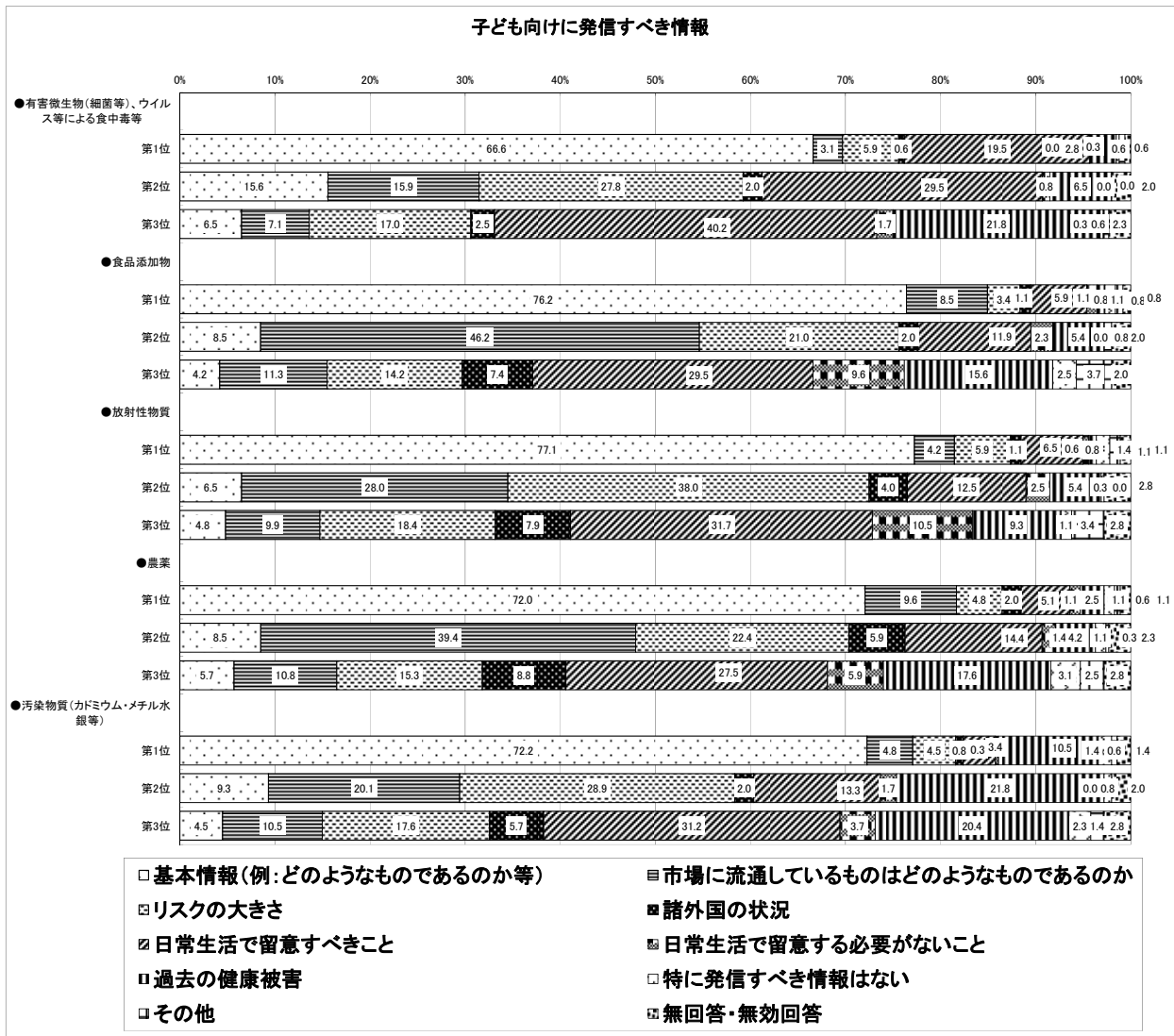
①子どもに発信すべき情報（問10）

問10 A～Iに掲げるハザード等について、子ども（中学生以下）向けにどのような情報を発信すべきだと思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～9の中から優先順位の高い順に3つ選んでください。	
【ハザード等】	【選択肢】
A 有害微生物（細菌等、ウイルス等による食中毒等）	1 基本情報（例：どのようなものであるのか等）
B 食品添加物	2 市場に流通しているものはどのようなものであるのか
C 放射性物質	3 リスクの大きさ
D 農薬	4 諸外国の状況
E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）	5 日常生活で留意すべきこと
F 器具・容包装からの溶出化学物質	6 日常生活で留意する必要がないこと
G いわゆる健康食品	7 過去の健康被害
H BSE（伝達性牛海綿状脳症）	8 特に発信すべき情報はない
I 遺伝子組換え	9 その他（具体的に記入してください。）

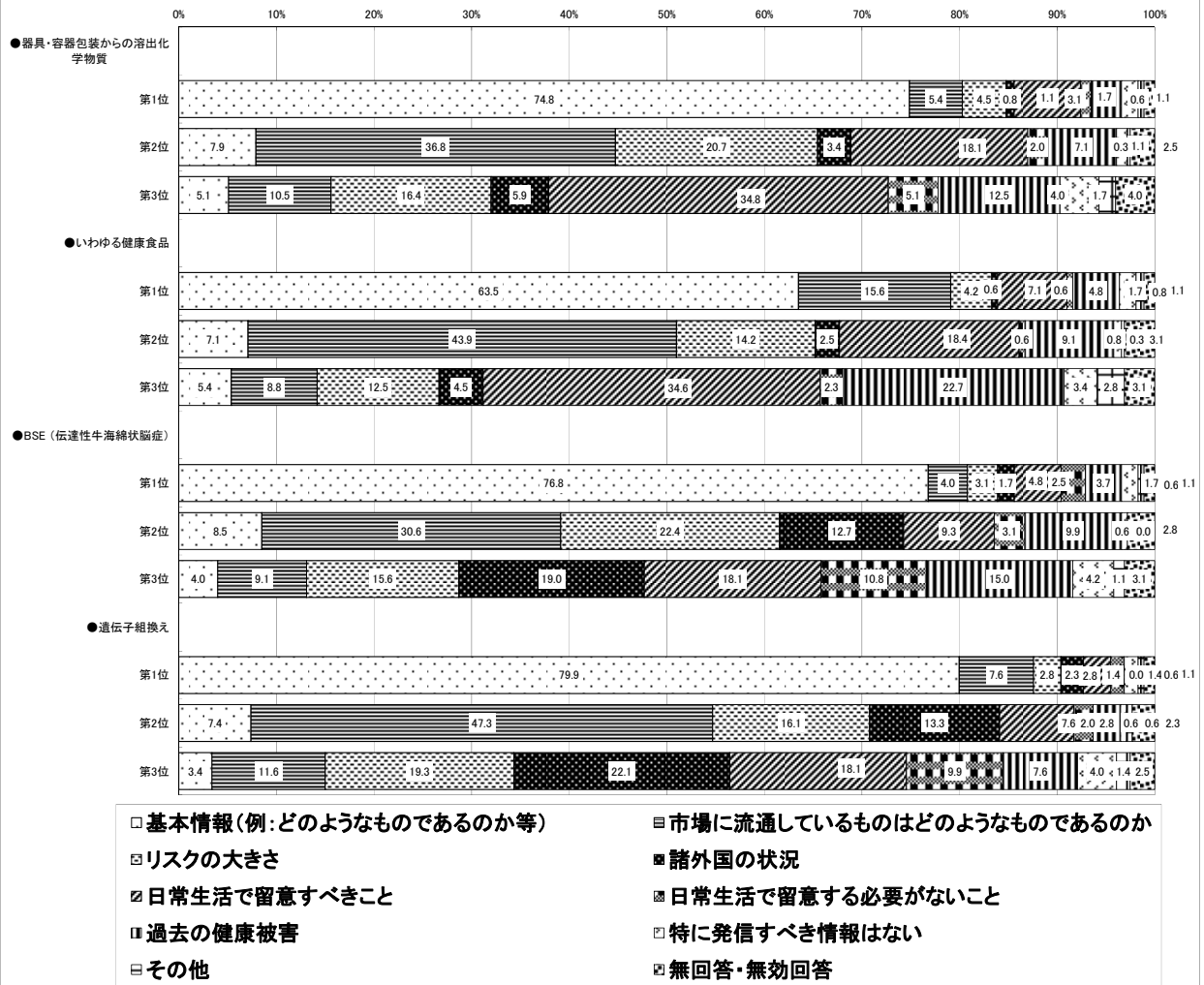
- ◆ 子ども向けに発信すべき情報の第1位から第3位を合計し、その中の上位3項目をみると、第1位は、「有害微生物（細菌等、ウイルス等による食中毒等）」を除く全てで「基本情報（例：どのようなものであるのか等）」との回答割合が最も高い。有害微生物（細菌等、ウイルス等による食中毒等）については、「日常生活で留意すべきこと」が「基本情報」をわずかに上回った。
- ◆ 第2位は、「食品添加物」、「農薬」、「いわゆる健康食品」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」、「遺伝子組換え」では「市場に流通しているものはどのようなものであるのか」であった。また、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」では「基本情報」が、「放射性物質」については「リスクの大きさ」が、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」については「過去の健康被害」が、「器具・容器包装からの溶出化学物質」では「日常生活で留意すべきこと」であった。
- ◆ 第3位は、「食品添加物」、「放射性物質」、「農薬」及び「いわゆる健康食品」では「日常生活で留意すべきこと」、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」及び「遺伝子組換え」では「リスクの大きさ」、「器具・容器包装からの溶出化学物質」では「市場に流通しているものはどのようなものであるのか」であった。

子ども向けに発信すべき情報(上位3項目)

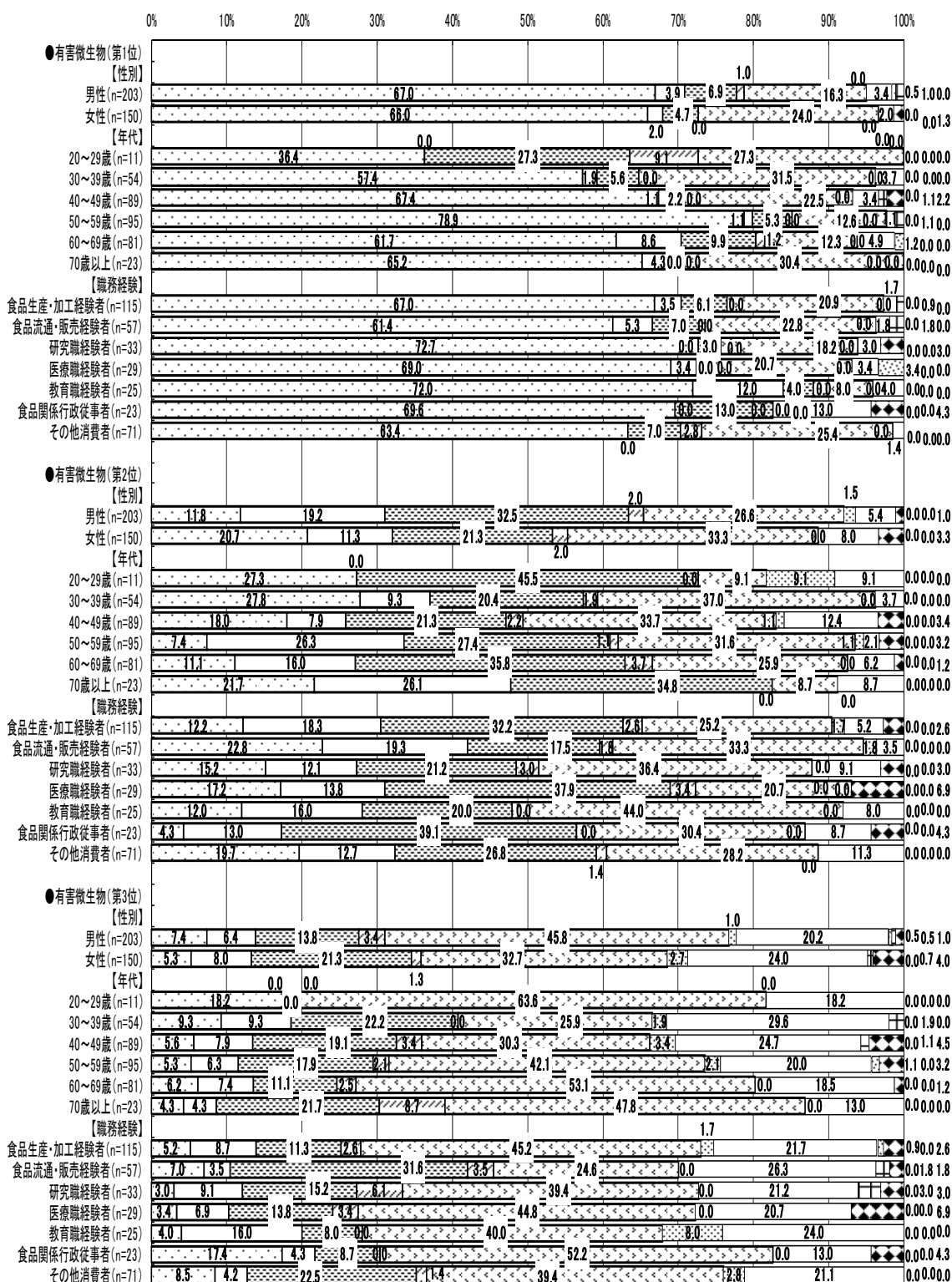
	第1位		第2位		第3位	
		%		%		%
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	日常生活で留意すべきこと	29.7	基本情報	29.6	リスクの大きさ	16.9
食品添加物	基本情報	29.7	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	22.0	日常生活で留意すべきこと	15.8
放射性物質	基本情報	29.5	リスクの大きさ	20.8	日常生活で留意すべきこと	16.9
農薬	基本情報	28.7	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	19.9	日常生活で留意すべきこと	15.7
汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)	基本情報	28.7	過去の健康被害	17.6	リスクの大きさ	17.0
器具・容器包装からの溶出化学物質	基本情報	29.3	日常生活で留意すべきこと	19.9	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	17.6
いわゆる健康食品	基本情報	25.3	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	22.8	日常生活で留意すべきこと	20.0
BSE(伝達性牛海綿状脳症)	基本情報	29.7	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	14.5	リスクの大きさ	13.7
遺伝子組換え	基本情報	30.2	市場に流通しているものほどのようなものであるのか	22.2	リスクの大きさ	12.7



子ども向けに発信すべき情報(続き)

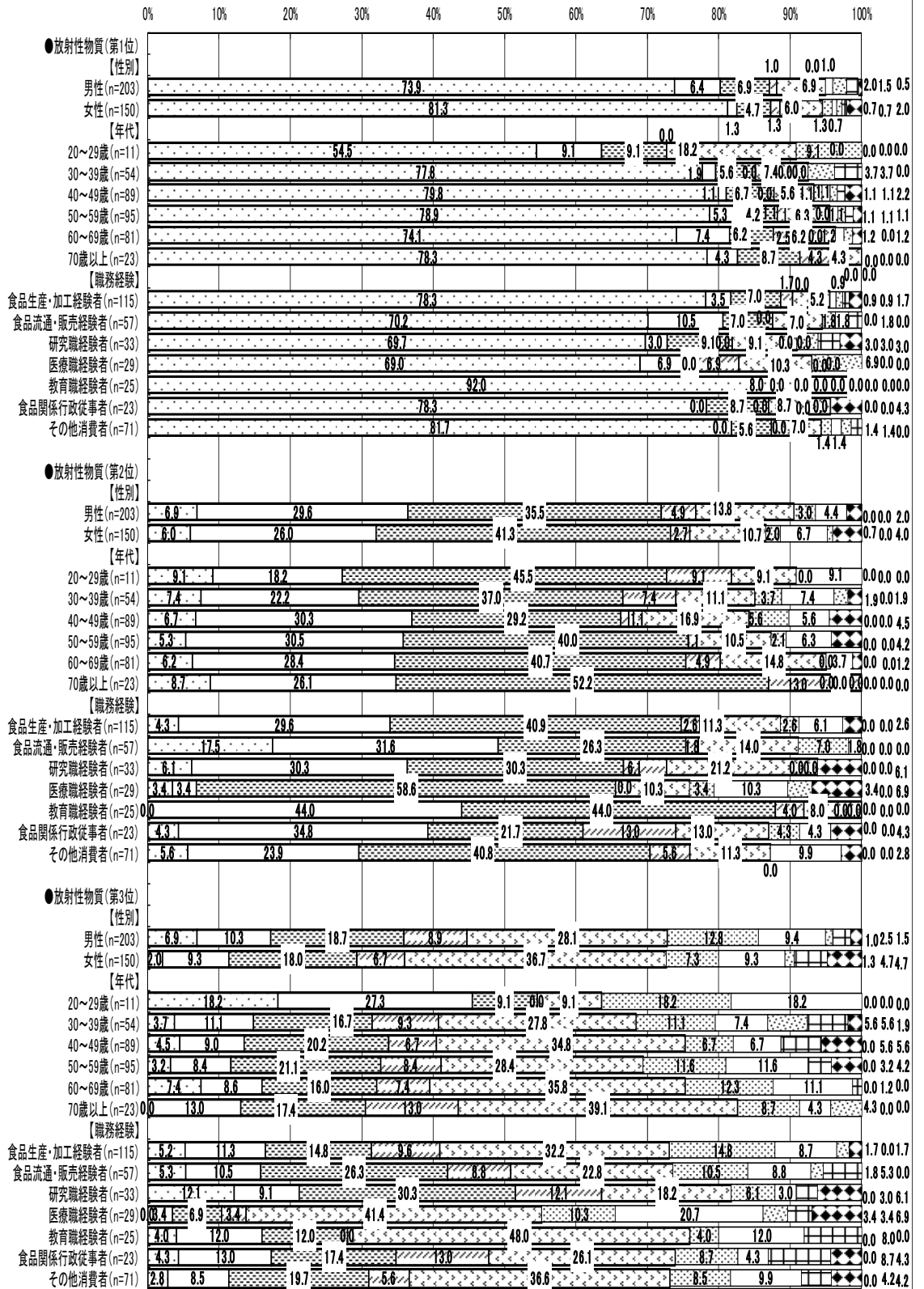


子ども向けに発信すべき有害微生物(細菌等、ウイルス等による食中毒等)に関する情報



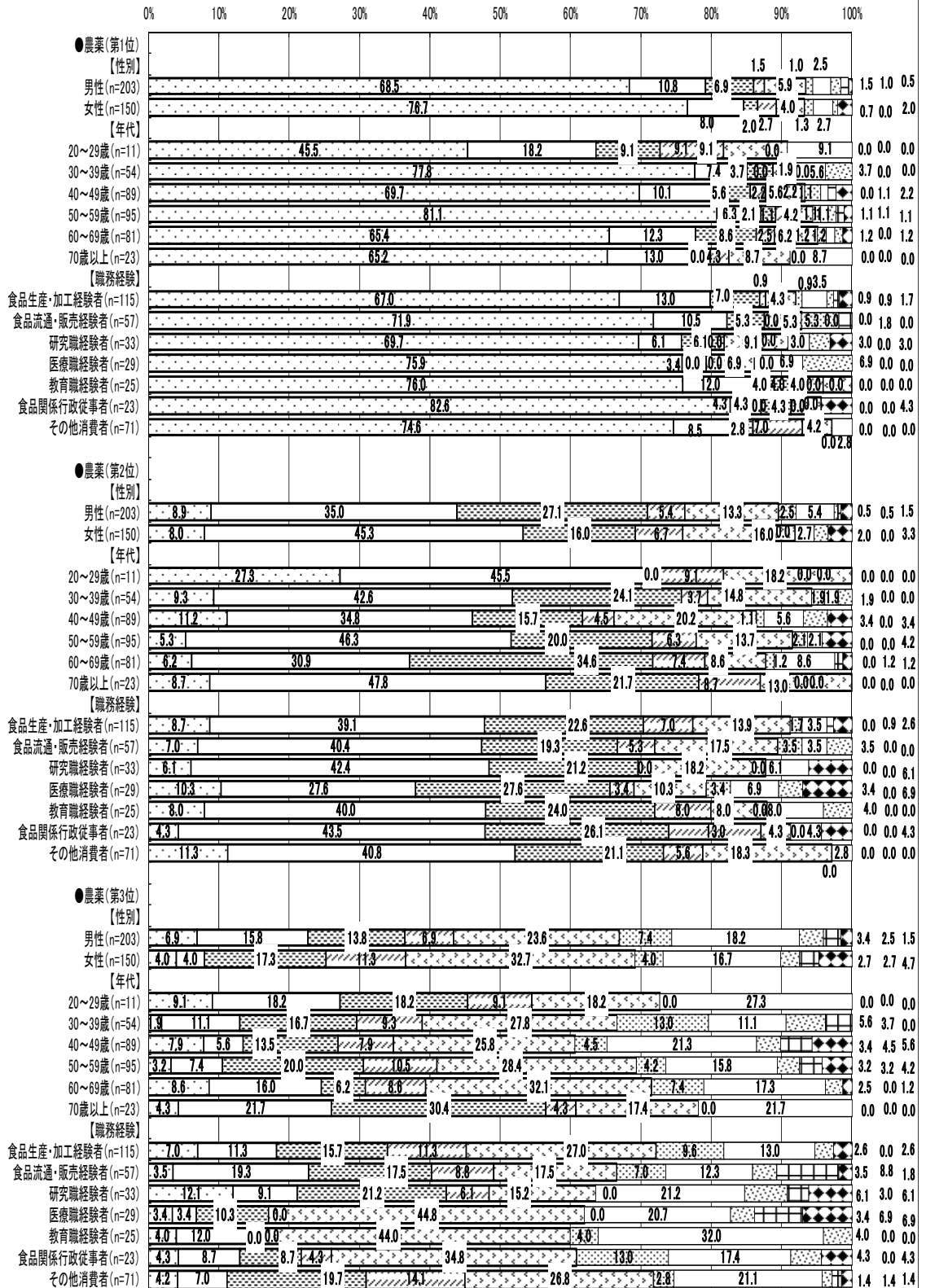
- 基本情報(例:どのようなものであるのか等)
- リスクの大きさ
- 日常生活で留意すべきこと
- 過去の健康被害
- その他
- 市場に流通しているものはどのようなものであるのか
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 特に発信すべき情報はない
- 無回答・無効回答

子ども向けに発信すべき放射性物質に関する情報

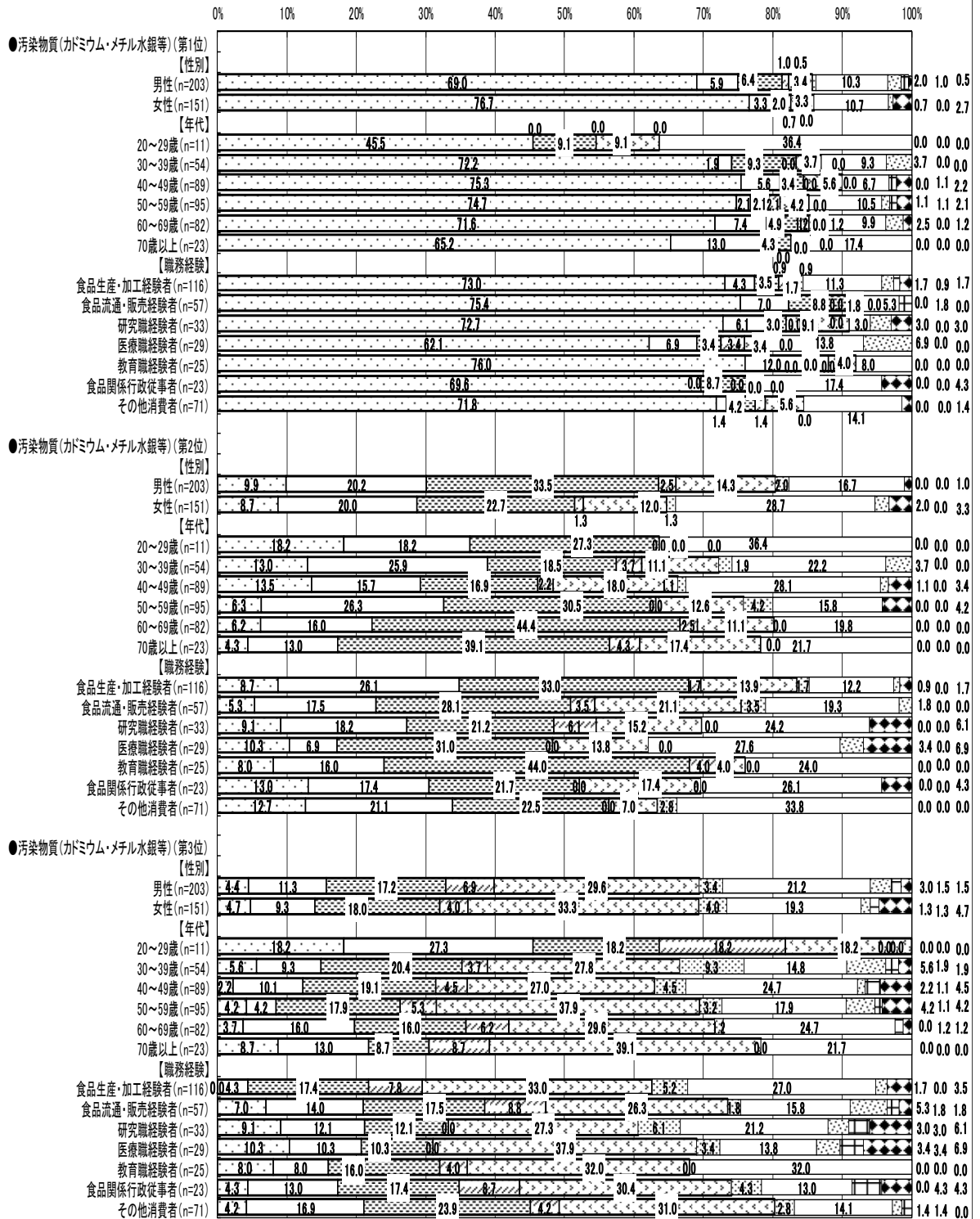


- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本情報(例:どのようなものであるのか等) <input type="checkbox"/> リスクの大きさ <input type="checkbox"/> 日常生活で留意すべきこと <input type="checkbox"/> 過去の健康被害 <input type="checkbox"/> その他 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市場に流通しているものはどのようなものであるのか <input type="checkbox"/> 諸外国の状況 <input type="checkbox"/> 日常生活で留意する必要がないこと <input type="checkbox"/> 特に発信すべき情報はない <input type="checkbox"/> 無回答・無効回答 |
|---|---|

子ども向けに発信すべき農業に関する情報



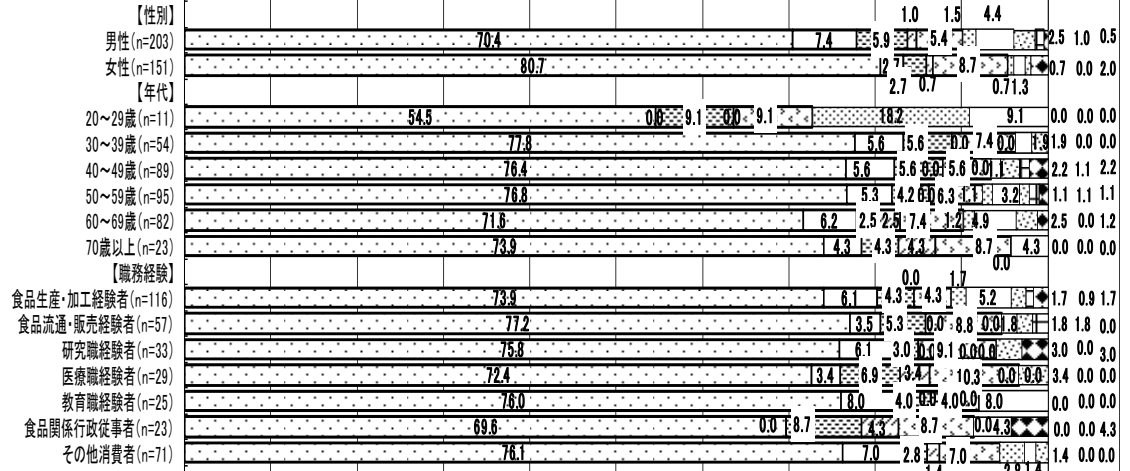
子ども向けに発信すべき汚染物質に関する情報



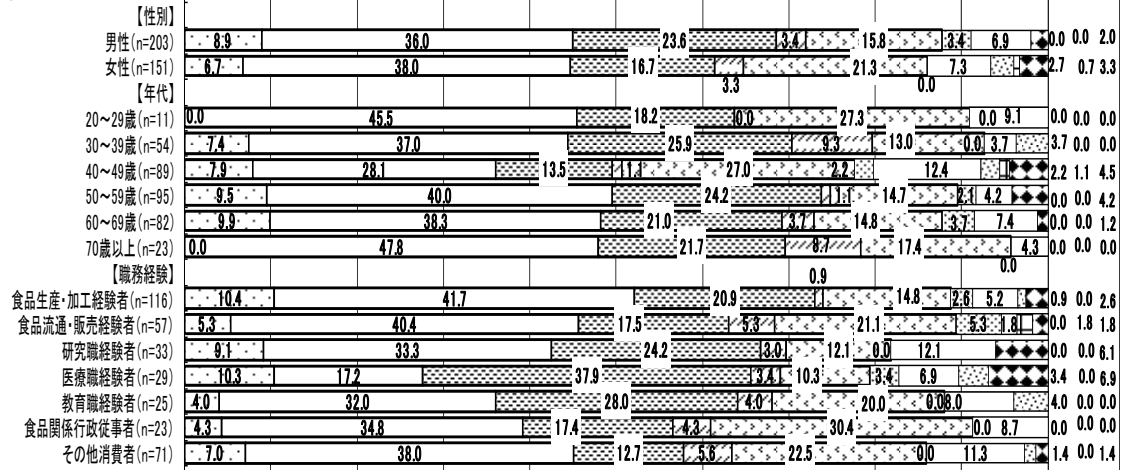
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本情報(例:どのようなものであるのか等) <input type="checkbox"/> リスクの大きさ <input type="checkbox"/> 日常生活で留意すべきこと <input type="checkbox"/> 過去の健康被害 <input type="checkbox"/> その他 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市場に流通しているものはどのようなものであるのか <input type="checkbox"/> 諸外国の状況 <input type="checkbox"/> 日常生活で留意する必要がないこと <input type="checkbox"/> 特に発信すべき情報はない <input type="checkbox"/> 無回答・無効回答 |
|---|---|

子ども向けに発信すべき器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報

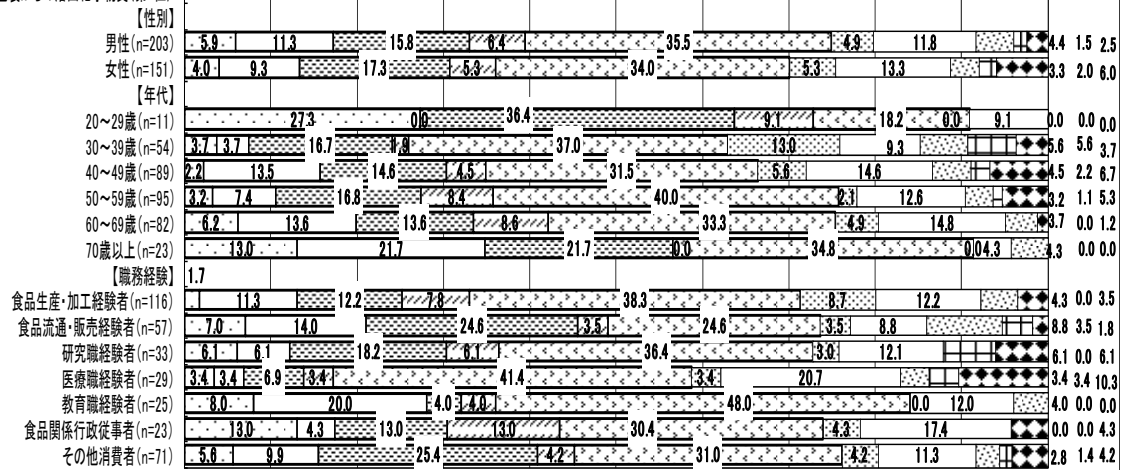
●器具・容器包装からの溶出化学物質(第1位)



●器具・容器包装からの溶出化学物質(第2位)



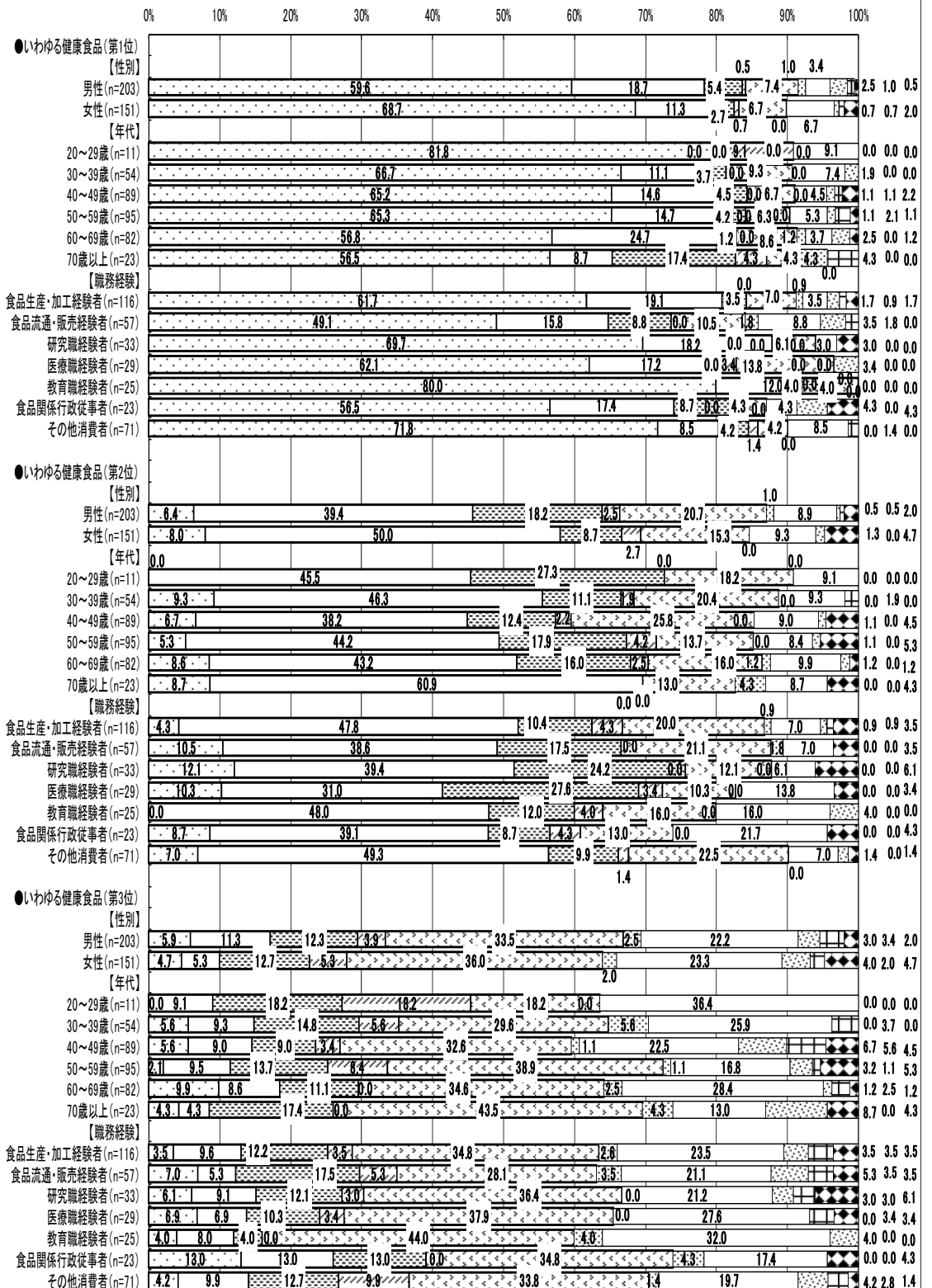
●器具・容器包装からの溶出化学物質(第3位)



- 基本情報(例:どのようなものであるのか等)
- リスクの大きさ
- 日常生活で留意すべきこと
- 過去の健康被害
- その他

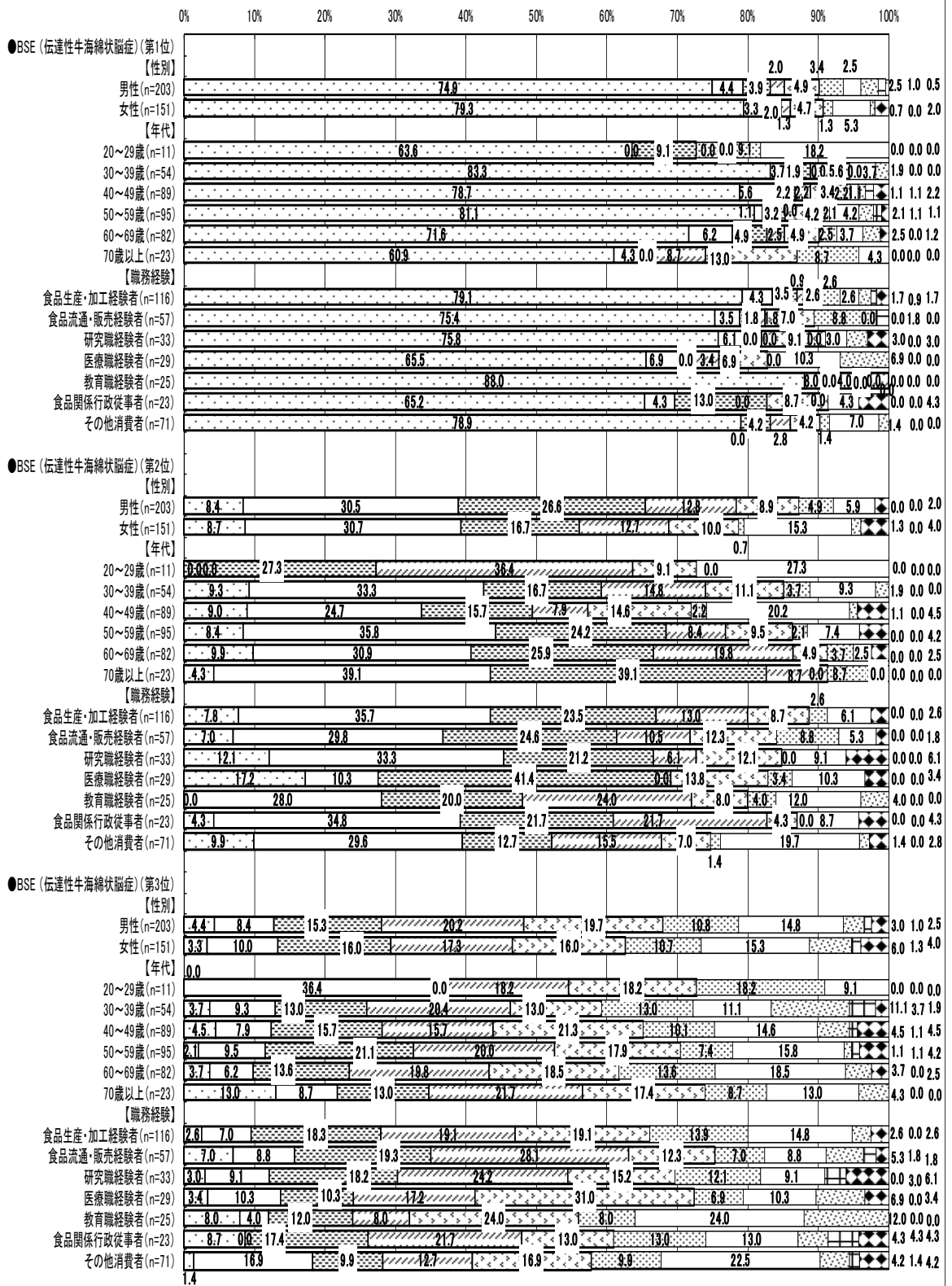
- 市場に流通しているものはどのようなものであるのか
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 特に発信すべき情報はない
- 無回答・無効回答

子ども向けに発信すべきいわゆる健康食品に関する情報



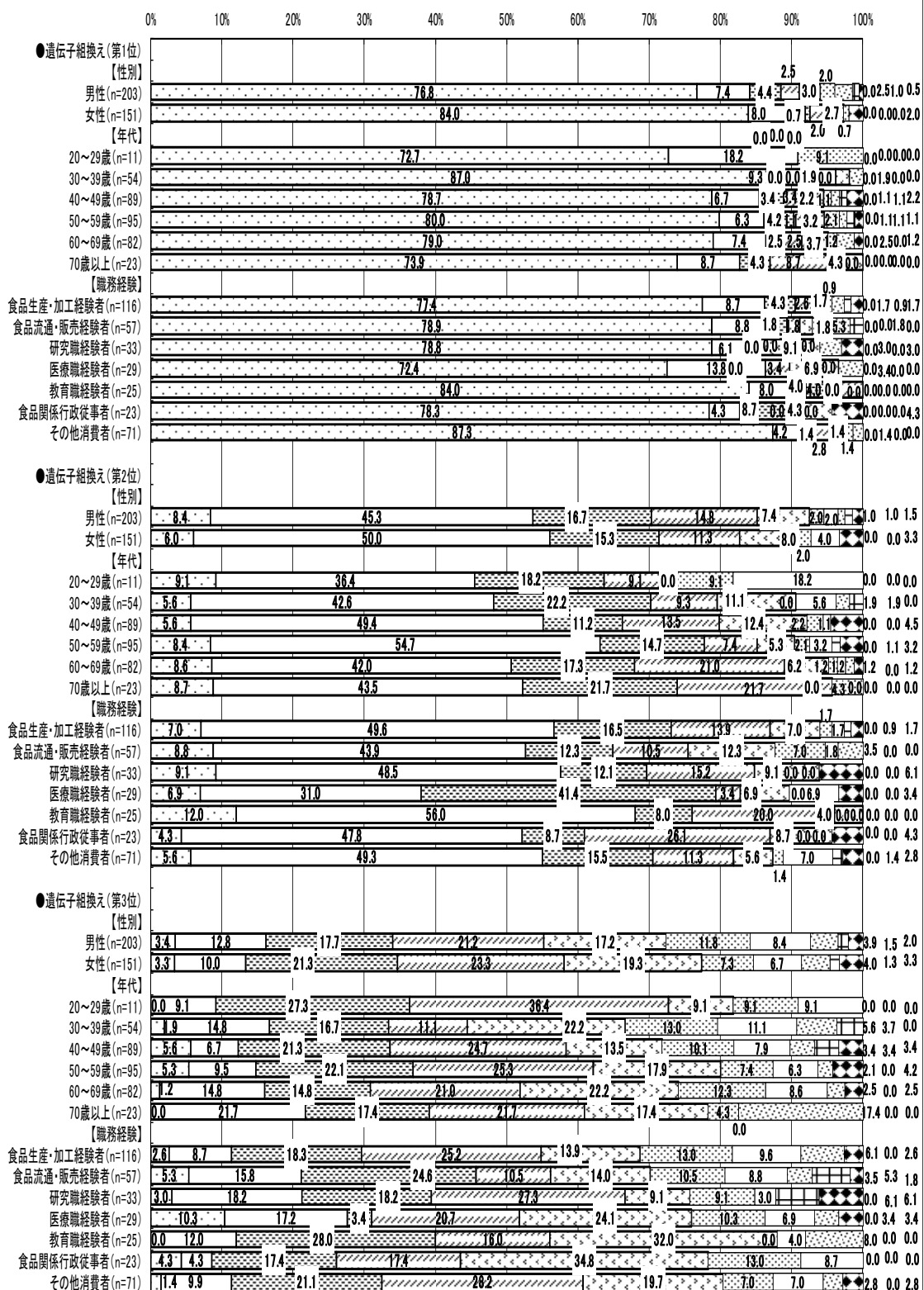
- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本情報(例:どのようなものであるのか等) <input type="checkbox"/> リスクの大きさ <input type="checkbox"/> 日常生活で留意すべきこと <input type="checkbox"/> 過去の健康被害 <input type="checkbox"/> その他 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市場に流通しているものはどのようなものであるのか <input type="checkbox"/> 諸外国の状況 <input type="checkbox"/> 日常生活で留意する必要がないこと <input type="checkbox"/> 特に発信すべき情報はない <input type="checkbox"/> 無回答・無効回答 |
|---|---|

子ども向けに発信すべきBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報



- 基本情報(例:どのようなものであるのか等)
- リスクの大きさ
- 日常生活で留意すべきこと
- 過去の健康被害
- その他
- 市場に流通しているものはどのようなものであるのか
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 特に発信すべき情報はない
- 無回答・無効回答

子ども向けに発信すべき遺伝子組換えに関する情報



- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本情報(例:どのようなものであるか等) <input type="checkbox"/> リスクの大きさ <input type="checkbox"/> 日常生活で留意すべきこと <input type="checkbox"/> 過去の健康被害 <input type="checkbox"/> その他 | <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 市場に流通しているものはどのようなものであるか <input type="checkbox"/> 諸外国の状況 <input type="checkbox"/> 日常生活で留意する必要がないこと <input type="checkbox"/> 特に発信すべき情報は無い <input type="checkbox"/> 無回答・無効回答 |
|--|--|

問10：その他（ハザード等について発信すべき情報）

（1）有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

II. 第2位（回答者数0名）

III. 第3位（回答者数2名）

様々な情報を精査する力（方法）、あまりあおる必要はないと思いますなどの回答があった。

（2）食品添加物に関する情報

I. 第1位（回答者数3名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

II. 第2位（回答者数3名）

法規制が整備される以前より使用されており、そのために過去には事故の起きたこと等があるが、現在では格段に安全性や品質が向上しているといった歴史的な経緯、使う時のリスクと使わない時のリスクの比較などの回答があった。

III. 第3位（回答者数13名）

市場での使われ方や、その必要性、リスクとベネフィットを正確に伝えるなどの回答があった。

（3）放射性物質に関する情報

I. 第1位（回答者数4名）

現在のように詳細が分かっていないものを安全という姿勢は「科学的」ではなく自分自身の情報が薄いため、何ともいえないなどの回答があった。

II. 第2位（回答者数0名）

III. 第3位（回答者数12名）

リスクとベネフィット、様々な情報を精査する力（方法）などの回答があった。

（4）農薬に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

II. 第2位（回答者数1名）

使うメリットと、使わない時のデメリットなどの回答があった。

Ⅲ. 第3位（回答者数9名）

農薬から受ける消費者のメリット、有用性と毒性（誤使用含む）の対比などの回答があった。

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

Ⅱ. 第2位（回答者数0名）

Ⅲ. 第3位（回答者数5名）

様々な情報を精査する力（方法）、あまりあおる必要はないと思いますなどの回答があった。

(6) 器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

Ⅱ. 第2位（回答者数1名）

危険と考えられているレベルの物質については不用意に子供に伝えない方がいいなどの回答があった。

Ⅲ. 第3位（回答者数6名）

食品用でない容器にそのまま食べる食品を入れないよう注意喚起、様々な情報を精査する力（方法）などの回答があった。

(7) いわゆる健康食品に関する情報

I. 第1位（回答者数3名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

Ⅱ. 第2位（回答者数1名）

本当に効くものならば、薬事法で規制されるのであって、万人の健康にとって明確な効果のある食品などはないということなどの回答があった。

Ⅲ. 第3位（回答者数10名）

食品の規制がないこと、子供が利用するものではなく、バランスの取れた食事が大切などの回答があった。

(8) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

II. 第2位（回答者数0名）

III. 第3位（回答者数4名）

様々な情報を精査する力（方法）、あまりあおる必要はないと思いますなどの回答があった。

(9) 遺伝子組換え食品に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

リスクの評価の仕方、体験を通じた科学リテラシー教育などの回答があった。

II. 第2位（回答者数2名）

従来型の品種改良との比較、どちらも遺伝子組み換えが起こっていること、双方の安全性評価の比較、世界の人口と気象をわかりやすく教えるなどの回答があった。

III. 第3位（回答者数5名）

リスクとベネフィット、世界の食糧支配につながることなどの回答があった。

②食品安全モニター自身が求めている情報（問11）

問11 A～Iに掲げるハザード等について、あなた自身はどのような情報を求めていますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～10の中から優先順位の高い順に3つを選んでください。

【ハザード等】

- A 有害微生物（細菌等、ウイルス等による食中毒等
- B 食品添加物
- C 放射性物質
- D 農薬
- E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等
- F 器具・容包装からの溶出化学物質
- G いわゆる健康食品
- H BSE（伝達性牛海綿状脳症）
- I 遺伝子組換え

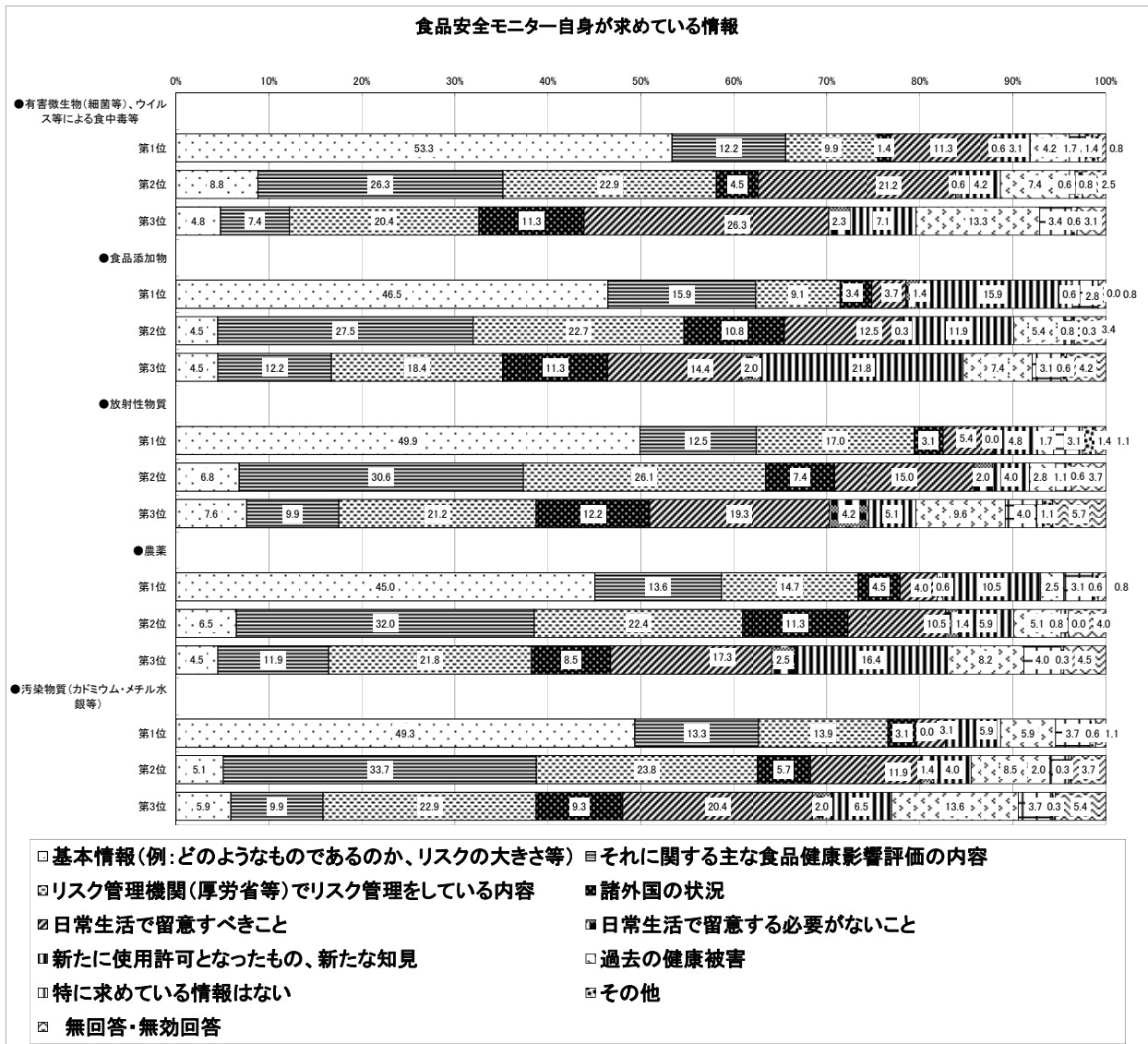
【選択肢】

- 1 基本情報（例：どのようなものであるのか
リスクの大きさ等）
- 2 それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 3 リスク管理機関（厚労省等）でリスク管理を
している内容
- 4 諸外国の状況
- 5 日常生活で留意すべきこと
- 6 日常生活で留意する必要がないこと
- 7 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 8 特に発信すべき情報はない
- 9 その他（具体的に記入してください。）

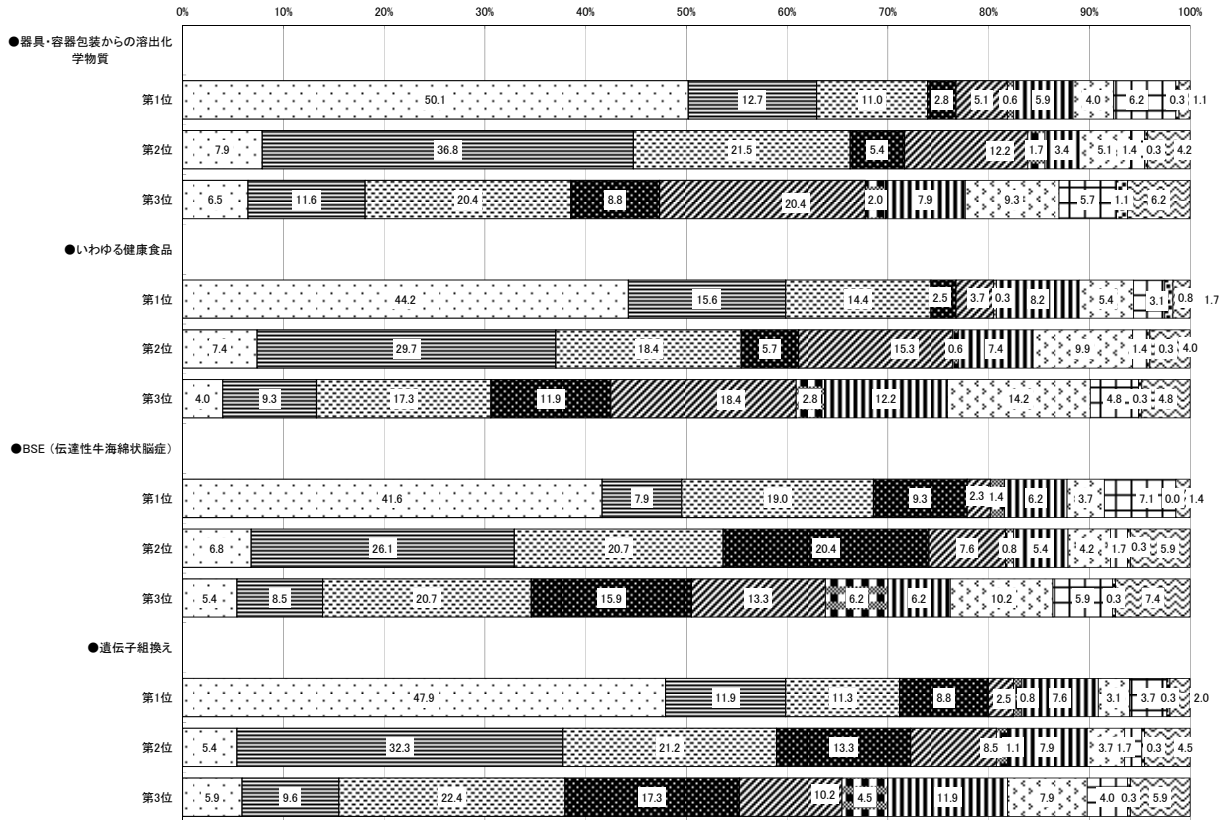
- ◆ 食品安全モニター自身が求めている情報の第1位から第3位を合計し、その中の上位3項目をみると、第1位は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」、「器具・容器包装からの溶出化学物質」、「いわゆる健康食品」、「遺伝子組換え」では「基本情報（例：どのようなものであるか、リスクの大きさ等）」が、「農薬」、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」及び「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」では「リスク管理機関でリスク管理をしている内容」との回答割合が最も高くなっている。また、「食品添加物」では「基本情報」と「それに関する主な食品健康影響評価」が、「放射性物質」では「基本情報」と「リスク管理機関でリスク管理をしている内容」が、それぞれ同じ割合で最も高かった。
- ◆ 第2位は、「放射性物質」、「農薬」、「器具・容器包装からの溶出化学物質」及び「いわゆる健康食品」では「それに関する主な食品健康影響評価の内容」であった。「食品添加物」、「遺伝子組換え」では「リスク管理機関でリスク管理をしている内容」、「汚染物質（カドミウム・メチル水銀等）」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」では「基本情報」であった。また、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」では「日常生活で留意すべきこと」であった。
- ◆ 第3位は、「食品添加物」では「新たに使用許可となったもの、新たな知見」、「放射性物質」では「日常生活で留意すべきこと」、「BSE（伝達性牛海綿状脳症）」では「諸外国の状況」であった。

食品安全モニター自身が求めている情報(上位3項目)

	第1位		第2位		第3位	
有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等	基本情報	22.3%	日常生活で留意すべきこと	19.6%	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	17.8%
食品添加物	●基本情報 ●それに関する主な食品健康影響評価の内容	18.5% 18.5%	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	16.7%	新たに使用許可となったもの、新たな知見	16.5%
放射性物質	●基本情報 ●リスク管理機関でリスク管理をしている内容	21.4% 21.4%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	17.7%	日常生活で留意すべきこと	13.2%
農薬	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	19.6%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	19.2%	基本情報	18.7%
汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	20.2%	基本情報	20.1%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	19.0%
器具・容器包装からの溶出化学物質	基本情報	21.5%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	20.4%	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	17.7%
いわゆる健康食品	基本情報	18.5%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	18.2%	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	16.7%
BSE(伝達性牛海綿状脳症)	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	20.1%	基本情報	17.9%	諸外国の状況	15.2%
遺伝子組換え	基本情報	19.7%	リスク管理機関でリスク管理をしている内容	18.3%	それに関する主な食品健康影響評価の内容	17.9%

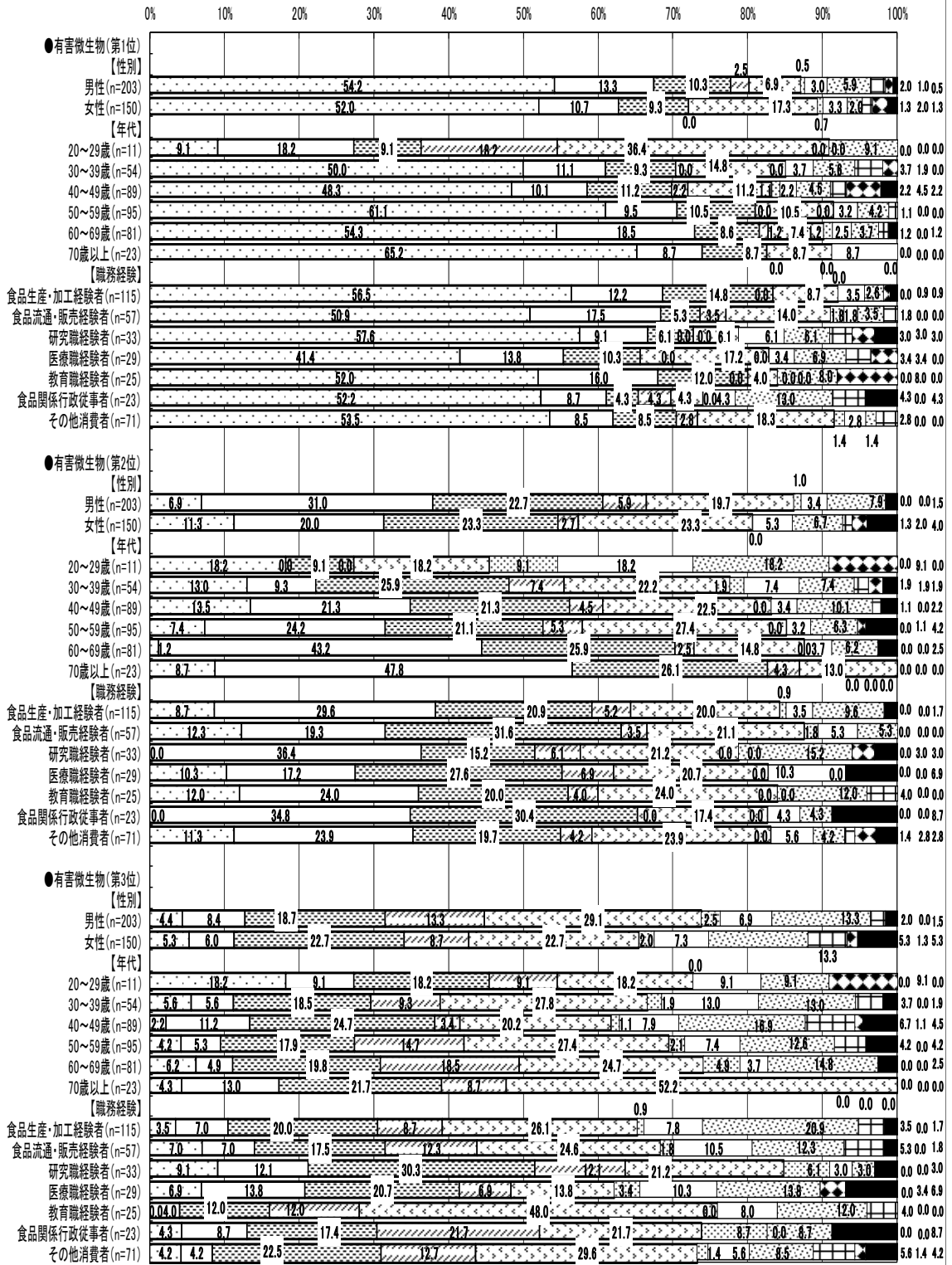


食品安全モニター自身が求めている情報(続き)



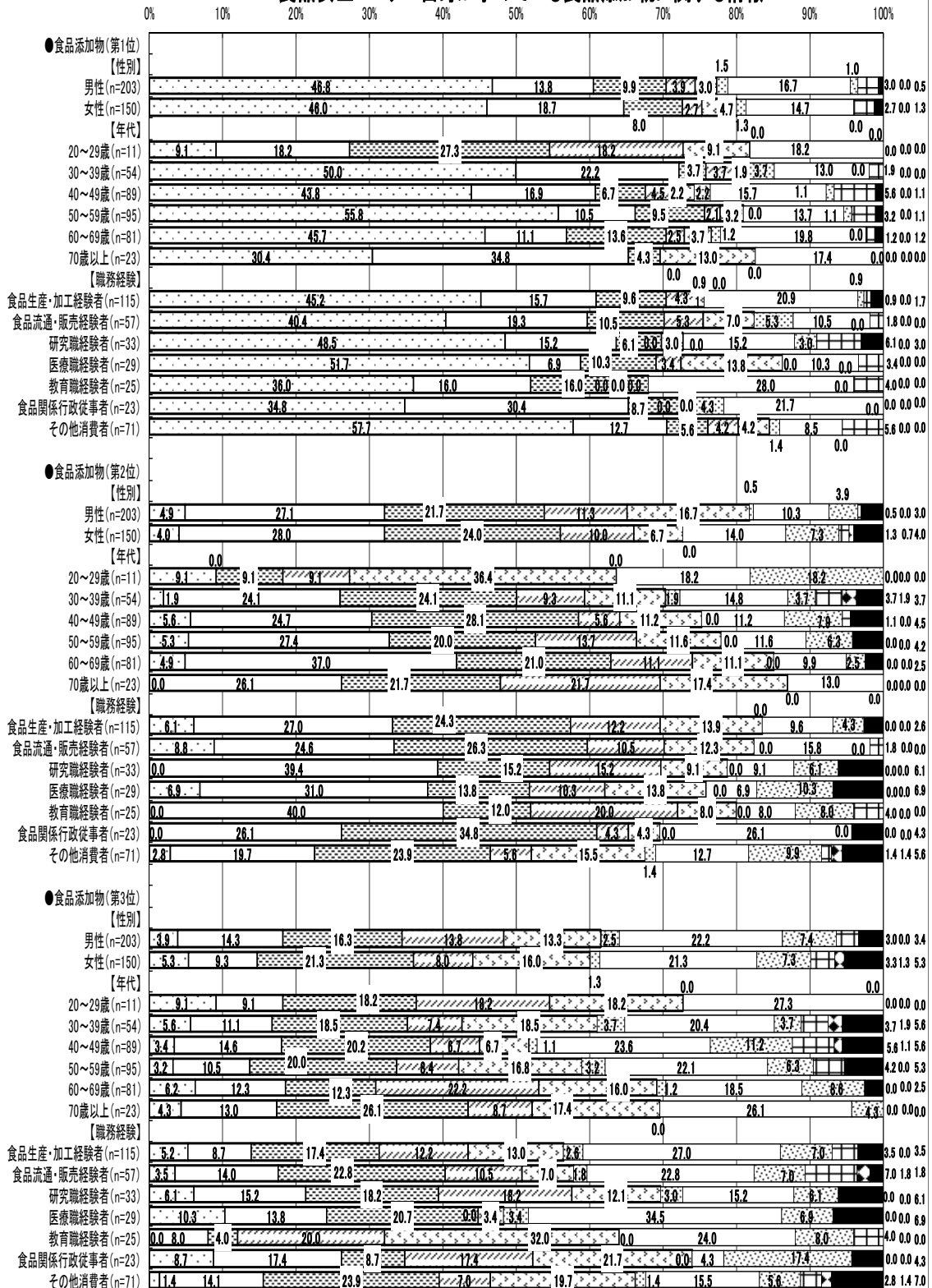
- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

食品安全モニター自身が求めている有害微生物(細菌等、ウイルス等による食中毒等)に関する情報



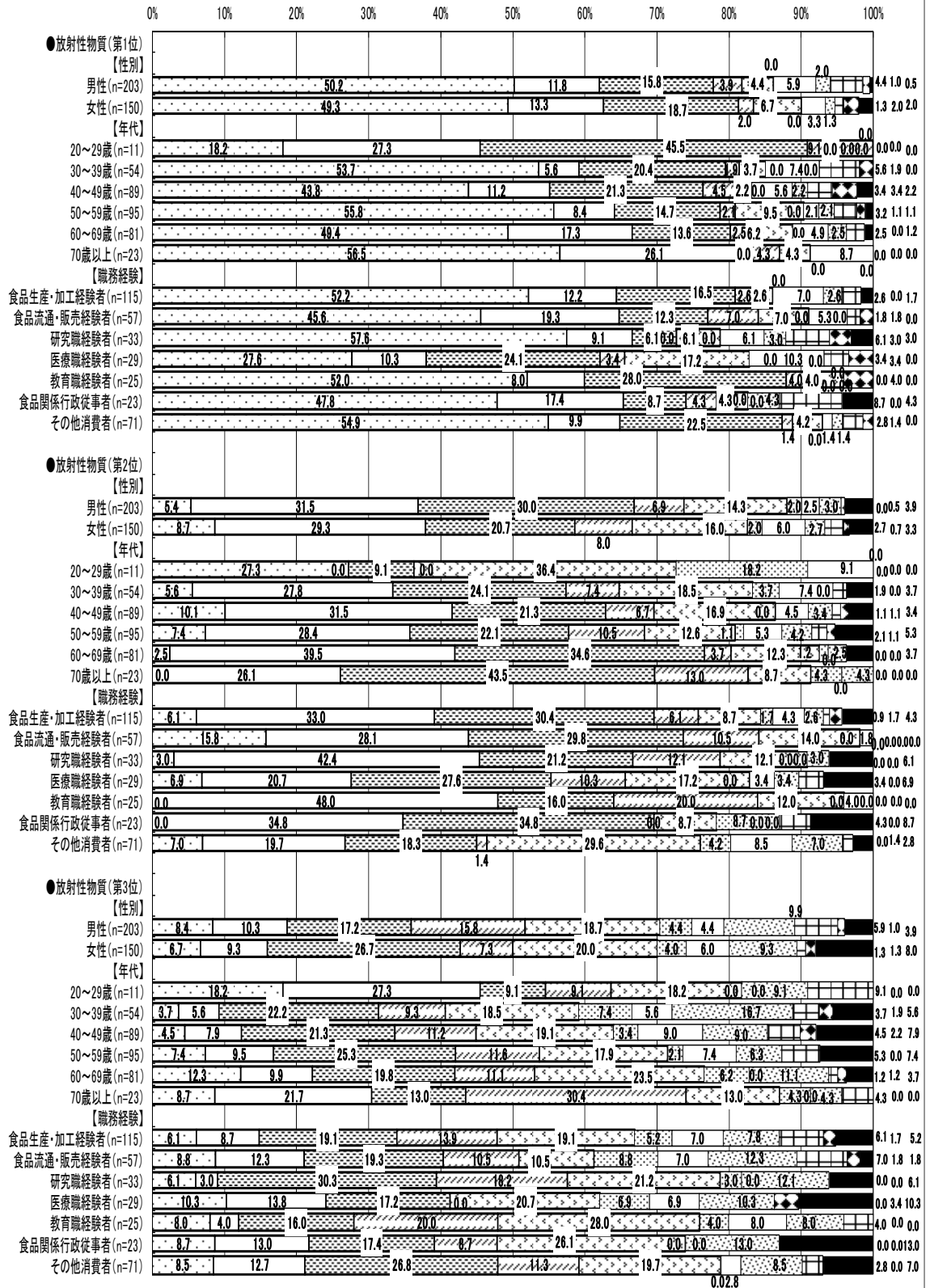
- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

食品安全モニター自身が求めている食品添加物に関する情報



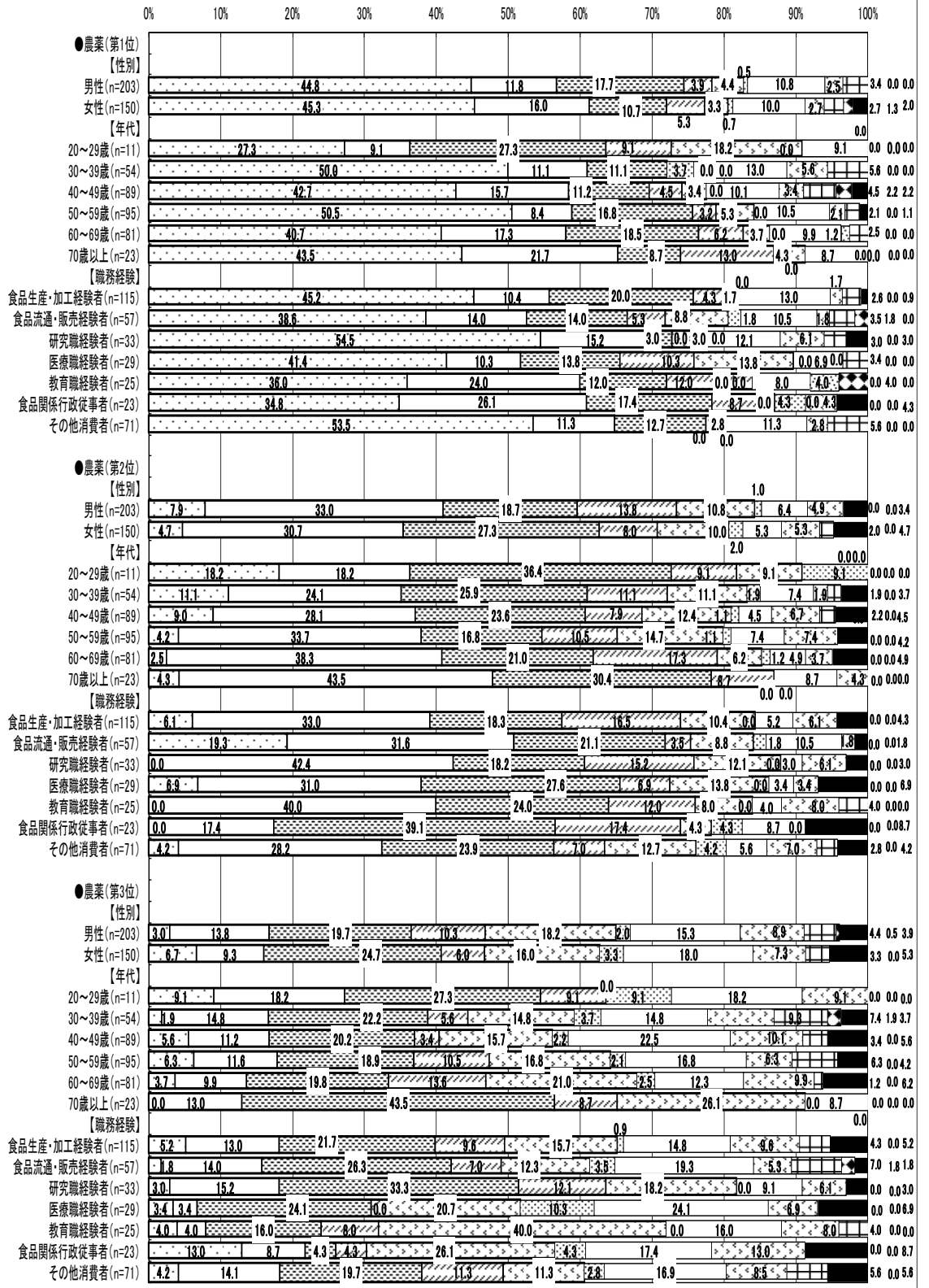
- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

食品安全モニター自身が求めている放射性物質に関する情報



- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

食品安全モニター自身が求めている農薬に関する情報



食品安全モニター自身が求めている汚染物質に関する情報

●汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)(第1位)

【性別】

男性(n=203)

女性(n=151)

【年代】

20~29歳(n=11)

30~39歳(n=54)

40~49歳(n=89)

50~59歳(n=95)

60~69歳(n=82)

70歳以上(n=23)

【職務経験】

食品生産・加工経験者(n=116)

食品流通・販売経験者(n=57)

研究職経験者(n=33)

医療職経験者(n=29)

教育職経験者(n=25)

食品関係行政従事者(n=23)

その他消費者(n=71)

●汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)(第2位)

【性別】

男性(n=203)

女性(n=151)

【年代】

20~29歳(n=11)

30~39歳(n=54)

40~49歳(n=89)

50~59歳(n=95)

60~69歳(n=82)

70歳以上(n=23)

【職務経験】

食品生産・加工経験者(n=116)

食品流通・販売経験者(n=57)

研究職経験者(n=33)

医療職経験者(n=29)

教育職経験者(n=25)

食品関係行政従事者(n=23)

その他消費者(n=71)

●汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)(第3位)

【性別】

男性(n=203)

女性(n=151)

【年代】

20~29歳(n=11)

30~39歳(n=54)

40~49歳(n=89)

50~59歳(n=95)

60~69歳(n=82)

70歳以上(n=23)

【職務経験】

食品生産・加工経験者(n=116)

食品流通・販売経験者(n=57)

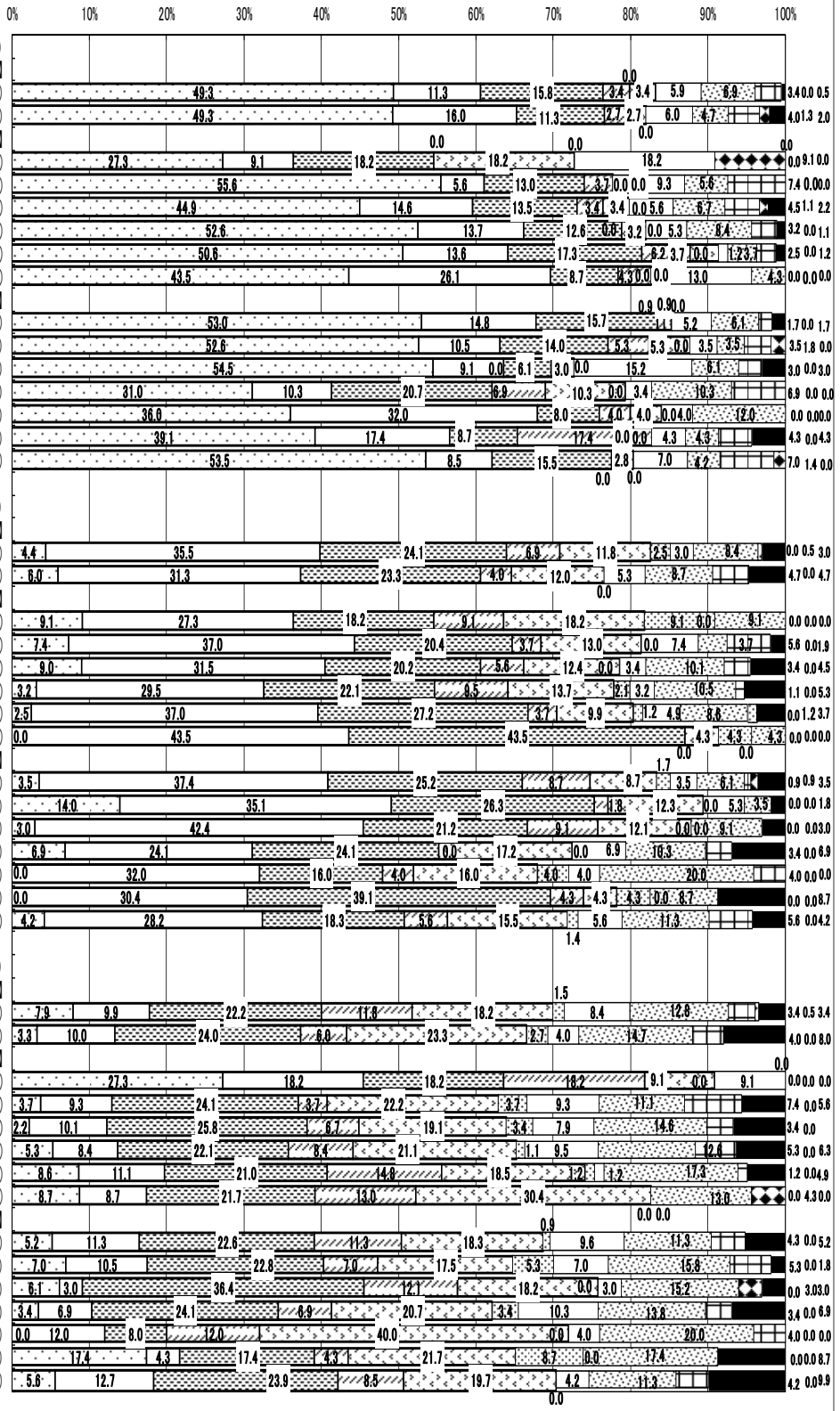
研究職経験者(n=33)

医療職経験者(n=29)

教育職経験者(n=25)

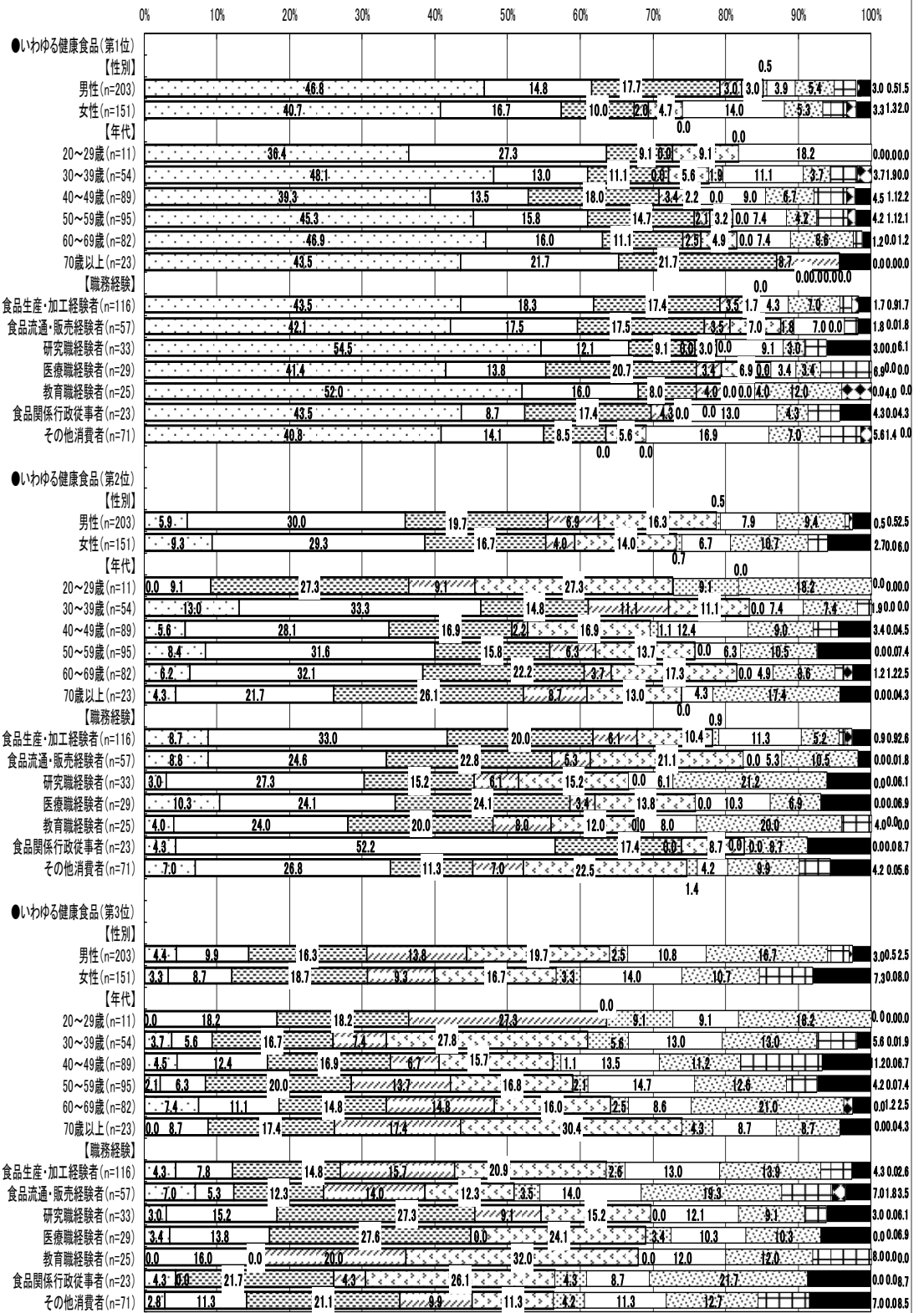
食品関係行政従事者(n=23)

その他消費者(n=71)



- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

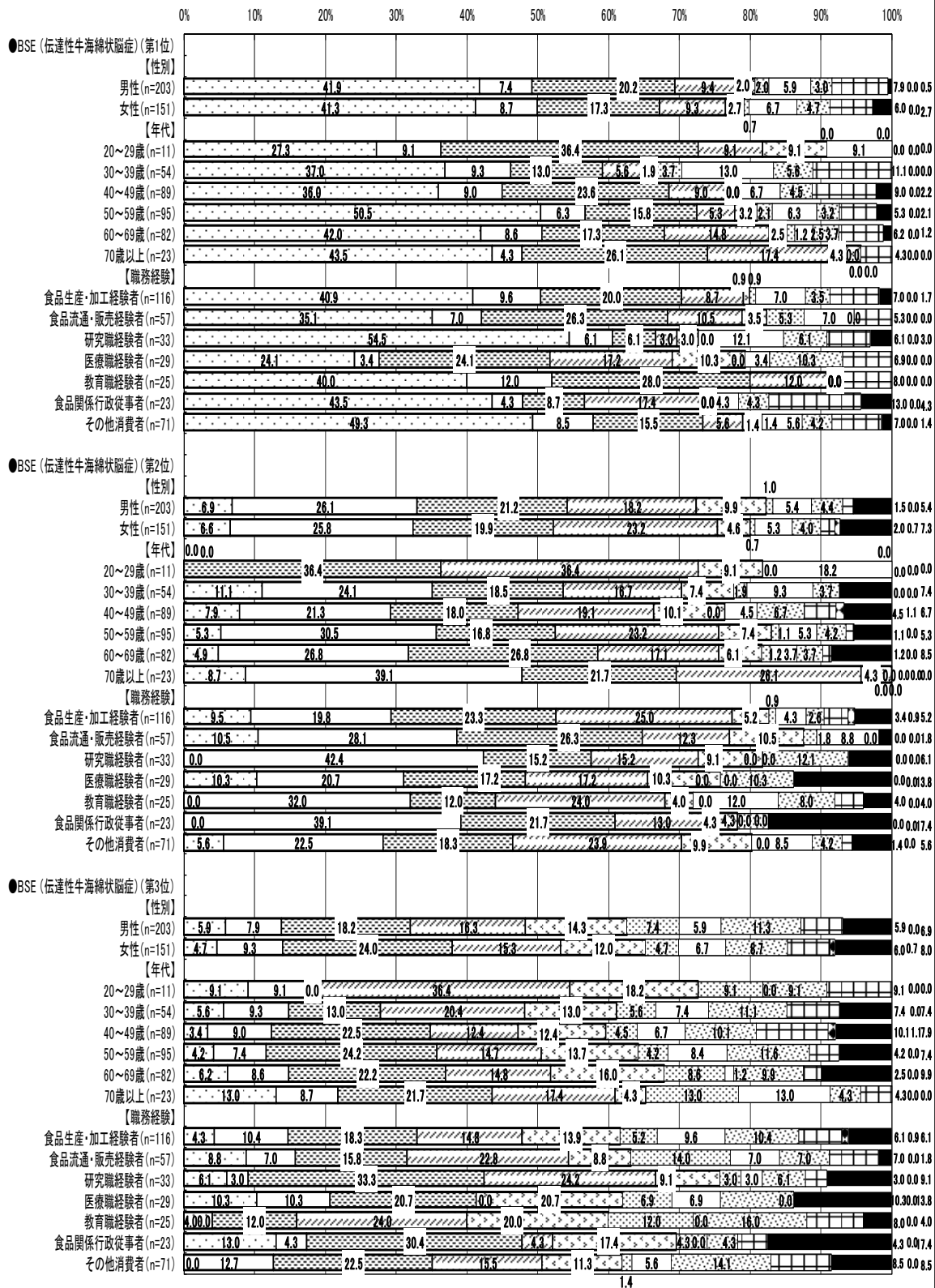
食品安全モニター自身が求めているいわゆる健康食品に関する情報



基本情報(例:どのようなものなのか、リスクの大きさ等)
 リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
 日常生活で留意すべきこと
 新たに使用許可となったもの、新たな知見
 特に求めている情報はない
 無回答・無効回答

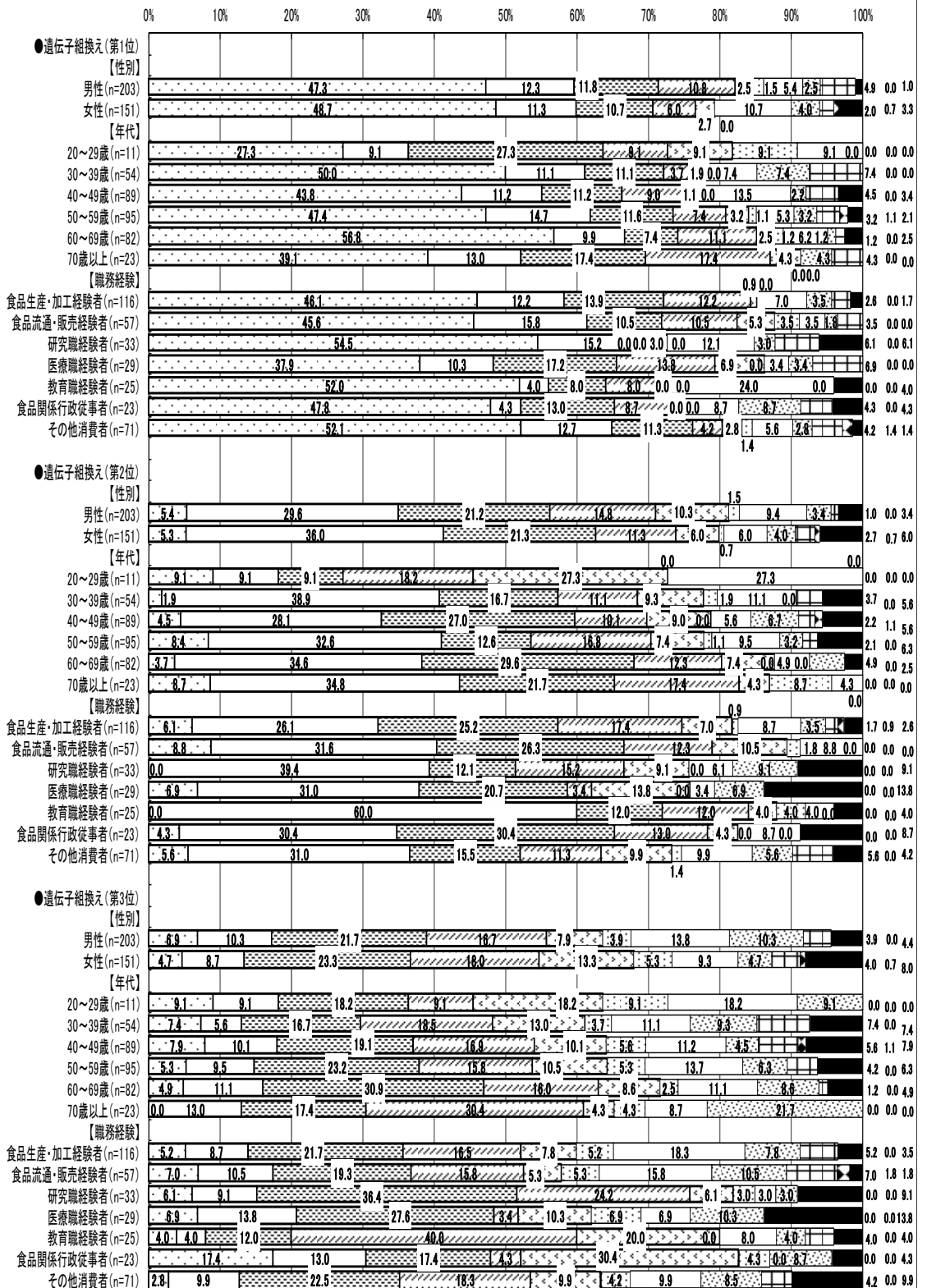
それに関する主な食品健康影響評価の内容
 諸外国の状況
 日常生活で留意する必要がないこと
 過去の健康被害
 その他

食品安全モニター自身が求めているBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報



- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要があること
- 過去の健康被害
- その他

食品安全モニター自身が求めている遺伝子組換えに関する情報



- 基本情報(例:どのようなものであるのか、リスクの大きさ等)
- リスク管理機関(厚労省等)でリスク管理をしている内容
- 日常生活で留意すべきこと
- 新たに使用許可となったもの、新たな知見
- 特に求めている情報はない
- 無回答・無効回答
- それに関する主な食品健康影響評価の内容
- 諸外国の状況
- 日常生活で留意する必要がないこと
- 過去の健康被害
- その他

問 11：その他（ハザード等について求めている情報）

（1）有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に関する情報

I．第1位（回答者数5名）

被害速報、職の専門分野ですので、常に最新の情報を求めます発生状況、被害状況、また発生させた施設の状況などの回答があった。

II．第2位（回答者数3名）

厚生労働省からの通知、検査方法の改正など、現在の健康被害・発生状況などの回答があった。

III．第3位（回答者数2名）

最新の健康被害例、実態調査結果などの回答があった。

（2）食品添加物に関する情報

I．第1位（回答者数0名）

II．第2位（回答者数1名）

III．第3位（回答者数2名）

一般人が不安を訴える点についての明確な回答などの回答があった。

（3）放射性物質に関する情報

I．第1位（回答者数5名）

検査の徹底とその情報提供、政治的にねじ曲げられる前のデータ、文献などの回答があった。

II．第2位（回答者数2名）

起こしてしまった事故について早期の情報開示などの回答があった。

III．第3位（回答者数4名）

高濃度汚染魚種等、これからの方針と安全対策などの回答があった。

（4）農薬に関する情報

I．第1位（回答者数2名）

具体的な食品への残留量、特定農薬についてなどの回答があった。

II．第2位（回答者数0名）

III．第3位（回答者数1名）

食品事業者が行うリスク管理の具体的な手法などの回答があった。

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に関する情報

I. 第1位（回答者数2名）

米などへの残留量、どのくらい出回っているかという現状などの回答があった。

II. 第2位（回答者数1名）

高濃度地域での作付規制等などの回答があった。

III. 第3位（回答者数1名）

食品中の濃度を計測したデータを知りたい、などの回答があった。

(6) 器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報

I. 第1位（回答者数1名）

どのくらい出回っているかという、現状などの回答があった。

II. 第2位（回答者数1名）

惣菜弁当などの容器の安全性などの回答があった。

III. 第3位（回答者数4名）

発泡スチロール容器の溶出と許容量、食堂のメラミン食器の健康被害などの回答があった。

(7) いわゆる健康食品に関する情報

I. 第1位（回答者数3名）

規制改革の行方、含有成分の安全性などの回答があった。

II. 第2位（回答者数1名）

行政の対応の今後、特に積極的な関与などの回答があった。

III. 第3位（回答者数1名）

最近の事例、業者への指導はどのようなものかの情報などの回答があった。

(8) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報

I. 第1位（回答者数0名）

II. 第2位（回答者数1名）

正確で安心できるトレーサビリティなどの回答があった。

III. 第3位（回答者数1名）

政府の考えなどの回答があった。

(9) 遺伝子組換えに関する情報

I. 第1位 (回答者数1名)

購入したくないので正確な表示 (加工品や混入の可能性も) などの回答があった。

II. 第2位 (回答者数1名)

加工品混入率など、情報開示などの回答があった。

III. 第3位 (回答者数1名)

ひとつの大企業による、地球全体の食糧支配につながることの広報などの回答があった。

③ハザード等に関する情報が必要な理由（問12）

問12 あなたが問11のようなハザード等に関する情報が必要な理由は、仕事上知っておくべきものだからですか、或いは日常生活において知っておくべきものだからですか。当てはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

【選択肢】

- 1 仕事上知っておくべきもの
- 2 どちらかというと仕事上知っておくべきもの
- 3 どちらかというと日常生活において知っておくべきもの
- 4 日常生活において知っておくべきもの
- 5 その他（具体的に記入してください）

- ◆ 各属性全体の回答の割合は、「どちらかというと仕事上知っておくべきこと」（30.0%）、「どちらかというと日常生活において知っておくべきこと」（23.5%）、「仕事上知っておくべきこと」（21.5%）、「日常生活において知っておくべきこと」（21.2%）の順となっており、「仕事上知っておくべきこと」、「どちらかというと仕事上知っておくべきこと」の合計は51.5%、「日常生活において知っておくべきこと」、「どちらかというと日常生活において知っておくべきこと」の合計は46.7%である。

<ハザード等に関する情報が必要な理由の男女別回答割合>

- ◆ ハザード等に関する情報が必要な理由を男女別で比べると、男性で「仕事上知っておくべきもの」との回答の割合は女性に比べ高い。

<ハザード等に関する情報が必要な理由の職務経験区分別回答割合>

- ◆ 「仕事上知っておくべきこと」との回答の割合は、「教育職経験者」が36.0%と他の職務経験区分に比べて最も高い。「仕事上知っておくべきこと」、「どちらかというと仕事上知っておくべきこと」との回答の割合の合計は、「食品流通・販売経験者」で68.5%と他の職務経験区分に比べて最も高く、次いで「研究職経験者」が63.6%、「食品生産・加工経験者」が62.6%の順となっている。

④周囲への情報提供（問13）

問13 あなたは、食品安全モニターとして、A～Mに掲げるハザード等について、周囲の方々に情報提供を行ったこと（地域活動・講演会・セミナー等については具体的な予定も含む）がありますか。それぞれの事項について、どの範囲の方に情報提供を行ったかについて、選択肢1～6の中から当てはまるものを全て選択してください。また、A～Mのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「N その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～6の中から当てはまるものを全て選択してください。

【ハザード等】

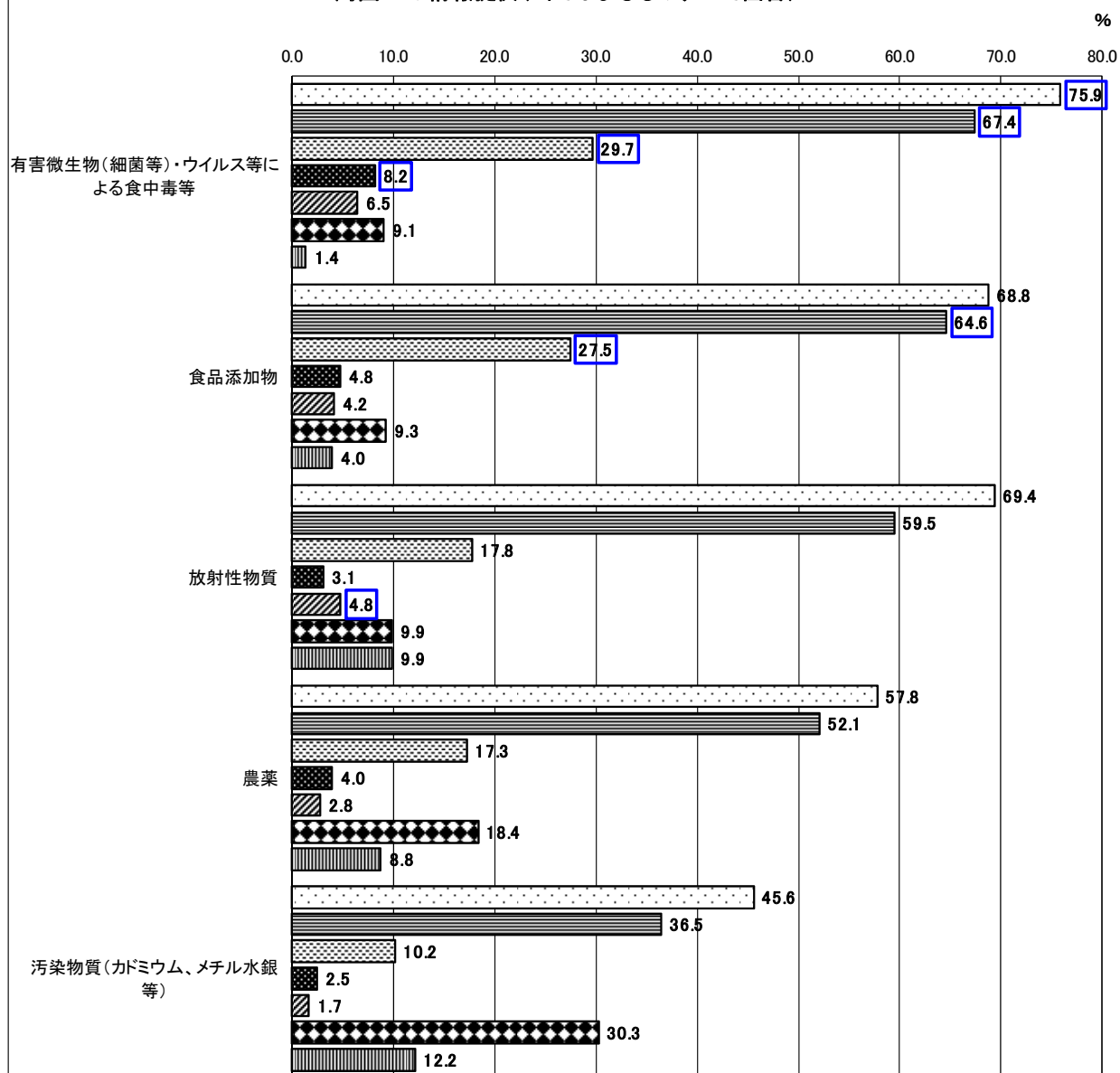
- A 有害微生物（細菌等）・ウイルス等による食中毒等
- B 食品添加物
- C 放射性物質
- D 農薬
- E 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）
- F 器具・容器包装からの溶出化学物質
- G いわゆる健康食品
- H BSE（伝達性牛海綿状脳症）
- I 遺伝子組換え
- J 食品の保存・保管に関すること全般
- K 調理時のリスクに関すること全般
- L 食肉の生食のリスクに関すること全般
- M 食品安全委員会の活動について
- N その他（具体的に記入してください）

【選択肢】

- 1 自分の家族・親族に話したことがある
- 2 友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある
- 3 地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある
- 4 地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある
- 5 自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある
- 6 行ったことはない

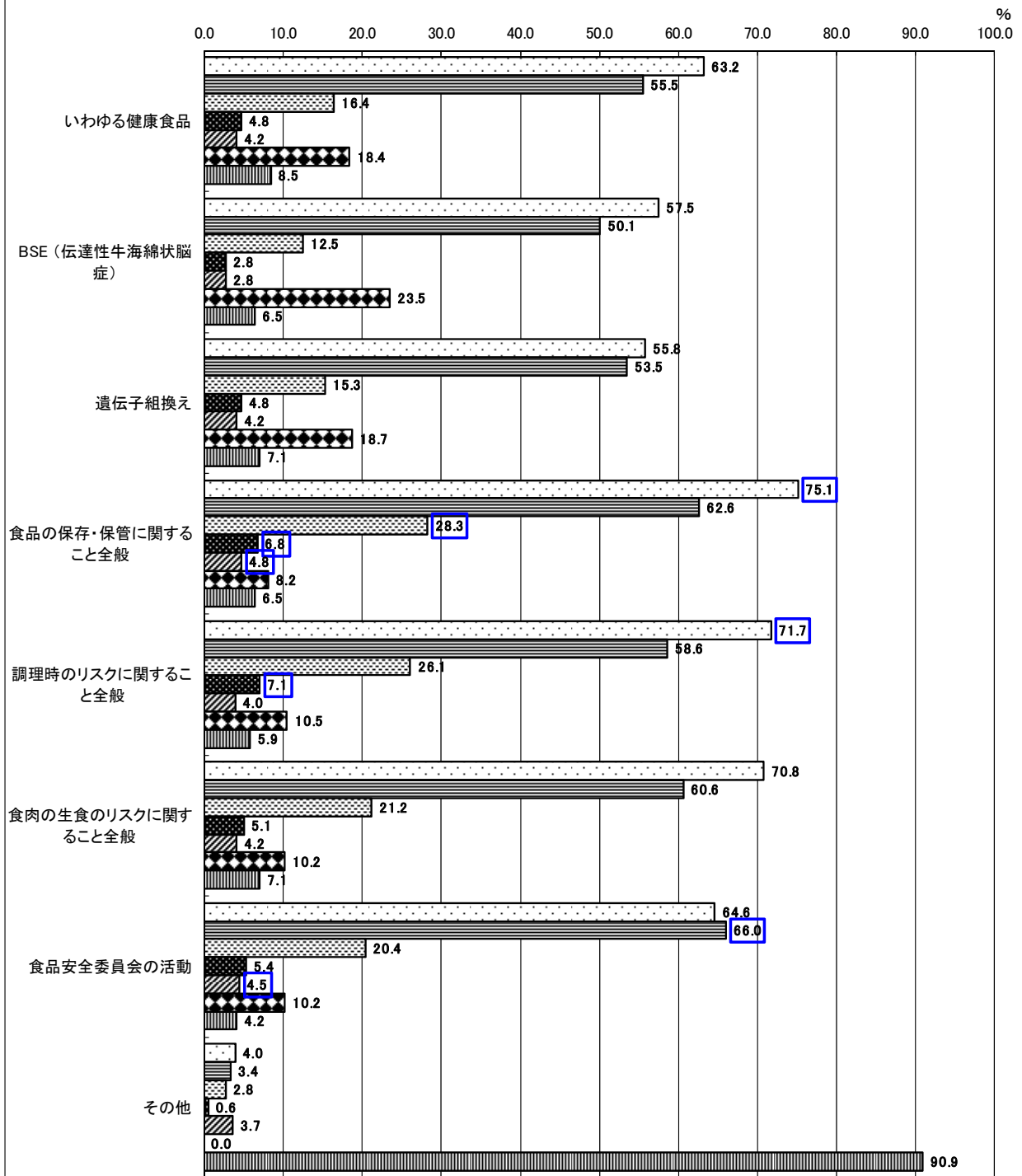
- ◆ 「自分の家族・親族に話したことがある」との回答の割合が最も高いハザード等は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等」、次いで「食品の保存、保管に関すること全般」、「調理時のリスクに関すること全般」の順である。
- ◆ 「友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある」との回答の割合が最も高いハザード等は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等」、次いで「食品安全委員会の活動」、「食品添加物」の順である。
- ◆ 「地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある」との回答の割合の合計が最も高いハザード等は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等」、次いで「食品の保存、保管に関すること全般」、「食品添加物」の順である。
- ◆ 「地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある」との回答の割合の合計が最も高いハザード等は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等」、次いで「調理全般のリスクに関すること」、「食品の保存、保管に関すること全般」である。
- ◆ 「自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある」との回答の割合が最も高いハザード等は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等」、次いで「放射性物質」並びに「食品の保存、保管に関すること全般」、「食品安全委員会の活動」である。

周囲への情報提供(当てはまるものすべて回答)



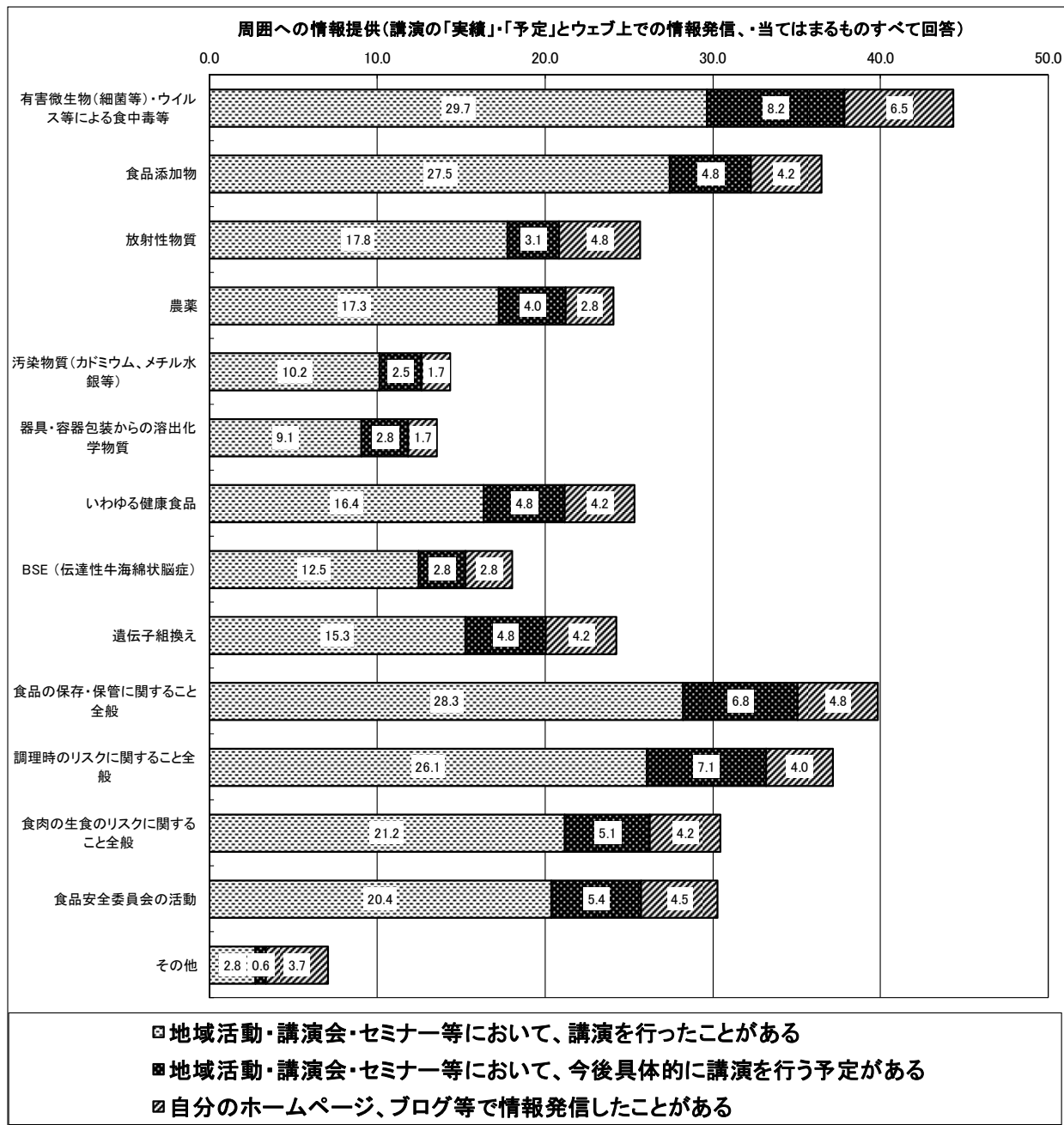
- 自分の家族・親族に話したことがある
- 友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある
- 地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある
- 地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある
- 自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある
- 行ったことはない
- 無回答・無効回答

周囲への情報提供(当てはまるものすべて回答)(続き)



- 自分の家族・親族に話したことがある
- ▨ 友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある
- ▩ 地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある
- 地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある
- ▨ 自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある
- 行ったことはない
- ▨ 無回答・無効回答

- ◆ 地域活動・講演会・セミナー、自分のホームページ、ブログ等で情報提供を行ったことがある、または今後具体的に講演を行う予定があるとする回答の割合の合計が高いものの上位3事項（ハザード等）は、「有害微生物（細菌等）・ウイルス等による食中毒等」、「食品の保存・保管に関すること全般」、「食品添加物」の順となっている。



問13：その他（周囲への情報提供）（回答者数 20 名）

周囲に情報提供を行ったことがある「その他」のハザードについて回答があった 20 名のうち、10 名について、地域活動・講演会・セミナー等について、「講演を行ったことがある」、「具体的に講演を行う予定がある」との回答があったもの、及び「自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある」ものとして、以下の回答があった。

職務経験	ハザード	情報提供	性別	年代
食品生産・加工 経験者	アレルギー物質	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	70 歳以上
	アレルギー物質を含む食品	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ④地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	男性	60～69 歳
食品流通・販売 経験者	特定原材料	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	40～49 歳
	人獣共通感染症	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	70 歳以上
医療職経験者	食品中の塩分	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ④地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	女性	60～69 歳
	TPP に関して	⑤自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	女性	40～49 歳
	飽和脂肪酸対策の遅れ	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	50～59 歳
食品関係行政従 事者	公衆衛生全般・衛生法規全般	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	60～69 歳
その他消費者	メディアバイアス含めて情報リテ ラシーについて	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	女性	40～49 歳
	食物アレルギーについて	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ⑤自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	男性	30～39 歳

4) 肉の生食について

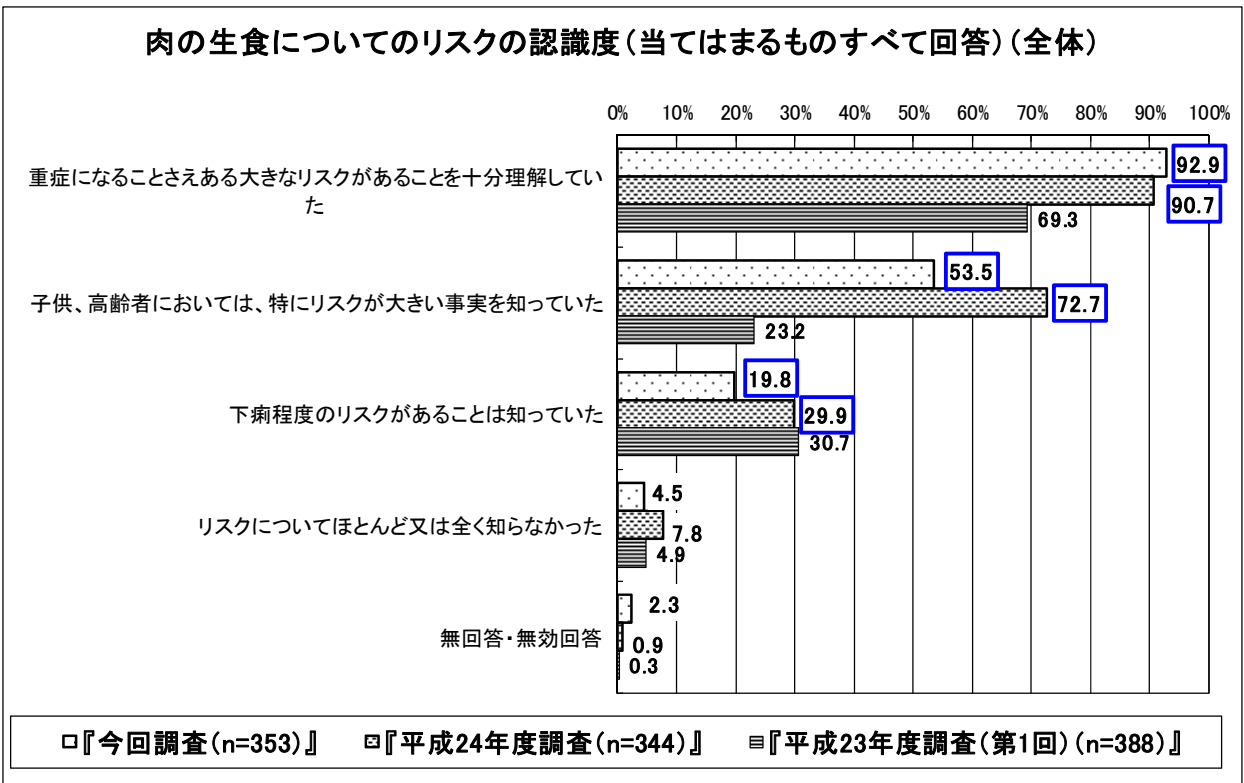
①肉の生食についてのリスクの認識度 (問 14)

問 1 4 肉 (臓器を含む) を生で食べることのリスクについて知っていますか。選択肢 1 ~ 4 の中から当てはまるものを全て選んでください。

【選択肢】

- 1 重症になることさえある大きなリスクがあることを十分理解している
- 2 下痢程度のリスクがあることは知っている
- 3 リスクについてほとんど又は全く知らない
- 4 子供、高齢者においては、特にリスクが大きい事実を知っている

- ◆ 生で肉を食べることについてのリスクの認識度の回答割合の高い順は、「重症になることさえある大きなリスクがあることを十分理解していた」(92.9%)、「子供、高齢者においては、特にリスクが大きい事実を知っていた」(53.5%)、「下痢程度のリスクがあることは知っていた」(19.8%)、「リスクについてほとんど又は全く知らなかった」(4.5%) の順となっており、上位 2 項目が突出していた。
- ◆ 今回調査と平成 24 年度調査を比べると、「重症になることさえある大きなリスクがあることを十分理解していた」で回答割合が増加している (2.2%増加、90.7%→92.9%) が、「子供、高齢者においては、特にリスクが大きい事実を知っていた」、「下痢程度のリスクがあることは知っていた」は、それぞれ減少 (19.2%減少、72.7%→53.4%、10.1%減少、29.9%→19.8%) となった。



②過去1年間の肉等の生食の状況（問15）

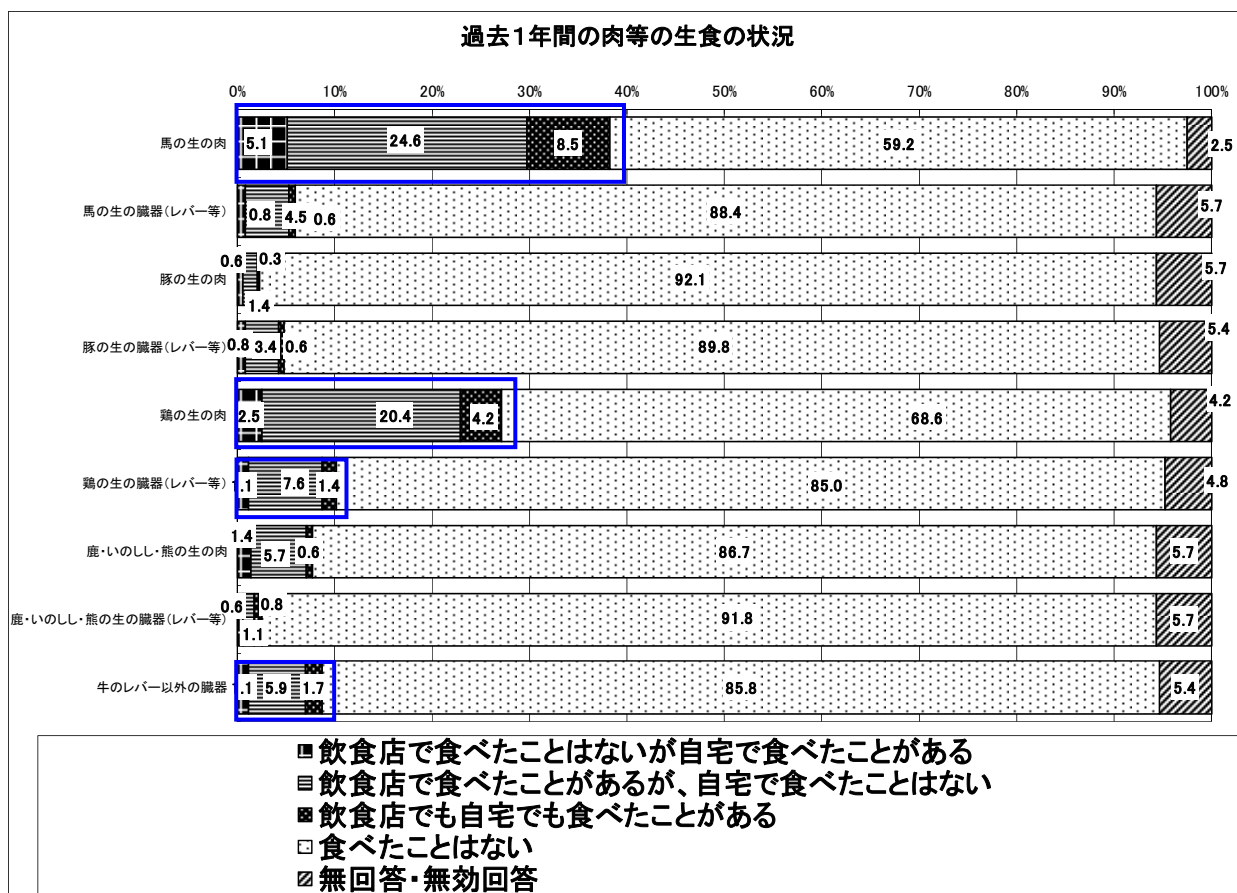
問15 過去1年間に馬、豚、鶏の肉（臓器を含む）等を生で食べたことがありますか。その場所について、肉の種類別に選択肢1～4の中から1つずつ選んでください。

【肉の種類】

【選択肢】

- | | |
|-----------------------|-------------------------------------|
| A 馬の生の肉 | 1 飲食店で食べたことは <u>ない</u> が自宅で食べたことがある |
| B 馬の生の臓器（レバー等） | 2 飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことは <u>ない</u> |
| C 豚の生の肉 | 3 飲食店でも自宅でも食べたことがある |
| D 豚の生の臓器（レバー等） | 4 食べたことはない |
| E 鶏の生の肉 | |
| F 鶏の生の臓器（レバー等） | |
| G 鹿・いのしし・熊の生の肉 | |
| H 鹿・いのしし・熊の生の臓器（レバー等） | |
| I 牛のレバー以外の臓器 | |

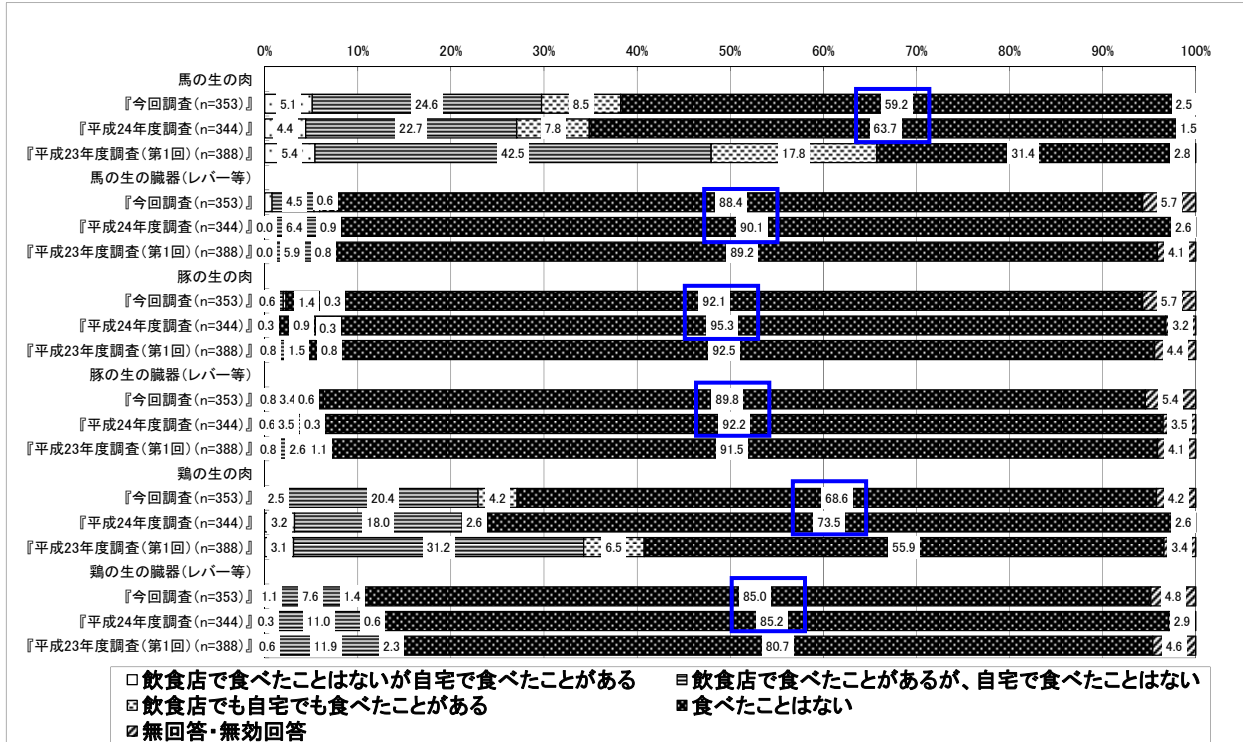
- ◆ 過去1年間に、馬、豚、鶏の肉（臓器を含む）等を生で食べたことの有無について、食べたことがあるとの回答の割合は、「馬の生の肉」（38.2%）、「鶏の生の肉」（27.1%）、「鶏の生の臓器」（レバー等）（10.1%）、「牛のレバー以外の臓器」（8.7%）の順となっている。
- ◆ また、食べたことがあると回答した人が食べた場所については、「飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない」との回答割合が全てにおいて最も高く、それぞれ20%以上であった。



<肉等の生食の状況の年度別回答割合>

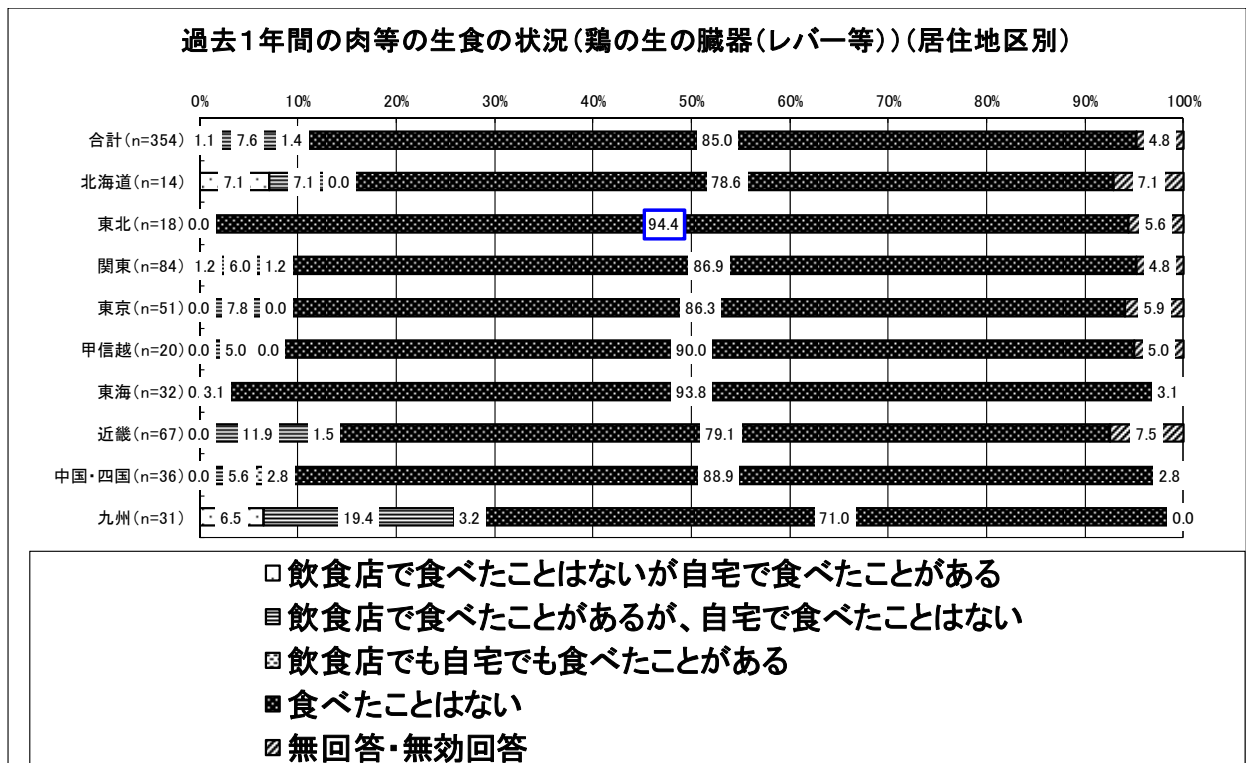
- ◆ 今回調査と平成 24 年度調査を比べると、全ての種類の肉について、生で「食べたことはない」との回答割合が減少している。

肉等の生食の状況の年度別回答割合



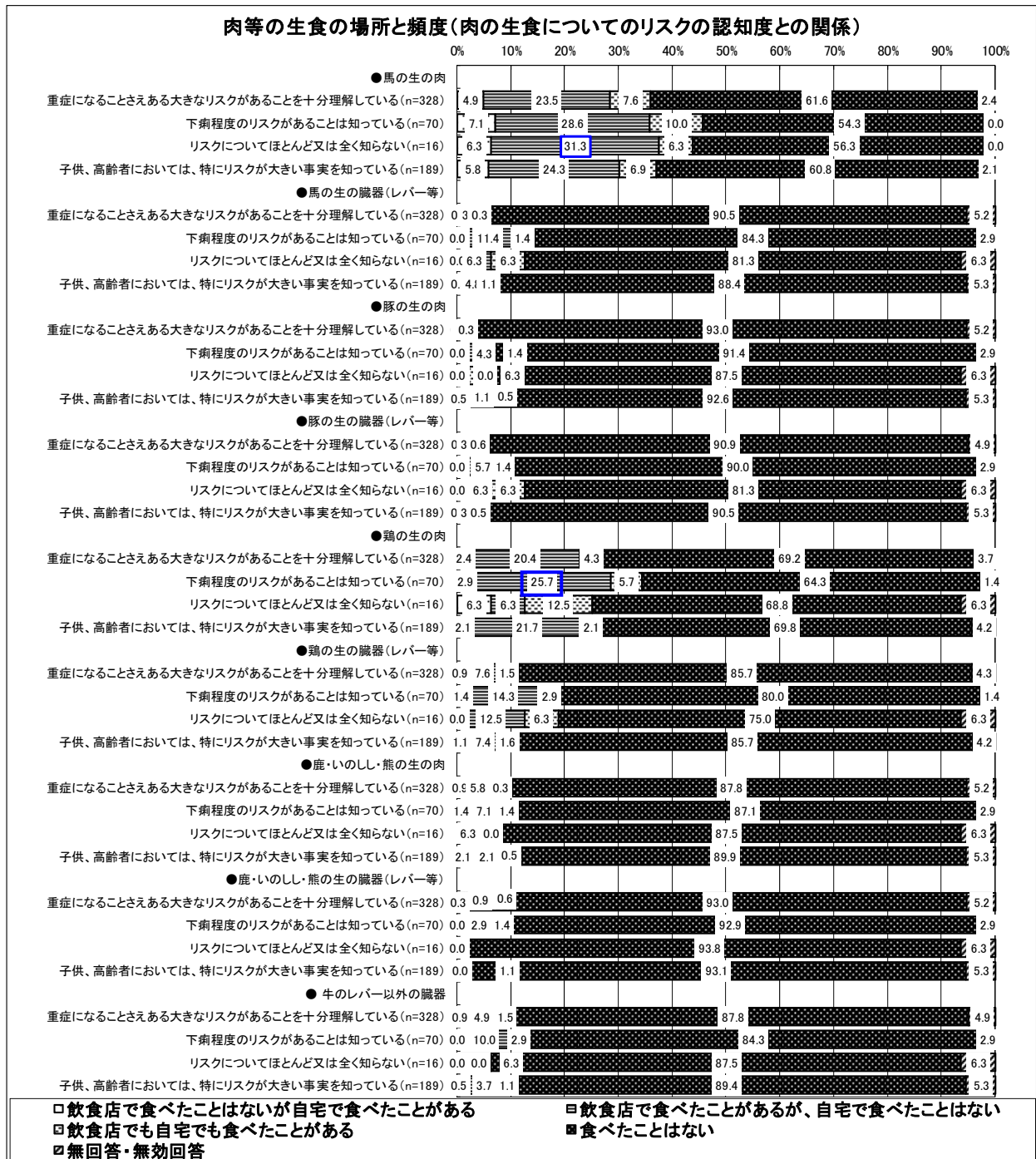
<過去1年間の肉等の生食の状況の居住地区別回答割合>

- ◆ 「馬の生の肉」について、居住地区別で比べると、「東海」で「食べたことはない」との回答割合が高くなっている。一方、「鶏の生の臓器（レバー等）」については、東北で「食べたことはない」との回答割合が高くなっている。



＜過去1年間の肉等の生食の状況の間14との関係＞

◆ 問14の生で肉を食べることについてのリスクの認知度との関係では、「馬の生の肉」について「飲食店で食べたことはあるが、自宅で食べたことはない」との回答の割合は、問14で生で肉を食べることについて「リスクについてほとんど又はまったく知らない」とした人で31.3%であり、他の選択肢に比べて高い。一方、「鶏の生の肉」については「飲食店で食べたことはあるが、自宅で食べたことはない」との回答の割合は、問14で「下痢等のリスクがあることは知っている」とした人で25.7%であり、他の選択肢に比べて高い。



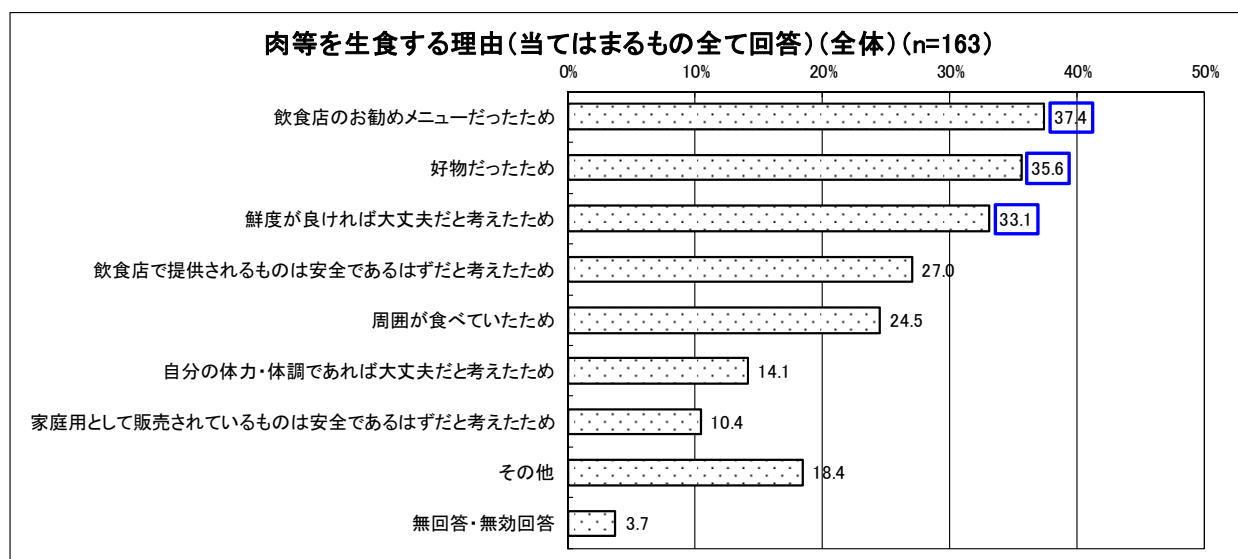
③肉等を生食する理由（問16）

問16 問15において食べたことがある方（1～3を選んだ方）にお聞きします。馬、豚、鶏の肉（臓器を含む）を生で食べた理由について、選択肢1～8の中から、当てはまるものを全て選んでください。

【選択肢】

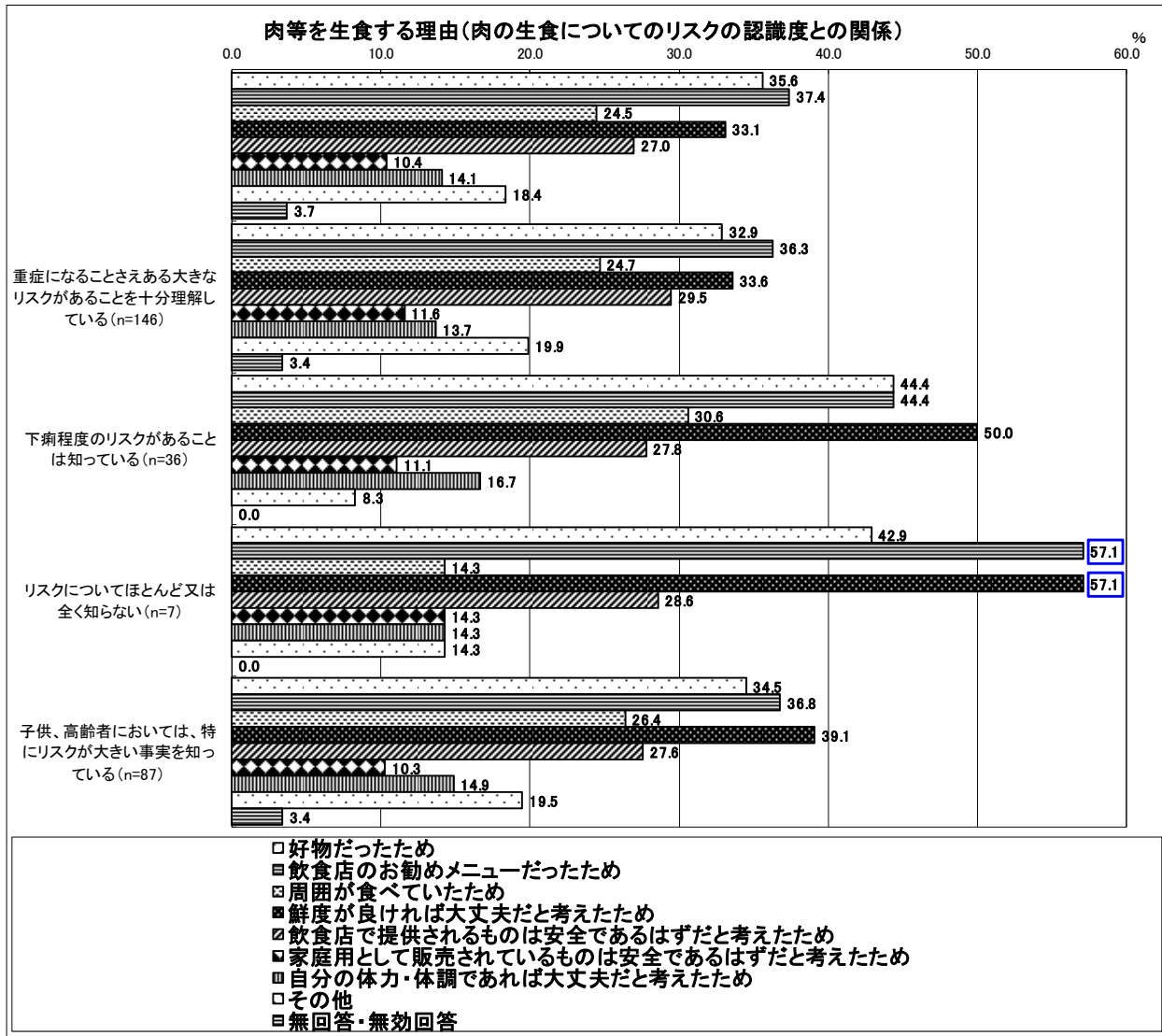
- 1 好物だったため
- 2 飲食店のお勧めメニューだったため
- 3 周囲が食べていたため
- 4 鮮度が良ければ大丈夫だと考えたため
- 5 飲食店で提供されるものは安全であるはずだと考えたため
- 6 家庭用として販売されているものは安全であるはずだと考えたため
- 7 自分の体力・体調であれば大丈夫だと考えたため
- 8 その他（具体的に記入してください）

◆ 生で肉等を食べる理由について、回答の割合が高いものの上位3事項は、「飲食店のお勧めメニューだったため」（37.4%）、「好物だったため」（35.6%）、「鮮度が良ければ大丈夫だと考えたため」（33.1%）となっている。



<肉等を生食する理由の問 14 との関係>

◆ 問 14 の生で肉等を食することについてのリスクの認知度との関係では、「飲食店のお勧めメニューだったため」及び「鮮度が良ければ大丈夫だと考えたため」との回答の割合は、問 14 で生で肉を食べることについて「リスクについてほとんど又はまったく知らない」とした人で 57.1% であり、他の選択肢に比べて高い。



問 16 : その他 (肉等を生食する理由) (回答者数 30 名)

馬肉については、安全性が十分に確保されていると考えたため、「食べる」行為は自己責任などの回答があった。

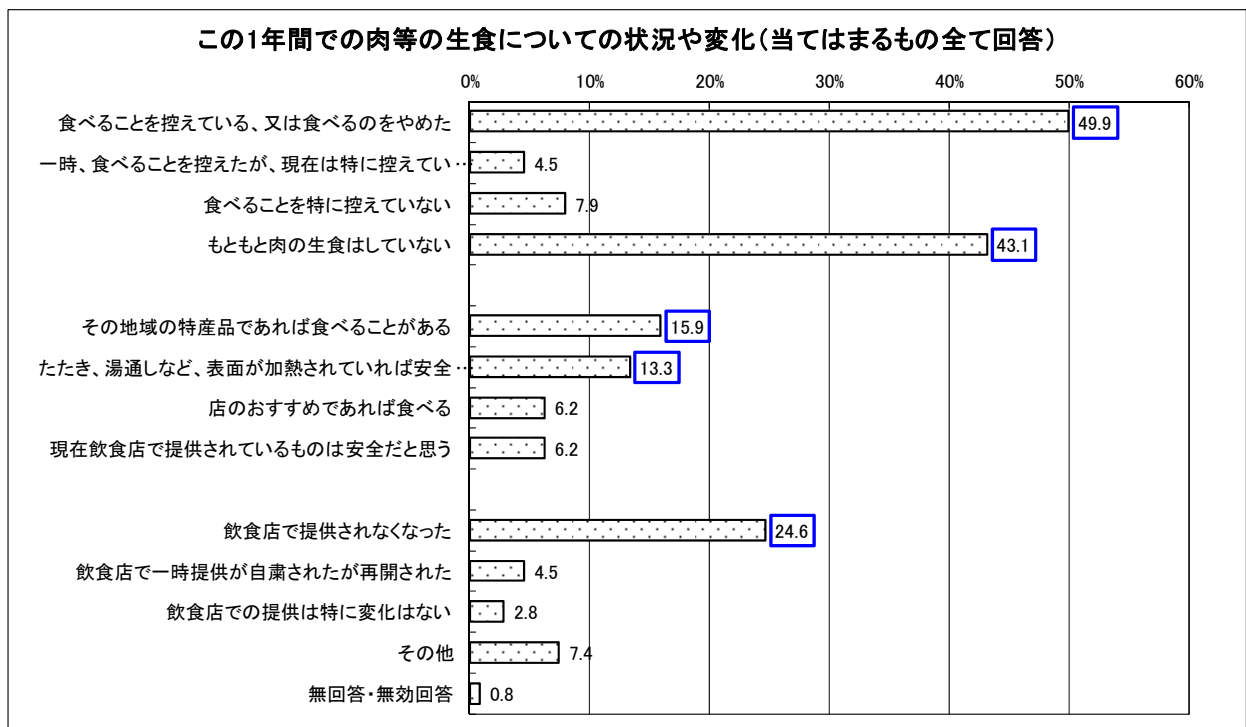
④この1年間での肉等の生食についての状況や変化（問17）

問17 この1年間の、あなたや、あなたの周りで肉の生食についての状況や変化について、以下の選択肢1～12の中から、当てはまるものを全て選んでください。

【選択肢】

- 1 食べることを控えている、又は食べるのをやめた
- 2 一時、食べることを控えたが、現在は特に控えていない
- 3 食べることを特に控えていない
- 4 もともと肉の生食はしていない
- 5 その地域の特産品であれば食べることがある
- 6 店のおすすめであれば食べる
- 7 飲食店で提供されなくなった
- 8 飲食店で一時提供が自粛されたが再開された
- 9 飲食店での提供は特に変化はない
- 10 現在飲食店で提供されているものは安全だと思う
- 11 たたき、湯通しなど、表面が加熱されていれば安全であると思う
- 12 その他（具体的に記入してください）

◆ この1年間での肉等の生食についての状況や変化について、喫食状況については「食べることを控えている、又は食べるのをやめた」（49.9%）、「もともと肉の生食はしていない」（43.1%）との回答の割合が高い。また、生で肉を食べることについての意識は、「その地域の特産品であれば食べることがある」（15.9%）、「たたき、湯通しなど、表面が加熱されていれば安全であると思う」（13.3%）との回答の割合が高い。周囲の飲食店での提供状況については、「飲食店で提供されなくなった」（24.6%）との回答の割合が高かった。



問17：その他（この1年間での肉等の生食についての状況や変化）（回答者数26名）

家族や友人、職場での飲食の機会には必ず食べない様に話をしております、好きではないなどの回答があった。

分類整理表

1) 食品の安全性に係る危害要因等について

②食品の安全性の観点から感じている不安の程度（問2）

問2 A～Lに掲げる事項について、食品の安全性の観点からあなたはどのように思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～5の中から1つずつ選んでください。また、A～Lのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「M その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～5の中から1つ選んでください。

問2のA～Lのハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるハザード等について、具体的な例を不安の程度（問2）、不安を感じる理由（問3）、不安を感じない理由（問4）を整理。

（回答者数=70人）

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由（その他）	不安を感じない理由	不安を感じない理由（その他）	職務経験	性別	年代
食品表示	①とても不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				その他	女性	60～69歳
表示基準	②ある程度不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				その他	女性	30～39歳
飲食店の衛生管理、偽装表示	②ある程度不安である	⑧その他				食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
食品添加物を表示した加工食品はないこと	②ある程度不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品流通・販売経験者	男性	60～69歳
アレルギー物質の表記ミス	②ある程度不安である	⑧その他	表示ルールがわかりにくいから			食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
表示違反（アレルギー物質等）	②ある程度不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
食品のアレルギー原材料に関する表示もれ・表示ミス	②ある程度不安である	⑧その他	アレルギー表示を行う事業者とリスクの負担者（食物アレルギーを持つ消費者）に知識の解離があるから			医療職経験者	女性	40～49歳
アレルギー物質	①とても不安である	⑤事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
アレルギー物質	②ある程度不安である	⑧その他	表示方法を統一すべきだから			食品生産・加工経験者	男性	70歳以上
食物アレルギー	②ある程度不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
アレルギー物質	②ある程度不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				食品流通・販売経験者	男性	70歳以上

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
食物アレルギーについて	②ある程度不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品生産・加工経験者	女性	30～39歳
食物アレルギー	①とても不安である	⑤事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品流通・販売経験者	男性	30～39歳
輸入食品	②ある程度不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
中国産食品	②ある程度不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				食品関係行政従事者	男性	60～69歳
中国を筆頭とした輸入食品	①とても不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
中国からの食品	②ある程度不安である	⑦漠然とした不安				その他	女性	50～59歳
中国からの輸入食品	①とても不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
輸入食品(特に中国)の問2の設定に掲載されているハザード等すべて	②ある程度不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				研究職経験者	男性	50～59歳
特に中国、韓国からの輸入食品について安全性に不安	①とても不安である					研究職経験者	男性	50～59歳
輸入食品	①とても不安である	②行政による規制が不十分				研究職経験者	男性	40～49歳
輸入食品	②ある程度不安である	⑤事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
輸入加工食品	①とても不安である	②行政による規制が不十分				医療職経験者	男性	60～69歳
輸入食品(中国など)	①とても不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				教育職経験者	女性	40～49歳
輸入食品の検疫体制	①とても不安である					食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
輸入加工食品	②ある程度不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
消費者、マスコミの食品に関する偏った見解	②ある程度不安である	⑧その他	法律遵守で営業していても、誤った知識、報道で、大騒動になるから			食品生産・加工経験者	男性	30～39歳
メディアの偏向報道	①とても不安である	①安全性についての科学的な根拠に疑問				食品流通・販売経験者	男性	40～49歳
報道の在り方、風評被害	①とても不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
マスメディアの意図的或いは不用意な報道	②ある程度不安である	⑦漠然とした不安				食品生産・加工経験者	男性	60～69歳

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
風評被害	①とても不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				研究職経験者	男性	50～59歳
食品に関する知識不足やモラル低下	①とても不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				その他	女性	50～59歳
食料不足	②ある程度不安である	⑧その他	日本の食糧自給率は低下しているから			食品流通・販売経験者	男性	50～59歳
食料不足	①とても不安である	①安全性についての科学的な根拠に疑問				その他	女性	40～49歳
日本の経済が破たんし、食糧が十分に輸入できなくなる事態	①とても不安である	⑧その他	量が不足すれば、どんなものでも食べなくてはならなくなるから			食品流通・販売経験者	男性	50～59歳
中国から飛来 of 汚染物質	②ある程度不安である					研究職経験者	男性	40～49歳
PM2.5などの公害	②ある程度不安である	①安全性についての科学的な根拠に疑問				教育職経験者	男性	60～69歳
桜島の火山灰	②ある程度不安である	⑧その他	火山灰の健康への影響についての研究事例が少ない、また公表されているかどうか不明だから			研究職経験者	男性	60～69歳
海産物の放射能汚染		⑦漠然とした不安				教育職経験者	女性	60～69歳
放射能汚染されたもの	②ある程度不安である	⑧その他	事業者の安全に対する感覚のズレがあるから			教育職経験者	男性	50～59歳
福島第一原発海洋に流出の放射線量による汚染水の水質問題	①とても不安である	⑧その他	海水汚染による魚介類の影響があるから			その他	女性	50～59歳
汚染物質(環境ホルモンなど)	③あまり不安を感じない			⑦漠然とした安心		食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
特定保健用食品と食品、薬物との相互作用	①とても不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				教育職経験者	女性	50～59歳
薬品物摂取に因る健康被害		①安全性についての科学的な根拠に疑問				食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
サプリメント	①とても不安である	②行政による規制が不十分				食品流通・販売経験者	男性	70歳以上
食品の安全・衛生・偽装・隠蔽	①とても不安である	③事業者の法令遵守や衛生管理が不十分				食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
偽装	②ある程度不安である	⑧その他	TPPなどもあり、信用のできない食品も増えるであろうから			その他	女性	20～29歳
自然毒	②ある程度不安である	⑦漠然とした不安				食品生産・加工経験者	女性	40～49歳

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
自然毒	③あまり不安を感じない			⑦漠然とした安心		食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
カビ毒	②ある程度不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
食塩(財団法人塩事業センターが販売する塩化ナトリウム99%以上の国産塩)	①とても不安である	①安全性についての科学的な根拠に疑問				その他	男性	50～59歳
人工甘味料	②ある程度不安である					教育職経験者	女性	60～69歳
海藻、魚類						その他	女性	50～59歳
アクリルアミド	②ある程度不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				食品流通・販売経験者	男性	60～69歳
化粧品により感作して食品アレルギーになりうるということ	②ある程度不安である	②行政による規制が不十分				食品生産・加工経験者	男性	30～39歳
飽和脂肪酸対策	①とても不安である	②行政による規制が不十分				医療職経験者	男性	50～59歳
テロ	②ある程度不安である	⑦漠然とした不安				研究職経験者	男性	60～69歳
食品テロ	②ある程度不安である	⑧その他	社会が食品犯罪に無頓着だから			食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
水道水への異物混入	①とても不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				食品流通・販売経験者	男性	60～69歳
異物混入	①とても不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				その他	男性	20～29歳
産地の曖昧さ		②行政による規制が不十分				教育職経験者	女性	40～49歳
賞味期限	①とても不安である	①安全性についての科学的な根拠に疑問				食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
信頼性(安全?安心?)	②ある程度不安である	⑥過去に問題になった事例があるために不安				その他	女性	40～49歳
具体的なハザードではないかもしれないが、TPP加盟による国内産業の崩壊	①とても不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				医療職経験者	女性	40～49歳
食品流通	①とても不安である	⑤事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				研究職経験者	女性	30～39歳
人口減少	①とても不安である	⑧その他	少子高齢化のため			食品流通・販売経験者	男性	60～69歳

ハザード	不安の程度	不安を感じる理由	不安を感じる理由(その他)	不安を感じない理由	不安を感じない理由(その他)	職務経験	性別	年代
電磁調理器	②ある程度不安である	⑦ 漠然とした不安				食品流通・販売経験者	男性	50～59 歳
ポストハーベスト、堆肥基準	①とても不安である	④行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分				医療職経験者	男性	60～69 歳
熱中症	②ある程度不安である	⑦ 漠然とした不安				食品生産・加工経験者	男性	70 歳以上
健康食品の定義						食品生産・加工経験者	男性	60～69 歳

③食品の安全性の観点から不安を感じている理由（放射性物質以外）（問3）

問3 問2のA～K及びMに掲げるハザード等において、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きます。それぞれのハザード等について、不安を感じる理由を選択肢1～8の中から1つつ選んでください。

（1）食品添加物に不安を感じている理由

（回答者数＝4人、うち1人が空欄）

回答	職務経験	性別	年代
輸入品についての不安があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
添加物の人体に与える影響があると思うが表示はされた加工食品はないため	食品流通・販売経験者	男性	60～69歳
	食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きい	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳

（2）農薬に不安を感じている理由

（回答者数＝10人）

回答	職務経験	性別	年代
特に輸入品等の生産状況が分かりにくい	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
海外からの食品に不安があるから	教育職経験者	女性	40～49歳
輸入品についての不安があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
行政による規制より取締りをきちんとすべきではないかと思うから	食品流通・販売経験者	男性	70歳以上
農薬自体の適正使用での安全性は理解できるが、農業者の使用適正に不安を感じ、農薬検査も公共流通品が主なもの、直売所や畑からの直接購入品の実態はわからない。特に、地域農産物などで趣味や、脱サラ後に生産者となる者や輸入品に不安があるから。（従来からの専業生産者は、生活がかかっている観点から信頼性は高い。）	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
TPPにより規制緩和される不安があるから	その他	女性	30～39歳
農家の危機意識低下を感じるから	その他	男性	20～29歳
海外からの輸入品の残留農薬問題に不安があるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
特に輸入食品に安全性を信頼する根拠が不十分だから	教育職経験者	女性	50～59歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きい	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳

(3) 家畜用抗生物質に不安を感じている理由

(回答者数=10人、うち1人が空欄)

回答	職務経験	性別	年代
海外特に中国など非常に安価なものは抜き打ち検査強化を願いたいから	医療職経験者	男性	40～49歳
特に輸入品等の生産状況が分かりにくいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
アメリカでは成長ホルモンを使用して飼育された乳牛に有害物質があると報告されている。これを受け、日本では「牛乳は飲むな」という風評被害が幼児の保護者中心に起きている。正確な情報が必要と感じるから	医療職経験者	女性	40～49歳
海外からの食品に不安があるから	教育職経験者	女性	40～49歳
輸入品についての不安があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
使用されている抗生物質量が多量だから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
	食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
薬剤耐性菌の出現が抑制されているという調査結果があるのだろうかと思うから	研究職経験者	男性	70歳以上
海外に於ける管理の不安とモニタリングの限界の不安があるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
輸入食品以外は各事業者の自主検査に頼るところが大きいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳

(4) 器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じている理由

(回答者数=6人、うち1人が空欄)

回答	職務経験	性別	年代
輸入品についての不安があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
十分な調査及び結果の報告に関して情報公開がされないまま使用されている現状があるから	医療職経験者	女性	40～49歳
	教育職経験者	女性	50～59歳
影響が何年後かだと”原因特定が難しい”とうやむやになり、安全追及できなくなりそうだから	医療職経験者	女性	50～59歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
消費者側の過加熱による化学物質の溶出が不安だから	食品流通・販売経験者	女性	40～49歳

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に不安を感じている理由

(回答者数=9人)

回答	職務経験	性別	年代
海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安であるため	教育職経験者	女性	40～49歳
輸入素材に関して摂取する場合は検疫を通して安全性は確認されていると判断し、あまり気にならないが、汚染物質対応しなければならないことに不安を感じるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
輸入品についての不安があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
カドミウムは土中に偏在するから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
米のカドミウムは国際規格より日本は高く、新潟での公害病を間近に見ているから。	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
体内に蓄積されていくから	その他	女性	50～59歳
特に輸入品は抜き取り検査のため	食品生産・加工経験者	女性	50～59歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
ひじき中のヒ素の妊婦への影響や、中国からの加工米中のカドミウムが心配だから	食品流通・販売経験者	女性	40～49歳

(6) 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に不安を感じている理由

(回答者数=26人、うち2人が空欄)

回答	職務経験	性別	年代
自分で防ぎきれないことがあるから	その他	女性	30～39歳
消費者の理解が不十分だから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
	食品生産・加工経験者	女性	30～39歳
食品を農水産物から製造、加工する以上本質的に不可避だから	食品流通・販売経験者	男性	50～59歳
食中毒はどんな時期に起きてもおかしくない状況である。まさか自分が当事者になるとは万人思っていない故に、食品の取り扱いの基本である手洗い、温度管理がなおざりになっているよう思えるから	医療職経験者	女性	40～49歳
海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安であるから	教育職経験者	女性	40～49歳
食中毒自体はいつどこで発生してもおかしくはないことであり、食習慣等考慮すると確実なリスク回避の方法がないこと、又自分自身で回避可能とは思えないこと自体に不安があるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
自分自身が注意をしていたとしても、どこでどのような形で菌やウイルスと共存しているかわからないのでかなり不安であるし、今後ウイルス同士が合体して新しい種類の菌やウイルスも沢山発生してくるような気がするから	その他	女性	30～39歳
微生物の制御に「完璧」はあり得ない、常に危険性があるから	研究職経験者	女性	40～49歳
強毒微生物変異等の可能性は常にあるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
アオコのシアノトキシンの魚介類における蓄積等、未知の部分があるため	研究職経験者	男性	40～49歳
行政の疫学調査が不十分のため、原因不明で帰結している案件が多いと感じるため	教育職経験者	女性	40～49歳
近年ウイルス性の中毒が増えており、事業者(飲食店、販売者等)の取り扱いや信用性に疑問があるから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
新しいタイプの細菌・ウイルスの発生があるから	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳

回答	職務経験	性別	年代
	食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
どんなに気をつけていても発生する場合があるから	食品生産・加工経験者	男性	30～39歳
特に輸入品が抜き取り検査のため	食品生産・加工経験者	女性	50～59歳
一般家庭でもありえるから	医療職経験者	女性	50～59歳
新種のウイルス等に起因する食中毒の発生があるから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
衛生管理をきちんと行なっている事業者であれば、問題ないが、個人で食品製造をやっている業者、衛生管理をきちんとやっていない事業者の製品に不安があるから	食品流通・販売経験者	男性	30～39歳
教育が不十分で、国民に十分な知識が行き渡っていないから	食品生産・加工経験者	男性	30～39歳
自宅での調理等でも発生しうるため	食品流通・販売経験者	女性	40～49歳
いつ新規微生物による食中毒が発生するかわからないから	その他	女性	20～29歳
変異などによる耐性獲得や、強毒化があるから	医療職経験者	男性	50～59歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
食中毒が時々発生するから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳

(7) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に不安を感じている理由

(回答者数=3人)

回答	職務経験	性別	年代
全頭検査が困難だから	医療職経験者	女性	50～59歳
TPPにより規制緩和される不安があるから	その他	女性	30～39歳
現在、世界的にもBSEについては収束したという認識がされているが、関係諸国で今後BSEが発生したときの安全マニュアルがどのようになっているのか、消費者への周知があまりされていないと感じるため	その他	女性	20～29歳

(8) 遺伝子組換えに不安を感じている理由

(回答者数=7人)

回答	職務経験	性別	年代
海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安だから	教育職経験者	女性	40～49歳
10年単位の長期的な摂食の影響に関するエビデンスが不十分だから	医療職経験者	女性	40～49歳
長期的データに欠けること、遺伝子の突然変異など未知の事項が多くあるから	その他	女性	50～59歳
長期間のエビデンスが無いから	医療職経験者	女性	50～59歳
遺伝子をさわることだから	医療職経験者	女性	50～59歳
大手種苗メーカーによる全世界的な食糧支配につながるから	食品流通・販売経験者	女性	40～49歳
微生物が介在することによる突然変異、偶発的事故に対する不安があるから	食品関係行政従事者	女性	50～59歳

(9) 体細胞クローンに不安を感じている理由

(回答者数=8人)

回答	職務経験	性別	年代
海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安であるから	教育職経験者	女性	40～49歳
食品加工技術として一般的であるとは思えないため	食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
倫理的な問題があるから	食品関係行政従事者	男性	60～69歳
自然界で競争した強い遺伝子を持つ作物こそが安全食品と考えるから	食品関係行政従事者	男性	60～69歳
長期的データに欠けること、遺伝子の突然変異など未知の事項が多くあるから	その他	女性	50～59歳
長期間のエビデンスがないから	医療職経験者	女性	50～59歳
遺伝子をさわることだから	医療職経験者	女性	50～59歳
遺伝子が統一化された場合の遺伝子等の動向、他の生物などへの影響など科学的に不明な点が多いから	医療職経験者	男性	50～59歳

(10) いわゆる健康食品に不安を感じている理由

(回答者数=12人、うち1人が空欄)

回答	職務経験	性別	年代
他の健康食品との組み合わせ問題などが明確になっていないから	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
濃縮することによるメリットだけが強調され、デメリットに関する注意喚起が不足しているから	食品流通・販売経験者	男性	50～59歳
海外からの食品について本当に安全かどうかの確認ができていないのか不安であるから	教育職経験者	女性	40～49歳
所謂健康食品の分野は玉石混交であり、信頼性の薄い業者が出てくること自体に不安。自分への影響より所謂健康食品全体への影響が不安だから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
特に輸入品において強く不安を感じるから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
食品の枠組みが無く、なんでも口に入れれば食品だから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
過剰摂取による弊害やまずは食事と思わない消費者の認識の低さがあるから	教育職経験者	女性	40～49歳
サプリメント等製造者が適正な業者(下請け業者)であるか、見えない部分が多くあるようだから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
	食品生産・加工経験者	男性	40～49歳
消費者の間違った認識が事故を招く可能性があるから	その他	男性	20～29歳
選択・購入しないため	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
輸入食品以外は、各事業者の自主検査に頼るところが大きいから	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳

(11) 肥料・飼料等に不安を感じている理由

(回答者数=2人)

回答	職務経験	性別	年代
ほとんどが輸入で、米国産トウモロコシからはアフラトキシンが多数から検出されているから	研究職経験者	男性	70歳以上
圃場・流通経路を想像すると不安を感じるから	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳

③食品の安全性の観点から不安を感じていない理由（問4）

問4 問2のA～K及びMに掲げるハザード等において、「3 あまり不安を感じない」又は「4 全く不安を感じない」を選んだ方にお聞きします。それぞれのハザード等について、不安を感じない理由を選択肢1～8の中から1つずつ選んでください。

（1）食品添加物に不安を感じていない理由

（回答者数=1人）

回答	職務経験	性別	年代
選択・購入しないため	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳

（2）農薬に不安を感じていない理由

（回答者数=0人）

（3）家畜用抗生物質に不安を感じていない理由

（回答者数=1人）

回答	職務経験	性別	年代
万が一問題が発生した場合の行政における体制が迅速かつ十分に機能すると考えられる。他の農産物に比べて、プロの生産者による管理が行き届いていると考えられるから（サラリーマン農家はいないと思われるので）	その他	男性	30～39歳

（4）器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じていない理由

（回答者数=1人）

回答	職務経験	性別	年代
注意すべき容器類は自分である程度把握しているので、開封後は詰め替えるなどして対処するから	その他	女性	50～59歳

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に不安を感じていない理由

(回答者数=0人)

(6) 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に不安を感じていない理由

(回答者数=8人)

回答	職務経験	性別	年代
消費者自身の注意力によってコントロール可能な部分だから	研究職経験者	男性	50～59歳
自分自身でのリスク管理ができるから	食品関係行政従事者	男性	60～69歳
食品の取り扱いによって予防できるから	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
自分で注意ができるから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
研究者なので正確な知識を持っているため	研究職経験者	男性	30～39歳
自分で注意すればある程度は防げるものだから	その他	女性	50～59歳
自己管理できるから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
専門分野なので詳しく、対策を知っているため	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳

(7) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に不安を感じていない理由

(回答者数=2人)

回答	職務経験	性別	年代
牛肉を食べる必然性は無く、個人的に食べないから	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
先日のモニター会議にて内容が理解できたため	その他	女性	30～39歳

(8) 遺伝子組換えに不安を感じていない理由

(回答者数=1人)

回答	職務経験	性別	年代
組換え体を嫌がる日本人の気質に問題があり、安全性に問題はないから	その他	女性	20～29歳

(9) 体細胞クローンに不安を感じていない理由

(回答者数=4人)

回答	職務経験	性別	年代
経済的に商品化できないから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
現在のところ流通していないので不安に思う理由がない。	食品生産・加工経験者	男性	30～39歳
あまりないため。また現実的でないため	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
食べないから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳

(10) いわゆる健康食品に不安を感じていない理由

(回答者数=21人)

回答	職務経験	性別	年代
個人的に全く利用する気が無いので不安も特にないから	教育職経験者	女性	40～49歳
個人の摂取の自由があるから	食品流通・販売経験者	女性	50～59歳
薬の専門家として情報を十分に持っているから	医療職経験者	女性	50～59歳
絶対に使わないので	食品流通・販売経験者	男性	50～59歳
健康食品は科学的根拠に非常に疑問があり、私は購入しないから	研究職経験者	女性	30～39歳
実際の健康被害は、ほとんどないから	その他	男性	50～59歳
完全に関わらない、利用しないという選択が出来るため	研究職経験者	男性	30～39歳
健康食品を利用しないため	その他	女性	30～39歳
健康食品は、巷に溢れており、どの商品に効果があるか、リスクがあるかを自己判断しているため	食品流通・販売経験者	男性	30～39歳
自分で避けている	食品流通・販売経験者	女性	30～39歳
自己管理できるから	食品生産・加工経験者	男性	50～59歳
摂取しないため	食品流通・販売経験者	女性	40～49歳
ほとんど利用しないため	食品生産・加工経験者	女性	40～49歳
自分で納得をして買うため	教育職経験者	女性	60～69歳
利用しないから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
不安があれば自ら摂取しないという手段があるから	その他	女性	40～49歳
販売方法の規制や消費者教育が進みつつあるから	その他	女性	50～59歳
使用しないから	食品生産・加工経験者	男性	60～69歳
そういった物をあまり購入しないから	その他	女性	40～49歳
自分が利用していないため。しかし精製方法や品質管理面において、すべての製品が適切なのに関しては疑問が残るから	その他	女性	40～49歳
消費者が選択できる範囲だから	教育職経験者	女性	40～49歳

(11) 肥料・飼料等に不安を感じていない理由

(回答者数=1人)

回答	職務経験	性別	年代
食べないから	食品生産・ 加工経験者	男性	60～69歳

⑤放射性物質について不安を感じる理由（問5）

問5 問2のL(放射性物質)で、「1 とても不安である」又は「2 ある程度不安である」を選んだ方にお聞きします。不安を感じる理由を選択肢1～9の中から強く当てはまる順に3つ選んでください。

(1) 第1位

(回答者数=11人、うち2人が空欄)

職務経歴	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者		男性	50～59歳
	東電の隠ぺい体質のため	男性	60～69歳
研究職経験者	再び事故が発生し、再度食品汚染が発生する事に対する不安があるから	男性	40～49歳
医療職経験者	放射性物質もれに関連する現状を調査し把握可能であるのが電力会社のみであり、我々は随時公開された情報を信頼する以外にないが、当該施設において情報の隠ぺいや情報公開の遅れが後になって報告され、信頼に足る情報の発信者ではないと考える。リスクの受け手(国民)に、真の現状が把握できていない状況にあるから	女性	40～49歳
	今なお収束不能な原発の汚染水流出に対して政府の対応が遅いから	男性	40～49歳
	全てのもをチェックできないから	女性	50～59歳
食品関係行政 従事者	環境の除染が不十分なうえ、今後も海洋汚染に続く新たな汚染拡大とそれに伴う食品汚染が否定できないため	男性	60～69歳
その他	いまだに放射性物質が海に流れ出続けている状態では、食品及び健康への今後の影響に不安だから	女性	40～49歳
		女性	40～49歳
	過去の事例より、放射線を浴びる事による健康被害が耐えがたい症状であるため。万一、影響を受けていたらと思うと不安でたまらないから	女性	20～29歳
	現在も放射性物質の流出が続いているため	女性	30～39歳

(2) 第2位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	海の汚染や環境への影響を数値化していないから	女性	40～49歳
	電力会社の情報公開が嘘が多すぎるから	男性	60～69歳
その他	消費者としてはゼロの物が欲しく、行政は基準値以内を売りたいという意識のズレと選択肢の少なさがあるため	女性	50～59歳
	事故前と事故後で安全性アピールに相違があるから	女性	40～49歳

(3) 第3位

(回答者数=8人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	事態が収束に向かっているとどうも思えないため	男性	40～49歳
食品生産・加工 経験者	最近、顧客よりの問い合わせで、再び、福島県産の原料の放射能に関する問い合わせが多く、資料の提出を依頼された。実際のところその商品に関しては東北圏内の原料は使用していない旨を改めて説明したが、福島県のはすべて放射能に汚染されているなど延々と電話で訴えていた顧客がいた。実際のところ、最近、福島原発等の問題が再燃してきているが、直近の放射能の測定状況などの開示や、安全状況などより具体的に開示はできないものなのだろうか？また、不安を取り除く方法はないものかと思うから	男性	40～49歳
	今なお汚染水が海へ流入しているから	女性	50～59歳
	事態の深刻さを理解していないから	女性	40～49歳
食品流通・販売 経験者	厚生労働省の情報を見ているがまだまだ安全宣言が出されていないのが現状だから	男性	60～69歳
研究職経験者	放射性物質は細菌と同じように目で見えないだけでなく、摂取したからと言ってすぐに身体に変化が現れるわけではないから	女性	30～39歳
その他	情報量が減っているから	男性	50～59歳
その他	海流に乗り、汚染区域の広がりに対する調査及びホットスポットの調査が必要だから	女性	50～59歳

2) 放射性物質を含む食品の健康に与える影響について

①放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先 (問 6)

問 6 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先についてお伺いします。
 選択肢 1~18 の中から利用頻度の高い順に5つ選んでください。

(1) 第1位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	専門家の意見を直接聞く機会があったから	男性	60~69歳
食品流通・販売経験者	コープの検査結果が毎週届くから	男性	60~69歳
	勤め先で毎日食品の放射能を測定しているデータの整理をしているので、その関係で、色々な情報に接しているから	男性	50~59歳
教育職経験者	放射線使用に際して受けた教育訓練及び、実際に実験で使用する放射線の線量から考察した被爆リスクもあるから	男性	40~49歳

(2) 第2位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	ラジオ	女性	50~59歳
医療職経験者	日本の現状に適応可能、または信頼に足る情報、は得られないと考えているので、基本的に入手努力はしていない	女性	40~49歳
教育職経験者	ラジオ	女性	60~69歳
その他	個人的にネット上で情報発信している専門家・研究者	女性	50~59歳

(3) 第3位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	日本食品添加物協会	男性	50~59歳
食品流通・販売経験者	行政や農林水産省のホームページ	女性	40~49歳
その他	ラジオ	女性	50~59歳

(4) 第4位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
研究職経験者	海外の新聞、ニュースサイト	男性	30~39歳
	講演会など	男性	60~69歳

(5) 第5位

(回答者数=4人、うち1人が空欄)

職務経歴	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者		男性	30～39歳
	生協	女性	50～59歳
	原子力委員会の発表	男性	30～39歳
	JAS協会	男性	40～49歳

②食品に対する影響の情報収集の姿勢（問7）

問7 東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故発生後、食品に対する影響について情報収集を行っていますか。当てはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

（回答者数=8人、うち1人が空欄）

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売 経験者	事故直後から事実を隠し、偽りの情報発信をしていた事がわかり、何を 情報提供しても信用できない	男性	50～59歳
	情報収集を行なっているかわからないが、報告も今一つという感じです	男性	60～69歳
医療職経験者	積極的という程度がどのくらいかよく解らないが、情報収集は常にして いる	女性	50～59歳
	情報収集を多くしたいが、マスメディアの報道が減った	女性	70歳以上
	TV等での報道のみ	女性	50～59歳
		女性	50～59歳
その他	目にしたら見てはいるが、特に収集していない	女性	40～49歳
その他	積極的とは言えないが、関心をもっている	男性	60～69歳

③東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化（問8）

問8 東日本大震災の前後で、飲食料品（産地）の購入等に係る意思決定に変化はありましたか。選択肢1～4の中から1つ選んでください。

（回答者数＝4人）

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	食品の種類による。例えば魚介類は今後も福島県産は食べたくない	男性	40～49歳
その他	魚類は意思決定がますます悪化している	男性	50～59歳
その他	今は復興支援団体のものを購入したりしている	女性	40～49歳
その他	農産物に関しては、震災直後は変化した。現在は以前と同じに戻っている。畜肉、魚介類については震災以降変化し、現在も続いている	女性	20～29歳

④放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方（問9）

問9 あなたの放射性物質の基準値を下回る食品についての感じ方は、どれが近いですか。当てはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

(回答者数=11人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	放射性物質に関する情報、安全確認は十分だが、東北、北関東産の原料は安全であるが、大手スーパー、消費者が敬遠する傾向が現在でも続いている。	男性	30～39歳
	基準値は厳しすぎるので緩和すべきである	男性	30～39歳
食品流通・販売 経験者	基準値が低すぎるので全く問題はない	男性	50～59歳
	行政が調査した結果、販売されていると漠然に思っており安心して 現在流通しているのは、各団体・自治体の検査結果を見ればほぼ間違 いなく限りなく低いと思われるが、流通している食品自体は検査をして いないことに加え、子どもが小さいので心配。親はほぼ問題なく食べて いるが、しいたけ類などは子どもは避けようと思っている	女性	40～49歳
	勤め先で毎日食品の放射能を測定しているデータの整理をしているの で、その関係で、色々な情報に接している。生データに接しているの で独自に判断している	男性	50～59歳
	その都度、状況により判断をしている	男性	50～59歳
教育職経験者	正直心配はありますが、購入している	女性	40～49歳
その他	個人的には気にしていないが、家族は依然として気にしているので、そ の関係で購入に際し影響はあるが、高度な(合法的な)産地偽装や飲 食店などに供給されていた場合、気にしてもしようがないので、例え ば間違っても買ってしまっても使用し、また飲食店で産地を聞くようなこ とはしない	男性	30～39歳
	基本的には「2.現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射 性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと 考え、問題なく食べている・購入している」であるが、都道府県のサン プルの取り方等もよくわからないため、気がついた際は東北圏の食材は 控えている	女性	30～39歳
	基準値以下で問題がないと感じているが、買わない人が多いと報道さ れているので、福島の農家の人も困るだろうと思い、生産地の野菜など は積極的に買うようにしている。もし自分に子供がいたら買わないよう にしたかもしれない	女性	30～39歳

3) 食品の安全性に関する情報について

①子ども向けに発信すべき情報（問10）

問10 A～Iに掲げるハザード等について、子ども(中学生以下)向けにどのような情報を発信すべきだと思いますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～9の中から優先順位の高い順に3つ選んでください。

(1) 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳

II. 第2位

(回答者数=0人)

III. 第3位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳

(2) 食品添加物に関する情報

I. 第1位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳
その他	買い物ときの商品の見方をちゃんと教える	男性	50～59歳

II. 第2位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	法規制が整備される以前より使用されており、そのために過去には事故の起きたこと等があるが、現在では格段に安全性や品質が向上しているといった歴史的な経緯	男性	30～39歳
食品生産・加工経験者	使う時のリスクと使わない時のリスクの比較	男性	60～69歳
教育職経験者	食品添加物のもたらすベネフィット(微生物学的側面)	女性	40～49歳

Ⅲ. 第3位

(回答者数=13人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	市場での使われ方や、その必要性	男性	50～59歳
	リスクとベネフィットを正確に伝える	男性	60～69歳
	食生活において役立っており、現在では食品添加物を使わないより使った方がむしろ安全な食品であること。特に保存料など	男性	30～39歳
食品流通・販売 経験者	食品添加物から受ける消費者のメリット	男性	50～59歳
	リスクとベネフィット	男性	40～49歳
	食物アレルギーの原因として説明をされる医師もいるため、多種多量に摂取した場合などの説明も必要かと思う	女性	40～49歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
	科学的に確定していない潜在的なリスク	男性	30～39歳
	基本情報に含まれるかもしれないが食品添加物を使わない場合のリスクについて	男性	50～59歳
医療職経験者	安全性についての説明と、食品添加物による食生活への恩恵と必要性	男性	50～59歳
	食品添加物がもたらすベネフィット(環境面と経済面)	女性	40～49歳
食品関係行政 従事者	食品添加物の確認方法(食品表示の見方)	女性	30～39歳

(3) 放射性物質に関する情報

Ⅰ. 第1位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売 経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳
研究職経験者	現在のように詳細が分かっていないものを安全という姿勢は「科学的」ではなく「科学主義的」だということ	男性	30～39歳
その他	自分自身の情報が薄いため、何ともいえない	女性	30～39歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=0人)

Ⅲ. 第3位

(回答者数=12人、うち1人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売 経験者	リスクとベネフィット	男性	40～49歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
	留意する必要がある場合を明確にしたうえで留意点を知らせる	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
医療職経験者	安全であることの理由	男性	50～59歳
教育職経験者	諸外国では積極的にγ線滅菌をしている事実	女性	40～49歳
	現時点での日本における放射性物質の状況	女性	40～49歳
食品関係行政 従事者	行政による放射性物質の検査体制	女性	30～39歳
		男性	60～69歳

職務経験	回答	性別	年代
その他	安全な食品の良さを教える	男性	50～59 歳
	情報の入手方法	女性	50～59 歳
	知りたい情報について適時的確に得られることができる窓口	女性	40～49 歳

(4) 農薬に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59 歳
食品流通・販売 経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49 歳

II. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	使うメリットと、使わない時のデメリット	男性	60～69 歳

III. 第3位

(回答者数=9人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売 経験者	農薬から受ける消費者のメリット	男性	50～59 歳
	有用性と毒性(誤使用含む)の対比	女性	30～39 歳
	リスクとベネフィット	男性	40～49 歳
	自分で米を作っている過程では基本使わなくても済むこと、また慣行栽培の隣の田んぼとの差	女性	40～49 歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39 歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49 歳
医療職経験者	農薬を考慮に入れた食品選択の例	女性	40～49 歳
	安全であること理由	男性	50～59 歳
その他	わかりやすく煽らないで教える人を育成する	男性	50～59 歳

(5) 汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59 歳
食品流通・販売 経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49 歳

II. 第2位

(回答者数=0人)

Ⅲ. 第3位

(回答者数=5人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
医療職経験者	日本における規制の現状	女性	40～49歳
食品関係行政従事者	農林水産省の有害化学物質含有実態調査結果	男性	60～69歳
その他	わかりやすく煽らないで教える人を育成する	男性	50～59歳

(6) 器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	危険と考えられているレベルの物質については不用意に子供に伝えない方がいい	女性	40～49歳

Ⅲ. 第3位

(回答者数=6人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	食品用でない容器にそのまま食べる食品を入れないよう注意喚起	女性	30～39歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
	科学的に確定していない潜在的なリスク	男性	30～39歳
医療職経験者	当該化学物質による健康被害の発生リスクを減らすために、子どもが取れる行動とは	女性	40～49歳
その他	わかりやすく煽らないで教える人を育成する	男性	50～59歳

(7) いわゆる健康食品に関する情報

I. 第1位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳
その他	バランスの取れた食事をしていれば、あえて摂取する必要がないことをきちんと教える	女性	50～59歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	本当に効くものならば、薬事法で規制されるのであって、万人の健康にとって明確な効果のある食品などはありえないということ	男性	30～39歳

Ⅲ. 第3位

(回答者数=10人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	食品の規制がないこと	男性	60～69歳
	子供が利用するものではなく、バランスの取れた食事が大切	男性	60～69歳
	CMや体験談等の読み取り方	男性	30～39歳
	無駄なものであること	男性	40～49歳
食品流通・販売経験者	リスクとベネフィット	男性	40～49歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
医療職経験者	身近な健康食品の例	女性	40～49歳
その他	わかりやすく煽らないで教える人を育成する	男性	50～59歳
	頼らない、飲んでるからと安心しないこと	女性	40～49歳

(8) BSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報

Ⅰ. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=0人)

Ⅲ. 第3位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
食品関係行政従事者	行政によるBSEの検査体制	女性	30～39歳
その他	わかりやすく煽らないで教える人を育成する	男性	50～59歳

(9) 遺伝子組換えに関する情報

Ⅰ. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	リスクの評価の仕方	男性	50～59歳
食品流通・販売 経験者	体験を通じた科学リテラシー教育	男性	40～49歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	従来型の品種改良との比較。どちらも遺伝子組み換えが起こっていること。双方の安全性評価の比較。	男性	30～39歳
その他	世界の人口と気象をわかりやすく教える	男性	50～59歳

Ⅲ. 第3位

(回答者数=5人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売 経験者	リスクとベネフィット	男性	40～49歳
	世界の食糧支配につながる事	女性	40～49歳
	様々な情報を精査する力(方法)	女性	30～39歳
研究職経験者	あまりあおる必要はないと思います	男性	40～49歳
	科学的に確定していない潜在的なリスク	男性	30～39歳

②食品安全モニター自身が求めている情報（問11）

問11 A～I に掲げるハザード等について、あなた自身はどのような情報を求めていますか。それぞれのハザード等について、選択肢1～10の中から優先順位の高い順に3つ選んでください。

(1) 有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等に関する情報

I. 第1位

(回答者数=5人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	被害速報	男性	40～49歳
研究職経験者	食の専門分野ですので、常に最新の情報を求めます。発生状況、被害状況、また発生させた施設の状況など	女性	30～39歳
医療職経験者	できるだけリアルタイムな食中毒事故の情報	男性	40～49歳
教育職経験者	クドア、サイクロスポラ、ウエストナイルウイルスのように新興のもので今後アウトブレイクする可能性のあるものの基本情報	女性	40～49歳
	最新の発生情報など	女性	40～49歳

II. 第2位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
研究職経験者	厚生労働省からの通知。検査方法の改正など	女性	30～39歳
その他	現在の健康被害・発生状況	女性	50～59歳
	ある時点で、健康被害が多発している有害微生物の情報。また、新しい細菌類・ウイルス等による食中毒があった場合は、基本的情報	女性	20～29歳

III. 第3位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
医療職経験者	最新の健康被害例	女性	40～49歳
その他	実態調査結果	女性	20～29歳

(2) 食品添加物に関する情報

I. 第1位

(回答者数=0人)

II. 第2位

(回答者数=1人、うち1人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
その他		女性	30～39歳

III. 第3位

(回答者数=2人、うち1人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	一般人が不安を訴える点についての明確な回答	女性	40～49歳
その他		女性	30～39歳

(3) 放射性物質に関する情報

I. 第1位

(回答者数=5人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	検査の徹底とその情報提供	女性	40～49歳
研究職経験者	政治的にねじ曲げられる前のデータ、文献	男性	30～39歳
医療職経験者	出来るだけ迅速な情報公開	男性	40～49歳
教育職経験者	正しい情報	女性	40～49歳
その他	食品の検査結果の数値と検出限界値	女性	50～59歳

II. 第2位

(回答者数=2人、うち1人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	起こしてしまった事故について早期の情報開示	女性	40～49歳
		男性	50～59歳

III. 第3位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	高濃度汚染魚種等	男性	60～69歳
	これからの方針と安全対策	女性	40～49歳
食品流通・販売経験者	食品事業者が内外に発信する情報の充実	男性	30～39歳
医療職経験者	海外の大規模被ばく地における同様の事例の実態と対処方略	女性	40～49歳

(4) 農薬に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	具体的な食品への残留量	女性	40～49歳
教育職経験者	特定農薬について	女性	40～49歳

II. 第2位

(回答者数=0人)

III. 第3位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	食品事業者が行うリスク管理の具体的な手法	男性	30～39 歳

(5) 汚染物質（カドミウム、メチル水銀等）に関する情報

I. 第1位

(回答者数=2人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	米などへの残留量	女性	40～49 歳
その他	どのくらい出回っているかという現状	女性	20～29 歳

II. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	高濃度地域での作付規制等	男性	60～69 歳

III. 第3位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
研究職経験者	食品中の濃度を計測したデータを知りたい。	男性	70 歳以上

(6) 器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報

I. 第1位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
その他	どのくらい出回っているかという、現状	女性	20～29 歳

II. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	惣菜弁当などの容器の安全性	女性	40～49 歳

III. 第3位

(回答者数=4人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	発泡スチロール容器の溶出と許容量	男性	60～69 歳
	食堂のメラミン食器の健康被害	女性	40～49 歳
食品流通・販売経験者	食品事業者が内外に発信する情報の充実	男性	30～39 歳
教育職経験者	特に輸入製品についての安全性	女性	40～49 歳

(7) いわゆる健康食品に関する情報

I. 第1位

(回答者数=3人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	規制改革の行方	男性	30～39歳
教育職経験者	含有成分の安全性	女性	40～49歳
その他	現在の健康被害・発生状況	女性	50～59歳

II. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	行政の対応の今後、特に積極的な関与	男性	60～69歳

III. 第3位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品流通・販売経験者	最近の事例、業者への指導はどのようなものかの情報	男性	60～69歳

(8) BSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報

I. 第1位

(回答者数=0人)

II. 第2位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	正確で安心できるトレーサビリティ	女性	40～49歳

III. 第3位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	政府の考え	女性	40～49歳

(9) 遺伝子組換えに関する情報

I. 第1位

(回答者数=1人)

職務経験	回答	性別	年代
その他	購入したくないので正確な表示(加工品や混入の可能性も)	女性	50～59歳

Ⅱ. 第2位

(回答者数=1人)

職務経歴	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	加工品混入率など、情報開示	女性	40～49歳

Ⅲ. 第3位

(回答者数=1人)

職務経歴	回答	性別	年代
食品流通・販売 経験者	ひとつの大企業による、地球全体の食糧支配につながることの広報	女性	40～49歳

③ハザード等に関する情報が必要な理由（問12）

問12 あなたが問11のようなハザード等に関する情報が必要な理由は、工作上知っておくべきものだからですか、或いは日常生活において知っておくべきものだからですか。当てはまるものを選択肢1～5の中から1つ選んでください。

（回答者数=6人、うち2人が空欄）

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工経験者	初めは工作上必要なので情報収集していたが、結果的に自分自身や家族、友人への啓蒙につながっている	女性	30～39歳
	自分の知識として仕事でも、日常生活の中でも活用し、食品を選択する際の判断に役立てる	男性	50～59歳
医療職経験者	工作上と日常生活上との理由が等価。私はアレルギー患者への食事指導や相談にかかわる仕事をしている。患者にとり、実際に役立つ提案や支援をするには私自身の実体験が問われ、自分の判断と実践を基に話をすることになる。まずは自分の日常生活に取り入れ同時に仕事にも使うことになる	女性	40～49歳
食品関係行政従事者		男性	60～69歳
	日常生活において知っておくことも必要ですが、夫が食品の安全や衛生に関わる仕事に従事しているので、サポートという意味でも知っておく必要がある	女性	40～49歳
その他		男性	60～69歳

④周囲への情報提供（問13）

問13 あなたは食品安全モニターとして、A～M に掲げるハザード等について、周囲の方々に情報提供を行ったこと（地域活動・講演会・セミナー等については具体的な予定も含む）がありますか。それぞれの事項について、どの範囲の方に情報提供を行ったかについて、選択肢1～6の中から当てはまるものを全て選択してください。また、A～M のハザード等以外に食品の安全性の観点で気になるものがあれば、「N その他」に具体的な例を記入し、それについても選択肢1～6の中から当てはまるものを全て選択してください。

（回答者数=20人、うち3人が空欄）

職務経験	ハザード	情報提供	性別	年代
食品生産・加工経験者	アレルギー物質	①自分の家族・親族に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	70歳以上
	アレルギー物質を含む食品	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ④地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	男性	60～69歳
	輸入食品	①自分の家族・親族に話したことがある	男性	60～69歳

職務経験	ハザード	情報提供	性別	年代
	食をはじめとしたコンプライアンスの遵守を絶対として、安全で安心される食品の生産、製造(加工、調理)、から流通に至る、全てのフードチェーンにおいて、利益主体型の経営意識ではない企業経営者と幹部の意識改善		男性	50～59 歳
食品流通・販売 経験者	食品表示法の今後の動向	②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	男性	60～69 歳
	特定原材料	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	40～49 歳
	製造工程あるいは調理上、意図せずに発生するアクリルアミドの安全性や低減対策に関すること	②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	男性	60～69 歳
	人獣共通感染症	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	70 歳以上
研究職経験者	アレルギー表示の現在の方法に関して	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	男性	50～59 歳
	自然毒、有毒植物、キノコ、魚介	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	男性	50～59 歳
医療職経験者	食品中の塩分	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ④地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	女性	60～69 歳
	食中毒		男性	60～69 歳
	TPP に関して	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ⑤自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	女性	40～49 歳
	飽和脂肪酸対策の遅れ	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	50～59 歳
	ヒ素の含有食品	①自分の家族・親族に話したことがある	男性	60～69 歳
食品関係行政従事者	公衆衛生全般・衛生法規全般	③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	男性	60～69 歳
	自然毒(フグ毒、毒キノコ、有毒植物)	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	男性	60～69 歳

職務経験	ハザード	情報提供	性別	年代
その他	メディアバイアス含めて情報リテラシーについて	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	女性	40～49 歳
	食塩(財団法人塩事業センターが販売する塩化ナトリウム 99%以上の国産塩)		男性	50～59 歳
	食物アレルギーについて	①自分の家族・親族に話したことがある ②友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある ③地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある ⑤自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	男性	30～39 歳

4) 肉の生食について

③肉等を生食する理由 (問 16)

問16 問15において食べたことがある方(1～3を選んだ方)にお聞きます。馬、豚、鶏の肉(臓器を含む)を生で食べた理由について、選択肢1～8の中から、当てはまるものを全て選んでください。

(回答者数=30人、うち2人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	安全な物、気を付けるべきもの区別を認識しているから	男性	50～59歳
	「食べる」行為は自己責任、食べたいものを食べ、責任は自分で負うため	男性	60～69歳
	食べたことがなかったため	男性	30～39歳
		男性	40～49歳
	宿泊先ホテルの食事として提供されたから	男性	40～49歳
	馬肉のリスクは低いから	男性	40～49歳
	日本で古くから食べられた郷土食と聞いたので	女性	40～49歳
	当時は安全性に関する知識が不足していたこともあったから	男性	60～69歳
食品流通・販売 経験者	馬肉については、安全性が十分に確保されていると考えたため	男性	30～39歳
	まだ若かったので、不安よりも食べてものを食べることへの好奇心が勝ったため	女性	30～39歳
	真空凍結品だったので	男性	70歳以上
	馬刺しだけは、衛生管理がしっかりしている業者・専門店にて食べているので	女性	50～59歳
		男性	40～49歳
	いただいたため	女性	40～49歳
研究職経験者	旅行先で、食事として提供を受けたため	女性	30～39歳
	馬刺しの場合は、安全性が高く、過去に食中毒の事例がほとんどないため	男性	60～69歳
	馬刺しの店に行ったから	男性	50～59歳
医療職経験者	断り切れない状況であったため	男性	40～49歳
教育職経験者	馬刺しの管理基準を満たしていると判断したため	女性	40～49歳
	料理番組で紹介していたため(10年以上前)	女性	40～49歳
	生食禁止と言われる前だったため	女性	40～49歳
	鶏については、幼少期から現在に至るまで魚類と同じようにリスクを疑った事がないから	女性	40～49歳
	栄養価が高いと言われたから	女性	40～49歳
食品関係行政従 事者	冷凍流通食品であったから	男性	60～69歳
	熊本のお土産にいただいた。空港でお土産用としてして販売されているものだという説明を受けたため	女性	40～49歳
	福島県内の飲食店で以前から利用し食べており、安全と考えたため	男性	60～69歳
その他	興味本位のため	女性	20～29歳
	コース料理に入っていたため	男性	50～59歳
	現職に転職する前に、O157 リスクを考えず食していたから	男性	30～39歳
	特産品(九州で食べた)だったので	女性	40～49歳

④この1年間での肉等の生食についての状況や変化（問17）

問17 この1年間の、あなたや、あなたの周りで肉の生食についての状況や変化について、以下の選択肢1～12の中から、当てはまるものを全て選んでください。

(回答者数=26人、うち5人が空欄)

職務経験	回答	性別	年代
食品生産・加工 経験者	家族や友人、職場での飲食の機会には必ず食べない様に話をしております	男性	40～49歳
	好きではない	男性	40～49歳
	外食では生食は提供されないものが多くなったが、馬刺し等しっかりした店は、保健所等の指導に基づき、管理し提供している。食は文化であり、フグ刺しにあるように、しっかり管理し、おいしくいただくことは神の摂理。お上がとやかく言う問題ではない。行政も何を食べるかは自己責任、安全情報を提供する立場であることに徹してはどうか	男性	60～69歳
	自己責任にて自分で調理して食べる	男性	50～59歳
	元々、習慣的に喫食していたわけではない	男性	40～49歳
	周囲で、「馬刺し」を食べる方が増えたように感じます	女性	30～39歳
	たたき、湯通し等は絶対に安全とは思わないが、リスクを承知のうえでたたき、ローストビーフ、ポークを喫食することはあるが、完全な生食は食べない	男性	50～59歳
		女性	40～49歳
	新鮮なものは、大丈夫と考えています	男性	50～59歳
	問15に牛の生臓器(レバー等)の調査を入れるべきでは?今も飲食店では加熱用としてはいるが、(以前と同じです)生で食べられる状態で提供している実態がある。おそらく客もリスクを承知で食べている。法律では(レバー等)生食での提供は禁止されているが、調査はしておくべきだと思う	男性	40～49歳
	食の歴史上完全否定はしていない部分があって、極めて高く安全と思える時、個人的体調が許す時に限って許してしまう	男性	60～69歳
	飲食店で提供する場合に注意書きが付くなど、配慮が見られる	女性	50～59歳
	小学校低学年以下への提供は問題がある	男性	50～59歳
	リスク認知が広まった	男性	40～49歳
食品流通・販売 経験者	生食であることを飲食店側が避けるためにセルフであぶるような商品を提供するが、消費者には暗に生食で食べられるようなことを意識させる飲食店が増えた(菜味等を見れば、確実に生食用とわかる)	男性	30～39歳
	食べるのを控えた肉はあるが、控えていない肉もある	男性	50～59歳
	以前から馬刺し以外は食べませんが、周りの人は変化なしに見受けられます	女性	50～59歳
	食べる機会がなくなった	女性	30～39歳
	「鳥のたたき あります」と裏メニュー風の表示をしておきながら、実際に提供するの鳥ハムであったり事業者の苦勞も感じられる	男性	50～59歳
	女性	70歳以上	
研究職経験者		男性	60～69歳
医療職経験者	飲食店に出さないように事前をお願いしておく	女性	40～49歳
教育職経験者	安全だと思える飲食店や商品なら食べても良い	女性	40～49歳
食品関係行政 従事者	馬刺し以外の肉はもともと生食していなかった	男性	60～69歳
		女性	40～49歳
その他		男性	60～69歳

統計表

問 1.1 環境問題に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	35.1	49.9	7.6	6.5	0.3	0.6	0.0

問 1.2 自然災害に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	35.7	50.7	10.2	2.8	0.3	0.3	0.0

問 1.3 食品安全に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	18.1	48.7	11.9	20.4	0.6	0.3	0.0

問 1.4 重症感染症(新型インフルエンザなど)に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	15.3	56.4	17.0	10.8	0.6	0.0	0.0

問 1.5 犯罪に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	16.4	46.5	24.6	11.3	0.6	0.6	0.0

問 1.6 戦争・テロに対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	13.9	41.1	23.5	18.7	2.0	0.8	0.0

問 1.7 交通事故に対する不安の程度

	全体	とても不安を感じる	ある程度不安を感じる	どちらともいえない	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よくわからない	無回答・無効回答
合計	353	13.9	51.3	21.8	10.5	1.1	1.4	0.0

問 2.1 食品添加物に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	12.5	37.7	39.7	10.2	0.0	0.0

問 2.2 農薬に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	13.3	48.2	32.9	5.4	0.3	0.0

問 2.3 家畜用抗生物質に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	13.0	46.5	31.4	4.8	4.2	0.0

問 2.4 器具・容器包装からの溶出化学物質に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	9.3	41.4	39.9	6.5	2.8	0.0

問 2.5 汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	15.9	46.7	31.2	3.7	2.5	0.0

問 2.6 有害微生物(細菌・ウイルス)による食中毒等に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	20.7	60.1	16.4	2.3	0.6	0.0

問 2.7 BSE (伝達性牛海綿状脳症)に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	8.2	31.4	40.5	19.5	0.3	0.0

問 2.8 遺伝子組換えに対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	11.8	38.5	35.7	14.7	0.4	0.0

問 2.9 体細胞クローンに対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	8.8	39.1	33.1	10.5	8.5	0.0

問 2.10 いわゆる健康食品に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	13.6	49.0	29.7	5.9	1.7	0.0

問 2.11 肥料・飼料等に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	7.1	34.0	44.5	11.9	2.5	0.0

問 2.12 放射性物質に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	29.5	38.0	25.2	6.2	0.8	0.3

問 2.13 その他に対する不安の程度

	全体	とても不安である	ある程度不安である	あまり不安を感じない	全く不安を感じない	よく知らない	無回答・無効回答
合計	353	8.2	9.6	0.6	0.0	0.0	81.6

問 3.1 食品添加物に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるため不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	177	36.7	9.0	22.6	4.0	6.2	7.9	7.9	2.3	3.4

問 3.2 農業に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	217	19.4	12.4	29.5	4.1	7.8	11.5	7.4	4.6	3.2

問 3.3 家畜用抗生物質に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	210	18.1	11.4	32.4	8.1	10.0	3.3	8.1	4.8	3.8

問 3.4 器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	179	27.4	11.2	16.2	6.1	8.4	14.0	10.1	3.4	3.4

問 3.5 汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	221	14.9	11.8	12.2	5.9	4.5	33.9	7.7	4.1	5.0

問 3.6 有害微生物(細菌・ウイルス)による食中毒等に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	285	10.5	9.8	33.7	3.5	3.9	20.7	5.6	9.1	3.2

問 3.7 BSE (伝達性牛海綿状脳症)に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	140	17.9	17.1	11.4	9.3	2.1	28.6	5.7	2.1	5.7

問 3.8 遺伝子組換えに不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	170	51.2	8.2	10.6	7.1	2.4	4.1	7.6	4.1	4.7

問 3.9 体細胞クローンに不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	169	52.7	7.7	5.3	5.3	0.6	3.0	17.2	4.7	3.6

問 3.10 いわゆる健康食品に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	221	19.5	21.3	18.6	3.6	16.3	7.2	4.5	5.4	3.6

問 3.11 肥料・飼料等に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	145	20.7	13.1	30.3	4.8	8.3	6.9	7.6	1.4	6.9

問 3.13 その他に不安を感じている理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に疑問	行政による規制が不十分	事業者の法令遵守や衛生管理が不十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が不十分	過去に問題になった事例があるために不安	漠然とした不安	その他	無回答・無効回答
合計	63	7.9	15.9	9.5	11.1	6.3	12.7	9.5	20.6	6.3

問 4.1 食品添加物に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	176	60.2	19.9	8.0	3.4	0.6	1.1	4.0	0.6	2.3

問 4.2 農薬に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	135	39.3	39.3	8.1	4.4	1.5	0.0	3.7	0.0	3.7

問 4.3 家畜用抗生物質に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	128	31.3	38.3	12.5	2.3	0.8	6.3	5.5	0.8	2.3

問 4.4 器具・容器包装からの溶出化学物質に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	164	27.4	28.7	12.2	4.3	3.0	6.1	11.6	0.6	6.1

問 4.5 汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	123	19.5	45.5	13.0	7.3	0.8	0.8	8.1	0.0	4.9

問 4.6 有害微生物(細菌・ウイルス)による食中毒等に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	66	21.2	16.7	22.7	7.6	4.5	1.5	7.6	12.1	6.1

問 4.7 BSE (伝達性牛海綿状脳症)に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	212	34.9	30.2	6.6	11.8	1.9	2.4	3.3	0.9	8.0

問 4.8 遺伝子組換えに不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	178	40.4	21.9	2.8	10.7	1.7	7.3	8.4	0.6	6.2

問 4.9 体細胞クローンに不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	154	31.2	16.9	1.9	4.5	1.3	16.9	17.5	2.6	7.1

問 4.10 いわゆる健康食品に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	126	11.9	17.5	8.7	6.3	2.4	4.0	21.4	16.7	11.1

問 4.11 肥料・飼料等に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	199	20.1	29.1	9.5	4.0	2.0	6.0	20.6	0.5	8.0

問 4.13 その他に不安を感じていない理由

	全体	安全性についての科学的な根拠に納得	行政による規制が十分	事業者の法令遵守や衛生管理が十分	行政からの食品の安全性に関する情報提供が十分	事業者からの食品の安全性に関する情報提供が十分	過去に問題になった事例がないので安心	漠然とした安心	その他	無回答・無効回答
合計	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 5.1 放射性物質について不安を感じる理由(第1位)

	全体	過去に経験したことがない事態のため	放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため	自分の被ばく量などの程度が解らないため	安全性についての科学的根拠が納得できない	現行の規制値では納得できない	食品の検査体制に不安を感じる	政府の情報公開が不十分	周囲が心配しているので自分も心配になる	その他	無回答・無効回答
合計	238	42.4	18.1	5.0	11.3	1.3	6.7	8.8	0.8	4.6	0.8

問 5.2 放射性物質について不安を感じる理由(第2位)

	全体	過去に経験したことがない事態のため	放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため	自分の被ばく量などの程度が解らないため	安全性についての科学的根拠が納得できない	現行の規制値では納得できない	食品の検査体制に不安を感じる	政府の情報公開が不十分	周囲が心配しているので自分も心配になる	その他	無回答・無効回答
合計	238	11.8	29.8	6.7	18.5	3.4	13.4	11.3	2.1	1.7	1.3

問 5.3 放射性物質について不安を感じる理由(第3位)

	全体	過去に経験したことがない事態のため	放射線の健康影響について科学者の見解が様々であるため	自分の被ばく量などの程度が解らないため	安全性についての科学的根拠が納得できない	現行の規制値では納得できない	食品の検査体制に不安を感じる	政府の情報公開が不十分	周囲が心配しているので自分も心配になる	その他	無回答・無効回答
合計	238	10.9	16.4	9.7	17.2	3.4	16.4	16.8	4.2	3.4	1.7

問 6.1 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(第1位)

	全体	テレビ	新聞(インターネットのニュースサイトを含む)	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書等	インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)	食品安全委員会	消費者庁	厚生労働省	農林水産省	保健所などの地方自治体
合計	353	34.3	28.3	1.7	4.2	2.0	13.6	0.6	7.1	3.1	0.6
		生産者、食品メーカーなどの食品の生産者	スーパーなどの販売事業者	大学・研究機関・研究所	医療機関	NPO・消費者団体	家族・知人	地域・学校	その他	無回答・無効回答	
		0.6	0.3	1.7	0.0	0.8	0.0	0.0	1.1	0.0	

問 6.2 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(第2位)

	全体	テレビ	新聞(インターネットのニュースサイトを含む)	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書等	インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)	食品安全委員会	消費者庁	厚生労働省	農林水産省	保健所などの地方自治体
合計	353	19.8	32.3	4.2	2.0	5.7	10.5	3.7	7.6	5.4	2.3
		生産者、食品メーカーなどの食品の生産者	スーパーなどの販売事業者	大学・研究機関・研究所	医療機関	NPO・消費者団体	家族・知人	地域・学校	その他	無回答・無効回答	
		1.7	0.6	2.0	0.0	0.6	0.6	0.0	1.1	0.0	

問 6.3 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(第3位)

	全体	テレビ	新聞(インターネットのニュースサイトを含む)	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書等	インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)	食品安全委員会	消費者庁	厚生労働省	農林水産省	保健所などの地方自治体
合計	353	5.1	8.8	12.2	3.1	11.3	16.7	6.2	10.5	7.1	4.0
		生産者、食品メーカーなどの食品の生産者	スーパーなどの販売事業者	大学・研究機関・研究所	医療機関	NPO・消費者団体	家族・知人	地域・学校	その他	無回答・無効回答	
		3.1	2.0	2.8	1.4	1.1	2.5	0.6	0.8	0.6	

問 6.4 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(第4位)

	全体	テレビ	新聞(インターネットのニュースサイトを含む)	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書等	インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)	食品安全委員会	消費者庁	厚生労働省	農林水産省	保健所などの地方自治体
合計	353	4.2	7.9	6.8	5.4	6.2	14.7	6.8	12.2	7.4	6.8
		生産者、食品メーカーなどの食品の生産者	スーパーなどの販売事業者	大学・研究機関・研究所	医療機関	NPO・消費者団体	家族・知人	地域・学校	その他	無回答・無効回答	
		4.0	2.0	4.0	0.8	2.3	5.1	1.1	0.6	1.7	

問 6.5 放射性物質を含む食品の健康に与える影響に関する情報の入手先(第5位)

	全体	テレビ	新聞(インターネットのニュースサイトを含む)	一般の雑誌・書籍	専門書・学術書等	インターネット上のコミュニティサイト等(SNS・ブログなど)	食品安全委員会	消費者庁	厚生労働省	農林水産省	保健所などの地方自治体
合計	353	6.8	7.1	6.2	4.0	10.2	9.9	4.0	5.9	6.5	10.5
		生産者、食品メーカーなどの食品の生産者	スーパーなどの販売事業者	大学・研究機関・研究所	医療機関	NPO・消費者団体	家族・知人	地域・学校	その他	無回答・無効回答	
		4.8	5.4	5.4	0.6	4.2	3.4	1.1	1.1	2.8	

問7 食品に対する影響の情報収集の姿勢

	全体	事故直後も現在も積極的にしている	事故直後は積極的にしたが、現在は積極的に収集していない	事故直後は積極的に収集してはなかったが、現在は積極的にしている	事故直後も現在も積極的に収集していない	その他	無回答・無効回答
合計	353	27.5	54.4	2.3	13.3	2.3	0.3

問8 東日本大震災前後の飲食料品の購入等に係る意思決定の変化

	全体	東日本大震災の前後で変化はない	東日本大震災の直後は変化したが、現在は以前と同じに戻った	東日本大震災以降で変化し、現在も続いている	その他	無回答・無効回答
合計	353	29.2	31.7	37.7	1.1	0.3

問9 放射線物質の基準値を下回る食品についての感じ方

	全体	放射性物質の基準値を下回るとしても、放射性物質を含むおそれのある食品は、健康のため、食べない・購入しないようにしている	現在流通しているのは、都道府県の検査の結果、放射性物質の基準値を下回る食品であり、健康への影響はほとんどないと考え、問題なく食べている・購入している	放射性物質を含む食品については情報が不十分であり、判断できない	そもそも放射性物質を含む食品について、気にしたことはない	その他	無回答・無効回答
合計	353	19.5	55.2	18.4	3.1	3.1	0.6

問10.1.1 子ども向けに発信すべき有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例:どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	66.6	3.1	5.9	0.6	19.5	0.0	2.8	0.3	0.6	0.6

問10.1.2 子ども向けに発信すべき有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例:どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	15.6	15.9	27.8	2.0	29.5	0.8	6.5	0.0	0.0	2.0

問10.1.3 子ども向けに発信すべき有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例:どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	6.5	7.1	17.0	2.5	40.2	1.7	21.8	0.3	0.6	2.3

問 10.2.1 子ども向けに発信すべき食品添加物に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	76.2	8.5	3.4	1.1	5.9	1.1	0.8	1.1	0.8	0.8

問 10.2.2 子ども向けに発信すべき食品添加物に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	8.5	46.2	21.0	2.0	11.9	2.3	5.4	0.0	0.8	2.0

問 10.2.3 子ども向けに発信すべき食品添加物に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	4.2	11.3	14.2	7.4	29.5	9.6	15.6	2.5	3.7	2.0

問 10.3.1 子ども向けに発信すべき放射性物質に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	77.1	4.2	5.9	1.1	6.5	0.6	0.8	1.4	1.1	1.1

問 10.3.2 子ども向けに発信すべき放射性物質に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	6.5	28.0	38.0	4.0	12.5	2.5	5.4	0.3	0.0	2.8

問 10.3.3 子ども向けに発信すべき放射性物質に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	4.8	9.9	18.4	7.9	31.7	10.5	9.3	1.1	3.4	2.8

問 10.4.1 子ども向けに発信すべき農業に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	72.0	9.6	4.8	2.0	5.1	1.1	2.5	1.1	0.6	1.1

問 10.4.2 子ども向けに発信すべき農業に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	8.5	39.4	22.4	5.9	14.4	1.4	4.2	1.1	0.3	2.3

問 10.4.3 子ども向けに発信すべき農業に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	5.7	10.8	15.3	8.8	27.5	5.9	17.6	3.1	2.5	2.8

問 10.5.1 子ども向けに発信すべき汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	72.2	4.8	4.5	0.8	3.4	0.3	10.5	1.4	0.6	1.4

問 10.5.2 子ども向けに発信すべき汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	9.3	20.1	28.9	2.0	13.3	1.7	21.8	0.8	0.0	2.0

問 10.5.3 子ども向けに発信すべき汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものはどのようなものがあるのか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	4.5	10.5	17.6	5.7	31.2	3.7	20.4	2.3	1.4	2.8

問 10.6.1 子ども向けに発信すべき器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	74.8	5.4	4.5	0.8	6.8	1.1	3.1	1.7	0.6	1.1

問 10.6.2 子ども向けに発信すべき器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	7.9	36.8	20.7	3.4	18.1	2.0	7.1	1.1	0.3	2.5

問 10.6.3 子ども向けに発信すべき器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	5.1	10.5	16.4	5.9	34.8	5.1	12.5	4.0	1.7	4.0

問 10.7.1 子ども向けに発信すべきいわゆる健康食品に関する情報(第1位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	63.5	15.6	4.2	0.6	7.1	0.6	4.8	1.7	0.8	1.1

問 10.7.2 子ども向けに発信すべきいわゆる健康食品に関する情報(第2位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	7.1	43.9	14.2	2.5	18.4	0.6	9.1	0.8	0.3	3.1

問 10.7.3 子ども向けに発信すべきいわゆる健康食品に関する情報(第3位)

	全体	基本情報(例: どのようなものがあるのか等)	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要がないこと	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	5.4	8.8	12.5	4.5	34.6	2.3	22.7	3.4	2.8	3.1

問 10.8.1 子ども向けに発信すべきBSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報（第1位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	76.8	4.0	3.1	1.7	4.8	2.5	3.7	1.7	0.6	1.1

問 10.8.2 子ども向けに発信すべきBSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報（第2位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	8.5	30.6	22.4	12.7	9.3	3.1	9.9	0.6	0.0	2.8

問 10.8.3 子ども向けに発信すべきBSE（伝達性牛海綿状脳症）に関する情報（第3位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	4.0	9.1	15.6	19.0	18.1	10.8	15.0	4.2	1.1	3.1

問 10.9.1 子ども向けに発信すべき遺伝子組換えに関する情報（第1位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	79.9	7.6	2.8	2.3	2.8	1.4	0.0	1.4	0.6	1.1

問 10.9.2 子ども向けに発信すべき遺伝子組換えに関する情報（第2位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	7.4	47.3	16.1	13.3	7.6	2.0	2.8	0.6	0.6	2.3

問 10.9.3 子ども向けに発信すべき遺伝子組換えに関する情報（第3位）

	全体	基本情報（例：どのようなものがあるのか等）	市場に流通しているものかどうか	リスクの大きさ	諸外国の状況	日常生活で留意すべきこと	日常生活で留意する必要があること	過去の健康被害	特に発信すべき情報はない	その他	無回答・無効回答
合計	353	3.4	11.6	19.3	22.1	18.1	9.9	7.6	4.0	1.4	2.5

問 11.1.1 食品安全モニター自身が求めている有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	53.3	12.2	9.9	1.4	11.3	0.6	3.1	4.2	1.7	1.4	0.8

問 11.1.2 食品安全モニター自身が求めている有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	8.8	26.3	22.9	4.5	21.2	0.6	4.2	7.4	0.6	0.8	2.5

問 11.1.3 食品安全モニター自身が求めている有害微生物(細菌等)、ウイルス等による食中毒等に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	4.8	7.4	20.4	11.3	26.3	2.3	7.1	13.3	3.4	0.6	3.1

問 11.2.1 食品安全モニター自身が求めている食品添加物に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	46.5	15.9	9.1	3.4	3.7	1.4	15.9	0.6	2.8	0.0	0.8

問 11.2.2 食品安全モニター自身が求めている食品添加物に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	4.5	27.5	22.7	10.8	12.5	0.3	11.9	5.4	0.8	0.3	3.4

問 11.2.3 食品安全モニター自身が求めている食品添加物に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	4.5	12.2	18.4	11.3	14.4	2.0	21.8	7.4	3.1	0.6	4.2

問 11.3.1 食品安全モニター自身が求めている放射性物質に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	49.9	12.5	17.0	3.1	5.4	0.0	4.8	1.7	3.1	1.4	1.1

問 11.3.2 食品安全モニター自身が求めている放射性物質に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	6.8	30.6	26.1	7.4	15.0	2.0	4.0	2.8	1.1	0.6	3.7

問 11.3.3 食品安全モニター自身が求めている放射性物質に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	7.6	9.9	21.2	12.2	19.3	4.2	5.1	9.6	4.0	1.1	5.7

問 11.4.1 食品安全モニター自身が求めている農業に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	45.0	13.6	14.7	4.5	4.0	0.6	10.5	2.5	3.1	0.6	0.8

問 11.4.2 食品安全モニター自身が求めている農業に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	6.5	32.0	22.4	11.3	10.5	1.4	5.9	5.1	0.8	0.0	4.0

問 11.4.3 食品安全モニター自身が求めている農業に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	4.5	11.9	21.8	8.5	17.3	2.5	16.4	8.2	4.0	0.3	4.5

問 11.5.1 食品安全モニター自身が求めている汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	49.3	13.3	13.9	3.1	3.1	0.0	5.9	5.9	3.7	0.6	1.1

問 11.5.2 食品安全モニター自身が求めている汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	5.1	33.7	23.8	5.7	11.9	1.4	4.0	8.5	2.0	0.3	3.7

問 11.5.3 食品安全モニター自身が求めている汚染物質(カドミウム・メチル水銀等)に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	5.9	9.9	22.9	9.3	20.4	2.0	6.5	13.6	3.7	0.3	5.4

問 11.6.1 食品安全モニター自身が求めている器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	50.1	12.7	11.0	2.8	5.1	0.6	5.9	4.0	6.2	0.3	1.1

問 11.6.2 食品安全モニター自身が求めている器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	7.9	36.8	21.5	5.4	12.2	1.7	3.4	5.1	1.4	0.3	4.2

問 11.6.3 食品安全モニター自身が求めている器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 評価の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している 内容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 発 に 信 ず す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	6.5	11.6	20.4	8.8	20.4	2.0	7.9	9.3	5.7	1.1	6.2

問 11.7.1 食品安全モニター自身が求めているいわゆる健康食品に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	44.2	15.6	14.4	2.5	3.7	0.3	8.2	5.4	3.1	0.8	1.7

問 11.7.2 食品安全モニター自身が求めているいわゆる健康食品に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	7.4	29.7	18.4	5.7	15.3	0.6	7.4	9.9	1.4	0.3	4.0

問 11.7.3 食品安全モニター自身が求めているいわゆる健康食品に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	4.0	9.3	17.3	11.9	18.4	2.8	12.2	14.2	4.8	0.3	4.8

問 11.8.1 食品安全モニター自身が求めているBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	41.6	7.9	19.0	9.3	2.3	1.4	6.2	3.7	7.1	0.0	1.4

問 11.8.2 食品安全モニター自身が求めているBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	6.8	26.1	20.7	20.4	7.6	0.8	5.4	4.2	1.7	0.3	5.9

問 11.8.3 食品安全モニター自身が求めているBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 殊 に 信 信 す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	5.4	8.5	20.7	15.9	13.3	6.2	6.2	10.2	5.9	0.3	7.4

問 11.9.1 食品安全モニター自身が求めている遺伝子組換えに関する情報(第1位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 国 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	47.9	11.9	11.3	8.8	2.5	0.8	7.6	3.1	3.7	0.3	2.0

問 11.9.2 食品安全モニター自身が求めている遺伝子組換えに関する情報(第2位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 国 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	5.4	32.3	21.2	13.3	8.5	1.1	7.9	3.7	1.7	0.3	4.5

問 11.9.3 食品安全モニター自身が求めている遺伝子組換えに関する情報(第3位)

	全体	基本情報 (例:どの ようなもの である のか、リス クの大き さ等)	それに関 する主な 食品健康 影響の 内容	リスク管理 機関(厚労 省等)でリ スク管理を している内 容	諸 外 国 の 状 況	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	日 常 生 活 で 留 意 す べ き こ と	新 た に 使 用 許 可 と な っ た も の 、 新 た な 知 見	過 去 の 健 被 害	特 に 信 じ す べ き 情 報 は な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	5.9	9.6	22.4	17.3	10.2	4.5	11.9	7.9	4.0	0.3	5.9

問 12 ハザード等に関する情報が必要な理由

	全体	仕事上知っ ておくべき もの	どちらかとい うと仕事上 知っておく べきもの	どちらかとい うと日常生 活において 知っておく べきもの	日 常 生 活 に お い て 知 っ て お く べ き も の	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	21.5	30.0	23.5	21.2	1.7	2.0

問 13.1 周囲への有害微生物(細菌等)・ウイルス等による食中毒等に関する情報提供

	全体	自分の家 族・親族 に話した ことがあ る	友人・知人 や近所の 人、職場 の同僚に 話したこ とがある	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、講演 を行った ことがあ る	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、今後 具体的に 講演を行 う予定が ある	自分のホ ームペ ージ、ブ ログ等 で情報発 信したこ とがあ る	行 っ た こ と は な い	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	75.9	67.4	29.7	8.2	6.5	9.1	1.4

問 13.2 周囲への食品添加物に関する情報提供

	全体	自分の家 族・親族 に話した ことがあ る	友人・知人 や近所の 人、職場 の同僚に 話したこ とがあ る	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、講演 を行った ことがあ る	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、今後 具体的に 講演を行 う予定が ある	自分のホ ームペ ージ、ブ ログ等 で情報発 信したこ とがあ る	行 っ た こ と は な い	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	68.8	64.6	27.5	4.8	4.2	9.3	4.0

問 13.3 周囲への放射性物質に関する情報提供

	全体	自分の家 族・親族 に話した ことがあ る	友人・知人 や近所の 人、職場 の同僚に 話したこ とがあ る	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、講演 を行った ことがあ る	地域活動・ 講演会・ セミナー 等におい て、今後 具体的に 講演を行 う予定が ある	自分のホ ームペ ージ、ブ ログ等 で情報発 信したこ とがあ る	行 っ た こ と は な い	無 回 答 ・ 無 効 回 答
合計	353	69.4	59.5	17.8	3.1	4.8	9.9	9.9

問 13.4 周囲への農業に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	57.8	52.1	17.3	4.0	2.8	18.4	8.8

問 13.5 周囲への汚染物質(カドミウム、メチル水銀等)に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	45.6	36.5	10.2	2.5	1.7	30.3	12.2

問 13.6 周囲への器具・容器包装からの溶出化学物質に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	42.2	38.0	9.1	2.8	1.7	32.9	12.7

問 13.7 周囲へのいわゆる健康食品に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	63.2	55.5	16.4	4.8	4.2	18.4	8.5

問 13.8 周囲へのBSE(伝達性牛海綿状脳症)に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	57.5	50.1	12.5	2.8	2.8	23.5	6.5

問 13.9 周囲への遺伝子組換えに関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	55.8	53.5	15.3	4.8	4.2	18.7	7.1

問 13.10 周囲への食品の保存・保管に関すること全般に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	75.1	62.6	28.3	6.8	4.8	8.2	6.5

問 13.11 周囲への調理時のリスクに関すること全般に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	71.7	58.6	26.1	7.1	4.0	10.5	5.9

問 13.12 周囲への食肉の生食のリスクに関すること全般に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	70.8	60.6	21.2	5.1	4.2	10.2	7.1

問 13.13 周囲への食品安全委員会の活動についてに関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	64.6	66.0	20.4	5.4	4.5	10.2	4.2

問 13.14 周囲へのその他に関する情報提供

	全体	自分の家族・親族に話したことがある	友人・知人や近所の人、職場の同僚に話したことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、講演を行ったことがある	地域活動・講演会・セミナー等において、今後具体的に講演を行う予定がある	自分のホームページ、ブログ等で情報発信したことがある	行ったことはない	無回答・無効回答
合計	353	4.0	3.4	2.8	0.6	3.7	90.9	91.0

問 14 肉の生食についてのリスクの認識度

	全体	重症になることさえある大きなリスクがあることを十分理解している	下痢程度のリスクがあることは知っている	リスクについてほとんど又は全く知らない	子供、高齢者においては、特にリスクが大きい事実を知っている	無回答・無効回答
合計	353	92.9	19.8	4.5	53.5	2.3

問 15.1 過去1年間の馬の生の肉の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	5.1	24.6	8.5	59.2	2.5

問 15.2 過去1年間の馬の生の臓器(レバー等)の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	0.8	4.5	0.6	88.4	5.7

問 15.3 過去1年間の豚の生の肉の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	0.6	1.4	0.3	92.1	5.7

問 15.4 過去1年間の豚の生の臓器(レバー等)の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	0.8	3.4	0.6	89.8	5.4

問 15.5 過去1年間の鶏の生の肉の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	2.5	20.4	4.2	68.6	4.2

問 15.6 過去1年間の鶏の生の臓器(レバー等)の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	1.1	7.6	1.4	85.0	4.8

問 15.7 過去1年間の鹿・いのしし・熊の生の肉の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	1.4	5.7	0.6	86.7	5.7

問 15.8 過去1年間の鹿・いのしし・熊の生の臓器(レバー等)の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	0.6	1.1	0.8	91.8	5.7

問 15.9 過去1年間の牛のレバー以外の臓器の生食の状況

	全体	飲食店で食べたことはないが自宅で食べたことがある	飲食店で食べたことがあるが、自宅で食べたことはない	飲食店でも自宅でも食べたことがある	食べたことはない	無回答・無効回答
合計	353	1.1	5.9	1.7	85.8	5.4

問 16 肉等を生食する理由

	全体	好物だったため	飲食店のお勧めメニューだったため	周囲が食べていたため	鮮度が良ければ大丈夫だと考えたため	飲食店で提供されるものは安全であるはずだと考えたため	家庭用として販売されているものは安全であるはずだと考えたため	自分の体力・体調であれば大丈夫だと考えたため	その他	無回答・無効回答
合計	162	35.6	37.4	24.5	33.1	27.0	10.4	14.1	18.4	3.7

問 17 この1年間での肉等の生食についての状況や変化

	全体	食べることを控えている、又は食べるのをやめた	一時、食べることを控えたが、現在は特に控えていない	食べることを特に控えていない	もともと肉の生食はしていない	その地域の特産品であれば食べることもある	店のおすすめであれば食べる	飲食店で提供されなくなった
合計	353	49.9	4.5	7.9	43.1	15.9	6.2	24.6
		飲食店で一時提供が自粛されたが再開された	飲食店での提供は特に変化はない	現在飲食店で提供されているものは安全だと思う	たたき、湯通しなど、表面が加熱されていれば安全だと思う	その他	無回答・無効回答	
		4.5	2.8	6.2	13.3	7.4	0.8	

